

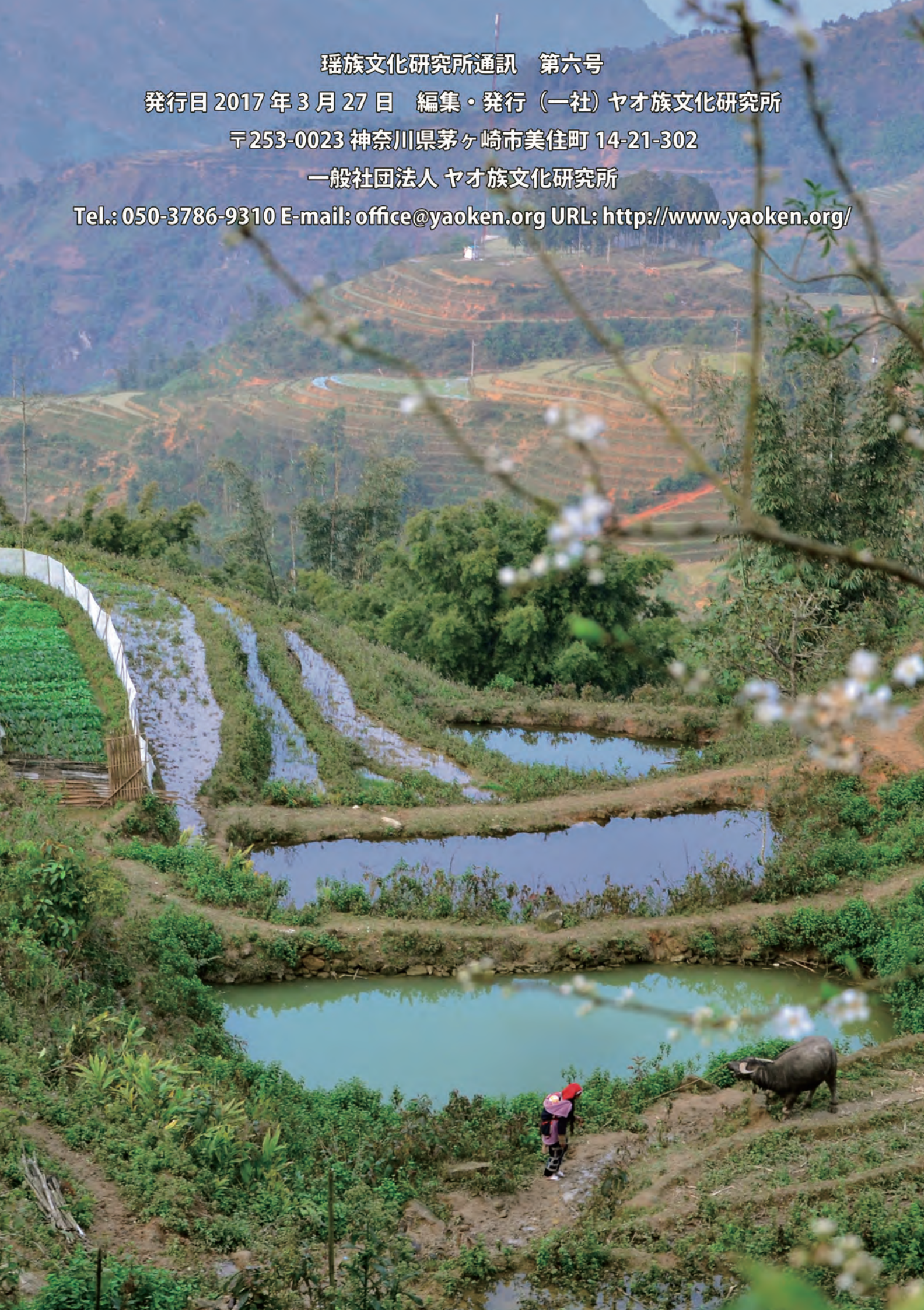
瑶族文化研究所 第六号

発行日 2017年3月27日 編集・発行 (一社) ヤオ族文化研究所

〒253-0023 神奈川県茅ヶ崎市美佳町 14-21-302

一般社団法人 ヤオ族文化研究所

Tel.: 050-3786-9310 E-mail: office@yaoken.org URL: http://www.yaoken.org/



瑶族文化研究所

通 訊

第六号

二〇一七・三



瑶族文化研究所

第六号

通 訊

— つうじん —

ヤオ族文化研究所



目次

6号刊行にあたって	3	廣田 律子
I. 活動報告	6	
1. ヤオ族文化研究所活動	7	
2. ヤオ族文化研究所獲得資金	10	
II. 研究報告	11	
還家願儀礼程序（2015年）	12	廣田 律子 三村 宜敬
簡論包牺氏“始作八卦”与西王母“蓬发载胜”之关系	30	张 劲松
瑶族婚礼音楽の考察と研究	33	（著）趙 書峰 （訳）曹 咏梅
— 湖南、広西、雲南の瑶族を事例として —		
雲南河口の藍靛ヤオにおける婚礼儀式音楽の研究	48	（著）楊 民康 （訳）程 亮
過山ヤオ『盤王大歌』の版本と演唱の特徴	62	（著）馮 栄軍、趙 金付、盤 栄富 （訳）濱田 武志

ミエン語サパ方言の系統に関する試論	67
	濱田 武志
瑶人経書『従人・財楼科』に見られる歌謡と儀礼	76
—米国議会図書館蔵清代の写本を例として—	
	(著) 何 紅一
	(訳) 倉澤 茜
湖南省「大歌書」三種翻刻	85
	廣田 律子

6号刊行にあたって

神奈川大学経営学部教授
廣田 律子

通 訊 6 号 を 刊 行 致 し ま し た。

昨 年 度 は 国 際 シ ン ポ ジ ヴ ム 『 瑶 族 の 歌 謡 と 儀 礼 』 予 稿 集 を 刊 行 致 し ま し た の で、通 訊 は お 休 み し ま し た が、1 年 ぶ り の 刊 行 と な り ま す。

本 号 は 昨 年 度 神 奈 川 大 学 国 際 交 流 事 業 の 助 成 を 得、11 月 横 浜 キ ャ ン パ ス 開 催 の 国 際 シ ン ポ ジ ヴ ム 『 瑶 族 の 歌 謡 と 儀 礼 』 に 中 国 か ら お 招 き し、ご 発 表 い た だ い た 方 々 の 発 表 原 稿 の 翻 訳 を 掲 載 し ま し た。ヤ オ 族 の 研 究 を 積 み 重 ね ら れ て い る、中 国 中 南 民 族 大 学 何 紅 一 先 生、中 央 音 楽 学 院 楊 民 康 先 生、河 北 師 範 大 学 音 楽 学 院 趙 書 峰 先 生、そ し て 私 た ち の 先 生 で あ る 藍 山 県 の 祭 司 た ち、趙 金 付 先 生、馮 榮 軍 先 生、盤 榮 富 先 生 の ご 論 考 で す。

私 たち が ヤ オ 族 の 研 究 を 始 め た 10 年 前 か ら ご 協 力 を い た だ い て い る 張 勁 松 先 生 に ご 寄 稿 い た だ き ま し た の で、中 国 語 原 文 の ま ま 掲 載 し ま す。

2015 年 12 月 に 藍 山 県 匯 源 郷 湘 藍 村 盤 家 で 実 施 さ れ ま し た 還 家 願 儀 礼 の 程 序 を 作 成 し ま し た。

現 在 2016 年 か ら 3 年 間 神 奈 川 大 学 共 同 研 究 奨 励 助 成 金 を 得 「ヤ オ 族 の 儀 礼 に お け る 文 献 と 読 誦 歌 唱 法 の 総 合 的 研 究」の 課 題 で 研 究 を 進 め て い ま す が、こ の 9 月 に ベ ト ナ ム 調 査 を し ま し た。

濱 田 さ ん が 基 礎 的 な 言 語 調 査 を 実 施 さ れ ま し た の で、そ の 成 果 報 告 を 掲 載 し て お り ま す。

こ の 調 査 で は モ ク チ ョ ウ 県、バ ン ホ ー 県、ゴ ク ラ ク 県 で い わ ゆ る 『 盤 王 大 歌 』 を 確 認 し、新 た に 5 種 を 写 真 に 取 め る こ と が で き ま し た。

今 後 こ の 翻 刻 作 業 を 進 め、異 本 の 対 照 を し て 参 り た い と 考 え て お り ま す が、本 号 で は 中 国 藍 山 県 の 『 盤 王 大 歌 』 を ベ ー ス と し 近 隣 の 寧 遠 県 の テ キ ス ト と 資 興 市 の テ キ ス ト を 対 照 す る 試 み を し ま し た。

昨 年 度 『 ミ エ ン ・ ヤ オ の 歌 謡 と 儀 礼 』 を 刊 行 し ま し た。本 著 は、ア ジ ア 研 究 セ ン タ ー 共 同 研 究 と し て 2013 年 度 か ら 15 年 度 に 実 施 し た 課 題 名 「湖 南 省 藍 山 県 過 山 系 ヤ オ 族 の 言 語 学 的 研 究」の 成 果 物 で す が、こ の 経

緯 に つ い て 以 下 に 説 明 し ま す。

私 たち は 2008 年 11 月 に ミ エ ン ・ ヤ オ 族 に お い て 実 施 さ れ た 度 戒 儀 礼 の 調 査 に 始 ま り、儀 礼 内 容 の 分 析 と 合 わ せ、儀 礼 で 使 用 さ れ た 大 量 の 漢 字 文 書 の 録 文 作 成、校 訂 作 業、解 読 分 析、現 代 語 訳 を 進 め、儀 礼 の 実 践 を 漢 字 文 書 の 対 応 を 明 確 に し、儀 礼 知 識 の 総 体 を 立 体 的 に 研 究 す る こ と に 専 心 し て き ま し た。

研 究 を 進 め る う ち に ミ エ ン ・ ヤ オ 族 の 儀 礼 知 識 の 中 で も 特 に 漢 字 文 書 の 読 誦 詠 唱 法 が 極 め て 複 雑 で あ る こ と に 気 付 か さ れ ま し た。

種 々 な 儀 礼 で 読 誦 さ れ る 韻 文 の 経 文 は、7 言 上 下 句 が 対 を な し、7 言 の 4 句 を ひ と ま と ま り と し て 構 成 さ れ、日 常 使 用 さ れ る ミ エ ン 語 や 漢 語 と は 異 な る 音 調 が 付 さ れ、経 文 に よ っ て 異 な る リ ズ ム と 旋 律 を そ な え た 曲 節 を 付 け て 発 声 さ れ ま す。韻 文 経 文 の 内 容 は、ミ エ ン ・ ヤ オ 族 の アイ デ ン テ ィ テ ィ ー の 根 幹 を な す 神 話 や 歴 史 叙 事、儀 礼 の 執 行 内 容 や 祭 司 と し て 守 る べ き 教 訓、口 承 の 記 録 等 多 岐 に わ た り ま す が、単 な る 道 教 か ら の 借 用 で は な い ミ エ ン ・ ヤ オ 族 独 自 の 信 仰 知 識 や 伝 統 的 概 念 が 凝 縮 さ れ、対 句 や 反 復 や 多 義 の 比 喩 表 現 が 用 い ら れ ま す。儀 礼 の 実 践 で は 経 文 を 文 面 通 り 読 誦 す る だ け で は な く、口 承 と 書 承 部 分 を 混 在 さ せ た り、掛 け 合 い 問 答 形 式 で 進 め る 等 極 め て 難 解 な 法 則 が 存 在 し ま す。男 性 祭 司 と 女 性 歌 手 と で は 同 時 進 行 で 詠 唱 を 行 な い ま す が、経 文 や 詠 唱 法 が 異 な り ま す。今 ま で 充 分 に な さ れ て こ な か っ た こ の 韻 文 経 文 の 儀 礼 に お け る 読 誦 詠 唱 シ ス テ ム の 解 析 を 進 め る 必 要 を 感 じ て き ま し た。

こ の 解 明 の 手 始 め と し て、儀 礼 の 中 の 歌 謡 の 実 態 分 析 と 言 語 学 的 な 分 析 を 進 め る 研 究 プ ロ ジ ェ ク ト 「湖 南 省 藍 山 県 過 山 系 ヤ オ 族 の 言 語 学 的 研 究」に 取 り か か り、そ の 中 間 報 告 と し て 成 果 の 一 部 を 本 著 に ま と め た 次 第 で す。

取 め ら れ た 論 文 は 浅 野 春 二 「招 兵」に お け る 五 穀 兵 ・ 家 先 兵 ・ 元 宵 神 — 中 国 湖 南 省 藍 山 県 の 過 山 ヤ オ 族 の 事 例 か ら 一」、内 海 涼 子 「ベ ト ナ ム の ミ エ ン ・ ヤ オ の

衣文化—ラオカイ省の事例を中心に—、譚静「過山系瑶族（ミエン）に見る「三清神」について—中国湖南省永州市藍山県の儀礼神画・儀礼文献・儀礼実践からの考察—」、廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」、丸山宏「ヤオ族宗教文献「意者書」から見る還家願儀礼—大庁意者の問掛と許願の部分を中心に—」、三村宜敬「儀礼にみるヤオ族の船—ヤオ族のもつ船のイメージ—」、吉川雅之「『大歌書』上冊記音—ミエン語（勉語）藍山匯源方言による—」、吉野晃「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語—「歌二娘古」発音と注釈—」の8編です。

吉野論文はタイ北部をフィールドとし、ミエン・ヤオの歌について調査を進めた成果です。4種類の詠唱法の存在を明確にした上、歌のテキスト「歌二娘古」を用いて、漢字と発音と意味の事例を示し、歌謡語語彙を明らかにし、韻律の規則解明にも踏み込んでいます。

吉川論文は言語学からのアプローチの成果です。ミエン・ヤオ族のアイデンティティーにかかわる歌書である『大歌書』（中国藍山県匯源郷湘藍村趙金付氏所有）について、祭司趙金付氏による読誦詠唱を記録化するための調査を進め、趙金付氏の音声を国際音声記号を用いて記音を行なっています。

丸山論文は、湖南省藍山県のミエン・ヤオ族で行なわれる還家願儀礼で使用される漢字文書「意者書」を取り上げ、複雑な願に関連する儀礼の全過程を記す「意者書」に対し、歴史学からのアプローチを行ない、録文を施し、その内容について儀礼の実践と結合させた分析を行ない、その特徴を明らかにしています。

浅野論文は、湖南省藍山県の還家願儀礼や度戒儀礼や婚礼で行なわれる「招兵」儀礼について、そこに招かれる神祀や「招兵」儀礼の実践の内容の詳細な分析に取り組み、招兵の異議をつまびらかにする一方、招魂の儀礼との類似を指摘しています。

内海論文は、ベトナムのミエン・ヤオグループに存在する多様な衣文化の特徴を整理した上、特に儀礼において祭司や受礼者が着ける衣装について言及し、神面に描かれた神の衣装とも関連させ、伝統的な衣装が継承されている点を明らかにしています。

譚論文は、ミエン・ヤオ族の儀礼において祭壇に掛けられる神画をテーマとし、中でも三清神を取り上げ、三清神が描かれた神画だけでなく三清神にかかわる漢

字文書の記述内容を解読し、また儀礼の実践とも関連させて分析することでミエン・ヤオ族にとっての三清神を立体的に解明しています。

三村論文は、送瘟儀礼や度戒儀礼や掛灯儀礼の実践における船と送船の位置付けを明確にした上、ミエン・ヤオ族の儀礼で使用される船の意義と特徴を解明するため、周辺諸地域の儀礼における船と送船との比較を試みています。

廣田論文は還家願儀礼の盤王願部分についての儀礼実践内容について詳細に分析を行なった上、民族の神話等が記述されている「盤王大歌」の詠唱のもつ意義について論及しました。さらにベトナムと中国の「盤王大歌」の部分の対照を試みました。

今回のようにミエン・ヤオ族の複雑な儀礼知識の中でも、特に解明が必要である言語や歌謡にかかわる刊行物が刊行できたのも、調査研究の積み重ねの結果といえますが、何よりヤオ族の伝統文化が世界中の様々な学問分野の研究者から関心を集めていることを表わしているものであり、本著を通じてヤオ族伝統文化が高く評価されることを切望し、また総合的に研究される必要があることを強く表明したく考えます。

いわゆるヤオ族と他称される人々は中国ばかりでなくタイ・ベトナムをはじめとする東南アジア大陸部やアメリカ等世界各地に分散して居住しており、収集した儀礼文献・文書の公開を通じて自民族の文化を再発見し、再評価することに繋がると考えます。すでに私たちの活動に呼応して、中国では近年新たに省レベルで湖南省瑶族文化研究センター、県レベルで藍山県瑶族文化研究会が設立されたほか、相同の儀礼知識を伝承してきたタイのミエン・ヤオ族と中国のミエン・ヤオ族の間の交流を実現しました。さらに2015年12月に藍山県で実施された「還家願儀礼」と2016年2月にラオカイ省サパ県チュンチャイ社で実施された「祭司として養成する子どもを選ぶ儀礼」に中国とベトナムの祭司が相互に参加する等ベトナムのミエン・ヤオ族と中国のミエン・ヤオ族の交流も進んでおり、ミエン・ヤオ族の儀礼伝承にさらなる展開が予想されます。それぞれの国で程度の差こそあれ儀礼知識の継承が難しい状況ある中、儀礼と儀礼文献・文書及びその使用法及び読誦詠唱法を収集記録保存そして活用することは、ヤオ族の社会にとどまらず人類文化の保存継承活用の観点からもその意義は大きいと考えます。

今後の活動としては、中国藍山県の趙家の掛灯・還家願儀礼調査のほかベトナムの7灯儀礼の調査や度戒の調査を実施し、中国、タイ、ベトナムとの間で比較を進めて参りたく考えます。

来年度は横浜ユーラシア文化館開催予定の「タイの山地民—上智大学西北タイ歴史・文化調査団の調査とその後—（仮題）」への協力やタイ チュラーロンコーン大学で「越境した民族（ミエン・ヤオ）の文化資源の継承支援—儀礼文献と儀礼神画」の展示を行なうことで、ミエン・ヤオ族の文化を広く認知してもらうことに繋がればと考えます。

今後とも皆さまのご支援をお願いいたく存じます。



イラスト：2014年9月アメリカ調査撮影文献『評王券牒』より

I. 活動報告



1. ヤオ族文化研究所活動

(2014年12月～2016年9月)

1). 研究会開催状況

年	日付	タイトル
2014年	12/06	ヤオ族度戒儀礼調査第52回研究会
2015年	4/05	ヤオ族度戒儀礼調査第53回研究会
	6/07	ヤオ族文化研究会第54回研究会
	8/02	ヤオ族文化研究会第55回研究会
	10/04	ヤオ族文化研究会第56回研究会
	12/12	ヤオ族文化研究会第57回研究会
2016年	2/28	ヤオ族文化研究会第58回研究会
	4/10	ヤオ族文化研究会第59回研究会
	6/19	ヤオ族文化研究会第60回研究会

2). ヤオ族儀礼補足調査実施 2015/1/4～1/6 (於日本)

3). ヤオ族文化研究所主催講座“アジアに生きる少数民族の文化を知る”実施
2015/1/24・31・2/7・14・21・28 (於日本)

日付	氏名	タイトル
1/24	吉野晃	ヤオ族概説
1/31	吉野晃	生業
1/31	増野高司	生業
2/07	廣田律子	通過儀礼における歌書の読誦と盤王神話
2/14	内海涼子	ベトナム北部の少数民族ザオ・ティエンの衣装文化
2/21	泉水英計	ヤオの家族と社会
2/28	丸山宏	儀礼と儀礼文化
2/28	浅野春二	儀礼と儀礼文化

4). ベトナムヤオ族調査実施 2015/2/28～3/7 (於ベトナム)

5). 『盤王大歌』の読誦方法記録および補足調査実施(神奈川大学アジア研究センター「湖南省藍山県過山系ヤオ族の言語学的研究」主催による) 2015/8/6～8/14 (於日本)

6). ベトナムヤオ族調査実施 2015/9/7～9/16 (於ベトナム)

7). 国際シンポジウム『瑶族の歌謡と儀礼』開催 2015/11/28 (於神奈川県横浜キャンパス)、予稿集刊行(全149頁)

タイトル	発表者	通訳者	予稿集掲載頁
雲南省河口の藍靛ヤオにおける婚礼儀式音楽の研究	楊民康	程亮	11-37
過山瑶婚俗儀式音楽研究 —広西賀州聯動村を事例として—	趙書峰	曹咏梅	38-64
展示 ベトナムヤオ族神画解説	譚静		
展示 ベトナム竹紙作り解説	北村春香		
瑶人経書『従人・財楼科』に見える歌謡と儀礼 —米国議会図書館蔵清代の写本を例として—	何紅一	倉澤茜	68-79
ヤオ族宗教文献「意者書」から見る還家願儀礼	丸山宏		80
招兵願における五穀魂・陰兵・元宵神について	浅野春二		81-95
過山系ヤオ族『盤王大歌』の版本と演唱の特徴	馮榮軍・趙金付・盤榮富	濱田武志	96-109
儀礼における歌書の読誦 —湖南省藍山県ヤオ族還家願儀礼に行なわれる歌問答—	趙金付・廣田律子		110-126
タイ北部におけるミエンの歌謡と儀礼の新たな形態について	吉野晃		127-148

8). 湖南省藍山県還家願儀礼調査実施 2015/12/26 ~ 2016/1/2 (於中国)

9). ベトナムヤオ族調査実施 2016/2/6 ~ 12 (於ベトナム)

10). ベトナムヤオ族調査実施 2016/8/29 ~ 9/11 (於ベトナム)

11). その他、所員研究業績

氏名	内容	年月
◆論文・調査報告など		
浅野春二	「神虎召魂法の儀礼構成における発玉札と建陰陽二壇について—南宋期道教の黄籙齋から—」『國學院中國學會報』第60輯 pp.44-63	2014年12月
浅野春二	「台南道教の開光儀について」『國學院雑誌』第116巻第2号 pp.1-17頁	2015年2月
浅野春二	「招五穀兵について—中国湖南省瑶族(過山瑶)の還家願儀礼から—」『瑶族文化研究所通説』第5号 ヤオ族文化研究所 pp.52-63	2015年3月
浅野春二	「明代道教の黄籙齋における召魂から煉度に至る儀礼について—一周思得修集『上清靈寶濟度大成金書』讚道節次品を中心に—」『國學院中國學會報』第61輯 國學院大學中國學會 pp.45-68	2015年12月
浅野春二	「明代道教における小規模な開度・祈禳儀礼の節次について—一周思得修集『上清靈寶濟度大成金書』を資料として—」『儀礼文化学会紀要』第3・4号 儀礼文化学会 pp.102-125	2016年3月
内海涼子	「白褲瑶および近隣「瑶族」の染織と衣装」『大阪成蹊大学紀要』第2号 pp.165-177	2016年
譚静	「儀礼実践から見たミエン儀礼神画の使用」『瑶族文化研究所通説』第5号 ヤオ族文化研究所 pp.64-85	2015年3月
廣田律子	「儀礼における歌書の読誦—湖南省藍山県ヤオ族還家願儀礼に行なわれる歌問答—」『國學院雑誌』第116巻第1号 國學院大學 pp.225-254	2015年1月
廣田律子	「湖南省藍山県過山系ヤオ族(ミエン)の祭祀儀礼にみる盤王の伝承とその歌唱」『歴史民俗資料学研究』第20号 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 pp.103-146	2015年3月
廣田律子	「盤王愿儀礼程序(2011年還愿儀礼程序)」『瑶族文化研究所通説』第5号 ヤオ族文化研究所 pp.15-51	2015年3月

氏名	内容	年月
廣田律子	「湖南省藍山県ミエン・ヤオ族調査報告」『神奈川大学アジアレビュー』No. 2 神奈川大学アジア研究センター pp.82-96	2015年3月
廣田律子	「湖南省藍山県過山瑶的還家願儀礼与盤王伝承及其歌唱」(中文)『民俗曲藝』第188期 財団法人世合鄭民俗文化基金会 pp.177-249	2015年6月
廣田律子	「ヤオ族儀礼文献の文化資源としての活用—文献資料のデータ化と公開へ向けての試み—」『平成26年度助成研究等報告書』公益財団法人横浜学術教育振興財団 pp.5-7	2015年8月
吉野晃	「ミエン(ヤオ)の〈架功德橋〉儀礼テキストに見られる〈功德〉観念」長谷川清・林行夫(編)『積徳行と社会文化動態に関する地域間比較研究—東アジア・大陸東南アジア地域を対象として—』(CIAS Discussion Paper No.46) 京都大学地域研究統合情報センター pp.97-103	2015年3月
吉野晃	「歌と儀礼の越境—タイ北部、ミエン社会における〈歌〉と〈設鬼〉のカテゴリー間の越境現象について—」吉野晃(編)『越境の動態的地域研究—空間とカテゴリーの越境の地域間比較をめざして—』研究代表者 吉野晃 東京学芸大学教育学部人文科学講座地域研究分野 pp.37-43	2015年
吉野晃	「〈歌〉の詠唱法と儀礼への応用:タイ北部、ユーミエン(ヤオ)の新たな宗教現象に関する調査の中間報告2」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系II』67 pp.105-112	2016年1月
吉野晃	『タイ北部、ユーミエン(Iu Mien)の文化復興運動と民俗知識の再編に関する研究(平成23年度~25年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書課題番号:23520982)』東京学芸大学・吉野晃	2016年2月
◆学会発表など		
浅野春二	「周思得修集『上清靈寶濟度大成金書』に見る儀礼節次について」國學院大學中國學會例会(東京:國學院大學渋谷キャンパス)	2016年1月
浅野春二	“Gods and Soldiers in the Yao Summoning Soldier Ritual” 瑶族招兵儀式中的神和兵 Fourth Japan-American Daoist Studies Conference 第4回日米道教研究会議(Tacoma, Washington: Pacific Lutheran University)	2016年3月
丸山宏	「比較視野中的瑶族宗教儀式—以瑶族宗教文献『大戒文』和『大斎秘語』为中心的探討—」比較視野中的道教儀式国際学術研討会香港中文大学人文科学研究所比較古代文明研究中心 主催(中国:香港中文大学)	2015年12月9日
丸山宏	「瑶族宗教儀式「抛兵」与相關問題初探」第4回日米道教研究会議(ワシントン:パシフィック・ルサラン大学)	2016年3月29日
吉野晃	「〈歌〉の詠唱法と儀礼への応用—タイ北部、ユーミエン(ヤオ)社会における新たな宗教現象に関する中間報告3—」日本文化人類学会第49回研究大会(大阪:国際交流センター)『発表要旨集』p.70	2015年5月30日
◆図書		
浅野春二	「「招兵」における五穀兵・家先兵・元宵神—中国湖南省藍山県の過山ヤオ族の事例から—」神奈川大学アジア研究センター叢書2『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.221-246	2016年4月
内海涼子	「ベトナムのミエン・ヤオの衣文化—ラオカイ省の事例を中心に—」神奈川大学アジア研究センター叢書2『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.247-276	2016年4月
譚静	「過山系瑶族(ミエン)に見る「三清神」について—中国湖南省永州市藍山県の儀礼神画・儀礼文献・儀礼実践からの考察—」神奈川大学アジア研究センター叢書2『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.277-314	2016年4月
廣田律子	「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」神奈川大学アジア研究センター研究叢書2『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.1-53	2016年4月

氏名	内容	年月
丸山宏	「ヤオ族宗教文献「意者書」から見る還家願儀礼—大庁意者の間掛と許願の部分を中心に—」神奈川大学アジア研究センター叢書2『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.193-220	2016年4月
三村宜敬	「儀礼にみるヤオ族の船—ヤオ族のもつ船のイメージ—」神奈川大学アジア研究センター叢書2『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.315-345	2016年4月
吉野晃	「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語—「歌二娘古」発音と注釈—」神奈川大学アジア研究センター叢書2『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.55-71	2016年4月

2. ヤオ族文化研究所獲得資金

神奈川大学 共同研究奨励助成金	
研究課題名	ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究
2016年度	2,161,000円

ちょっとひと息

目次のページのロゴに使われているイラストは下の写真(左上)を参考に描いたものです。

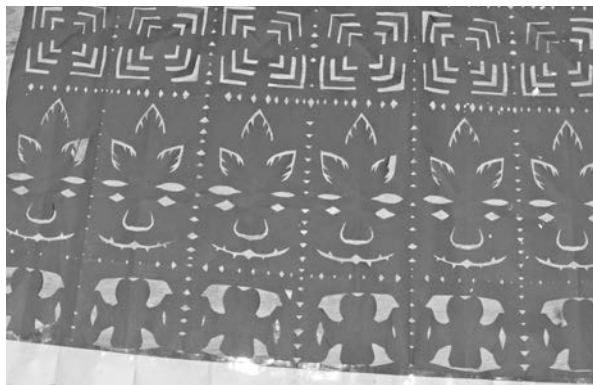
似たものを集めてみたところ、デザインが若干異なることに気がつきました。顔の輪郭線のあるものとなないものの2種類があります。当初これらは盤王であると判断していましたが、その後の調査で輪郭線ありは三清、なしは天狗であることが判明しました。(岡本)



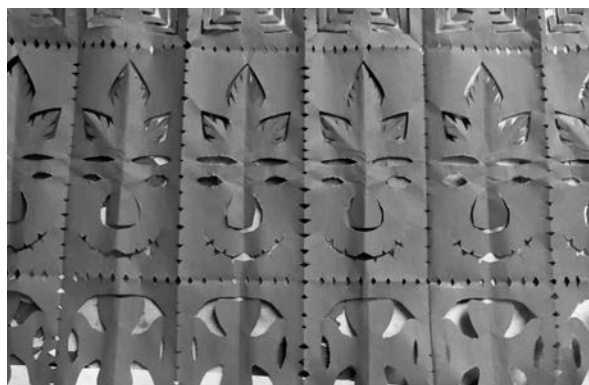
2008年度戒願儀礼の三清の切り紙 (撮影：三村宜敬)



2011年還家願儀礼の三清と天狗の切り紙 (撮影：浅野春二)



2011年還家願儀礼の天狗の切り紙 (撮影：三村宜敬)



2015年還家願儀礼の天狗の切り紙 (撮影：三村宜敬)

II. 研究報告



還家願儀礼程序 (2015年)

神奈川大学経営学部教授
廣田 律子
神奈川大学理学部非常勤講師
三村 宜敬

※儀礼はすべて盤寸古宅において行なわれた。

※○は不明箇所。

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所 (大壇目)	場所 (小壇目)	行動主	行動	記録者	備考
133	12/27	12:43	不明		祖先壇前		趙金付 盤宝古	到着。	三村	
134	12/27	12:46	落兵落將		祖先壇前		趙金付 盤宝古	祖先壇に向かい唱えごとを開始。	三村	
135	12/27	12:50	不明		祖先壇前		エプロンの 女性	筐に包まれた塩を運んでくる。	三村	食事。
136	12/27	14:26	安家先		祖先壇前		趙金付	紙銭を切り、家先単を写す。	三村	
137	12/27	14:30	写願簿		祖先壇前		趙金付	祭壇をしつらえる。線香立てとして、ノバナの幹の輪切りを4つ並べる。その前に杯を4つ並べ、うち1つに水を入れる。それぞれの線香立ての前に灯明となる杯を1つずつ置く。	三村	
138	12/27	14:37	不明		祖先壇前		黄運龍		三村	
139	12/27	14:42	做紙馬		祖先壇前		盤万古 弟子	紙馬を作る。	三村	弟子(盤石保、趙四旺)
140	12/27	15:26	不明		祖先壇前		盤宝古	唱えごと。	三村	
406	12/27	15:33	紙馬進堂		祖先壇前		盤万古	盤宝古が唱えごとをしている祭壇の上に紙馬の束を載せる。	三村	
141	12/27	16:14	不明		祖先壇前			四角いテーブルが2つ並べられ、14人が座っている。 呈行師(趙金付)、招兵師(盤宝古)、賞兵師(盤万古)、香灯師(黄運龍)、弟子(盤石保、趙四旺)、厨官(盤進保、趙林保、馮友生)、厨娘(趙大妹)、歌娘(趙松英、盤驪娟、趙惠蘭)、歌女(盤運妹)	三村	
142	12/27	16:30	安家先		祖先壇前		趙金付 盤宝古 盤万古	家先単を順にまわしながら唱えごと。	三村	家先単は金付→宝古→万古の順にまわされる。
143	12/27	17:23	掛聖		祖先壇前		盤宝古	神像を掛ける。	三村	まず海番が祭壇向かって左に掛けられ、次に総壇図が中央に掛けられる。
144	12/27	17:41	冷排蓋		祖先壇前		黄運龍	膳に供え物を載せて出てくる。	三村	供え物(油揚げ、杯4つ) 香灯師(黄運龍)

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大項目)	場所(小項目)	行動主	行動	記録者	備考
145	12/27	17:48	冷排盞		祖先壇前		趙金付 盤寸古	金付は椅子に座る。 寸古は供物の膳を持ち、礼拝し椅子に座る。	三村	祭壇の三清の前に杯4つ、茶碗に豚の脂身が 供えてある。
146	12/27	20:04	点香		祖先壇前		黄運龍	祭壇・家先壇に線香を供える。 灯明に火をともし。	三村	
147	12/27	20:18	恭賀主家		祖先壇前		盤万古 弟子 厨官	万古と弟子が法衣を着て、頭に神頭をつける。 厨官が太鼓、ドラ、シンバルを叩く。	三村	弟子(盤石保、趙四旺)
148	12/27	20:24	恭賀主家		祖先壇前		盤宝古 盤万古 弟子2人	宝古は唱えごと。 万古、弟子2人は手に線香を持ち、鈴を振る、立つ、ひざま ずいて礼拝を繰り返す。 弟子2人は玄関の方向を向いて礼拝を行なう。	三村	
149	12/27	20:30	請聖		屋外		趙金付 盤寸古	家の玄関向かって左に線香を供える。ここに元脣を祀る。 その後レンガの上に線香の束を置く。	三村	
150	12/27	20:32	請聖	三請	屋外		黄運龍	爆竹を鳴らす。	三村	
151	12/27	20:43	請聖	三請	祖先壇前		盤万古	家先単とテキストを唱える。	三村	
152	12/27	22:07	請聖	三請	祖先壇前		盤万古	唱えごと。	三村	
153	12/27	22:17	請聖	三請	祖先壇前		盤宝古	テキストを広げる。	三村	広げたのは「又眼願点信一断」の箇所。
154	12/27	22:19	請聖	三請	祖先壇前		盤万古	唱えごと。	三村	
407	12/27	22:19	請聖	三請	祖先壇前		盤宝古	唱えごと。	三村	
155	12/27	23:33	請聖	三請	祖先壇前		趙金付	唱えごと。	三村	
408	12/27	23:33	請聖	三請	祖先壇前		盤万古	唱えごと。	三村	
409	12/27	23:33	請聖	三請	祖先壇前		趙金付	唱えごと。	三村	
156	12/28	00:43	請聖	三請			盤万古 弟子2人	立ち上がる。	三村	
157	12/28	00:44?	請聖				盤寸古	玄関脇に藁を敷いて寝る。	三村	
158	12/28	06:51	点香		祖先壇前		黄運龍	祭壇に線香を立てる。	三村	
159	12/28	06:57	請聖	三請	祖先壇前		趙金付 弟子	祭壇前に座って唱えごと。 弟子は法衣を着て、頭に神頭をつける。	三村	
160	12/28	07:59	請聖		祖先壇前		盤宝古 盤万古 弟子2人	宝古、万古は唱えごと。	三村	宝古は家先壇の前で椅子に座っている。 万古、弟子2人(法衣を着ている)は祭壇前で椅 子に座っている。
161	12/28	08:13	請聖		祖先壇前		盤万古 盤宝古	万古はテキストを広げ唱えごと。 宝古は紙銭を積む。	三村	
162	12/28	08:28	請聖		祖先壇前		盤万古	祭壇の中央にある杯に献酒。	三村	
163	12/28	08:33	請聖		祖先壇前		盤万古 弟子1人	家先単を読み上げながら紙銭を積む。弟子1人も紙銭を積 む。	三村	
164	12/28	09:19			屋外		黄運龍	掛灯の準備。	三村	
165	12/28	09:45			屋外		厨官	竹を切り出し、もってくる。	三村	先端が枯れていたため、この竹は却下される。
166	12/28	09:52			屋外		厨官2人	あらためて竹を切りに行く。	三村	
167	12/28	10:50			屋外		厨官2人	竹を切り出す。もう1人は、豚を入れる籠用の木を切る。	三村	
168	12/28	11:01			屋外		黄運龍	掛灯の準備。竹を籠のように編み、三灯を掛ける台を作る。	三村	
169	12/28	11:09	請聖		屋外		盤万古 弟子2人	万古、弟子2人は神頭をつける。唱えごと。	三村	
170	12/28	11:28			祖先壇前		盤万古 弟子2人	唱えごと。	三村	唱えごとは「有好奇心請師到壇へ」。

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	記録者	備考
202	12/28	18:41	掛三灯	穿衣	正面祭壇前		盤寸古	受礼者は椅子の上に置かれた衣装を着てその椅子に座る。	三村	受礼者 (盤寸古)
203	12/28	18:43	掛三灯	藏身	正面祭壇		盤宝古 盤万古	椅子の周りを反時計回りに回りつつ、紙銭を丸める。	三村	
204	12/28	19:00	掛三灯	昇灯	正面祭壇		趙金付 盤宝古 盤万古 盤寸古	宝古と万古は灯明盆を2人でもち、戸口へ運ぶ。金付は唱えごと。金付はテキストの読誦を続ける。	三村	
205	12/28	19:18	掛三灯	昇灯	正面祭壇		趙金付 盤宝古 盤万古 盤寸古	受礼者の灯明台に灯明を置く。	三村	
206	12/28	19:36	掛三灯		正面祭壇		盤宝古 盤万古 趙金付	宝古と万古は玉簡で鈴を打ち鳴らしつつ受礼者の周りを反時計回りに回る。 金付はテキストを読み上げる。	三村	
207	12/28	19:37?	掛三灯		正面祭壇		盤寸古	鈴の中に銭を入れて占いをする。	三村	盤寸古の法名が「法香」と決まる。
208	12/28	19:38?	掛三灯		正面祭壇		盤宝古	足元の碗をどける。宝古と万古は、寸古の両脇に師棍を挟み、立ち上がらせる。	三村	なかなか終わらない。
209	12/28	20:11	掛三灯	退蓮花	正面祭壇		盤万古 盤寸古		三村	
210	12/28	20:15			正面祭壇		盤寸古	1人離れて食事。	三村	
211	12/28	22:50	開壇還願	上光	正面祭壇		盤万古 盤寸古	法衣を着て正面祭壇に献酒。	三村	寸古は祖先壇の前に杯の乗った盆をもって座っている。
212	12/28	22:54	開壇還願	上光	正面祭壇		盤万古 盤寸古	万古は積んであった紙銭の山にさらに紙銭を積む。	三村	寸古は祖先壇の前に座ったまま。
213	12/28	22:55	開壇還願	上光	正面祭壇		盤宝古 盤万古	宝古は祖先壇に向かつて唱えごと。 万古は家単を読み上げる。	三村	
214	12/28	22:56	開壇還願	上光	正面祭壇		盤宝古 盤寸古	宝古は寸古のもつ杯に献酒。	三村	
215	12/28	23:13	開壇還願	上光	正面祭壇		盤万古 弟子2人	万古はテキストを読み上げつつ、弟子と共にひざまずき礼拝。	三村	
216	12/28	23:16	開壇還願	上光	正面祭壇		盤万古 弟子2人	万古はテキストを読み上げる。 弟子は上半身を回すような動き。	三村	
217	12/28	23:18	開壇還願	上光	正面祭壇		弟子2人	鈴を鳴らしながら向かい合って舞う。 共に正面に礼拝。	三村	右手に鈴、左手に玉簡をもって座っている。 ドラが鳴らされている。
218	12/28	23:19	開壇還願	上光	正面祭壇		盤宝古	羅帯をもつてくる。	三村	
219	12/28	23:21	開壇還願	上光	正面祭壇		弟子2人	弟子の1人は羅帯をもって、もう1人は何ももたずに、立つて両手を交互に上げ下げするような動作。	三村	上げ下げ動作の範囲は胸から腹の高さで、右手の動きの方が大きい。
220	12/28	23:31	開壇還願	上光	正面祭壇		弟子2人	玉簡、鈴をもつ。	三村	
221	12/28	23:57	開壇還願	上光	正面祭壇		弟子2人	向かい合って舞う。	三村	
222	12/29	00:08	開壇還願	上光	正面祭壇		盤万古	テキストを読み上げる。	三村	
223	12/29	00:13	点香		正面祭壇		黄運龍	線香を立てて回る。	三村	
224	12/29	00:23	開壇還願	上光	正面祭壇		盤万古	テキストを読み上げる。	三村	読み上げるのは「請住宅土地」の箇所。
225	12/29	00:25	開壇還願	上光	正面祭壇		厨官2人	紙馬を作る。	三村	
226	12/29	00:36	開壇還願	上光	正面祭壇		盤万古 弟子2人	万古と弟子の1人は回転するように舞う。もう1人の弟子はドラを叩く。	三村	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
227	12/29	00:39			正面祭壇		盤万古 弟子2人	弟子は左手で玉節をもち、陶製の杯を載せる。右手には鈴。万古は椅子に座って唱えごと。	三村	
228	12/29	00:43			正面祭壇		盤万古	唱えごと。	三村	
229	12/29	00:54	開壇還愿	請七百/ 点聖	正面祭壇		盤万古 弟子1人	万古は唱えごとを終えると、紙馬作りのため、机に行って座る。 弟子の1人は鈴を振る。	三村	四角いテーブルが出てくる。
230	12/29	00:56	開壇還愿	請七百/ 点聖	正面祭壇		弟子1人	祭壇の正面で鈴を振る。	三村	
231	12/29	00:57	開壇還愿	献蒸果	正面祭壇			箕の中に茶碗を10並べる。その横にU字形に8個コップを並べる。	三村	四角いテーブルに箕が載せられている。
232	12/29	01:02	開壇還愿	献蒸果	正面祭壇		厨官		三村	テーブルが2つとなり、箕が2つ載せられている。
233	12/29	01:09			正面祭壇		盤万古	弟子2人は左手に師棍、右手に鈴をもって振る。祭壇に向	三村	
234	12/29	01:16			正面祭壇		盤万古 弟子2人	弟万古は左手に師棍、右手に鈴を叩きつつ唱えごと。	三村	
235	12/29	01:18			正面祭壇		盤万古 弟子2人	万古はシンバルを鳴らす。 弟子は左手に師棍をもち、右手に鈴をもち、シンバルに合わせて舞う。	三村	
236	12/29	01:20			正面祭壇		弟子2人	弟子は左手の師棍の下部を上に向けてもつ。 万古はシンバルを叩きながら唱えごと。	三村	
237	12/29	01:24			正面祭壇		弟子2人	師棍を祭壇に向かつて槍をもつように構える。	三村	
238	12/29	01:25			正面祭壇		弟子2人	師棍を後ろのテーブルに向かつて槍をもつように構える。	三村	
239	12/29	01:28			正面祭壇		盤万古	弟子は師棍をテーブルに立てかける。	三村	
240	12/29	01:39			正面祭壇		弟子2人	万古は唱えごとを終える。 師棍を両肩に担ぐ。	三村	
241	12/29	01:41			正面祭壇		弟子2人	師棍の上を上下反対にした状態でもち、中に塩を包んだ笹を入れる。	三村	
242	12/29	02:05			正面祭壇		弟子2人	箕の中に笹を入れる。 師棍をもって舞う。	三村	
243	12/29	04:53			正面祭壇		趙金付 盤宝古 弟子2人	弟子2人は茶碗に酒をつぐ。宝古は陶製の杯を箕の前に並べる。 金付は唱えごと。	三村	
244	12/29	04:59			正面祭壇		趙金付 盤宝古	宝古は師棍をもち、紙銭が積まれた横に立つ。 金付は唱えごと。	三村	
245	12/29	05:07		小運銭	正面祭壇		黃運龍	紙銭の山に火をつける。	三村	
246	12/29	05:08		小運銭	正面祭壇		盤宝古 趙金付	唱えごと。	三村	
247	12/29	05:09		小運銭	正面祭壇		盤宝古 盤万古	宝古は太鼓を叩く。万古は法衣を着る。	三村	
248	12/29	05:12		小運銭	正面祭壇		盤宝古 趙金付	唱えごと。	三村	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
249	12/29	05:36		小運銭 脱童	正面祭壇		盤宝古 盤万古 弟子 趙金付	弟子は師棍をもって灰の周りで舞う。紙銭を燃やした灰を拾い祭壇に置く。法衣の袖を翻して紙銭を燃やした周りを回って舞う。 掛灯師の塩信を火にくくべる。弟子が上に紙銭を加える。 万古はテキストを開き、そらで唱える。 宝古はそらで唱える。 弟子は鈴を振る。ひざまずいて礼。	三村	
250	12/29	08:00	招兵願		正面祭壇		黄運龍	祭壇に油揚げ、脂身の入った茶碗を供える。	三村	
251	12/29	08:24	招兵願		屋外		歌娘	五穀樹に粟を吊るす。	三村	
252	12/29	08:36	招兵願		屋外		歌娘	粟を竹に結わえた箇所の上に黒い糸を巻きつける。	三村	粟の束を束ねたものと、束ねた粟の茎に黄色い紙をつけたものがある。
253	12/29	09:20	招兵願	昇五穀	屋外		黄運龍	竹で物差しを作り、祭壇に置く。	三村	
254	12/29	09:34	招兵願				黄運龍	米を入れるための竹筒を3つ切る。	三村	
255	12/29	09:37	招兵願				厨官	鶏を購入。梶ばかりで重さを計る。	三村	
256	12/29	09:44	招兵願				黄運龍	鶏と卵を祖先壇に供える。	三村	
257	12/29	10:02	祭七星					五穀樹の側に、皿に載せられた白団子(15)が置かれている。 女関入って左側にテーブルが置かれている。 コップ(9)が置かれている。杯に干物(乾麺、キクラゲ)を入れたものが供えられている。	三村	
258	12/29	10:07	招兵願				歌娘	白団子を五穀樹につける。	三村	
259	12/29	10:14	招兵願					正面祭壇の下に箕。中には物差し、鈇、銀の指輪、銀のボタン等の装飾品、黒糸。	三村	
260	12/29	10:18	招兵願				盤宝古	三清・天狗の切り紙。招兵旗を作成。	三村	
261	12/29	10:23	招兵願				黄運龍	鶏をまるごと祖先壇に供える。	三村	
262	12/29	10:26	招兵願				黄運龍	竹筒に米を入れたものに紅包をさす。	三村	
263	12/29	10:39	招兵願	開天門				開天門の準備。	三村	
264	12/29	10:42	招兵願					戸口右側の祭壇には鶏・卵・キクラゲなど・杯(6)・孔明(1)が置かれている。	三村	
265	12/29	10:45	招兵願					屋内左側の七星の祭壇に1・5・7の数でコップが並べられている。	三村	
266	12/29	11:07	招兵願		正面祭壇		盤宝古	家先単を見つつ、紙銭を積む。	三村	
267	12/29	11:25	招兵願				盤宝古 盤万古	箕をもって玄関先に立つ。	三村	
268	12/29	11:26	招兵願		正面祭壇		趙金付	神画に赤紙を付ける。	三村	なかなか付かない。
269	12/29	11:29	招兵願		正面祭壇		趙金付 趙宝古 盤宝古 盤万古	金付は赤紙をもって唱えごと。 宝古・万古は正面に向かって唱えごと。	三村	
270	12/29	11:47	招兵願		正面祭壇		趙金付 盤宝古 盤万古	金付は赤紙が神画に貼り付かないので、紙馬を老君の前に供えると貼り付いた。ト具で占う。 宝古は師棍をもち立ち。 万古はテキストを広げる。	三村	
271	12/29	11:50	招兵願	開天門	戸口			開天門の準備のため、紙馬の束を紙銭を焼く台の上に乗せる。	三村	
272	12/29	11:52	招兵願	昇五穀	正面祭壇		盤万古	テキストを読み上げる。	三村	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
273	12/29	12:00	招兵願	開天門	戸口		盤宝古	テキストを読み上げる。	三村	
274	12/29	12:14	招兵願	昇五穀	戸口		趙金付	戸口右側の祭壇。唱えごと。	三村	
275	12/29	13:28	招兵願	開天門	戸口		盤宝古	剣・鈴をもち唱えごと。ト具で占う。	三村	
276	12/29	13:36	招兵願	開天門	戸口		盤宝古	祭壇の下にあった箕を戸口にもってきて、占いをする。左手に水の入った筒をもつ。	三村	
277	12/29	14:08	招兵願	開天門	戸口		盤宝古	招兵願の立った竹筒を左手にもち、唱えごと。	三村	
278	12/29	14:14	招兵願		戸口		趙金付	招兵願の祭壇の前で片ひざをつき、右足のつま先に紙銭を丸めたるを載せ、手訣。その紙銭を剣に赤い布で巻きつけ、米の入った筒に挿す。	三村	
279	12/29	14:28	招兵願		戸口		盤宝古	金付は、開天門をしている宝古の横でしゃがんで唱えごと。	三村	
280	12/29	14:29?	招兵願	開天門／ 賞穀神	戸口		趙金付	粟の束をくくり、重さを量る。唱えごと。	三村	
281	12/29	14:42	招兵願						三村	五穀樹が運び入れられ、庁堂右角に置かれる。
282	12/29	15:00	招兵願						三村	このときには招兵願の祭壇の供物が片付けられており、鶏の煮物がボール(2)に盛られている。その周りにはコップ(6)がある。
283	12/29	16:19～ 16:38					おぼちやん 2人	竹を細工し、盤王大歌の際に歌娘が頭に被るものを製作。	三村	
284	12/29	16:53	選招兵願		中央机		趙金付	「聖書一本」をテーブルに置き、唱えごと。右手には鈴をもつ。	三村	
285	12/29	17:01	選招兵願		中央机		黄運龍	テーブルの上に箕を置き、碗を10置く。コップを10個U字形に置く。塩信が置かれる。	三村	
286	12/29	17:03	選招兵願				おぼちやん	歌娘に被り物を載せる。	三村	
287	12/29	17:21	選招兵願				弟子 厨官	弟子と厨官の1人は祭壇前で舞う。 もう1人の厨官は外では豚を入れる籠を作る。	三村	
288	12/29	17:31	選招兵願	大通銭			盤万古 弟子	祭壇前で唱えごと。 万古は鈴と師棍をもつ。	三村	
289	12/29	17:48	選招兵願				厨官2人	白が祭壇横に用意されて、米を入れる。	三村	
290	12/29	17:55	選招兵願				盤万古 弟子	祭壇前で舞う。	三村	
291	12/29	17:57	選招兵願				厨官2人	堅杵で餅をつき始める。	三村	
292	12/29	18:11	選招兵願				歌娘	餅を丸くして、テーブルの上に並べる。	三村	餅は66個作った。中には2段に重ねその上に茶碗の底部を押さえつけ、丸印をつけたものもある。
293	12/29	18:21	選招兵願		中央机		盤万古 弟子	万古は唱えごと。ト具で占う。	三村	弟子は横に立っている。
294	12/29	18:32	選招兵願				趙金付 盤万古 弟子	金付は唱えごと。万古と弟子は献酒。	三村	
295	12/29	18:38	選招兵願				趙金付 盤宝古 盤万古	万古は金付に手訣の確認をする。 宝古も杯をもち手訣。	三村	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大項目)	場所(小項目)	行動主	行動	記録者	備考
296	12/29	18:46	遷招兵願				盤宝古 盤万古	万古は紙銭を運んでくる。 宝古は祭壇に並べられた7つの杯の酒を老君の前の杯に移す。	三村	
297	12/29	18:56	遷招兵願						三村	算の上の茶碗に酒が入れられ、ふるまわれる。
298	12/29	18:59	遷招兵願						三村	餅。3日目か？
299	12/29	19:23					黄運龍	祖先壇に脂身を供える。	三村	
300	12/29	19:24					黄運龍	祭壇の下に箕に茶碗を10個入れたものを置く。	三村	
301	12/29	19:57							三村	吉野先生到着。
302	12/29	21:40	大運銭				盤宝古	法衣をまとい祖先壇の前で唱えごと。	三村	
303	12/29	21:57	大運銭				趙金付	盤王大歌を広げる。	三村	確認か？
304	12/29	21:59	大運銭				盤宝古	しゃがんで紙銭を積む。ト具で占う。 唱える。	三村	紙銭の所にト具と願掛け証文らしきものがある。 唱えるのは唱還願歌の箇所。
305	12/29	22:35	大運銭				盤宝古	茶碗をもち祖先壇を向いて唱えごと。	三村	
306	12/29	22:47	大運銭		中央机		趙金付 盤宝古	唱えごと。	三村	中央机に箕の中に茶碗を入れたものが置かれる。
307	12/29	23:00	大運銭				趙金付 盤宝古 盤万古	宝古・万古は竹席を丸めて立たせ、その周りを回る。金付は唱えごと。	三村	
308	12/29	23:07	大運銭				趙金付 盤宝古 盤万古	宝古は竹席を担ぎ、万古とともに節を付けてそらで唱え、祭壇に向かつて舞った後、交差するなどして舞う。 金付はそらで唱えごと。	三村	
309	12/29	23:12	大運銭				趙金付 盤宝古 盤万古	万古が竹席をもち、宝古とともに舞う。 金付はテキストを読み上げる。	三村	
310	12/29	23:13	大運銭				盤万古 盤宝古	竹席を地面に広げ、その上に寝そべり祭壇の上の茶碗の水？を口に含み、噴く。ト具で占う。	三村	祭壇に向かつて右に宝古、左に万古。
311	12/29	23:19	大運銭				趙金付 盤宝古 盤万古	広げていた竹席を丸めて万古がもち、宝古とともに舞う。3人とも唱えごとを行なう。	三村	
312	12/29	23:20?	大運銭				盤宝古 盤万古	再び竹席を地面に広げ、その上に寝そべり祭壇の上の茶碗の水？を口に含み、噴く。ト具で占う。	三村	祭壇に向かつて右に万古、左に宝古。1回目とは異なり、左右の人間が入れ替わっている。
313	12/29	23:21?	大運銭				盤宝古 盤万古	広げていた竹席を丸めて宝古がもち、万古とともに舞う。	三村	
314	12/29	23:30	大運銭				盤宝古 盤万古	寝そべり祭壇の上の茶碗の水？を口に含み、噴く。ト具で占う。 祭壇下から栗の入った箕を出す。 栗を投げる。	三村	祭壇に向かつて右に宝古、左に万古。1回目と同じ。
411	12/29	23:31	大運銭				盤親族	投げられた栗を拾い集める。	三村	
412	12/29	23:31	大運銭				盤万古 盤宝古 盤万古 弟子	万古と宝古は法衣を脱ぐ。 弟子の1人は、宝古が脱いだ法衣を受け取って着る。	三村	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
315	12/29	23:36?	犬運銭	騎馬打馬回 転	正面祭壇前		盤寸古 弟子2人 盤万古 厨官	寸古は師棍をもって立つ。 弟子の1人が法衣を着る。 寸古の周りを万古や厨官、弟子が“かごめかごめ”のよう に手を繋いで回る。	三村	
413	12/29	23:51?	犬運銭		庁堂		趙金付 弟子	紙銭の山を庁堂中央に移動させる。金付は祖先壇に置か れていった紙銭の束を山に加える。	三村	
316	12/29	23:54	犬運銭		庁堂		エプロンの 男 黄運龍	紙銭の山に米を撒く。	三村	
317	12/29	23:55	犬運銭				盤宝古	厨房から竹の皮に塩を入れて庁堂へ行く。塩信を作る。	三村	
318	12/29	23:59	犬運銭				趙金付 盤宝古 盤万古 弟子	弟子の1人が紙銭の山に火をつける。 宝古が燃える紙銭の山に何か(塩信?)を投げ入れる。 金付・万古は玄関近くで唱えごと。	三村	
319	12/30	00:10	犬運銭				弟子2人	弟子の1人が師棍を水平にして肩に担ぎ、右手に鈴をもつ て燃える紙銭の周りを回る。 師棍の先端に紙銭を巻きつける。 祭壇に師棍を立てかけ、ドラ・シンバルを鳴らしながら礼。 師棍の下端に紙銭を巻きつける。 紙銭を巻き付けた師棍を水平にして肩に担ぎ、燃えた紙 銭の周りを回る。	三村	
320	12/30	01:06	送孤神		屋外		盤万古 弟子	庭先で紙銭を燃やす。	三村	
321	12/30	06:47	盤王願	監牲	屋外	トイレの裏	厨官等	豚を運ぶ。豚を檻に入れ、庁堂の中央に運び、屠殺する。	三村	
322	12/30	07:00~ 08:20		監牲	屋外		厨官等	台の上に豚を乗せ、解体していく。全身の産毛をそぎ、腹 を割る。腹の中央部分を四角に切り取る。 台のすぐ横で豚の頭を祭壇用につつらえる。	三村 廣田	
2	12/30	08:10~	盤王願				趙金付 盤万古	切り紙を行なう。紅羅緞・花等作成。	廣田	
323	12/30	08:20		謝師	正面祭壇前		盤宝古	家先車を読み上げながら、紙銭を積む。	三村	
324	12/30	08:43			正面祭壇前		盤宝古	唱えごと。献酒。	三村	
325	12/30	08:45			屋外		弟子	竹の箸を作る。	三村	
326	12/30	08:48		監香	正面祭壇前		盤宝古	鈴を鳴らしながら唱えごと。	三村	
327	12/30	09:03		監香	正面祭壇前		盤宝古	紙銭を燃やす。	三村	
328	12/30	09:03~ 09:08		取聖	正面祭壇前		盤宝古 盤万古	神画を下ろす。神画を重ねて巻いて布で包み、紐でくくる。	三村	
329	12/30	09:47			正面祭壇		黄運龍	祭壇の供物を集めて、1つの碗に入れる。片付け。	三村	
330	12/30	09:55			屋外		盤万古	竹の箸を赤い布でひとまとめにする。		
1	12/30	10:30~	盤王願		正面祭壇		黄運龍 厨官	元膏の線香を片付ける。 祭壇に豚の全身の姿となるよう頭部・内臓・足等配置す る。	三村 廣田	
332	12/30	10:35			正面祭壇		厨官	豚の後ろ足に赤いビニール紐をつけ、祭壇の上に吊るす。	三村	
333	12/30	10:44	盤王願		正面祭壇		黄運龍	丸餅を並べていく。	三村 廣田	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
334	12/30	10:56~ 11:36			庁堂		趙金付 盤宝古	切り紙をし、旗をつくる。	三村	
335	12/30	12:01			正面祭壇		厨官等	豚の上に丸餅を載せ、その上に切り紙の花を飾る。白い花から飾り付ける。	三村	
336	12/30	12:49			祖先壇前		盤宝古	招兵に用いた米と招兵旗の入った竹筒の中から剣を抜く。旗に願文?をくくる。	三村	
5	12/30	12:54	盤王願		正面祭壇				廣田 三村	祭壇の様子 飾られた紙銭の上に切り紙・紅羅緞が飾られている。両脇に紙銭が吊るされている。 豚の頭部には首の部分の肉が載せられ、脂の膜が剥がれその上に四角い肉が載せられている。すぐ脇に塩信と箸の束が立てかけられている。頭部の両脇には、内臓その脇に胴・足が置かれている。 左に1足、右に2足、背骨と1足が正面左側に吊るされている。丸餅が胴と足の脇の上に盛りされている。餅には切り紙の花が挿されている。 豚の頭部前には左右に3つずつの碗が2重に重ねられた丸餅の上に置かれている。中央に香炉碗、左右に米の入った碗、水杯、5つの酒杯がある。
6	12/30	13:09	盤王願		正面祭壇		趙金付	唱えごとを行なう。	廣田	
7	12/30	13:10	盤王願		正面祭壇前		趙金付	準備された酒席に座る。	廣田	
8	12/30	13:10	盤王願		正面祭壇		香灯師	香炉碗に炭を入れ、線香を載せる。	廣田	
9	12/30	13:12~	盤王願		正面祭壇前		趙金付 盤宝古 盤万古 黄運龍 弟子2人 盤運妹 趙松英 盤麗娟 趙惠蘭 趙大妹	テーブルを2つ繋げて座る。 金付が唱えごと。 金付は神名を唱えるが、すべて暗唱。請家先で金付は家先車を誦む。 箸を1本取り、酒盃につけてはじく。三廟に剪花酒を献酒し、その後自分たちが飲む。	廣田 三村	テーブルには、豆腐スープの入った碗、杯、碗、箸が各々の分置かれている。 唱えごとの内容は、盤家の許願の状況、願ほどの内容、盤王願の過程、馬頭意者の一部。料理は豆腐スープ・豚肉・あぶらあげ等。 歌女1人(盤運妹)歌娘3人(趙松英・盤麗娟・趙惠蘭) 手伝い女(趙大妹) 香灯師(黄運龍)
339	12/30	13:30			正面祭壇前		趙金付 盤宝古 盤万古 黄運龍 弟子 厨官 歌女 歌娘	酒をつぎ、食事をすする。	三村	
10	12/30	14:52	盤王願	請聖?	正面祭壇前		黄運龍	盆に酒杯・あぶらあげを載せてくる。	廣田	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
340	12/30	14:55		請聖?	正面祭壇前		趙金付 黃運龍	金付が油揚げ、4つの杯の載った盆をもち礼拝。運龍もその横で礼拝する。	三村	
11	12/30	14:56	盤王願	請聖?	正面祭壇前		盤寸古	盆をもち、祭壇に向かって礼の後、腰掛ける。	廣田	受礼者(盤寸古)
12	12/30	14:58	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	別の盆をもち祭壇に向かって礼。	廣田	
13	12/30	14:59	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	法衣を着る。	廣田	
14	12/30	15:00	盤王願	請聖?	正面祭壇前		黃運龍 厨官	香灯師が盆を運び、厨官が盆を受け取り、2人で礼。	廣田	香灯師(黃運龍)
15	12/30	15:02	盤王願	請聖?	正面祭壇前		弟子 厨官	弟子は笛、厨官はカステネットをもち、金付の後ろに控える。	廣田	
16	12/30	15:03	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	法事を始める(内容後で追加必要)。	廣田	
341	12/30	15:06	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付 弟子	金付は法衣を着て、唱えごと。	三村	
342	12/30	15:06	盤王願	請聖?	正面祭壇前		盤宝古 盤寸古	寸古は正装し、供え物の載った盆をもち座る。宝古は唱えごと。	三村	
17	12/30	15:07	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付 弟子 厨官	金付は家先単を唱え米を撒く。弟子と厨官は控える。	廣田	
18	12/30	15:14	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付 弟子 厨官	金付は鈴を右手にもち法事。弟子と厨官は控える。	廣田	
19	12/30	15:23	盤王願	請聖?	正面祭壇前		香灯師 受礼者	受礼者のもつ盆の上の杯に香灯師が酒を注ぐ。受礼者は盆をもち礼。	廣田	
20	12/30	15:23	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付 厨官 弟子	金付は右手に鈴、左手に玉簡をもち唱えごと。弟子は笛をもち金付の右に、厨官はカステネットをもち金付の左に控える。	廣田	
343	12/30	15:24	盤王願	請聖?	正面祭壇前		盤宝古 黃運龍 盤寸古	運龍が寸古の盆に酒を注ぐ。盆を祭壇の脇に置く。	三村	
21	12/30	15:25	盤王願	請聖?	正面祭壇前		香灯師	香炉に線香を置く。	廣田	
22	12/30	15:29	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	1人となり法事(内容確認必要)。 卦、祭壇上の家先単を読む、鈴を手にする。	廣田	
344	12/30	15:47	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付 弟子 厨官 盤寸古	金付と弟子の後ろに厨官と寸古が立つ。	三村	
23	12/30	15:55	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	紙銭を丸めたものを手にもつ(確認必要)。	廣田	
24	12/30	15:56	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付 弟子	弟子のもついた楽器(笛?)を金付が受け取る。	廣田	
25	12/30	15:58~	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	袋上にあぐらをかき法事、唱えごと、鈴・玉簡をもち、家先単を読む、卦。	廣田 三村	
26	12/30	16:11	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	立ち上がり法事。	廣田	
27	12/30	16:14~ 16:19	盤王願	請聖?	正面祭壇		趙金付	唱えごとを続け、祭壇下のかめから酒をひしゃくですくい、祭壇上の腕に右から順に注ぐ。家先単を手にし読む、献酒を続ける。神名を暗唱。卦。	廣田 三村	酒杯の数は6。
28	12/30	16:20	盤王願	請聖?	正面祭壇前		盤万古	法衣を着る。	廣田	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	記録者	備考
29	12/30	16:23～	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	引き続き、立ったり座ったりしながら法事を続ける。右に鈴、左に玉簡をもち、唱えごと、卦、家先単を手にし読む。	廣田	
30	12/30	17:19	盤王願	請聖?	庁堂		盤万古 弟子等	紙銭作り。	廣田	
31	12/30	17:28	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付 黄運龍 歌娘	金付は座った姿勢で法事を続ける。その後ろに女性たち3人が並ぶ。香灯師が供えものを載せた盆をもち並ぶ。礼拝。	廣田 三村	
32	12/30	17:30	盤王願	請聖?	正面祭壇前		厨官 弟子 黄運龍	金付は座ったまま法事を続ける。その後ろで香灯師が盆をもち、弟子と厨官が礼。	廣田 三村	盆 (あぶらあげ入り碗1、酒杯4)
33	12/30	17:33～ 17:40	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付 歌娘 黄運龍	金付は座ったまま法事を続ける。その後ろで香灯師が盆をもち、3人の女性が並び中央の女性に盆がわたされ、盆上の酒杯に香灯師が酒を注ぎ、礼。両脇の女性が酒杯をもち人々に酒を振る舞う。香灯師によって盆が片付けられる。	廣田 三村	中央の女性は花嫁のかぶる大きなかぶり物をつけている。
34	12/30	17:40	盤王願	請聖?	正面祭壇		趙金付 歌女 歌娘	金付は座ったまま法事を続け、その後ろに3人の女性が立ち並び脇に歌書をもった歌女が控える。	廣田	
350	12/30	17:53	盤王願	請聖?	正面祭壇前		趙金付	ト具で占う。	三村	
35	12/30	17:55	盤王願	点男点女	正面祭壇		趙金付		廣田	祭壇上には「在落紅頭跪落紅尾」部分が開かれ置かれている。
36	12/30	18:00	盤王願		正面祭壇前		趙金付 盤万古 歌娘	金付が立って祭壇に向かい礼、鈴・玉簡をもち、法事。その後ろに万古が笛をもち、厨官と並び立ち、その後ろに女性たちが並ぶ。	廣田 三村	
37	12/30	18:01	盤王願		正面祭壇前		趙金付	紙銭を花の旗の山に差し入れる。卦、米撒く。	廣田	(右の山、左の山、右の山…)
38	12/30	18:07	盤王願		正面祭壇		趙金付	「在…」を手にし読む。途中家先単の願の部分も読む。	廣田	
39	12/30	18:19	盤王願		正面祭壇		盤万古 厨官	ひざまずき、礼拝。	廣田	
40	12/30	18:21	盤王願		正面祭壇		趙金付	祭壇上に置かれたテキストを読む。	廣田	読誦は「請男人出唱歌詞」の部分。
41	12/30	18:23	盤王願		正面祭壇		趙金付	祭壇上に置かれたテキストを読む。	廣田	読誦は「女人出唱歌詞」の部分。
42	12/30	18:27	盤王願		正面祭壇		趙金付	手にもったテキストを読む。	廣田	読誦は「請男人出唱歌詞」の部分、続いて「女人出唱歌詞」の部分。
43	12/30	18:34～ 19:23	盤王願		正面祭壇		趙金付 盤万古	万古は途中で金付から交代しテキストの読誦を続ける。金付は衣を脱ぐ。	廣田	読誦は「初願歌詞」の部分。
44	12/30	18:34～ 19:23	盤王願		庁堂		歌女 歌娘	歌女はテキストを抱えたまま歌唱する。3人の女性は立ってたまま。	廣田 三村	歌唱は「又是趙思又边趙人…」、「歌〇々歌〇歌下一対三十六段歌詞〇〇」、「拜神聖拜神〇聖々〇難 / 知」、「引神唱…初世唱…」の部分。(女性用歌書)
353	12/30	19:23	盤王願		庁堂		歌娘	被り物を取る。	三村	
354	12/30	21:47	盤王願		正面祭壇		黄運龍	線香を立てる。	三村	
45	12/30	21:59	盤王願		正面祭壇前		黄運龍	盆をもち出る。	廣田	盆 (あぶらあげ4、酒杯)
46	12/30	22:01	盤王願		正面祭壇脇		盤万古 厨官	座って唱えごと。	廣田	
47	12/30	22:08	盤王願		正面祭壇		厨官	献酒。	廣田	
48	12/30	22:10	盤王願		正面祭壇前		盤万古	献酒、紙銭を積む、卦、唱えごと。	廣田 三村	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
49	12/30	22:21	盤王願	流柴	正面祭壇		弟子	法衣を着る。立つ。	廣田	
50	12/30	22:25～	盤王願	流柴	庁堂		盤万古	机にテキストを開き読誦。	廣田	読誦は「劉羅上光用」、「開神頭歌」部分。
51	12/30	22:26～ 22:36	盤王願	流柴	正面祭壇前		弟子	立ったりひざまずいたりし、礼。右に鈴、左に玉簡をもち、鈴を鳴らす。羅帯をもつ。舞う。	廣田 三村	
52	12/30	22:36～	盤王願	流柴	正面祭壇前		弟子	法衣を着る。舞う。鈴・玉簡をもち舞う。玉簡に杯を載せる。紙銭を燃やす。右手で鈴を鳴らし、杯を載せた玉簡を左手にもって回る。	廣田	
53	12/30	22:43	盤王願	流柴	庁堂		盤万古	テキストの読誦を続ける。	廣田	読誦は「軀身唱」、「勸酒」、「換声唱」、「獻酒」部分。
54	12/30	23:35	盤王願	流柴	庁堂		盤宝古	万古と交代しテキストを読誦。	廣田	読誦は「換声唱」、「獻酒」部分。
55	12/30	23:41	盤王願	流柴	正面祭壇		弟子	弟子ももう1人の弟子と交代し右手に鈴、杯を載せた玉簡を左手にもつ。	廣田	
56	12/30	23:51	盤王願	流柴	庁堂		盤万古	宝古に変わって読誦。	廣田	読誦は「又唱」、「又唱架橋歌」部分。
57	12/30	23:55	盤王願	流柴	庁堂		歌女	テキストを詠唱。	廣田	詠唱は「遊願到…」部分。
58	12/31	00:04	盤王願	流柴	戸口		盤万古 盤宝古	外と内で問答。楽器を宝古が受け取り中へ移動。	廣田	外：万古、楽器をもった弟子、法衣を着た弟子 内：宝古
357	12/31	00:15	盤王願	流柴	正面祭壇前		弟子 囃子方3人	弟子と囃子方3人がト具を使って何かを表現する。角笛・燃沙板・鈴も使う。豚の頭上の灯明から火を取って紙銭を燃やす。紙銭を加える。笛を天秤にして鈴と角笛を左右に吊るして量る所作をする。師棍を立てる。ト具で叩いて倒すと、弟子が軀ける。師棍を倒し、また師棍を立てる。鉄製品の作成工程を演じる。鍛冶屋はシンバルを鉄帽とみなしてかぶる。鎌・斧・鋸の作製を演じる。牛を殺す演技をし、土地神を祀る。紙銭を燃やし、土地神を祀る。牛の重さを量る演技をする。このとき問答を行なう。かたづけける。杖を倒し倒れた地点を確かめる。作った刀、斧、鋸を使い、杖の木を切る動作をする。木を切り、わざと弟子のいる方に倒す。弟子が軀び、笑いを誘う。倒れた木を製材し、板を作り、橋を作る様子を演じる。テキストを読誦。	三村 廣田	
60	12/31	00:25	盤王願	流柴	庁堂		盤万古	テキストを読誦。	廣田	読誦は「出門外做鉄匠説白話」、「又唱架橋歌」、「獻酒」部分。
61	12/31	00:29	盤王願	流柴	庁堂		趙金付 盤万古	テキストの読誦について検討。	廣田	万古の前には「出門外做鉄匠説白話」、金付の前には「又勸酒」部分を開いたテキストが置かれている。
358	12/31	00:33	盤王願	流柴			歌女	節を付けてテキストを読誦。	三村	
62	12/31	00:45	盤王願	流柴	正面祭壇		趙金付 弟子	金付は舂をもち立つ、舂、罡歩、手訣。弟子は立って玉簡を床に落とす。	廣田	
63	12/31	00:47	盤王願	流柴	庁堂		盤万古	テキストを読誦。	廣田	読誦は「叩祖師架橋」、「又接婦家神」、「又勸酒」、「又唱掃家歌」、「捕台歌」、「獻酒」、「又唱台出世歌」、「喊厨官抽台歌」部分。
64	12/31	00:57	盤王願	流柴	屋外		趙金付	紙銭を燃やす。	廣田	

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大項目)	場所(小項目)	行動主	行動	記録者	備考
65	12/31	01:07	盤王願	流柴	庁堂		趙金付 盤万古	テキストを読誦。	廣田	読誦は、金付は「接厨司」、万古は「又請殺牲歌踏廟」部分。
359	12/31	01:20	盤王願	流柴			数人	子豚を捕まえてくる。豚を屠る。首を切り血を採る。	三村 廣田	
67	12/31	01:31	盤王願	流柴	正面祭壇		香灯師 弟子	香灯師はドラを鳴らす。弟子は法衣を着て立つ。2人で礼。弟子は酒を載せた玉簡を左手にもち、右手で鈴を鳴らし、立つ。	廣田	
68	12/31	01:36	盤王願	流柴	正面祭壇		弟子	盤王印(紅羅帳)をもち、立つ。	廣田	
69	12/31	01:37	盤王願	流柴	庁堂		趙金付	テキストを読誦。	廣田	読誦は「紅羅帳」、「挿花唱」、「深深拜……」、「唐王出席……」、「接行平廟歌」部分。
360	12/31	01:37	盤王願	流柴	正面祭壇前		弟子	紅羅帳を出して振る。	三村	
70	12/31	01:41	盤王願	流柴	正面祭壇		弟子 盤万古	万古は弟子の頭に花旗2本を挿す。弟子は立つ。	廣田	
361	12/31	01:42	盤王願	流柴	屋外		厨官	子豚を解体。	三村	
71	12/31	01:45	盤王願	流柴	庁堂		盤万古	テキストを読誦。	廣田	
72	12/31	01:47	盤王願	流柴	正面祭壇		盤万古	紅羅帳の上に盤王印(紅羅帳)を貼る。	廣田	
73	12/31	01:48	盤王願	流柴	庁堂		趙金付	テキストの読誦が繰り返される。	三村 廣田	読誦は、「三年養猪…」、「接行平廟歌」、「三年…」、「勸酒」、「伏靈廟」、「三年…」、「接福江廟」、「三年…」、「迎厨司」、「三年…」、「迎厨司」、「接陽州廟」、「捕台歌」、「家先単」、「立聖」部分。
74	12/31	01:48	盤王願	流柴	正面祭壇		弟子	玉簡の上に酒杯を載せてもち、立つ。	廣田	
75	12/31	01:49	盤王願	流柴	正面祭壇		弟子	座り、右手で鈴を鳴らし、玉簡の上に酒杯を載せて、さらに花旗を左手にもつ。	廣田	
363	12/31	01:57	盤王願	流柴	正面祭壇前		盤万古 弟子	万古は祭壇下の壺に入っていた酒を杯に入れて弟子にわたす。	三村	弟子は受け取った杯、玉簡、鈴をもって座っている。
364	12/31	02:15	盤王願	流柴			趙金付	テキストを読誦。	三村	
76	12/31	02:18	盤王願	流柴	正面祭壇		弟子	立ち、玉簡を後ろに落とす。左手に旗、右手に鈴をもち、舞う。	廣田	
365	12/31	02:19	盤王願	流柴	屋外		盤万古 黄運龍	万古は玄関先で玉簡に豚の血をつけた笹を巻きつける。運龍は正面祭壇の前にこれをもつていく。そして弟子に渡す。	三村 廣田	
78	12/31	02:24	盤王願	流柴	正面祭壇		弟子	左手に玉簡と花旗、右手に鈴をもち、立つ。	廣田	
79	12/31	02:27	盤王願	流柴	屋外		盤万古 弟子 厨官	万古はテキストを見る。弟子はドラをもつ。万古は長鼓を厨官にわたす。万古はテキストを読誦。	廣田	読誦は、「仔是連州…」、「仔是伏江仔…」部分。
80	12/31	02:34	盤王願	流柴	屋外		趙金付 盤万古 弟子	テキストを読誦しあう。弟子は楽器を金付にわたす。	廣田	読誦は、金付は「伏問仔…」、万古は「…不使問…」部分。
81	12/31	02:36~ 02:46	盤王願	流柴	戸口		趙金付 盤万古	万古はテキストを見つつ金付とやり取りをす。	廣田 三村	金付は内、万古は戸口の外。

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
82	12/31	02:49	盤王願	流菜	正面祭壇		盤万古 厨司 弟子2人 香灯師 盤宝古	外から人々が入り、並ぶ。左右に分かれた人々が対面する。杯をもった宝古が右に加わる。対話する。右の人々は酒を左の人々にわたす。	廣田	並び方は正面向かって右に弟子、酒杯をもった香灯師、左に万古、厨官、弟子。
367	12/31	02:50	盤王願	流菜	正面祭壇前		趙金付 盤宝古 盤万古 黄運龍 厨官	酒をつぎ、皆で飲む。	三村	
83	12/31	03:00	盤王願	流菜	庁堂		弟子 盤万古 厨官 香灯師	弟子は太鼓、厨官は小ドラ、香灯師は大ドラ、万古はシンバルを叩く。	廣田	
84	12/31	03:02	盤王願	流菜	正面祭壇前		盤宝古 弟子	2人は前掛けをつけ、長鼓をもち舞う。	廣田 三村	
85	12/31	03:13	盤王願	流菜	庁堂		趙金付	テキストを誦誦。	廣田	誦誦は、「上司高祖大王謹把席…」、「大哥願…」、「手拿杵節々能節…」部分。
86	12/31	03:18	盤王願	流菜	屋外		歌女 歌娘 弟子2人 黄運龍 盤万古	歌女はテキストを詠唱。3人の女性と3人の男性は対面して並ぶ。万古はテキストを詠唱。	廣田 三村	詠唱は、歌娘は「…来借地…」、万古は「黄龍圍過三層底…」、「今夜是連三廟城…」部分。男性の襟元には旗が飾られている。
87	12/31	03:24	盤王願	流菜	庁堂		盤万古	テキストを誦誦。	廣田 三村	誦誦は「共村歌堂都〇了打破歌堂轉入歸/行」、「復曹下降」、「行平廟」部分。
88	12/31	03:29~ 03:58	盤王願	流菜	正面祭壇		趙金付 弟子	金付は唱えごと。弟子は左手に花旗・玉簡、右手に箸をもち、祭壇上の掛貝を落とす。	廣田 三村	
89	12/31	03:37	盤王願	流菜	庁堂		盤万古	テキストを誦誦。	廣田	誦誦は「又伏靈廟」、「又福江廟」、「又厨司廟」、「陽州廟」、「又解神意」、「打轉管唱」、「…山頭…」、「…女人…」、「十個女人壇中座…」部分。
90	12/31	03:41	盤王願	流菜	庁堂		歌女 歌娘	外から室内に入る。	廣田	
91	12/31	03:43	盤王願	流菜	正面祭壇右 脇		厨官	子豚を供える。	廣田	
92	12/31	03:56	盤王願	流菜	正面祭壇		弟子	ひざまずく。掛貝を後ろに落とす。	廣田	
93	12/31	03:59	盤王願	流菜	正面祭壇		弟子	右手に鈴、左手に玉簡・花旗をもち、立つ。	廣田	
94	12/31	04:00	盤王願	流菜	正面祭壇		弟子 趙金付	弟子の頭部から花旗を取り、祭壇に戻す。	廣田	
95	12/31	04:03	盤王願	流菜	庁堂		趙金付	テキストを誦誦。	廣田	誦誦は「照聖名開」、「広東出世有塩米…」、「脱童」、「祖師父本師爺…」部分。
96	12/31	04:04	盤王願	流菜	正面祭壇		弟子	右手に鈴、杯を載せた玉簡を左手にもち、立つ。	廣田	
97	12/31	04:13	盤王願	流菜	正面祭壇		趙金付 弟子	紙銭を燃やす。献酒。弟子はひざまずく。	廣田	
98	12/31	04:14	盤王願	流菜	庁堂		盤万古	テキストを誦誦。	廣田	誦誦は「神頭脱脚箱裡住…」、「…謝芳謝拜祖師回左本師回右」部分。

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大項目)	場所(小項目)	行動主	行動	記録者	備考
99	12/31	04:16	盤王願	流菜	正面祭壇		弟子 趙金付	弟子は法衣を脱ぐ。金付は耳。	廣田	
373	12/31	04:18	盤王願	流菜	正面祭壇前		趙金付	紙銭を燃やしながら、唱えごと。	三村	
100	12/31	04:28～ 04:39	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付	机を増設する。法衣を着、読誦を続ける。献酒。紙銭を花 旗の山に入れる。法衣を脱ぐ。	廣田 三村	増設した机には酒杯(7)・箸(7)・鼠の肉の皿 (4)・野菜の皿(3)が並べられている。 読誦は「大歌書」の最初の頁から「坐席三幡」ま で。
101	12/31	06:16	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付 盤万古	机の周りに座る。家先単と「大歌書」を机の上に置き、金付は 鈴をもち唱える。	廣田	
102	12/31	06:17	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付 盤万古 盤宝古	宝古と万古は読誦。金付は唱えごと。	廣田	読誦は「大歌書」、「四行坐席老人…」と家先単。
376	12/31	06:24	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付 盤万古 盤宝古	盤王大歌のテキストを読み上げる。 箸で「鑑定」を行なう。	三村	
103	12/31	06:40～ 終了時 間不明	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付 盤万古 盤宝古	詠唱。	廣田	詠唱は「大歌書」、「人話郎村歌堂到…」から。 最初の部分は問答で、その後左右の頁を数行 ずつ3名で分担する。
104	12/31	06:41	盤王願	唱盤王大歌	庁堂		歌娘	テキストを詠唱。	廣田	詠唱は「…共村姉妹開書読…」、「…伏間仔…」、 「青山青〇青…」。
377	12/31	06:49	盤王願	唱盤王大歌	戸口近く		歌女	節を付けてテキストを読誦詠唱。	三村	
105	12/31	07:48	盤王願	唱盤王大歌	家先壇		香灯師	鶏を供える。	廣田	
106	12/31	08:12～ 08:51	盤王願	唱盤王大歌	家先壇前		盤宝古	唱えごと。紙銭を積む。水碗をもつ。紙銭を燃やす。	廣田	
378	12/31	08:14	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		盤宝古	子豚の供物の前で唱えごと。	三村	
379	12/31	08:26	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付 盤万古 盤宝古 歌女	金付と万古は盤王大歌のテキストを節を付けて読誦詠唱。 宝古は紙銭を積む。 歌女は歌女用の歌書を節を付けて読誦詠唱。	三村	
380	12/31	08:44	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		盤宝古 盤寸古	宝古は水の入った碗をもち、占う。寸古はその様子を見る。 占い後、宝古は紙銭を積む。	三村	
107	12/31	11:17	盤王願	唱盤王大歌	家先壇前		香灯師	ドラを打つ。	廣田	
108	12/31	11:20	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇		香灯師	灯明に油を差す。	廣田	
109	12/31	11:26	盤王願	唱盤王大歌	庁堂		歌女 歌娘	3人の女性は祭壇に向かって並び立ち、歌女はテキストを 詠唱。	廣田	詠唱は「造紙良…」。中央の女性は花嫁のかぶ り物をかぶっている。
110	12/31	11:32	盤王願	唱盤王大歌	庁堂		歌女 盤万古 歌娘	3人の女性は祭壇に向かって並び立つが、万古が鈴を中央 の女性にわたす。歌女はテキスト詠唱を続ける。	廣田	詠唱は「…郎世郎…」、「…木也木…」、「…娘心 轉…」、「…去也…」(17:20)。
382	12/31	11:58～ 12:26	盤王願	唱盤王大歌	庁堂	戸口付近	歌女 歌娘	歌女は節を付けてテキストを読誦詠唱。	三村	
111	12/31	12:48	盤王願		正面祭壇		趙金付 盤宝古 盤万古	詠唱を続ける。	廣田	机上に「大歌書」。詠唱は「不信但看正二月…」。

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所(大頭目)	場所(小頭目)	行動主	行動	記録者	備考
383	12/31	12:53	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付 盤万古 盤宝古	節を付けてテキストを誦詠詠唱。	三村	
384	12/31	12:59	盤王願	唱盤王大歌	庁堂	戸口付近	歌女	座って節を付けてテキストを誦詠詠唱。	三村	
385	12/31	13:00	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付 盤万古 盤宝古	節を付けてテキストを誦詠。	三村	
386	12/31	13:07	盤王願	唱盤王大歌	庁堂	戸口付近	歌女	座って節を付けてテキストを誦詠。	三村	
112	12/31	15:59	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇前		趙金付 盤宝古	詠唱。	廣田	詠唱は「大歌書」下冊冒頭部分。「新新愛入桃源洞」。
113	12/31	20:08	盤王願	唱盤王大歌	正面祭壇		盤宝古 盤万古	万古は法衣を着る、鈴を振る。宝古は唱えごと。	廣田	「大歌書」は終了した模様。別のテキストが机上にあり。
389	12/31	20:21	盤王願	還盤王願?	正面祭壇前		盤宝古	ト具で占う。	三村	
114	12/31	20:23	盤王願	還盤王願?	正面祭壇		盤宝古 盤万古	万古がかめの酒を献酒。宝古は唱えごと。宝古は花旗の山に紙銭を入れる。	廣田	
115	12/31	20:27	盤王願	還盤王願?	正面祭壇前		盤万古 盤宝古	赤い糸の結ばれた紙を取り出す。鈴に結び付ける。竹筒は家先壇に戻す。宝古は卦。花旗の山に紙銭を入れる。宝古はテキストを手にし誦詠。万古は願書を広げて読む。願書は花旗の山に置かれる。	廣田 三村	誦詠は「出願歌詞」の頁。テキストは「今朝師人偷願出…」の頁。
116	12/31	20:38	盤王願	還盤王願?	庁堂	戸口付近	歌女 歌娘	歌娘は鈴を受け取る。歌女はテキストの詠唱を続ける。	廣田	
117	12/31	20:39	盤王願	還盤王願?	正面祭壇		盤宝古	盆に祭壇上の内臓を載せる。花旗の山に紙銭を入れる。	廣田	金付の前の机上に「大歌書」、「女難…」、「女難…」の頁を開いたテキストが置かれ、その上に「今朝師人偷願出…」の頁を開いたテキストが載せられている。
118	12/31	20:43	盤王願	還盤王願?	屋外		歌女 香灯師 弟子2人 歌娘	男女は対面して並ぶ。男性は太鼓・笛・カスタネットをもつ。歌娘3人のうち中央の女性が鈴をもつ。歌女はテキストの詠唱を続ける。	廣田	詠唱は「當初結願師人結…」。 男性(香灯師・弟子2人)
119	12/31	20:45	盤王願	還盤王願?	正面祭壇		盤宝古 厨官 盤万古	厨官は盆に載せられた内臓のうち心臓に刃物を入れる。宝古は万古を見守る。	廣田	机上には「大歌書」、「女難…」、「女難…」の頁、「歌堂〇々専是散…」の頁が開かれたテキストが置かれている。
391	12/31	20:46~ 21:08	盤王願	還盤王願?	屋外		歌女 歌娘	歌女は節を付けてテキストを誦詠詠唱。 歌娘は鈴についた願文を細かくちぎって捨てる。	三村	
120	12/31	20:49	盤王願	還盤王願?	正面祭壇前		趙金付 盤宝古 盤万古	詠唱。もう1つのテキスト詠唱。	廣田 三村	詠唱は「大歌書」、「女難…」の頁から、もう1つは「伏歌了…」の頁。
393	12/31	21:11	盤王願	還盤王願?	屋外		歌女	ちぎった願文を拾い集める。	三村	
121	12/31	21:12	盤王願	還盤王願?	正面祭壇前				廣田	鈴につけられていた願書が破られ、机上に置かれている。

番号	日付	時間	大儀礼名	小儀礼名	場所 (大項目)	場所 (小項目)	行動主	行動	記録者	備考
122	12/31	21:13	盤王願	還盤王願?	正面祭壇前		趙金付 盤宝古 盤万古	詠唱。	廣田 三村	詠唱は「歌堂〇々専是散…」、「強得肚前自得知…」。
395	12/31	21:20	盤王願	還盤王願?	正面祭壇前		趙金付	金付は家先の名前の書かれた紙を丸めて、鈴につける。	三村	
123	12/31	21:24～ 22:10頃	盤王願	還盤王願?	正面祭壇		趙金付 盤宝古 盤万古 歌女	詠唱。	廣田 三村	詠唱は「…不唱了…」の頁、「歌堂淋淋専是散…」の頁、「来時船〇無物載…」(21:49)の頁、「…不唱了…」(21:58)の頁。
124	12/31	22:13	盤王願	還盤王願?	正面祭壇前		趙金付 盤宝古 弟子	杯を倒す。酒を飲む。	廣田 三村	机に内臓(心臓等)(3)・あげを入れた碗(4)・酒杯(5)・箸(6)が置かれている。破られた願書が包まれたものを結び付けられた鈴が置かれており、その画脇に卦具が立てかけられている。
125	12/31	22:40	盤王願	還盤王願?	正面祭壇		趙金付	鈴に立てかけられた卦具を箸でつまんで外す。	廣田	
126	12/31	22:45	盤王願	送王	正面祭壇		趙金付	法衣を着る、鈴・玉簡をもち唱えごと、家先単を読む、つぼの酒を献酒、紙銭を積む、卦、家先単の願書部分の頁をちぎって紙銭の上に置き、鈴につけられた願書を外し、粉々に破る。卦、紙銭をさらに積む、卦、祭壇上の花旗も外して積む、紅羅緞も外して積む。	廣田	
398	12/31	23:16	盤王願	送王	正面祭壇前		趙金付	かめの酒を献酒。	三村	
399	12/31	23:20	盤王願	送王	正面祭壇前		趙金付	座って紙銭を積む。その後しゃがんで、家先単を読み上げながら、紙銭を積む。卜具で占い。	三村	
400	12/31	23:47	盤王願	拆兵	正面祭壇前		趙金付	紙銭を積んだ上に、願文をちぎったものを積む。	三村	
401	12/31	23:55～ 00:00	盤王願	拆兵	正面祭壇前		趙金付 盤万古	祭壇上を片付ける。紙銭の上に旗を置く。	三村	
127	12/31	23:58	盤王願		正面祭壇		趙金付	積んだものを燃やす。唱えごとを続ける。	廣田	
128	01/01	00:02	盤王願		庁堂		歌女 歌娘	歌娘3人は並び、歌女はテキストを詠唱。	廣田	詠唱は最後の行「沙板神送神去…」、「…送神去…」(00:11)。
129	01/01	00:17	盤王願		正面祭壇		趙金付	唱えごと。	廣田	
402	01/01	00:19	盤王願	送王?	正面祭壇前		盤宝古	紙銭の灰を中心に長鼓をもって立つ。	三村	
130	01/01	00:21～ 00:31	盤王願	送王?	庁堂		盤宝古 弟子	燃やされた灰の周りを長鼓をもち舞う。	廣田 三村	
404	01/01	00:22?	盤王願	送王?	屋外	戸口付近	趙金付	戸口に行って卜具で占う。	三村	
131	01/01	00:30	盤王願	送王?	屋外		趙金付	長鼓を壁に立てかけ、碗の水・杯の酒を流し、碗と杯を伏せて置く。	廣田	
405	01/01	00:33	盤王願					終了	三村	
132	01/01	00:55	盤王願	散役拜師	庁堂		全員	なおらい。	廣田	装馬見ず

简论包牺氏“始作八卦”与西王母“蓬发载胜”之关系

湖南省民间文艺家协会
张 劲松

湖南史前高庙文化高庙类型有被考古学家命名为“八角星”的纹样，如一陶罐上似太阳光芒的八角纹绘在外大圆圈和一内小圆圈之间（图1）。又如另一陶罐上也在一大一小的两个同心圆圈之间绘八角纹（图2）。贺刚先生在《湘西史前遗存与中国古史传说》（岳麓书社2013年版）书中认为这些八角星图像是《系辞传下》载包牺氏（即伏羲氏）

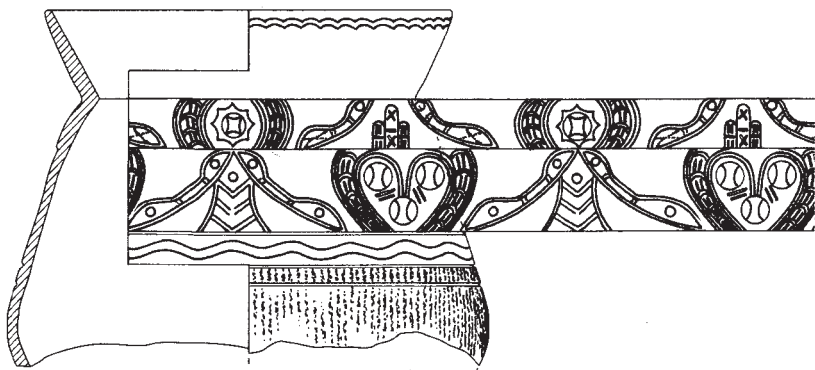


图1

“始作八卦”的纹样，并将之作为高庙文化是远古伏羲氏部落及文化所在地的考古资料证据。贺刚先生的意见值得重视。原因有二，一是高庙遗址的“八角星纹”确实是被一些学者称为的“原八卦”。原八卦与流传的已将八个三爻卦画置于太极圆上的内蕴已经很丰富的“八卦”图不同。原八卦的画法较为简单，只是用纹饰刻画表现由观测太阳日影年周期所得的二分二至和四立的八个位置点，这八个位置点所表明的八节是挂在天上的八种气象，故谓之“八卦”。被学者称为“八角星纹”“八芒太阳纹”“八分纹”的原八卦图样，在崧泽文化、大溪文化、大汶口文化、庙底沟文化、红山文化、良渚文化、马家窑文化等器物上都可见到。其纹饰的绘法主要是由正方形、“十”字形经二分而成，是将年四时再分为年八节的表示法。高庙遗址的八角星图像也有四分到八分的表示法，如图1在中心圆圈内绘正方形，在有正方形的圆圈外绘似太阳光芒的八角纹。图2在大圆圈线上绘呈圆形意象的四条弧线，在四条弧线内的两个圆圈间绘似太阳光芒的八角纹。两图像都是由四时到八节的意象性表示法，其绘式既不规范，也不准确，反映出其是原八卦绘式的雏形。但正是这种雏形显示出伏羲氏“始作八卦”之“始”的特点。高庙遗址之后的距今约6500年的湖南安乡汤家岗遗址的陶盘外底部的八节纹既规整，角度也正角（图3），表现出“始作八卦”在绘图法上的进步。二是中国境内考古发现的“八角星纹”“八芒太阳纹”以高庙遗址为最早，其年代上限可上溯到距今7800

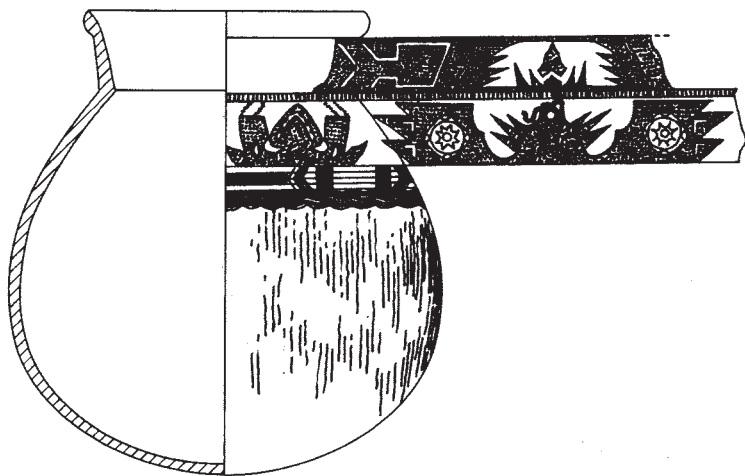


图2

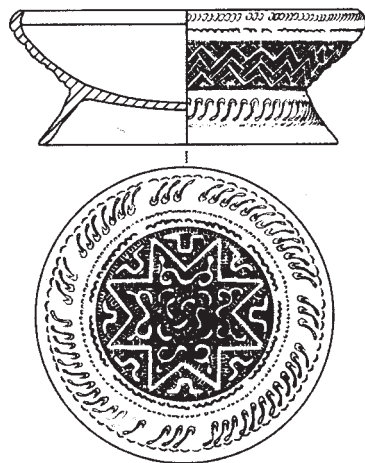


图3



图4

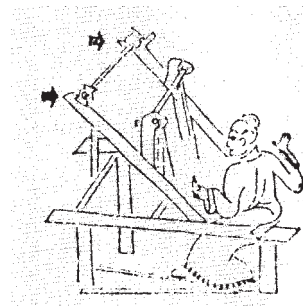


图5

年，而包牺氏距今约公元前 7000 年，两者在年代上基本相同。从年代上如贺刚所说，高庙遗址的八角星纹是可作伏羲氏“始作八卦”的证据。

受人尊敬的已故考古学家、民俗学家梁白泉先生曾著《释“胜”》一文（载《寻根》1995 年第 5 期）。对《山海经》中说西王母“豹尾虎齿而善啸，蓬发戴胜”的“胜”作了专题研究。梁先生以文献和文物及其纹饰图样的双重证据，研究了汉及汉代以来对“胜”“一说是发饰，一说是织机上的构件”的两种主要解释。梁先生认为“胜”的原形是古代织布机上持经线的轴，如江苏铜山洪楼出土东汉画像石上织布机上持经线的轴（图 4），又四川出土画像石上纺织图织布机上持经线的轴（图 5）。这种名为“胜”的织件是在一根轴的两端各安置一圆盘，它可以在织机上用来卷经线。梁先生认为西王母所戴发饰之“胜”是仿这织机上名为“胜”的构件用玉、金属等制成的装饰品，如山东沂南汉墓石刻西王母头上戴的“胜”（图 6）。我认为梁先生的研究是值得重视的。

我要探究的是，织机上能旋转的轴，其源何在，为何名之为“胜”，又为何要仿织机上的“胜”而制成西王母戴的头饰？弄清了这些问题有助认知“胜”及西王母文化的内含。

石器时代圆转工具的利用和制造使用，当是源于远古原始人在生产生活中偶然发现点旋转物的功用价值，于是便有了旧石器时代开始制造使用的如骨针、骨锥、石锥（钻）之类的点旋转工具。新石器时代开始制造使用如纺轮、“轮锯”（砣轮）之类的平面圆旋转工具等。在江苏吴县和浙江的良渚文化遗址发现的多样丝品当是用原始的织机织成的。至于汉画像砖上的纺车和织布机，上世纪九十年代，我在湖南偏远少数民族仍见妇女们将手动木制纺纱车放在膝前地上纺纱，再用纺成的纱在织布机上织布。纺纱车和织布机上组合运用的圆转构件，是人们在长期使用圆转工具的基础上，经创新发展而制造出来的，其源当是石器时代的圆转工具。

然而，《系辞传上》“易有太极”章说：“形乃谓之器”，意思是“取八卦之象具体赋形称为器具”，其意也指史前的圆转工具是取八卦太阳圆转之象而制造的。这是把圆转工具的产生与对太阳的圆转认识这两者的关系弄颠倒了。依据马克思主义唯物论的认识论，原始人对太阳视运动的圆圈转认识，当是将地上人工器物和自然物圆转现象推及遥远的天球，经由想象而来的。《系辞传上》之所以将对太阳圆转之道的认识与圆转工具的制造这两者的关系



图6

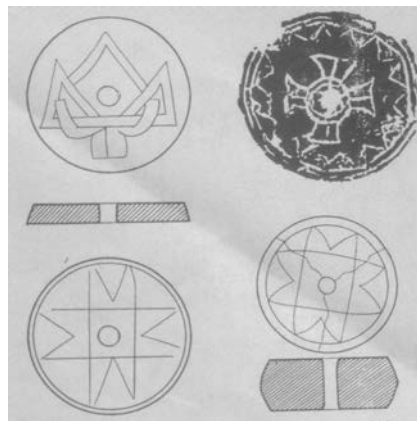


图7

弄颠倒了，是源于远古人类就有的对太阳的崇拜与神化。既然认为圆旋转工具是取太阳圆转之象而制造的，那么圆转工具的圆转之象在神话思维上就具有了绕地球中心圆转的“太阳轮”意义。这就可以理解史前人在陶、石纺轮上为何刻画多种多样表示旋转意向的纹饰了，那些纹饰不只是艺术装饰的需要，更具有神话信仰的含义。浙江河姆渡文化遗址，江苏邳县、武进出土的陶纺轮上绘有八角星纹（图7），是将太阳的圆转与纺轮的圆转作神话联想所为，神话联想将纺轮赋予了“太阳轮”的神性意义。纺轮与“太阳轮”互渗的神性是汉代将织机上持经线能旋转的轴名为“胜”的源头。织机上的“胜”是太阳神的象征，具有太阳的强大功能，对人的影响巨大，能制胜大自然和人类社会的一切逆己力量。

仿织机上的“胜”而制成西王母戴的头饰，这“胜”是西王母太阳神格神性的象征。这不能不让人想起汉代兴起的“厌胜”习俗。《汉书·王莽传》：“莽亲之南郊，铸作威斗。威斗者，以五石铜为之，若北斗，长二尺五寸，欲以厌胜众兵。”而湖南苗瑶等少数民族却遗存有较汉代更为原始的“厌胜”习俗，如遗存原始文化较多的常宁市过山瑶族（亦称“顶板瑶”），用两根棍扎制成“十”字形，用两根棍扎成“×”形，组合成“米”字形架的顶板，妇女将之戴在头上，谓为“太阳花”（即“太阳轮”）而“压胜（即厌胜）”（图8）。1992年笔者调查桃源县的巫傩仪式，见年迈原始巫龙再兴有一个呈锐上方下的“师公帽”。帽的前方有“米”字形原始八卦图，“米”字上面加一横线表示天，“米”字形的两边写“阴”“阳”二字；帽的后方绘半圆形的太阳光射线，在太阳光射线下也画一横线，表示地上的阳光。帽的上部还画有近代可见的阴阳八卦图（图9）。我也多见苗族在屋梁上绘画太极图、八卦图，以之厌胜。这些说明在湖南地区的原始文化中以“太极阴阳八卦太阳轮”厌胜的原始风俗浓重，它是文献所载汉代厌胜习俗的源头。

周行易先生认为，西王母所在地主要是武陵山，通道、洪江、麻阳及黔东南的天柱、铜仁一带。他以多学科研究的材料论证了他的观点。我认为他的研究是值得重视的。我由之进一步认为远古的伏羲氏与西王母所在地都应与湖湘地域相关，其理由有二：一是距今年7000年前的伏羲氏是女系氏族社会。西王母“蓬发戴胜”，“蓬发”是对西王母所处时代妇女头饰的记忆，可明西王母时代是远古母权制时代的部落首领。伏羲和西王母同是母权制社会，那么两者相距的时间当不会很长。伏羲氏依据观测太阳日影“始作八卦”，而西王母则将象征太阳神力的“太阳轮”戴在自己头上，西王母应在伏羲氏之后。二是两者在远古应在地域相距不远的同一文化圈内，这个文化圈应是考古学的高庙文化圈。因为只有同一文化圈内，西王母才能将伏羲氏对太阳视运动圆转的“科学”认识，在不太长的时间转化为“戴”上象征太阳的神器。“西王母戴胜”，可以湖南土居民族的原始文化中存留着浓重的以“太极阴阳八卦太阳轮”厌胜的风俗和巫傩信仰为证。

我认为，学者们多到湖南来作田野考察，会极有益于对中国史前文明之源头学术问题的探讨。学者们在这次研讨会上提出的新观点对我的启发很多，期望以后见到更多求真与求实的研究成果。



图8



图9

2014年11月14日

瑶族婚礼音楽の考察と研究

—湖南、広西、雲南の瑶族を事例として—

河北師範大学音楽学院副教授
(著) 趙 書峰

神奈川大学非常勤講師
(訳) 曹 咏梅

【要旨】

本論は湖南、広西、雲南に居住する瑶族の婚礼音楽について考察し、初歩的に以下のような結論が得られた。

1、瑶族の婚礼音楽は典型的な道教の色彩を帯びる。2、婚礼で演奏される【朝天子】【大開門】【小開門】などのチャルメラ曲牌は、瑶族の文化と漢文化が互いに影響し合い、交流による産物である。3、現代化や都市化などのさまざまな影響により、瑶族の婚礼音楽は現地化と現代性の二重構造の特徴をもつ。つまり、婚姻儀礼には瑶族の伝統音楽が展示されると同時に、ある部分の儀式では娯楽を主とした流行文化が現れている。例えば流行曲の【父親】【小萍果】【大花橋】などが唱われるのである。しかし、瑶族の婚礼音楽はまた地域によってある程度差異が見られる。1、広西賀州の過山瑶の婚礼音楽は漢族化され、例えば「坐歌堂」の部分は次第になくなり、儀式の中に歌を掛け合う場面はない。しかし、雲南の文山州の藍靛瑶の婚礼音楽は族群に対するアイデンティティがより強く感じられ、また婚礼の歌掛けの場面は比較的にぎやかで、婚礼の隅々に満ちあふれている。2、婚礼音楽において、広西賀州の過山瑶のチャルメラ曲牌は非常に豊富であるが、雲南文山州の藍靛瑶は比較的少なく、反対に歌掛けの場面が多い。3、広西賀州の過山瑶と雲南藍靛瑶の婚礼音楽を比べると、広西賀州の過山瑶は打楽の曲牌が豊富に存在し、またチャルメラ曲牌と融合しながら演奏されることが知られる。4、族群に跨がる音楽文化の二重構造。雲南藍靛瑶の婚礼音楽は典型的な苗族、瑶族文化の特徴を表している。違う民族の身分構造に属することにより、儀式のチャルメラ音楽と奏者の民族性特徴及びチャルメラ音楽から生まれる儀式文化の意義については真剣に考えて、注目すべきである。5、民族音楽学者の反省。カメラを向ける前とカメラを向けた後における研究対象者の生活状態の真実性について、学者の介入は瑶族伝統音楽文化の原生的な保護と伝承に対して果たしてどのようなプラスとマイナスの影響を及ぼしているのか、などなどの問題については学界で真剣に顧みる必要がある。

キーワード 婚礼音楽、過山瑶、藍靛瑶、湖南・広西・雲南、現地性と現代性

はじめに

瑶族の婚礼は主に求婚、会親家（配偶者双方の親同士が会う）、婚約、娶嫁（婚礼の中で人を笑わせる儀式）、坐歌堂（歌を掛け合う）、迎親（新婦を迎えに行く）などで構成され、儀礼には豊富なチャルメラ曲と瑶族婚礼歌曲が含まれる。瑶族婚礼音楽を研究するのは、瑶族の歴史、社会生活、宗教信仰の考察研究と、瑶族言語の保護と伝承、また瑶族民俗文化の伝承に対して重要な社会的意義と現実的意義をもつと同時に、瑶族伝統音楽の全面的な研究を豊富にし、補完するのに役立つ。

1、近年、現代化や都市化、漢文化などの多重文化の影響を受け、瑶族婚礼の原生的コンテクストの存続は非常に危ない状況に直面しているため、瑶族婚礼の保護と伝承を加速しなければならない。2、婚姻観念の変化は瑶族の社会構造にも多くの変化をもたらした。特に言語や習俗が次第に変質するにつれ、結婚儀式の伝承と発展の空間はますます狭くなっていった。3、政府が先に立って無形文化遺産の保護政策を大いに提唱するに伴い、瑶族民俗儀式の重要な部分である婚礼音楽については全面的かつ体系的な研究がなされておらず、一部の音楽学者が注目したことはあるが、多くは個々の事例に対する研究であった。今まで瑶族婚礼音楽に対して微視的と巨視的

な方法を融合して分析し、比較研究を行ったものはない。4、伝承者（師公、歌娘など）が次第に亡くなることにつれ、それに対する保護と発掘の作業をまずやらなければならない。したがって、筆者は2013年11月、2014年12月、2015年1月と5月に湖南、広西、雲南などの瑶族居住地（過山瑶、藍靛瑶）の婚礼音楽を分析のテキストとして、それを瑶族の直面する現代化、都市化、流行文化などの多重コンテキストの中から考察し、それぞれの婚礼音楽の特徴や文化的隠喩、発展状況などの問題について重点的に考察していきたい。

1. 瑶族婚礼音楽の概況

本論は広西賀州賀街鎮聯動村、湖南藍山県滙源瑶族郷、江華瑶族自治県、及び雲南文山州麻栗坡県などの地に住む瑶族（過山瑶、藍靛瑶）婚礼の「招郎」（婿入り）⁽¹⁾、嫁女（嫁入り）⁽¹⁾についてフィールドワークを行い考察した論である。以上の事例の考察と分析を通して、瑶族婚礼音楽は初歩的に以下のような特徴をもつといえる。



図1. 賀州市聯動村鷄桐窩組瑶族“招郎”儀式（2013年11月）⁽²⁾

1-1. 広西賀州聯動村瑶族婚礼音楽の特徴

1-1-1. 瑶族婚礼の儀式音楽のテキストは器楽を主としたもので構成される

過山瑶の婚姻習俗の儀式は基本的にチャルメラ曲牌と打楽で構成される。楽曲は主に【大開門】（漢族伝統曲牌）【大長筵】【小長筵】^(譜例1)【催官上馬】【安位】^(譜例2)【排位】【柑枝由郷】【掃台】【収台】などがある。儀式を取り仕切る師公が請神、拝堂の儀式で経文を吟誦する以外には、すべてチャルメラ音楽で構成されている。婚礼の演奏班の役割は主に迎客（客を迎える）——接客（客を接待する）——拝堂（婚礼のとき、新郎新婦が天地の神を拝してから向かい合って礼拝する儀式）——送客（客を送る）などの部分で演奏することである。迎客の段階では、婚礼に参加する客が組ごとに主人側の応接間に入り座ってお茶を飲む際に、チャルメラ演奏班は3つの固定曲牌【催官上馬】【上位】【排位】を吹奏しなければならない。その文化的隠喩は客が早く席に座りタバコを吸いお茶を飲むことを勧めるのである。通常はチャルメラ曲を吹奏する前にトロンボーンで自由な曲を三段吹奏し（意味は角笛と類似）^(図2)、最後の楽曲、打楽のリズムも比較的自由である。全体の儀式音楽の中で拝堂の儀式が精彩を放っており、通常は夜中12時以後に行い、この部分は言語性音声と器楽音声の互いに照り映え、共に拝堂の音楽を組成している。拝堂の始めの部分を「起台」といい、双方の年長者及び主人と奏者は互いにあいさつをし酒を交わし、奏者は【数酒杯】を吹きながら主人側の客と移動し、この部分は全体の儀式と音楽のクライマックスである。儀式全体の過程からは、過山瑶の婚礼音楽は基本的に器楽で構成され、また儀式の各部分にはすべて特定のチャルメラ曲牌が配置され、しかも一首の曲ごとにすべて特定の能記と所記（文化的隠喩）があることがうかがえる。儀式の中で歌唱の部分は比較的少なく（聯動村鷄桐窩婚礼には臨時に組織した坐歌堂活動の中に歌を掛け合う場面がある）、すべての儀式の中でも拝堂のときに師公が吟唱する【拝堂歌】と、儀式を取り仕切る師公が唱える請神の経文（あるいは馬頭意者）などの言語性の音声テキストだけである。以上のように、瑶族婚礼の音声は主に2つの部分に分かれることが知られる。すなわち声楽（師公が唱う拝堂曲、経文を吟誦し請神を行う）、器楽（チャルメラ曲牌と打楽は主に接客、酒席、拝堂、送客の場面で使われる）があるが、後者が儀礼の主な部分を構成している。



図2. チャルメラ曲を吹奏する前にトロンボーンで自由な曲を吹奏する（2013年11月13日）

1-1-2. 儀式と音楽の同型同構

広西賀州過山瑶の婚礼儀式のチャルメラ曲牌の内容もすべて特定の文化的隠喩がある。またその儀式音楽のテキストの含む能記（音声記号）と所記（儀式の文化象徴）は互いにかかわり合い、しかもその記号特徴は特定の文化内容によって表れる。婚礼の中でそれぞれの儀式には、すべてその特

譜例 1. 小長筵

(広西賀州瑶族婚礼チャルメラ曲牌)

趙有勝 馮亞勝 演奏
趙書峰 記譜

(打楽器の伴奏は中速で)

採録地点：広西賀州賀街鎮聯東村鷄桐窩組 2013年11月13日

譜例 2. 安位

(広西賀州瑶族婚礼チャルメラ曲牌)

盤福財 盤福泉 演奏
趙書峰 記譜

(打楽器の伴奏はトロンボーンの出出し3拍目から)

採録地点：広西賀州賀街鎮聯東村鷄沖口組 2015年1月16日

定の文化的意味のあるチャルメラ曲牌が対応している。例えば賀州黄洞瑶族郷の婚礼音楽は次のとおりである。
【起台】(全体の儀式の開始を意味する)、【小開門】(漢族伝統曲牌)、【大開門】(漢族伝統曲牌)、【朝天子】(漢族伝統曲牌)^(譜例3)、【上潮湾】(料理を運ぶ)、【下潮湾】(酒を運ぶ)、【催客人上卓喝酒】(客にテーブルに着いて酒を飲むことを勧める)、【大歌堂】(客が祝儀を贈る)、【鯉魚下海】(新婦を送る客は、新婦が大広間に入ってからまず脚と顔を洗う)、【象紅花】(女性が嫁ぐときに、女性の家の祖先神を主の家に招き供物を供え、祭祀が終わってから大門の入口の左に置く)、【大蓮娘】⁽³⁾(チャルメラを3回吹き、新婦が出て来て拜堂を行う)、【上正席】、【道州牌】(新郎と新婦は拜堂が終わってから新婚夫婦の部屋に戻る)、【喝杯酒】(料理を作った人などに感謝を示し、酒を勧め、祝賀を表し、主料理人や副料理人などの人にあいさつする)、【溜山謡】(客が急いで帰らないで、引き続き酒宴を楽しむよう客を引き留める)、【黄蜂過嶺】(客を送る)、【収台】(すべての婚礼儀式が終わる)⁽⁴⁾。以上のように、チャルメラ曲牌の文化的意味が儀式全体の過程を構成していることが知られる。言い換えれば、過山瑶の婚礼儀式の各部分は、すべて特定のチャルメラ曲牌と互いに対応しており、みな互いに対応する音声記号があり、特定の婚礼儀式のコンテキストの中で序列性の所記の鎖(儀式の象徴隠喩)を形成していると思われる。それゆえに、瑶族結婚儀式と音楽とは同型同構の関係を表しているといえる。

譜例 3. 朝天子

(広西賀州黄洞瑶族婚礼チャルメラ曲牌)

盤生安 演奏
趙書峰 記譜

中速

採録地点：広西賀州黄洞瑶族郷三岐村 2013年7月25日

1-1-3. 瑶族と漢族との音楽文化の相互関連性

瑶族婚礼における演奏班の楽器の組み合わせと器楽の曲牌（チャルメラ曲牌）は典型的な漢文化の要素をもっている。まず婚礼における演奏班の楽器の組み合わせは周辺の漢族の伝統楽器と類似するところが多く、例えばトロンボーン、チャルメラ、小太鼓、銅拍子、銅鑼^(図3)などである⁽⁵⁾。20世紀40年代の著名な作曲家黄友棣氏はかつて広東連南の過山瑶を調査し、瑶族の楽器の多くは漢族地区から借用したと述べている。まさに黄氏が「瑶族の人の楽器は、漢族の古い楽器である。……彼らが現在使用している角笛、鼓鑼及び法術のときに応用する鈴など……すべて漢族の人の助けを仰いでいる」⁽⁶⁾と述べているとおりである。次に婚礼の中のチャルメラ音楽、例えば【大開門】【小開門】【朝天子】などの伝統曲牌の多くは、漢族地区から来たものである。したがって、広西賀州聯動村の瑶族の婚礼からは、その楽器と曲牌音楽はすべて漢文化の要素を色濃く帯びていることが知られ、それは瑶族と漢族との伝統文化が互いに影響し合い、交流し摂取した結果による。まさに人類学文化伝播学派が「文化の借用は発明より多い」⁽⁷⁾と述べているとおりである。要するに、瑶族婚姻習俗の儀式音楽のテキスト構造は、長期にわたり社会や文化、歴史などにおいて瑶族と漢族の伝統文化が互いに影響し合った文化の産物であり、瑶族の伝統文化と周辺族群の伝統文化（主に漢文化）の文化化と文化変容の現代的結果による。



図3. 広西賀州賀街鎮聯動村鷄冲口瑶族婚礼楽隊 (2015年1月15日)

1-2. 雲南藍靛瑶の婚礼音楽の略述

1-2-1. 儀式の略述

2014年12月20日から25日に至るまで筆者は雲南文山壮族苗族自治州麻栗坡県楊万郷梅湯村で藍靛瑶の婿入りの儀式について調査を行った。この村は中国とベトナムとの辺境に位置し、周辺の漢族、壮族、苗族、仡佬族などの民族と雑居している。今回の婚礼の儀式は多くの外地の瑶族同胞や学者及びマスメディアから注目された。全体の儀式において主な参加者は次のとおりである。新婦鄧為霜、神を祭る人（那曼公）李鳳山（厄払い、

祖先を祭る) (藍靛瑶の経文の伝承、風俗の伝承人、大師公)、花嫁の介添え 2 名、李廷艷 (既婚)、鄧為芳 (未婚、新婦の妹)。正府官李廷学、二府官鄧正興、三府官鄧登奇。門衛 (哎 tda) 鄧正明 (歌掛け)、李天林 (山歌を歌う)。新郎側の人たちは主に、新郎王正昊、主差郎 2 人 (主、補佐)、部理公 2 人 (主、補佐)、仲人 1 人、新郎の介添え 1 人、チャルメラ 2 人である。儀式の基本構造は次のようである。新郎を新婦の家の門口まで送り「衆人酒差」儀式を行い、新婦の家では門前で通せんぼの門 (寨門) を設け、新郎側の人たちは新郎を連れて「寨門」を境として「門衛」たちと山歌を掛け合う^(図4)。歌の掛け合いが終わると、「門衛」はやっと通過を許し、新郎側は「寨門」をくぐって入る。すると 2 つ目の「攔門酒」、「親戚門」に至り、ここでも山歌を歌わなければならない。さらに 3 つ目の「攔門酒」に至ると、新婦の家の門前に至る。この 3 つの門は主に最初は寨門で、2 つ目は主人の家の門であり、3 つ目は新郎と新婦の新婚夫婦の部屋の門である。すべての婚礼儀式には苗族、瑶族、壮族などの民族が参加している。



図4. 雲南藍靛瑶婚礼の村境の対歌 (2014年12月23日)

1-2-2. 雲南藍靛瑶の婚礼音楽の特徴

1-2-2-1. 歌唱を主として、チャルメラ音楽と歌掛け活動が並行して発展する

雲南文山州藍靛瑶の婚礼は歌をもって言葉に代えることを主とする。新郎が寨門に入ってから新婚夫婦の部屋の門に至るまでのさまざまな部分において、すべて歌掛けの形式を通して完成させるのである。チャルメラは個別の儀式の場合だけ使われる。婚礼の順序は基本的に花婿を送り届ける側と迎え入れる側の双方の歌掛けによって完成される。歌掛けのときに、歌い手は歌いながらリズムに乗って体を左右に揺れ動かし、歌と呼吸がぴったり合っている。歌い終わると新婦を迎えにきた男性側の客に酒を勧める。歌掛けの場面はすべての儀式を貫いている。また多くの儀式の手順は基本的にテキストを歌唱することによって構成されている。そして、藍靛瑶婚礼の中の歌唱部分も特定の内容があり、それぞれ儀式の部分ごとにすべて特定の歌唱テキストがあり^(図5)、過山瑶の婚礼のチャルメラ曲牌の文化的隠喩と類似している。婚礼の中のチャルメラ音楽は主に新婦を出発させる、新婦迎え、酒宴の部分で使われる。チャルメラの曲調は基本的に単一の旋律を基本曲調とし、変化性の反復及び音高を調整する調で変奏を行う。曲調の構造は比較的簡単で、多くは do 調式を主としてから音高を調整し sol 調式に入り、後にまた do 調式に戻り、再現式のような三段構造を形成している^{(譜例4) (8)}。



図5. 藍靛瑶婚俗の歌唱用書籍 (2014年12月23日)

文山州藍靛瑶の婚礼のチャルメラ器楽と歌掛け活動は互いに並行して発展している。つまり、儀式における歌掛けの言語的音声とチャルメラ曲牌は同時に儀式的文化的象徴のために働き、言語的歌唱のテキストと器楽のテキストは互いにすべての儀式の雰囲気を引き立たせ、特に歌唱テキストの内容はみな特定の儀式の内容を如実に反映している。例えば、新郎が 3 つ目の門に至ったときには新郎側と新婦側の客による歌掛けが行われる最中であるが、そばで苗族のチャルメラ奏者が吹く音楽は歌掛けの儀式と融合し、ともに藍靛瑶の婚礼儀式音楽を構成しているといえる。

1-2-2-2. 苗族と瑶族との音楽文化の相互関連性

今回の藍靛瑶の婚礼音楽は明らかに苗、瑶族文化の特徴を表している。チャルメラ演奏班の奏者の文化的身分は苗族であるが、彼らが吹奏する音楽は瑶族の婚礼のために奉仕することから、藍靛瑶の婚礼音楽の族性構造は、典型的な族群に跨がる文化の相互関連性の特徴を表している。筆者の間



図6. 苗族のチャルメラ奏者⁽⁹⁾が瑶族の婚礼で演奏し興を添える

譜例 4. 藍靛瑶婚礼チャルメラ曲

(雲南文山麻栗坡)

羅恩福 楊正通 演奏
趙書峰 記譜

中速やや速く

き取り調査⁽⁸⁶⁾によると、文山州の苗族、瑶族、壮族のチャルメラ奏者はよく民族間を越えて伝統民俗儀式(民間のさまざまな冠婚葬祭)に参加するが、違う民族の身分構造に属することによってそこから生まれる儀式的文化的意義も異なるのである。中国芸術研究院の李宏鋒博士の話によると、彼は貴州で調査を行ったときに苗族の婚礼儀式に布依族のチャルメラ奏者が演奏し興を添えるのを実際見たことがあるという⁽¹⁰⁾。こうした現象は民族間の伝統音楽文化の影響、交流と融合の現象を表していると同時に、また異民族同士が互いに雑居する現状が招いた結果である。次に婚礼の中のチャルメラ音楽と儀式の歌唱テキストとはときには並行して発展し、ときには互いに補い合い、共に瑶族婚礼の音声環境の相互関連性という特徴を表している。つまり、藍靛瑶儀式の中の苗族奏者が吹くチャルメラ音声記号はその特定の儀式空間の中で特有の儀式文化の象徴意義を生み出すだけではなく、またその音声記号は儀式の雰囲気強く引き立たせる役割を果たしている。同時に、音声意義記号の所記も婚礼中の新郎と新婦双方の文化身分の脱構築と再構築の過程を実現している。しかし、チャルメラ奏者特有の苗族の身分により、構築された音楽は実際典型的な苗族文化の属性をもつことから、瑶族婚礼の歌唱テキストと苗族のチャルメラ音楽テキストとが共に藍靛瑶の婚礼儀式の音楽テキストを構築していると考えられる。

1-2-2-3. 儀式と演劇——実演テキストと演劇的なテキスト

藍靛瑶の婚礼音楽には2種類のテキストがある。演劇的な実演テキストと神聖な儀式象徴テキストである。前者は主に実演の特徴を重んじる演劇的な張力を反映し、後者は典型的な儀式の象徴的機能の意義を反映している。例えば新婚夫婦の部屋に入る儀式で新郎と新婦の双方の客による一連の対話や歌掛けの過程はユーモラスで滑稽であり、強い演劇的な効果をもたらす。特に、新郎が新婚夫婦の部屋に入る際の父母、新郎の介添えとの対話内容は典型的な演劇的張力を持ち、観衆と親族友人に強烈な感情的体験を与え、肉親の情、愛情、友情の3つの方面において発散を得て体験することができる。特に新郎が新婚夫婦の部屋に入ってから新婦を探す場面は強い演劇的効果をもたらし、すべての儀式空間のために儀式の実演の雰囲気を濃厚に作り出している。なぜならば「これらの儀式の中で、一種の文化は自分自身のためにまた外部の人のために包装され、上演、展示される状態の中にあるからである」⁽¹¹⁾。同時に、新婚夫婦の部屋に入る儀式は、新郎の役や新郎側と新婦側の客による歌掛けの活動によって実現されていることが分かる。このときの儀式象徴機能の意義転換は、主に儀式演劇記号の張力及び瑶族歌謡に含まれる情感と歌詞内容によって生み出される一連の所記の区域を通して、次第に象徴的内容と演劇的張力をもつ儀式の実演に転換する。このような実演テキストはまた新郎と新婦が身分転換を実現する仲介の部分としての最後の段階(新婚夫婦の部屋に入る)にあたる。このときの儀式は実演テキストの特徴を色濃く表し、新郎は演劇的な扮装と実演を通して、友人や親族及び周囲の観衆に強烈かつ衝撃的な演出の雰囲気を作り上

げ、婚礼をクライマックスに至らせるのである。

2. 湖南、広西、雲南における瑶族婚礼音楽の比較

2-1. 瑶族婚礼音楽の地域的比較——広西賀州を事例として

賀州瑶族の婚礼におけるチャルメラ曲牌は地域によってかすかな違いが見られる。筆者は2013年7月、2015年1月に2回にわたって黄洞瑶族郷と賀街鎮聯動村の瑶族婚礼音楽について調査を行った。黄洞郷のチャルメラ奏者の師匠趙学林氏の話によると、黄洞瑶族郷は賀街鎮から距離的に遠くないが、前者のチャルメラ曲牌の数は後者より比較的豊富であるという^(表1)。ほかに、婚礼儀式の違いによってチャルメラ曲牌の数はそれぞれ異なる。例えば賀街鎮聯動村における2回の過山瑶の婚礼では、嫁女(嫁入り)の新婦迎えの部分は内容から音楽に至るまですべて婿入りの儀式より比較的複雑である^(図7)。しかし、両者の婚礼の曲牌は大同小異であり、ただ奏者が違うだけである。例えば、婚礼の中の拝堂儀式^(図8)で師公が【拝堂曲】^(譜例5)^(譜例6)を歌い、歌詞から主旋律と曲調の骨組みの音は基本的に同じで、ただ曲調の旋律やリズムにおいて少し差異が見られる。これに比べると、鶏桐窩組の婚礼で師公が歌う【拝堂曲】曲調のリズムはわりと豊富で、語調のアクセントも比較的变化が多い。そのほかに、聯動村鶏沖口組の瑶族婚礼で臨時的に挙行した歌掛けの活動^(図9)は、鶏桐窩組の婚礼と比べると儀式の中の言語的音声テキストがより豊富であることが知られる。

表1：広西賀州過山瑶婚礼チャルメラ曲牌比較

黄洞瑶族郷三歧村婚礼郷チャルメラ曲牌	賀街鎮聯動村婚礼チャルメラ曲牌
【起台】【小開門】【大開門】【朝天子】【上潮湾】【下潮湾】	【大開門】【大長筵】【小長筵】【催官上馬】【安位】【排
【催官上飲】【大歌堂】【鯉魚下海】【象紅花】【大蓮娘】【上	位】【相枝由郷】【掃台】【収台】
【正席】【道州牌】【喝杯酒】【溜山謠】【黄蜂過岭】【収台】	



図7. 賀州賀街鎮聯動村鶏沖口“接親”儀式 (2015年1月15日)



図8. 賀州市聯動村鶏桐窩婚礼“拝堂”儀式 (2013年11月)



図9. 広西賀州鶏沖口婚礼中“坐歌堂”儀式 (2015年1月15日)

2-2. 地域に跨がる瑶族婚礼音楽の比較——湖南、雲南、広西を事例として

2-2-1. 雲南、広西の瑶族婚礼儀式と音楽の比較

雲南文山州、広西賀州の2つの瑶族支系の婚礼には婿入りの習俗はあるものの、儀式と音楽においては大きく異なる。広西賀州瑶族の婚礼音楽は主にチャルメラ曲牌と打楽を主とし、言語性を主とする音声テキストは比較的少なく、チャルメラ曲牌は婚礼の各部分に満ちている。儀式の過程の音声表現はチャルメラ曲牌の文化的隠喩を通して実現される。特に、歌唱性のある音声テキストは非常に少なく、ただ請神、送神、拝堂の部分で師公によって言語的音声テキストが表される。広西賀州の瑶族婚礼音楽は漢族化、現代化への過程がより明らかで、特に婚礼の中で歌曲を用いて儀式の音楽テキストを構築する習俗(例えば坐歌堂)は次第に重視されなくなっている。文山州の藍靛瑶の婚礼は主に歌掛けを主とし、特に新郎が3つの門をくぐり抜け新婦を迎える部分は大体6時間歌を掛け合わなければならない、儀式の内容はすべて歌を通して完成される。歌掛けの活動を媒介として新郎側と新婦側の客同士が交流し合い、歌声を通して儀式の象徴的機能を実現させるが、チャルメラ曲はわりと少

譜例 5. 新婚賀歌

(広西賀州瑶族婚礼音楽)

趙有安師公 歌唱
趙書峰 記譜

中速

(前略) 葵樹開花向日轉, 蓮藕開花現滿塘。 桃樹開花紅又亮,
8 芙蓉開花映四行。 龍眼結子成双对, 荔枝結子
16 能花街。 七星也上月也上, 北斗也遊月也遊。

採録地点：広西賀州賀街鎮聯東村鷄桐窩組 2013年11月14日

譜例 6. 新婚賀歌

(広西賀州瑶族婚礼音楽)

趙福錦等 歌唱
趙書峰 記譜

中速

(前略) 北斗团圆長遠照, 妻对团圆万歳秋。 葵樹開花向月轉,
6 蓮藕開花現滿塘。 桃樹開花紅又亮, 芙蓉開花映四行。
12 青松結子千年在, 荔枝結子能花行。 七星也上月也上
18 北斗也遊月也遊。 百世姻縁共船度, 千世修得共枕周。

採録地点：広西賀州賀街鎮聯東村鷄冲口組 2015年1月16日

なく、さらに打楽器の演奏もない。チャルメラは基本的に婚礼で1つ目の寨門を通るとき、酒宴、新婚夫婦の部屋に入るなどの部分において用いられ、またそれは歌掛けの活動と互いに融合している。特に新婦迎いの過程(3つの門を通る)では、新郎を送る側と迎える側は主に歌掛けの活動を主とする。特に3つ目の門をくぐり抜けて新婦側の年長者たちと会い、双方が行う歌掛け及び対話の部分は十分な知恵を表し、また滑稽で笑いを誘う場面でもある。儀式中の対話と扮装はみな人を笑わせる内容が多く含まれ、たびたび全場の爆笑を引き起こす。同時に、婚礼の儀式が進行するにつれ、隣の客たちは庭にある火鉢を囲んで歌を掛け合うことで婚礼への祝福を表す。



図10. 雲南文山州麻栗坡藍靛瑶婚礼 (2014年12月23日)

そして現代化、漢族化の影響により、2つの地域の瑶族婚礼音楽は伝統と現代の融合を表している。なぜならば、瑶族伝統の婚礼儀式的部分もあれば、また新郎は文山で婚礼の車⁽¹⁰⁾を注文する現代的な部分もある。特に婚礼の1日目の夜は、主人側の中庭には歌声が絶えず、藍靛瑶の伝統的な火鉢を囲んで酒を飲みながらの歌掛け活動もあり、また今現在の流行音楽【小萍果】などの楽曲が流され、婚礼全体の集会活動は伝統と現代との二重融合を反映している。これと比べると、広西賀州の過山瑶の婚礼は含蓄かつ保守的であり、にぎやかな歌掛け活動は不十分である。ただ新郎と新婦の友人たちが新婚夫婦の部屋で流行音楽のリズムに合わせて即興で踊るだけである。

2-2-2. 湖南、広西の瑶族婚礼音楽の比較

湖南と広西は距離がわりと近く、類似する地理文化空間を有し、湖南と広西の隣接する地域に居住する瑶族の多くは過山瑶支系に属し、婚姻習俗の儀式においては大同小異である。どちらかといえば、湖南瑶族の婚礼は儀式から音楽に至るまで比較的完全に保存され、例えば湖南江華瑶族の婚礼は今に至るまでなお伝統的な哭嫁習俗を保存し、その音楽形態は双音現象(2つの異なる曲調が共存する)を表している。哭嫁歌曲の内容は主に儀式と関係があり、姉妹をほめる、姉妹を送る、娘は母から離れる、仲人をののしるなどの内容が含まれる。また新婦迎えの儀式においては、チャルメラと打楽器の音楽で儀式的雰囲気を引き立たせる以外に、同時に通常男性2人と女性2人が音楽に合わせて長鼓舞を踊り新婦を迎えるが、これは新郎と新婦が家の母屋に入り拝堂儀式を準備するまでずっと踊り続ける。また藍山滙源郷の瑶族婚礼においては「五穀神を招く」⁽¹¹⁾儀式は今なお保存されている⁽¹²⁾。湖南藍山県滙源瑶族郷の師公趙金付氏⁽¹³⁾によれば、ここの瑶族の婚礼儀式は一般的に3日2晩行い、しかも拝堂の儀式は昼間に行われるという。まずは新郎新婦が双方の親や親族に挨拶をし、義理の親戚関係を結ぶ儀式を行ってから酒を飲み、歌を歌う。ここの瑶族のチャルメラ演奏班にはトロンボーンがなく、チャルメラの音楽が始まる前に大きい銅鑼を自由にたたき、それからチャルメラの奏楽が始まる。チャルメラ曲牌は基本的に1曲を多用する状況である。具体的な儀式と音楽は以下のようである。チャルメラの奏者は外に出て新婦を迎えに行き、【請君上馬】【大開門】【竹葉青】を吹き、それから客を迎え、【観音台】⁽¹²⁾を吹奏する。新婦を迎えてからは【請君上馬】【南岳調】【小開門】【観音台】を吹き、それから客を連れて歩きながら【慢慢過橋】【獅子過坳】を吹く。部屋の入口に至り【請君上馬】【南岳調】【小開門】を吹き続け、それから【観音台】を吹きながら新婦の周りを3回回り、その後鶏を殺して厄払いをし(隣接している寧遠県の瑶族婚礼と同じ)、終わってから部屋に入る。新婦が部屋に入ってからチャルメラ奏者は【請君上馬】【南岳調】【小開門】を吹き続け、さらに【洗脚曲】を吹く。新婦が部屋に入ってから、女性客が部屋に入り、続いて男性客も3回にわけて部屋に入る。昼ご飯を食べてから、拝堂の儀式を行い、師公が請神を行い、【馬頭意者】を唱え、君に拝礼を受けるようお願い、さらに【請君上馬】【南岳調】【小開門】を吹き、新婦が出てきて拝堂の儀式を行うよう誘う。もし新婦が部屋から出たくなかったり、または主人側から与えられた祝儀が少ないことを嫌がったりすれば部屋から出て来ない。このときにはチャルメラ奏者は【離娘曲】【挿花曲】を吹く。そして拝堂の儀式では師公が【拝堂曲】^(講例7)を唱い、儀式が終わってからは【脱花曲】を吹く。それから下席(席を離れる)3曲【下席曲】【南岳曲】【観音台】を吹く。その後、新郎と新婦の家は親戚となり、新郎新婦は親戚にあいさつをし、新郎側と新婦側の客に酒を勧め、チャルメラ奏者は【祝酒曲】【勸酒】を吹奏する。最後の客を送る段階では【観



図11. ⁽¹⁴⁾ 湖南藍山県滙源瑶族婚礼の招五穀儀式(劉治国撮影2012年5月)



図12. ⁽¹⁵⁾ 湖南藍山滙源瑶族婚礼——接親(劉治国撮影2012年5月)

譜例 7. 拜堂曲

(藍山匯源瑶族)

趙金付師公 歌唱
趙書峰 記譜

中速

6 金瓶載酒 引瓶落, 銀瓶載酒 落双双。 二倆飲了 為婚酒,
飲了龍裝 一世双。

採録地点：湖南藍山縣匯源瑶族鄉湘藍村 2015年5月24日

音台】を吹く。

湖南寧遠県と藍山県は隣接しており、しかも2つの地域の瑶族同士は互いに行き来し、2つの地域の瑶族の婚礼は儀式の内容が異常に豊富で、細部において少し違いがある。例えば寧遠瑶族の婚礼儀式⁽¹⁶⁾の過程は以下のとおりである。婚約、坐歌堂（新婦が嫁ぐ前日の夜、新婦の親しい友人たちは新婦の家に集まり一緒に哭嫁歌を歌う）、踏門（新郎は新婦の家に行って翌日の婚礼について相談）、迎親（新郎側と新婦側が招いたチャルメラ演奏班は約束場所の村の入口で集合）、搶親（新婦が嫁ぐ路上に突然瑶族の男性が現れて新婦を略奪する演劇の場面）、赶煞（新郎の村の入口で師公は雄鶏を1羽殺し、鶏の血を新郎と新婦の周りに垂らし、邪を追い払い無事を祈願する。チャルメラ演奏班の奏樂は儀式の雰囲気を引き立たせる）、拜堂儀式（師公が拜堂曲を唱い、新郎と新婦は天地諸神、祖先神、父母、すべての客に拝む）、正酒（親戚や友人が酒を飲み、歌を歌いながら新郎新婦を祝う）、焼灰（客たちは酒歌を歌い終わって囲炉裏を囲んで油茶を飲む）、客を送る、媒酌人に感謝する。また婚礼儀式には長鼓舞、傘舞、扇舞があり、大量の器楽曲牌と瑶族の歌曲も現される⁽¹⁷⁾。要するに、湖南瑶族の婚礼音楽は儀式の時間の長さ、チャルメラ曲牌などにおいて雲南、広西と比べると多くの違いが見られる。湖南と広西の過山瑶の婚礼儀式は大同小異であり、しかもチャルメラ音楽はみな漢族伝統曲牌を吸収しているが、基本的には瑶族伝統の器楽曲を主とする。儀式の中で坐歌堂の歌掛けの場面は比較的少ない。特に、湖南江華瑶族の婚礼儀式の坐歌堂では今なお双音現象が保存され、これは今後研究すべき課題であると考えている。しかし、湖南と雲南の瑶族婚礼音楽を比較してみると、大きな違いが見られる。これは、2つの地域の瑶族支系の違いや2つの地域が遠く離れて互いの文化の影響や交流がわりと少なかったこと、及び2つの地域が異なる地理文化圏に属し、それぞれの地理文化コンテキストが大きく異なることとかかわると思われる。両者の間には信仰（みな度戒儀式を行う）や言語において多くの関連があるが、婚礼儀式と音楽においては大きな開きがあるといえる。

以上のように、湖南、広西、雲南の瑶族婚礼音楽の比較と分析を通して、同じ地域の同じ瑶族支系の婚礼儀式音楽はそれほど大きな差が見られない。だが、地域に跨がる異なる瑶族支系の瑶族婚礼と音楽は多くの違いが見られることが分かる。例えば、文山州の藍靛瑶は儀式から音楽に至るまでの間は主に歌掛けの形式で婚礼の全過程を完成させるが、湖南と広西の過山瑶の婚礼はチャルメラ音楽を主として儀式の音楽を構築し、儀式の中の言語的音声テキストは次第に減りつつある。

3. 瑶族婚礼音楽テキストの文化的隠喩

3-1. 婚礼を通して族群アイデンティティーと文化的アイデンティティーを強化する

多くの族群文化のアイデンティティーは民俗宗教儀式などの文化記号を通して現れる。瑶族も例外ではなく、その民俗宗教儀式の中で最も重要な部分としての、瑶族婚礼の象徴的隠喩は族群のアイデンティティーと文化的

アイデンティティを鮮明に現している。例えば新郎や新婦、さらに婚礼に参加する客までみな色鮮やかな民族衣装を着、また瑶語で歌を掛け合うという一連の活動内容は、無意識におのずと族群アイデンティティと文化的アイデンティティを強化することになる。つまり、瑶族の族群アイデンティティと文化的アイデンティティは祝祭日の重要な民俗儀式活動を通して実現され、強化される。特に今はグローバル化、現代化、工業化などが進んだ政治、経済、社会コンテクストの中で、伝統文化への衝撃はますます強くなり、瑶族の伝統文化の自己保護と伝承を強化することが最も重要である。それゆえに、瑶族もほかの民族と同様に、毎年重要な宗教儀礼などの民俗祭日は、瑶族が族群アイデンティティを実現する最もいい媒体であると同時に、瑶族伝統文化を伝承し保護する重要なルートでもある。例えば瑶族婚姻習俗の経文には、祖先信仰や盤王信仰などが色濃く表されており、ここには族群アイデンティティと文化的アイデンティティの文化的情報が含まれている。例えば「謹んで祝う祖先、謹んで祝う、主人が祖先を迎えることを。嫁を娶り堂に帰り祖先を迎え、子孫代々相公が出る。謹んで祝う祖先、謹んで祝う、主人が親戚を迎えることを。親戚のみんな婚礼の酒を飲み、主人の貴い地には黄金が出る。試みに祝う、一对の富貴の人たちを祝う、その装いはまるで竜と鳳凰の如く、顔と顔が向かい合い夫婦と結ばれる。試みに祝う、一对の仲むつまじい鴛鴦（新郎新婦）を祝う。堂の中で鴛鴦はまた相対し、鴛鴦のように声を長く出し、当初盤王が礼を置き、今世合双堂上由」⁽¹⁸⁾。

要するに、湖南、広西、雲南など3つの省の瑶族婚礼儀式の調査からは、儀式を通して瑶族の文化的アイデンティティを強化し、族群集団性への認識を強化し、また瑶族伝統文化（言語、音楽、習俗など）の継続と伝承を実現することがうかがわれる。同時に婚礼の儀式を行うのは瑶族伝統文化の歴史記憶を再構築するためであり、また瑶族伝統文化の発展と継続、伝承を実現するためでもある。同時に「多くの周辺民族が音楽を使用するのは自己のアイデンティティのためである。——すべての集団を集めたときに多くの場合は、一種の優勢文化の衝撃に対して自分たちの文化形式を提出したり、あるいは社会と政治への評価を表すためである」⁽¹⁹⁾ ということを裏付けている。

3-2. 婚礼音楽活動を通して社会秩序を絶えず強化し、婚礼の主人公の社会的、文化的身分の属性を再構築する

まず瑶族婚姻習俗の儀式活動を通して、族群アイデンティティと文化的アイデンティティを実現し強化するのに役立つと同時に、団結して調和の取れた族群の集団的感覚、集団性を構築するのに大いに役立つ。なぜならば、祝祭日の重要な民俗行事を行うことで族群の自己文化の共有と交流を実現することができ、また政治や経済、社会から附与された等級観念をなくすことができ、したがって婚礼に参加した人たちは穏やかな感情で交流することができる。それは「儀式は、短時間で人をいい人に変え、短時間で社会を団結した社会へと変え、普段の等級観念や矛盾をなくし、短時間で人々をリラックスして交流できるような集団へと変え、また人々を社会規範の範囲内に制約し、それぞれの通常の等級の状態へと回帰させる働きがある。私たちは一般的にこのような模式を『構築から脱構築、脱構築から構築』と称する」というとおりであるからである⁽²⁰⁾。

次に儀式の過程を通して、瑶族人生儀礼の社会的身分属性の脱構築——構築——再構築の過程を実現している。瑶族の婚礼儀式活動は1つの社会が構築から脱構築へ、さらに再構築への過程を体験する。つまり、婚礼儀式の前の新郎新婦は社会の自然状態の属性の中にいる人の存在方式であるが（構築）、結婚の日取りを決めてから婚礼を挙げるまでには脱構築の臨界状態である。このときの婚礼儀式を行う主人公の身分はひそかに変化が生じ、主人公の社会における文化的身分属性は二重性の特徴を表す（自然属性の人——女の子、社会属性の人——新婦）。この段階においては多くの社会の禁忌を守らなければならない、婚礼の過程における社会的、文化的身分の変化は、儀式と音楽から生まれる文化的隠喩によって実現される。婚礼儀式が終わるにつれ、新郎新婦は再び社会の自然状態へと戻るが、社会的身分は以前とは変わる。例えば、女の子は大人の女性となり、娘から嫁となると同時に、新しい社会生活環境の中に溶け込まなければならない、今後さまざまな日常の社会活動に慣れなければならない。特に社会の中の付き合い、倫理道德の面では新しい役目を担い、新しい社会構造と秩序の中に入った

こととなり、また新婚夫婦はこれから子どもを育てるなどの一連の社会的役目を担うこととなる。同時に、婚礼儀式の音声テキストは新郎新婦の文化的身分の属性を絶えず強化し、再構築する。新郎が新婚夫婦の部屋に入る前は、新郎の身分転換の段階（臨界段階）であり、新郎は母親との別れを惜しむ感情、親戚や友人との親密な情がおのずと生まれ、また未来の婚姻生活への期待も高くなる。したがって、このときの歌掛けの場面は新郎と新婦の文化的身分転換を実現させる臨界段階であり、唱歌活動の持続も新郎の文化的身分が構築から脱構築へと向かう過程を意味するが、ただこれらの転換は歌手の音声記号所記の象徴的意味によって実現される。なぜならば「声音 (sound) と運動 (movement) は上演環境の中に浸透し、また人々がさまざまな形式、——静かに観察し拝聴することから激しくて複雑な運動と騒ぎまで——行い参加することを許す。われわれが承認する音楽と踊りの中には声音と運動が入るだけではなく、打楽器も多く民俗文化の上演の中で重要な matacommunicative rolo をつとめ、鐘、鼓とほかの打楽器、また花火もみな広範にさまざまな過度 (transitions) を表記するために用いられている」⁽²¹⁾ からである。

3-3. 瑶伝道教の音楽文化を鮮明に表す

湖南、広西、雲南における瑶族婚礼の考察を通して、瑶族の婚礼儀式は典型的な瑶伝道教文化の特徴がある。儀式の始まりの段階における請神から、拝堂儀式の中のさまざまな読経活動、儀式の終わりの部分にある神を天宮へと送る場面などは強い道教文化の要素をもつ。例えば、師公は請神の儀式で家神、祖先神、盤王などを祭り招くだけでなく、玉皇大帝、太上老君などの道教の神も招く^(図13)。師公は紙銭を焼き、呪文を唱え、経文を吟唱し、手訣を結び^(図14)などの儀式記号を表すことで、神霊との交流を果たし、婚礼を行う新郎新婦へ祝う気持ちを表す。例えば藍山県滙源瑶族の婚礼における五穀神を招く儀式^(図11)、及び湖南寧遠瑶族婚礼における「赶煞」の儀式は、みな師公が道教の法事を運用することで、新郎新婦のために厄を払い平安を守る儀式の象徴的目的に達するのである。同時に、また瑶族婚礼の音声も道教の特徴がある。例えば、拝堂儀式の中で師公が道教的特徴のある経文を唱えたり吟唱したり、また家先神や堂神を招くなどがそうである。例えば「又十二拝用」は次のように唱われる。

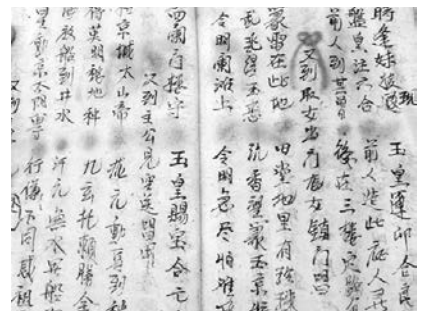


図13. 雲南文山州藍靛瑶婚礼儀式経文 (2013年12月23日)

「一に拝む堂神をここに招く、香火堂神先にここに至る。堂に至り新婚夫婦の拝礼を受け、富貴榮華千万年になる。二に拝む香火堂神は礼を受ける、香火堂神は玲一双。共に受ける新婚夫婦の先祖への拝みを、千年安泰を守ってくださる。三に拝む宗祖の3回の拝礼を受ける、夫婦は前世良縁で結ばれている。前世で2人とも拝んだことにより、神仙の賜る福が行き届いている。四に拝む諸神受ける、夫婦は深々と跪いて拝む。三拝四拝夫婦と結ばれ、長生きを守るよう招く。五に拝む香壇の中に拝む、神霊は福を賜るためともに相談する。神壇の前に来て共に受ける、六修今日夫婦に結ばれる、六に拝む堂神が第一先で、幸福生活は千年榮える。……十二に拝む榮華富貴、いい鴛鴦の夫婦不老長寿。千年万年若さ常にあり、十二に拝む拝みに拝む父と母に」⁽²²⁾



図14. 広西賀州鷄桐窩趙有安師公實施請神儀式 (2013年11月13日)

4. 瑶族婚礼儀式音楽の発展と現状に対する思考

4-1. 現代化、都市化、商業化のコンテクストにおける瑶族婚礼儀式音楽の文化変遷

まず現代化や都市化が加速するにつれ、瑶族の生存環境と生活様式は大きく変わった。例えば、多くの瑶族青

年は都会へ出稼ぎに出て、彼らは現代都市の社会では新興の出稼ぎ労働者の典型となった。彼らの生活、美学、婚姻観念も都会の現代化、漢族化、流行文化などの多方面からの影響を受けて、彼らの伝統的な婚姻観念は次第に薄らぎ、習俗も重要視されなくなっている。筆者は、湖南、広東、広西、雲南など4つの省の瑶族婚礼儀式的調査を経て、伝統的な瑶族婚礼儀式の坐歌堂と哭嫁の儀式を見ることは非常に困難であることに気付いた。先述したように、多方面の要素の影響によって瑶族婚礼儀式文化の特徴と意義は次第になくなりつつある。例えば、広西賀州鶏沖口の瑶族婚礼儀式での坐歌堂活動も筆者の積極的な提案の下で、臨時に組織したものである。婚礼を行う家の主李明金の話によると、大体20年前まではこの瑶族婚礼には歌掛け活動もあったそうである。だが、今は殆ど見られなくなっており、この瑶族伝統文化の保護と伝承の生態環境が非常に危うい状況にあることは容易に想像される。また、瑶族婚礼の歌掛けも自分たちが自然に行ったのではなく、研究者の提案の下に臨時的に行われたという現状を反映した。特に現場で歌を掛け合う老人の多くは瑶族の歌が歌えず、また歌掛けの雰囲気も非常に平淡であった。したがって、賀州瑶族の伝統的な民俗儀式の生存環境は非常に危うい状況にあることがうかがえる。

次に瑶族婚礼符号の弱体化は、坐歌堂の儀式だけではなく、婚礼に参加する瑶族の人自身も民族衣装を着ようとしないうる行為に反映されている。瑶族の文化的アイデンティティーは服装を符号とする外在的符号に反映されるだけでなく、同時に言語や音楽及びその文化の象徴的意味の内在的隠喩にも反映される。したがって、多くの外在的と内在的要素の影響により、瑶族民衆の伝統文化符号に対するアイデンティティーの弱化現象が現れ、これは自然と伝統民俗の音楽文化の保護と伝承には不利である。例えば、筆者が2015年1月に広西賀州鶏沖口の瑶族婚礼の調査を行った際には、婚礼の参加者の中で瑶族の民族衣装を着た人はたった5、6人ぐらいであり、この瑶族の民族アイデンティティーは次第に薄らぎつつある。

最後に当今社会における過度の商業化は、瑶族の婚礼儀式に比較的大きな経済的圧力をかけている。統計によると、瑶族の婚礼を1回挙げるためには少なくとも数万元、多い場合は10万元にのぼるといわれる。この数字はもともと豊かではない瑶族の家庭にとっては経済的に非常に大きな負担となる。例えば、筆者が2013年7月に広東連南瑶族自治县塘凶村で瑶族婚礼音楽の調査⁽¹⁵⁾を行ったときには、目下この村で過山瑶の婚礼を行うことは非常に少ないことを知った。それは主に婚礼を行うのに経済的な負担が大きすぎて、みな受け入れられなくなっているからである。湖南寧遠県の瑶族は、政府の支援の下で伝統的な瑶族婚礼儀式を行う場合もある。例えば、湖南寧遠県民委は、2009年寧遠県九疑山瑶族郷の馮兆氏が伝統的な婚礼を行うときに支援したのである⁽²³⁾。したがって、大きすぎる経済的負担は、結果的に瑶族婚礼音楽の生存環境を大きな困難に直面させる結果を招いたといえる。



図15. 広東連南瑶族自治县塘凶村過山瑶族婚礼調査 (2013年7月21日)

4-2. 瑶族の婚礼を媒体として、現地を観光地にする

当今、地方の文化部門はその土地の伝統文化を宣伝し民俗経済の発展を図るために、続々と伝統民俗文化を宣伝し現地の観光地づくりに取り組んでいる。例えば、湖南江華瑶族自治县は2014年12月に盤王節祭祀活動の中で瑶族婚礼儀式の上演を行い⁽²⁴⁾、最も現地の特色のある瑶族婚礼儀式を1つの民俗現象として舞台化して展示することで、現地の濃厚な民俗文化資源を宣伝し展示していくが、目的は現地の旅行文化経済の速やかな発展を促進するためである。筆者が調査を行った幾つかの瑶族の事例からは、多くの瑶族民俗の儀式音楽は民俗的な観光村が観光客のために繰り広げた一種の文化の中に放置されていることがうかがえる。この際の儀式音楽は原生的コンテクストを離れて、一種の純粋な民俗文化の上演へと変質している。例えば、広東連南瑶族のある民俗文化村では「瑶族 Style」を上演している⁽²⁵⁾。さらにもっと甚だしい場合は、ある地方の瑶族婚礼儀式を模倣し演技するのもある。現地の過山瑶族婚礼を上演(探親、迎親、婚約、拜堂儀式)し、マスメディアから注目されること

によって、民俗旅行経済の促進と発展を図ることを目的とする。例えば、「2012 広西上思・十万大山原始林旅行文化節」⁽²⁶⁾ 活動がこれにあたる。

4-3. 外部の介入は、儀礼音楽の保護と伝承に対してプラスとマイナスの影響を及ぼす

湖南、広西、雲南の瑶族婚礼からは、毎回の儀式と音声テキストには人為的要素が存在することが知られる。文山州藍靛瑶の婚礼を見ると、儀式の過程には模倣と演技の要素が強く表れている。例えば、儀式の中の「回門」部分は婚礼の撮影制作者の要求にしたがって、何回も練習、撮影して仕上げる。また例えば、文山州藍靛瑶の婚礼では、新郎が新婚夫婦の部屋に入る演劇的な場面でも撮影者に迎合した痕跡が見られる。また賀州鶏沖口婚礼の坐歌堂の儀式は筆者の提案の下に臨時的に行ったが、その儀式の時間も非常に短かった。以上のように、外部要素の介入は自然と瑶族儀礼音楽の保護と伝承に幾らかのプラスとマイナスの影響を及ぼしていると思われる。

まず、人類学の角度から考えるときに、研究対象者がカメラを見たときの心理状態の問題である。つまり、われわれの研究対象者が繰り返し広げた映像テキストは果たして彼らの真実の生活状態であるか否かについては、これから真剣に考えなければならない。

次に、研究者としてわれわれの言動は、瑶族婚礼と音楽の構造に影響を及ぼしたか否かの問題である。つまり、結果的に瑶族婚礼の原生的要素をなくし、外部の要素を多く取り入れさせたのではないかと思われる。例えば、婚礼の中で撮影者は、すべての儀式においてたびたび口出しをし、その意味はまさにすべての婚礼の場面は撮影者の撮影意図に従って繰り返し広げられるものである。

3 に、素朴な瑶族の民衆はみな外部の研究者たちが自分たちの文化を調査研究することを非常に重視しているゆえに、潜在意識的に婚礼の規模から婚礼儀式の構造に至るまでその文化の伝統性、原生性と現代性の宏大な場面を見せつけている。例えば、筆者が見た文山州藍靛瑶の婚礼がそうである。

4-4. 婚礼儀式音楽の現地化と現代化の二元構造

伝統と現代が融合した二元構造は瑶族婚礼の音楽テキストのすべての内容を構成している。湖南、広西、雲南の瑶族婚礼は現代化と流行文化の影響を受け、婚礼は伝統文化（長鼓を打つ）の一面を表すだけでなく、また儀式の場面には多くの流行文化の要素を取り入れている。例えば、雲南文山州麻栗坡藍靛瑶の婚礼で婚礼車と新婦迎いのチャルメラ演奏班は、伝統と現代とが融合した婚礼の場面である^(図10)。特に主人側が篝火宴会を催すときには流行曲「小萍果」の音楽に合わせて即興で踊るように誘う。また湖南江華瑶族の婚礼にはチャルメラ音楽や打楽だけではなく、新婦迎いの儀式には瑶族の長鼓舞を踊る場面がある⁽²⁷⁾。湖南江華瑶族の新婦が嫁ぐ前日の夜は、新婦の家では現地の流行音楽バンドを誘って場を盛り上げ、【父親】【大花轎】などのような祝福の歌を歌って儀式的な雰囲気を作り出している。したがって、広西や雲南の瑶族に比べて、湖南江華瑶族の婚礼のほうが伝統性と現代性の二元構造の特徴が強く表れ、特に流行音楽の取り入れは儀式のめでたい雰囲気と象徴的意義を高めたと考えられる。

おわりに

1、中国少数民族の人生儀礼の中で、瑶族婚礼音楽の文化と芸術の内在的意味は非常に豊富で、地域性と地域に跨がる特徴を呈している。それらの間には差異もありながら、また関連性もあり、みな瑶族の各支系の伝統文化と周辺民族の伝統との現代的な影響、交流と融合、借用の文化産物である。2、瑶族の婚礼には豊富な器楽音楽だけではなく、瑶族の民間歌謡も大量に存在している。3、婚礼の中で坐歌堂の儀式は、調和の取れた瑶族の民衆社会を構成し、瑶族族群の集団意識を培い、族群の文化的アイデンティティーを実現し強化するのに積極的な意義をもつ。しかし、現在社会の過度の商業化、現代化、流行文化などの多方面の影響により、瑶族婚礼の坐歌堂儀式は次第になくなりつつあるため、一段と力を入れて緊急保護の措置を取ることが目前に迫っている。4、

すべての婚礼文化の内容は器楽と歌唱テキストを通して絶えず構築して形成されるのであり、儀礼の過程と音声符号の象徴的隠喩は互に関わり合いながら一種の同型同構、また並行して発展する儀礼音楽構造を形成している。5、瑶族の婚礼は信仰体系の構築から、儀礼の過程、音声特徴などの文化記号に至るまで瑶伝道教の色彩を強く帯びている。6、グローバル化、現代化、都市化が進む影響により、瑶族婚礼は伝統と現代が融合した二元構造の特徴を呈している。7、瑶族婚礼音楽の保護と伝承に対して外部の人（研究者を含む）が及ぼすプラスとマイナスの影響については、われわれはこれから真剣に考えなければならない。最後に、中国文化部門が大いに提唱する無形文化財政策の方針の下で、瑶族民俗儀礼音楽の発展と保護作業はきっとますますよくなると信じる。

注

- (1) 広西賀州鶏沖口の瑶族婚礼では、新郎新婦は子どもが生まれてから婚礼を挙行するという、面白い現象がある。広西賀州賀街鎮聯動村鶏沖口婚礼はまさにこのような状況である。
- (2) 本稿に載せる写真は特に明示する以外は、すべて作者が撮影したものである。
- (3) 湖南藍山県滙源瑶族の婚礼曲はまた【大離娘】という。もの悲しい曲調で、新婦が父母を懐かしむ感情を引き起こす。
- (4) 広西黄洞瑶族郷の盤生安の話によると、ここの一部のチャルメラ曲牌は湖南江華一帯の瑶族から来たという。
- (5) 筆者が広西賀州聯動村で行った聞き取り調査によると、ここでは瑶族が使用する楽器はすべて漢族の楽器屋で購入するという。楽器は漢族のと変わらないが、チャルメラの音律と調式の特徴から見ると漢族とは多く異なり、今後さらに詳しく考察しなければならない。
- (6) 黄友棣「蓮陽瑶人的音楽」国立中山大学研究院文科研究所編『民俗』第1巻 1942年 第4期 p.32。楊民康主編『瑶族伝統儀式音楽論文集』文化出版社 2014年版 p.70 参照。
- (7) 黄淑婷・龔佩華『文化人類学的理論与方法』広西高等教育出版社 2004年版 p.58
- (8) 記録時間は、2014年12月23日、記録場所は、雲南文山州麻栗坡県楊万郷梅湯村である。
- (9) 2014年12月23日、筆者は雲南文山州麻栗坡県楊万郷梅湯村で行う藍靛瑶の婚礼の中で苗族のチャルメラ奏者に対して取材を行った。苗族の奏者は、洛恩福（58歳、麻栗坡県楊万郷竜林村）と楊正達（55歳、麻栗坡県楊万郷銅長村）である。
- (10) 2015年3月、筆者が中国芸術研究院の李宏鋒博士と電話で交流したときに得た情報である。
- (11) Richard Bauman 著 楊利慧・安徳明訳『作為表演的口頭芸術』広西師範大学出版社 2008年 p.89。2014年12月23日、筆者は雲南文山州麻栗坡県楊万郷梅湯村で行う藍靛瑶の婚礼の中で苗族のチャルメラ奏者に対して取材を行った。苗族の奏者は、洛恩福（58歳、麻栗坡県楊万郷竜林村）と楊正達（55歳、麻栗坡県楊万郷銅長村）である。
- (12) http://v.youku.com/v_show/id_XNTczMjl3Mzky.html youku 参照。
- (13) 筆者は2015年5月に、湖南藍山県滙源瑶族郷の師公趙金付氏に聞き取り調査を行った。
- (14) 湖南藍山県の呉開娣氏が2012年11月に提供したものである。
- (15) 湖南藍山県の呉開娣氏が2012年11月に提供したものである。
- (16) 湖南寧遠瑶族の婚礼習俗は主に該県の九嶷山瑶族郷、棉花坪瑶族郷、桐木溪瑶族郷、荒唐瑶族郷に分布している。
- (17) 湖南寧遠県民委、文化館が無形文化財登録のために撮影した映像がある。http://www.56.com/u74/v_NjU3Njc0Nzk.html 参照。
- (18) 広西賀州聯動村鶏沖口婚礼儀式用書、師公趙福錦氏が2015年1月16日に提供したものである。
- (19) William A. Haviland 著 瞿鉄鵬・張鈺訳『文化人類学』上海社会科学院出版社 2006年版 p.437
- (20) 王銘銘『人類学は什麼』北京大学出版社 2002年 pp.93-94
- (21) Richard Bauman 著 楊利慧・安徳明訳『作為表演的口頭芸術』広西師範大学出版社 2008年 pp.93
- (22) 広西賀州賀街鎮聯動村の師公趙福錦氏が2015年1月16日提供したものである。
- (23) 湖南寧遠県民委、文化館が無形文化財登録のために撮影した瑶族婚礼に映像。http://www.56.com/u74/v_NjU3Njc0Nzk.html 参照。
- (24) 『湖南江華瑶族自治县上演原生态瑶族婚嫁习俗』<http://www.chinanews.com/tp/2014/12-09/6857074.shtml> 中国新聞網参照。
- (25) この問題については、筆者は別稿をもって考察していきたい。ぜひご期待ください。
- (26) http://v.youku.com/v_show/id_XNDgwOTl0MDE2.html youku 参照。
- (27) http://v.youku.com/v_show/id_XNTc0NTM3MTgw.html youku 参照。

雲南河口の藍靛ヤオにおける婚礼儀式音楽の研究

中央音楽学院研究員
(著) 楊 民康

広東外語外貿大学講師・神奈川大学博士後期課程
(訳) 程 亮

ヤオ族は中国において人口の多い、国を跨いで分布している少数民族である。ヤオ族の伝統的な民間信仰の諸要素において、トーテム崇拜は主にヤオ族の伝統儀礼における在来的、通時的な要素であり、梅山教文化は外来的、共時的な要素である。盤ヤオで流行する「還盤王願」と藍靛ヤオで流行する「度戒」が、目下学界で最も議論されている代表的なヤオ族の伝統信仰及び儀礼の類型であると考えられる。婚礼、葬礼、成人礼及びその儀礼音楽がヤオ族の世俗的人生儀礼の代表的な類型である。後者が儀礼機能の面において前者と共通部分をもっている。

1995年1月24日夜から25日朝まで、筆者一行の5人は、河口県瑶山郷坡頭村の李文福家の婚礼に参加した。本稿は、婚礼を記録する音楽民族誌に基づいて、ヤオ族婚礼儀式における歌の上演過程、演唱方式、規則及びその儀礼的機能について討論と分析を行いたい。

1. ヤオ族の人口及び民族概況

2000年第5回国勢調査のデータによると、中国のヤオ族は260万余人とのことである。そのうち、雲南ヤオ族は190,610人である。ヤオ族の中で使われている言語は、一般的にヤオ語、ミャオ語、ドウ・スイ語と中国語の4系統に分けられている。雲南省内に暮す、荊門土語を使う藍靛ヤオ族は、ヤオ族の延べ人口数で2位の支系であり、自称が「荊門」（あるいは「金門」）、「秀門」、「門」などである。

河口ヤオ族自治県は雲南省の南に位置し、紅河ハニ族、イ族自治州の東南部、延べ面積は1,332平方キロメートルである。北東は馬関県に、西は紅河を隔てて金平ミャオ族ヤオ族タイ族自治県に、北西は蒙自県に、北は屏辺ミャオ族自治県に隣接している。南は紅河に、南東は南溪河、壩吉河に沿い、東は戈峰山麓の突き出た端から黒山坡山脈の分水嶺に沿って18基の界碑が立てられ、ベトナムと分界する。国境線は193キロメートルあり、多くの村落が国境線の周辺に点在している。河口ヤオ族自治県には、ヤオ、ミャオ、チワン、イ、漢、タイ、プイなど23の民族が居住する。それらの民族は全県の14郷に分布し、主に大囲山地帯に集まって住んでいる。

藍靛ヤオは、頂板ヤオとも呼ばれている。成年の女性が芭蕉の葉（あるいは筍の殻、現在ではベニヤ板が多く使われる）と白い布で平たな帽子を作り、頭に青い布をかぶり、黒い服を着る。上着が長く、両側に脇開きがあり、裾が下から腰に巻き上げられている。胸の前に銀のブレストが飾られ、ピンク色、白い色の玉総が結ばれている。未成年の女性がかぶる帽子はピンク、白い毛糸で作られ、服の裾が自然に垂れる。14、15歳の「換装」（女性の成人礼）後、束髪が作られ、平たな帽子がかぶられ、服の裾も腰に結ばれる。男性が着る漢族式の対衿上着には、彩の模様が飾られている。

2. 婚礼と坐歌堂の民俗背景及びその過程

河口ヤオ族の婚礼は通常、12月から翌年の1月までの農閑期に行われる。今回の婚礼は1995年1月24日から25日まで行われた。その間に、筆者一行は当該ヤオ族の「換装」（女性の成人礼、24日朝）、懸け歌（郷政府と坡脚村の若い男女、24日正午）、婚礼（坡頭村李文福家、24日夜から25日朝）、「祭龍」（「祭衆」、「掃塞」ともいわれる、26日）、「度戒」（27日夕食後から29日12時まで）などの民俗行事に参加し、儀礼の過程を撮影、録画、録音、現

地記録した。27日に、民謡の歌手にヤオ族の民謡について聞き取り調査をした。1月29日から3月まで、ヤオ族の道教儀礼に補充調査を行った。婚礼と坐歌堂の民俗背景及びその過程を下記のとおり記述する⁽¹⁾。

河口ヤオ族の若い男女が結婚するとき、新婦側は自分の村で婚礼を1回行う。まず、新郎側の家族全員及び仲人、介添人など、「迎親」（花嫁の迎え）グループにご馳走をする。次に、接客、介添人を含む新婦側の送親グループは新郎側の迎親グループと対歌堂を行う。その他の儀礼は当事者の意向と財力によって決められる。この儀礼が行われる前に、仲人を頼み、吉日を選ぶ必要がある。婚礼の順序が分かれば、仲人の人選は親族や友達、年長者のいずれでもよい。直系親族が最もよいが、いなければ、他の友達に頼んでもいい。当日、坡脚村ヤオ族婚礼儀式への主な参加者は新婦側父親の李文福、新婦側結婚立会人の李春元（49歳）、新郎盤少福（19歳）、新婦李開秀（23歳）である。新郎側と新婦側ともに同じ村の人である。坐歌堂の儀礼で司会を務めていた歌師は、新郎側仲人の李永輝（36歳）と新婦側仲人の李玉芬（36歳）である。

当該の婚礼は「進門」前の予備儀礼とその後の婚礼儀礼からなっている。今回両家が同じ村の人であるため、「進門」前の予備儀礼は免れたのであるが、ここでは、予備儀礼の部分を補足して婚礼儀礼を記録する。

第1段階：予備儀礼

1) 招待状を送る

婚礼が行われる前に、男女双方は協議で結婚式の期日を選び、双方の親族と友達に招待状を送る。また、結婚式の当日に民族衣装と銀飾を着用することが前もって告げられる。

2) 迎親出発前の準備

新郎が他の村の出身であれば、婚礼の当日に新郎側の迎親グループは仲人に引率され、新郎の村を出る。このとき、礼歌を歌わない。出発する前に迎親グループはあらかじめ通る村落に知らせ、プレゼントを用意する。プレゼントは迎えに来る年配者に渡す些少の礼金である。

3) 出発

迎親グループが各村を通りかかる際、当村の村人たちは鶏を殺し、お酒を用意して迎える。仲人が返礼に礼金を送る。迎親グループがあらかじめ村に知らせずに村を通ろうとする場合、村人たちは鶏を殺さず、お酒を用意しない。彼らは道で迎親グループを止め、攔路歌を歌い、迎親グループに謝りの歌を歌ってもらう。

第2段階：「進門」

4) 新婦側家の到着

当日婚礼の迎賓礼はおおよそ夕方から夕食の前までである。夕食前、新郎側の迎親グループが新婦側の家に到着する際、新婦側の人を迎えに来る。普通、新郎側では、年齢の若い介添人が先に到着し、新郎と年上の介添人が後に、仲人が最後に到着する。新婦側の家では、父親が真ん中の上座に座り、年上の接客（客をもてなす役）が右手に、年下の接客が左手に座る。新婦側の迎賓（客を迎える役）は新郎を家に連れて座らせる。男性側の仲人、介添人など迎親グループの人が家の中に入ってはいけない。伝統の習慣によると、新婦側の家に敷居があっても、外で腰掛けを設けて、その上にキセルを載せる。これは新婦側の家にある三重の敷居の意味で、乗り越えることが禁られじる。この場合、男女双方の歌班は連続して『見面歌』（『進寨歌』『進門歌』を含む）、『称肉歌』と『罐罐歌』の3種類のヤオ族民謡でやり取りをする。

5) 見面歌（攔路歌）

対歌をする双方が家の外にある、腰掛けで造られた「敷居」の内外に立つ。新婦側が3人で、仲人2人が1歩先に立ち、「敷居」の内外に並ぶ。新郎側が3人で、年上の仲人が真ん中に、年下の介添人が左手に、年上の介添人が右手に立ち、「敷居」の外に並ぶ^(図1)。年上



図1. 室外での対歌（撮影：楊民康）

(1) 筆者が現地で観察、記録するほか、瑶山郷志辦公室の李寿寧、省地質学校共青团委書記の李正民などに対し補足調査を行い、過程の内容について確認と訂正をした。

の仲人は村の書記で、他の2人は新郎側の親族である。年上の仲人が新婦側に「花嫁を迎えに来た」と伝え、対歌を始める。まず、新婦側3人、新郎側4人で『進寨歌』を歌う。次に、新婦側4人、新郎側3人で『進門歌』を歌う。当地のヤオ族語と「復唱」「平唱」（詳しい内容は後文で述べる）の演唱方式が採用され、曲調は「喊唱」⁽²⁾である。対歌の様子は下記のとおりである。



図2. 門を隔てる『進門歌』の対唱（撮影：楊民康）

まず新郎側の迎親グループは三重の敷居を乗り越える必要がある。各敷居を乗り越える際、双方で対歌をする。新婦側が先に歌い、新郎側が答える。新婦側が最初に歌う7字の2句計14字の「攔路歌」は、上下の句体であり、前句がLa = C、後句がSol = ^bBとなる。新郎側がLa = ^bA, Sol = ^bGの音区で歌で答える⁽³⁾。新婦側が歌ってから新郎側が直ちに入り込み、二声部の輪唱となる場合もある。この種の輪唱では、固定の「カノン（複数の声部が同じ旋律を異なる時点からそれぞれ開始して演奏する様式の曲）」がなく、答える側はいつ輪唱に入るか、いつ演唱を終えるか、決まりがない。1回の演唱が終わってから、次に7字の4句、計28字の歌を歌う。全部で8句の56字ある。56字の民歌をやり取りする際、双方は一定の規則に従い、大量の囉子詞を入れ、曲と内容の構造を拡充する。要するに、今回の民歌のやり取りにおいて、新郎側が三重の敷居を乗り越える場合、男女双方は対歌を通じて、168字の基本歌詞を含む、曲と内容の複雑な攔路歌を歌わなければならない⁽⁴⁾（図2）。

6) 敬酒歌

『進門歌』が終わってから、新郎側の仲人が敷居を乗り越え、新婦側の家に入り、持参したお酒を新婦側の司会者に差し上げる。また、新婦側に対歌を誘う。この場合、2人の介添人がまだ家に入っておらず、新婦側の介添人2人と門を隔てて『敬酒歌』を対歌する。まず、新郎側が14字の歌を歌い、新婦側が14字の歌で答える。合計で28字の歌である。対唱、輪唱と復唱の演唱方式が採用されている。



図3. 夕食（撮影：楊民康）

『見面歌』と『敬酒歌』が終わってから、互いにあいさつをし、腰掛けを移し、新郎側から新婦側の男性親族にタバコを配る。新婦側の人々が室内で長机を並べ、年齢を問わず、1男1女という順序で座り、夕食を食べる⁽⁵⁾（図3）。

第3段階：お祝いの贈り物をする

7) 称肉歌

夕食後、新婦側が室内で小さい机を並べ、その上に肉を量る秤と盃⁽⁴⁾⁽⁵⁾を置く。新郎新婦が側に立つ。新婦側の司会者が「貴方たちは今日何のためにいらっしゃいましたか」と質問する。新郎側の仲人が「新郎を送って、嫁入りに来ました」と答える。「今日、何を持ってきましたか」と聞く。「肉を持ってきました」と答える。「どれぐらいの肉を持ってきましたか」と、新婦側の若い人が秤を取って聞く。双方はこれをテーマに『称肉歌』の対歌を始める。歌に人を笑わせるような内容が含まれる。例えば、新婦側の秤を取る人は「肉が少ないから、配ることに食べることに足りません」と新郎側に歌う。この場合、双方では対唱の方式が変わり、新郎



図4. 肉を量る秤と盃（撮影：楊民康）

(2) 声が高く、高くよく響く演唱の仕方。

(3) ここでの演唱は即興的演唱で、事前に設定することがない。

(4) 楊民康「論雲南藍靛瑶族道教儀式音楽中的歌演唱套路」『中国音楽』2014年第2期37-41 p.50

(5) 男性側が持ってきた新鮮な肉はまだ室内に届かず、それを量る秤だけが机に置かれて、肉を量る行為を意味する。

側1組(1組に何人かいる)对新婦側1組という1対1の対唱から、新郎側多組(各組に2人いる)对新婦側多組という多対多の対唱となる。例えば、室内では、新婦側の司会者2人と新郎側の仲人2人が机を隔てて対歌をする^(図5)。中年の男性が歌本を手にもち、腰掛けに座り、演唱者に対してプロンプターの役割を果たす^(図6)。室外では、新郎側介添人の組と新婦側介添人の組がペアとなり(新郎側の男性と新婦側の男性、新婦側の女性と新婦側の女性がペアを結成する)、各ペアは2男対2女という形で対歌を歌う。各ペアで輪唱の方式が採用され、新郎側が先に歌い、新婦側がそれを答える。28字の歌を歌い終わってから、次の28字の歌を歌う。合計で56字ある。周りに人が多い場合、他の人は対唱する双方に加勢する。主唱者が歌い始めてから何秒か後に加勢者が入って同じ内容を歌う。このようにして各ペアの対唱では、双方の輪唱と加勢者による加勢が重なり、複合的な音響となる。室内と室外で多組の対唱が同時に行われているため、巨大な「混唱」の流れになってくる。各ペアの唱者が同時に歌っているため、すべての演唱時間は半分以下に縮減することができる。

この場合、新郎側がお酒や肉を持ってくるかどうかは大切なことではなく、双方がこの儀式への参加は必須なものである。肉量りが終わってから、双方はまた互いにお酒を誘い、対唱をする。

8) 罐罐歌

仲人と新郎側の介添人が先に歌に入る。男の人が先に入り、女の人が後で入る。新婦側の司会者が「貴方たちはまた何かを持ってきましたか」と聞く。新郎側の仲人が「罐罐」と答える。迎親グループの人たちが持ってきた酒の罐を机に置き^(図7)、対唱(輪唱)を中心とする重要な儀礼を始める。

この場合、双方の仲人が室内で対唱をする。新郎側の介添人1人と新婦側の介添人1人がペアとなり、室外で対唱する。介添人の対唱では、基本として新郎側の人新婦側の人を探し、男性の介添人が男性の介添人と、女性の介添人が女性の介添人と対応して対唱を歌う。まず年上の男性介添人と年上の女性介添人が対唱し、年下の男性介添人と年下の女性介添人が加勢する。2句14字の唱詞(離子詞を含まない)は、合計で28字である。続いて、年下の男性介添人と年下の女性介添人が対唱し、年上の男性介添人と年上の女性介添人が加勢する。それも合わせて28字である。このように、年上の男性介添人、年上の女性介添人、年下の男性介添人と年下の女性介添人はそれぞれ主唱する機会があり、他の若い男女も加勢することができる。

第4段階：パーティー

9) 同心酒歌

次に、新婦側の司会者が「持ってきたお酒は飲みますか」と聞く。新郎側が酒罐の蓋を開けて、お酒を飲む茶碗と酒の肴を机に置く。人たちが新郎新婦を囲んで、同心酒を飲み、同心酒歌を歌い始める。男女2人が一緒に食事をすることは夫婦になったことを意味する。ここで夫婦問の問答の形で対唱をする^(図8)。



図5. 司会者と仲人が机を隔てて対唱する(撮影:楊民康)



図6. プロンプター(撮影:楊民康)



図7. 酒の罐(撮影:楊民康)



図8. 新郎新婦の対酌と対唱(撮影:楊民康)

まず新郎新婦が対面して座り「私たちは夫婦になりました。何を歌いましょうか」と互いに聞く。2人が歌ったり話したりする。歌う部分は、2句14字の唱詞で、合計で28字である。この部分は重唱、混唱などが含まれていない。ヤオ族の「復唱」と「平唱」という演唱方式が採用され、曲調は「喊唱」である。女性がLa=Dの音調から、男性がLa=Gの音調から歌に入る。

上述の内容は新婦側の家に入ったときに歌われるものである。歌が終わってから、新婦側が村の年配者にご馳走する。当日の夜、新郎側が新婦側の村に泊まる。

第5段階：終わり

10) 送別

25日の朝、新郎側の迎親グループが帰る前に、男女双方による座席を交換する簡単な儀礼が行われる。昨日、新郎側を迎えたとき、新婦側の司会者と介添人が上座に座っていた。本日の朝、新郎側の仲人、介添人などが上座に座る。新郎側の大仲人が真ん中に、副仲人、年下の介添人が左手に、年上の介添人が右手に座る。新婦側の司会者が下座に座る。別れる際、新婦側の司会者と新郎側の仲人が皆を引率し、『送別歌』を歌う。演唱者に新郎側が5人、新婦側が8人いる。新郎側の新郎、仲人と介添人などが先に門内に立ち、女性側の仲人と介添人が門外に立って『攔路歌』を歌う。男性側の人々が人民元2分～4分を出し、部屋前の腰掛けに置く。新婦側が赤い帯、タオルを置いて、引き留める意を示す^(図9)。

歌が終わってから、新婦側が帯とタオルを片づけ終われば、新郎側が帰れる。新婦側の見送り人が門内と門外に立ち、歌いながら見送る^(図10)。双方が互いに感謝と送別の意を表しあう。新婦側が引き留める意を示す。新郎側が新婦側一家の健康と豊作を祈り「今回迎親に参りまして、皆さまにご迷惑をおかけしました。誠にありがとうございます」と話す。習慣によるとこのとき、腰掛けを半分撤去し半分残す。双方が見送る道で一緒に混唱をし^(図11)、名残惜しい意を表す。



図9. 部屋を出て攔路歌を歌う（撮影：楊民康）



図10. 新婦側が門外に立って見送る（撮影：楊民康）



図11. 見送る道（撮影：楊民康）

3. 藍靛ヤオ婚礼歌における楽式の構成及びリズム、唱詞の演唱方式

藍靛ヤオの婚礼歌では、主に独唱あるいは斉唱に使われる詠唱調（歌腔）が採用されている。この類いの歌腔に、漢、ヤオを融合する簡唱型と自分の民族民歌の特徴をもつ復唱型の2種類に分けられている。

3-1. 簡唱型（短歌体）

ヤオ族の民歌では、一定の規則に従い、曲体に演唱を繰り返す局所の音楽と歌詞を含まないものが、すべて簡唱型の歌腔に属する。「簡唱」の方式で演唱する場合、歌詞の順序で歌い終わったら、リズムと曲調も一段落終わる。重複があるとしても、同じ曲調で異なる歌詞を繰り返して歌う。この種の曲は後述する復唱型の曲と比べれば、

- 一、囃子詞が少ないこと
- 二、音楽の形態が規範をもっていること

譜例 8. 封筵歌⁽⁶⁾
(齐唱 読音唱)

河 口 県 藍 靛 ヤ オ

1 = C $\frac{6}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{2}{4}$
♩ = 96

おのずから豪快に

甲 子 推 逢 良 利 潤^①

(恩), (恩) 乾 坤^② 招 意

放 随 春^③ (恩恩嘿)。 感 謝

李 桃^④ 全 在 此 (呢),

招 地 婚 台^⑤ 如 日

光。 一 為 少 年

注 婚 路^⑥ (恩), 二 為

群 員 糖 挂 心,^⑦

三 為 緑 台 献 左

右 (窩), 一 員 庄 意^⑧

含 情 漿^⑨ (航)。 男 女

也 争 (哎) 練 成 餅^⑩

(哎), 無 様^⑪ 煩 心^⑫

前 面 良^⑬。

譜例 1 の注：

- ①吉日の意味。②天地の意味。③めでたいことをすることが春の風景のように美しい。
- ④「李」は男、「桃」は女の意味。
- ⑤婚礼の宴席。
- ⑥婚約を結ぶ大事なこと。
- ⑦婚礼のとき、ふるまわれる飴と祝いの酒をいただく。
- ⑧「一員」は一切の意味で「庄意」は準備の意味。
- ⑨新郎新婦が夫婦になること。
- ⑩歌を歌ってお祝いする意味。
- ⑪1つもない。
- ⑫皆さまに面倒をかける。
- ⑬皆さまの平安を祝う。

演 唱 者：李文祥、男、30歳、藍靛ヤオ、
宣 伝 幹 事、瑤山、坡脚、
盤 開 榮、男、37歳、藍靛ヤオ、
村 長、瑤山、牛塘

翻 訳：盤朝恩、李万恩
調 査：廖紀文、尹祖鈞
整 理：廖紀文、尹祖鈞
国 際 音 声 記 号：廖紀文
調 査 日：1985年1月10日

に特徴がある。

例えば、リズムの音高、音程と旋法が穏やかで、明確である。リズムの起伏が大きく、明晰である。リズムが鮮明で、音楽の構造が短いものである。唱歌が通常7字1句のものである。例えば雲南省河口県周辺の藍靛ヤオ婚礼で演唱される『封筵歌』が、5段落、7字10句の唱詞からなっている(譜例1)。

3-2. 復唱型(ヤオ語: 哎仲金⁽⁷⁾、長歌体)

伝統習慣に基づき、ある特定の楽句と言葉の断片を繰り返して歌うヤオ族の歌腔は「復唱型」の歌腔である。体裁の分類から見れば、この類いの歌腔は民歌のカテゴリーに属し、道教儀礼のときに使われれば、宗教儀式歌の特徴が見られる。この類いの歌曲は通常長くて大きい歌詞の構造をもち、曲も従って長くなっている。前の種類の「短歌体」と区別するため、復唱型を「長歌体」と呼ぶ。復唱型には主に2種類の構造形式がある。

3-2-1. 順唱(蕩哀⁽⁸⁾、tAŋ³¹ɛl³³)

「順唱」とは歌曲の結末の部分にだけ音楽と言葉の断片を繰り返す「復唱型」の歌腔である。この類いの歌曲は7字句の歌詞を2句ごとに歌う場合、最後の3字を歌うと、後ろからの2字を歌わなければならない。また、後ろから3番目の字から、最後の3字を繰り返して歌う。当地の紅頭ヤオ、白線ヤオはこの類いの演唱を「平唱」と呼ぶ。藍靛ヤオ(富民県)では、「順唱」と呼ぶ。

3-2-1. 隔唱(約哀⁽⁹⁾、Iə³¹ɛl³³)

「隔唱」とは歌曲の中間と結末の部分ともにある音楽と言葉の断片を繰り返す「復唱型」の歌腔である。この類いの演唱方式は「平唱」より複雑である。歌曲の構造では、歌詞の断片を碎き、それらの詞の中に大量の囉子詞を加える。その一方で、楽曲の中間と結末の歌詞の断片を取り上げ、一定の伝統習慣に基づき、規則的に繰り返して歌う。その演唱の規則は下記のとおりである。

第1歩、7字2句計14字の唱詞を歌う場合、前句の7字と後句の前4字、計11字を歌う。

第2歩、前句に戻り、3番目の字から後句の4番目の字まで、計9字を歌う。

第3歩、上述した「順唱」の順序で、後句の最後の2字を歌ってから、後ろから3番目の字から最後の3字を歌う。

このように、短い2句の歌詞は、大量の囉子詞が加わると、十余句の楽句を含む大きいものとなる。

文山州富寧県の『婚宴対歌』と河口県の『難相遇』を事例に、上下句14字の唱詞を順番に並べ、その規則の特徴をまとめてみる。

表1:

唱詞順番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	(13 14)	12	13	14	注
富寧県	本	是	混	年	正	恩	榮	四	処	街	頭	(様 寅)	百	様	寅 ⁽¹⁰⁾	囉子詞 29 字
河口県	各	在	各	山	難	相	会	今	日	暫	逢	(在 前)	団	在	前 ⁽¹¹⁾	囉子詞 143 字

(6) 尹祖鈞編『中国民間歌曲集成 雲南省紅河ハニー族イ族自治州 河口民歌卷』河口ヤオ族自治県文化局等 1990年(内部発行) pp.58-60による。

(7) 哎仲金は文山藍靛ヤオ吉門語で「哎仲」とは歌う意味で「金」とは繰り返す意味である。梁宇明編『文山州民間歌曲選』雲南民族出版社 2011年 p.204による。

(8) 文山藍靛ヤオ吉門語。河口県では平唱といい、藍靛ヤオ侯門語では併哀(peŋ⁵³ɛl³³)という。尹祖鈞編『中国民間歌曲集成 雲南省紅河ハニー族イ族自治州 河口民歌卷』河口ヤオ族自治県文化局等 1990年(内部発行) p.8による。

(9) 文山藍靛ヤオ吉門語。河口県では回転唱といい、藍靛ヤオ侯門語では永奮(dzoŋ¹³fun⁵¹)という。尹祖鈞編『中国民間歌曲集成 雲南省紅河ハニー族イ族自治州 河口民歌卷』河口ヤオ族自治県文化局等 1990年(内部発行) p.9による。

(10) 藍靛ヤオ民歌『婚宴対歌』楊民康、楊曉助が1995年に採集する。楊民康・楊曉助『雲南ヤオ族道教科儀音楽』北京:文化芸術出版社 2014年 pp.314-315による。

(11) 藍靛ヤオ(侯門)民歌『難相遇』、尹祖鈞等が1985年に採集する。尹祖鈞編『中国民間歌曲集成 雲南省紅河ハニー族イ族自治州河口民歌卷』河口ヤオ族自治県文化局等 1990年(内部発行) pp.76-80による。

雲南省富寧県藍靛ヤオの『婚宴対歌』(譜例2)を例にしてみると、全曲に8楽句がある。第1楽句は、導入として、sol(音階のG)を以て始まって終わる。その後の本曲に6楽句(第2から第7楽句)があり、中に3組の上下句式の復述体楽段が含まれる。各楽段の前句はla(音階のA)で終わり、後句はsolで終わる。末の楽段(第8楽句)は結末の句で、Solで終わる。

唱詞から見れば、すべての楽句に囉子詞が使われている。第2、3、4楽句に唱詞第1歩の11字の実語が含まれる。第5、6楽句に第2歩の9字が含まれ、第7句に「回転唱」の方式で歌う最後の3字(譜例2の四角の枠にある実語を参照)が含まれる。結末の句(第8楽句)はすべて囉子詞で、第2楽句から第7楽句まで、各楽句の中

譜例9. 富寧県藍靛ヤオの婚宴対歌

(男唱、復唱)

富寧県藍靛ヤオ

1 = $\flat B$ ♩ = 60 リズムは自由

\hat{r} 5 6 - 7 6 7 6 5 3 5 5 6 5 3 6 15 15 5 0
 (啊 哈 哈 唔 啊 哦 唔)

0 0 0 3 15 6 1 5 3 5 3 5 6 7 5 6 6 7 7 6 1 5
 哦 呵 哦 呵) 本 是 (啊

5 6 7 1 6 6 1 6 1 6 - 0 0 0 1 7 1 3 1 5 5 1 6 1 5 1 6 7 1 5
 啊 哦 喂) 混 年 正 恩

5 5 5 6 1 5 1 6 1 7 6 5 5 0 0 6 7 6 7 6 1 6 3 1 5
 桑) (喂) 四 处 街 头

5 1 6 7 1 6 6 1 5 1 6 7 1 6 - 1 = B 7 3 5 5 3 6 7 5 5 3 5 6 7
 (啊 哦 耶) 混 年 正 恩 桑 哦

6 5 5 - 0 0 0 6 7 7 6 5 3 6 7 6 6 7 5 3 5 5 6 7
 耶 啊 哦) 四 处 街 头 (啊 哦

6 6 - 0 0 3 5 3 5 3 6 7 6 3 5 5 6 5 - 0 0 0
 耶) 样 真 百 样 真 (喂

6 7 6 5 3 5 6 7 6 5 5 3 6 7 6 1 5 5 1 5 0 ||
 喂 唔 啊 哦 耶)

文山州富寧県藍靛ヤオ
 演 唱：黄開和
 翻 訳：黄廷鋒
 記 譜：楊曉助
 採 集：楊民康、楊曉助
 採 集 日：1995年2月10日
 文山州富寧県藍靛ヤオ
 演 唱：黄開和
 翻 訳：黄廷鋒
 記 譜：楊曉助
 採 集：楊民康、楊曉助
 採 集 日：1995年2月10日

で実語の前後に囃子詞が加えられるのである。

この類いの演唱方式及び構造は、当地の紅頭ヤオと一部の藍靛ヤオで「返唱」、「歌問」と呼ばれる。富寧県藍靛ヤオでは、「隔唱」(譜例2)と呼ばれる。

表2:『婚宴対歌』の楽式構造

楽式：b (導入)	+a	+b ¹	+a ¹	+b ²	+a ²	+b ³	+b ⁴ (結末の句)
調号：Sol (= c)	-----						
結音：Sol	La	Sol	La	Sol	La	Sol	Sol
歌詞：囃子詞	第1句 前2字	第1句 後5字	第2句 前4字	第1句 後5字	第2句 前4字	第2句 後3字 (回転唱)	
囃子詞：(7)	(囃子詞8)	(囃子詞1)	(囃子詞3)	(囃子詞2)	(囃子詞5)	(囃子詞1)	(囃子詞5)

4. 藍靛ヤオ婚礼歌における対唱の規則及びその行為方式

4-1. 基本的規則——二声部輪唱

雲南省の河口、文山などでは、藍靛ヤオの復唱型民歌が集団の対唱、輪唱あるいは斉唱の方式で歌われている。このように、集団のインタラクティブな演唱方式を通じて、曲を繋げて「復唱」の構造より長くて複雑な内容を構築する。よって、復唱から創られた「無詞歌」の音効を強化させることを可能にした。

上述した婚礼儀式に含まれる集団対唱の過程を下記の表にまとめる。

表3:

儀礼の過程	演唱方式と内容	演唱者、プロンプター	演唱の場所	演唱の時間	注
攔路	復唱、集団対唱、輪唱『攔路歌』『謝罪歌』	通りかかった村の歌手、迎親グループ(大仲人等)	村の出入り口	嫁を迎えに行く途中	迎親の前に、あらかじめ通りかかる村に知らせること。
進門	復唱、集団対唱、輪唱『進門歌』	新郎側の仲人、介添人計4人、新婦側介添人4人	新婦側の家前、三重の敷居	新婦側の家に入る前	新郎だけが家に入ることができる。他の人が敷居を越えてはいけない。
	復唱、集団対唱、輪唱『敬酒歌』	若い女の介添人2人、若い男の添え人2人	新婦側の家の外	新婦側の家に入ったとき	
秤肉	復唱、集団対唱、輪唱『秤肉歌』	新婦側の司会者と新婦側の仲人、男性の介添人と女性の介添人が対唱。	新婦側の家の内外	新婦側の家に入ったとき	
進酒	復唱、集団対唱、輪唱『罐罐歌』	同上	新婦側の家	新婦側の家に入ったとき	
親迎(1)	復唱、集団対唱、輪唱『親迎歌』	年上、年下の介添人が、異性の介添人と対歌。各側に2人で、加勢することができる。プロンプターが歌書をもって提示する。	1日目に、新婦側の司会者が上座に、大接客が左右に座る。新郎側の仲人が下座に、副仲人と年上、年下の介添人が左右に座る。翌日に座席を変える。	新婦側の家に入ったとき	新婦側が引き留める意を示す。新郎側が新婦側一家の平安、健康、豊作を祈る。
親迎(2)	復唱、集団対唱、輪唱『親迎歌』			翌日の午前	

儀礼の過程	演唱方式と内容	演唱者、プロンプター	演唱の場所	演唱の時間	注
分別	復唱、集団対唱、輪唱『分別歌』	門内の新郎側司会者、介添人と門外の新婦側仲人、介添人と対歌。	新婦側の家	新婦側の村を離れる前	
酬唱	復唱、集団対唱、輪唱（混唱ができる）『問答歌』	双方が対唱。	帰る道	新婦側の村を離れる前	

上記の表に、2日間の婚礼で演唱された儀式歌と坐歌堂に関わる9つの重要な部分をまとめた。その中に現れる民歌の演唱方式に対して、分析を行いたい。

演唱の過程をみれば、婚礼儀式における対歌は、1句対1句のような問答ではなく、片方が歌ってから、片方が直ちに答えるような二声部の輪唱となることが分かる。この輪唱では、固定の「カノン（複数の声部が同じ旋律を異なる時点からそれぞれ開始して演奏する様式の曲）」がなく、応答する一方がいつ歌に入るか、いつ終わるか規則がない。報告者の話では、この類いの歌は、男女双方が各14字の歌詞、計28字を歌わなければならない。また、繰り返して、計56字歌う。演唱の過程において、対唱する双方の間にはある種の合意ができています。新婦側が歌い始めたとき、「相手側が1分間歌ってくれれば、こちら（新郎側）ではもう何を歌っているか分かるようになった。新婦側が歌い終わるまで、こちらは答えることができない。聞きながら、答える（1句聞いて、1句答える）。……相手側が1句を歌い終わってから、こちらが答える。2句目が終わって、また答える。相手側が完全に歌い終わるまで聞くと、時間が足りなくなる」。それで、主唱側は1段歌い終わってから、応答側はまだ歌っているなら、応答側が歌い終わるまで待つことなく、直ちに次の段落に入って歌うことができる。このように繰り返して、対唱が終わるまで続く。輪唱が終わるまで、時間が少なくとも20分ぐらいかかる。

4-2. 婚礼現場の対歌：輪唱＋重唱＝混唱（残響）

新郎側の迎親グループが新婦側の家（あるいは村）に到着した際、迎える側と見送る側では、対唱の方式が変わり、新郎1組対新婦1組の1ペア対唱から男性2人对女性2人の多ペア対唱となる。室内では新婦側の司会者と新郎側の仲人2人が対唱をし、室外では介添人たちが男性2人对女性2人の多ペア対唱をする。介添人たちの対唱では、新郎側の人新婦側に相応した人と対唱する。一見すれば、男性介添人2人と女性介添人2人が対唱をするように見えるが、その中の1人が中心となり、年上の男性介添人と年上の女性介添人が最初に対唱をし、年下の男性介添人と年下の女性介添人が加勢する。2句14字の歌詞（囃子詞が含まれていない）、計28字を歌う。次に、年下の男性介添人と年下の女性介添人が対唱をし、年上の男性介添人と年上の女性介添人が加勢する。このときも、計28字歌う。このように、年上の男（女）介添人が中心に対唱をする際、年下の男（女）介添人が加勢する。片方の2人が歌うとき、片方の2人が加勢することになる。年上の男性介添人、年下の男性介添人、年上の女性介添人、年下の女性介添人がそれぞれ1回主唱の機会を持つ。また、周りの若い男女も加勢することができる。

対唱する際、各ペアの内部で輪唱の方式が採用されている。通常、新郎側が先に歌い、新婦側が後で歌う。一方が歌ってから、もう一方が少し時間を置いて歌う。双方が各自の歌を歌い、互いに時間をあける。各自はまず14字を歌い、28字からなる1段が歌い終わってから、次の1段の28字を歌う。2段落で計56字である。

4-3. 単一声部における「主唱＋従唱（加勢）」

上述した各組の対唱において、双方に各自の主唱歌手がいる。周りの人が多い場合、他の若い男女も各主唱者に加勢することができる。加勢する方法として、主唱者が歌い始めてから、加勢者が直ちに入って、両者が同じ内容を歌うことである。主唱と従唱の間隔は数秒間しか離れていない。このように、各組の対唱の内部で、対唱による双方の輪唱と主唱者・加勢者による輪唱が重なり、複合性のある音響となる。また、室内と室外に多組の

対唱が同時に歌われているため、その場で巨大な「混唱」の流れとなる。そのほか、何組もの歌手が同時に歌っているため、すべての演唱時間を半分程度に減らすことができ、初めから終わりまで同じ内容を繰り返して歌わずに1度だけで終われる。

4-4. プロンプターの役割

輪唱する場合、プロンプター（「歌師」）も自分の役割を果たしている。自分の豊かな経験と知識をもって、歌曲の進行を把握する。彼らによる提示は7字を基準にするもので、そうでないと、内容が不完全となる。と同時に、どんな内容を提示すべきか、どんな内容を提示できないか、どれが固有の唱詞か、どれが歌師による即興のものか（調査対象者の話によれば、「即興は技術の高いものと見られる」とのことである）、すべて彼らに把握されている。

5. ヤオ歌対唱の基本パターン及びその変形

ヤオ族民歌における主な対唱の方式とその規則を下記の4種類の基本パターンと変形にまとめる。

5-1. 第1種類（基本パターンその1）：

情歌。集団対唱。男性が1段を歌って（A）、女性が1段を歌う（B）。互いに歌と歌との間隔を開け、呼応性のある主、従関係となる。しかし、二声部の重唱要素がない。

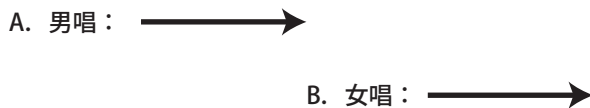


図12. 基本パターン1

5-2. 第2種類（基本パターンその2）：

ヤオ族婚礼の事例。1組多人数輪唱。男性が1段を歌って（A¹）、女性が1段を歌う（B¹）。互いに重なり、完全に間隔を開けることがない。と同時に、呼応性のある主従関係と非規則性の「混唱」の性格をもつ二声部重唱の関係を含む。



図13. 基本パターン2

5-3. 第3種類（変形パターンその1）：

ヤオ族婚礼の事例。1組多人数輪唱、従唱。第2種類のパターンに基づき、A¹、B¹の2つの声部が各自に多人数の従唱に加わり、通常の合唱と異なる混唱（あるいは非典型的合唱）となる。

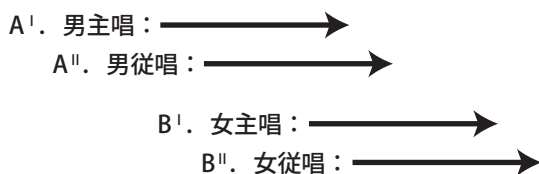


図14. 変形パターン1

5-4. 第4種類 (変形パターンその2) :

婚礼。輪唱、従唱、重唱と混唱。

第1層：1組4人輪唱 (A^I. + B^I.)

第2層：1組4人輪唱 (A^I.B^I.) + 多人数従唱 (A^{II}.B^{II}.) = 重唱と混唱 (A^I.B^I.A^{II}.B^{II}.)

第3層：多組 (A.B.C.D.E.F.) 4人輪唱 (A.A^{II}.B.B^{II}.C.C^I.D.D^I.E.E^I.F.F^I.)

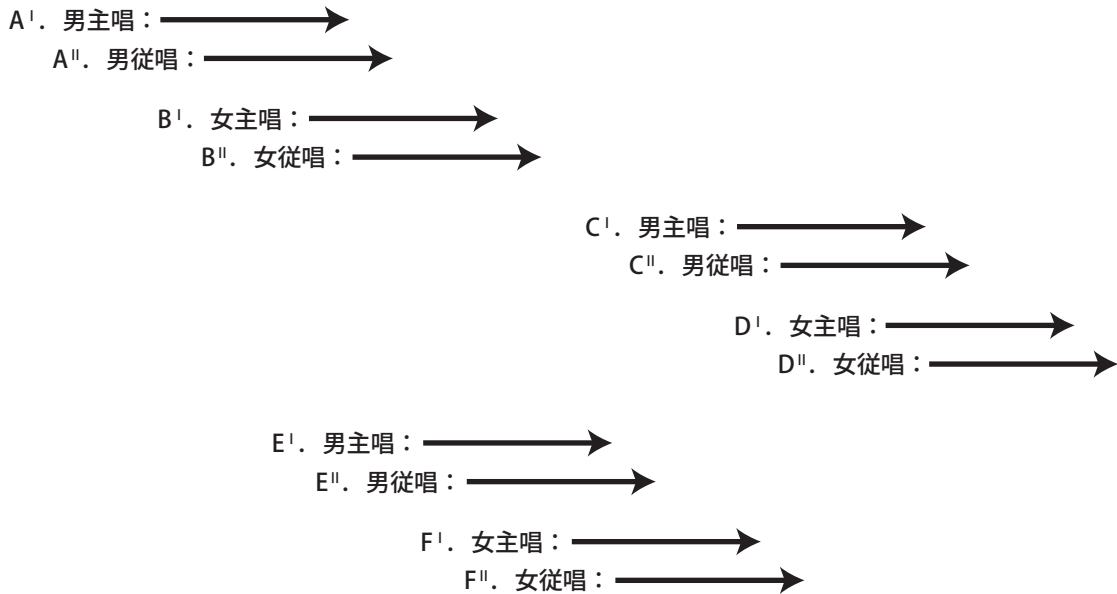


図15. 変形パターン2

6. 婚礼歌の儀式的機能と役割

藍靛ヤオにおける婚礼儀式歌の研究では、主体の演唱行為で構築された芸術の空間に注目しなければならない。また、本稿の音楽民族志に現れたヤオ族の伝統儀式は音楽、舞踊と同型同構造で、巨大で複合的な社会構造の要素をもっている。その婚礼儀式歌が宗教と民間儀式の環境に「内包」、再構築されたため、その果たした役割を言挙げする必要がある。

伝統の社会民俗において、人生儀礼が重要な位置を占めている。特に、誕生・成年・婚礼・葬儀の四大儀礼は、人間が成長する4つの重要な段階を意味している。

通常、人生儀礼は「通過儀礼」と密接な関係をもっている。宗教人類学界では、アルノルト・ファン・ヘネップ (Arnold Van Jenepp 1873-1957) の「通過儀礼」に関わる定義が採用されている。「場所、状態、社会的な位置、年齢の変化に伴い、実施される儀礼」で「分離 (separation)、過渡 (あるいは移行 liminality)、統合 (reintegration) という3段階に分けられる。最初の分離段階では、個人または集団が今までの社会構造にあった位置から、あるいは文化の状態から離れる。中間の移行段階では、儀式の主体 (過渡者) の状態が定まらなくなり、経過した領域にも過去あるいは将来の状態の特性が見られない。第3段階で、統合が発生したのである。この時期の儀式主体が再び安定した状態にあり「構造上」の権利と義務が与えられる。人々は彼らの行為を認められている規則と道徳の規準に従わせる」⁽¹²⁾。藍靛ヤオの婚礼において、昨日 (分離段階) に官僚と庶民、男性と女性、新郎 (新婦) と来客など身分の違う人たちが、本日 (過渡段階) の婚礼で分け隔てなく、一緒に歌ったり踊ったりする。翌日 (統合段階) になると、官僚は官僚、農民は農民、男性と女性の間で親密なふるまいができなくなる。新郎と新婦は婚礼の「過渡」が終わって、安定した状態の夫婦関係に入る。本稿で明らかにしたいことは、藍靛ヤオの婚礼儀

(12) ヴィクター・W・ターナー 『模稜両可：通関礼儀的閾限時期』、史宗主編 『西方宗教人類学文選』 (下巻) 上海：上海三連書店 1995年 pp.512-530 による。

式歌の個性あるいは特殊性が「過渡」段階の特徴をもつ婚礼儀式の期間に潜在し、上述した荘重で熱のこもった婚礼儀式歌の演唱現場に見られることである。

雲南藍靛ヤオの伝統社会において、婚礼と「度戒」は儀式音楽を含む内容の完全で豊かな伝統行事の一種として、代表的な伝統儀式と見なされている。その中で、婚礼は世俗性をもつ人生儀礼であり、「度戒」は瑶伝道教（ヤオ族の民間信仰と道教が融合したものであり、梅山教がその代表である）の入教儀礼と成人礼の両要素を共にもっており、両要素が重なり、世俗性と宗教性の性格を帯びようになる。世俗性をもつ人生儀礼から見れば、婚礼は成人礼の延長と見なしてもよいと思われる。比較してみると、婚礼——「過渡」段階に現れた文化の個性あるいは特殊性も「簡唱型」（漢族民歌の要素を含む）と「復唱型」（本土民歌の要素が中心となる）の2種類のヤオ民歌が終始儀式の過程を貫いていることも「度戒」の儀式に見られる。換言すれば、儀式音楽の角度から見れば、異なる儀式の間では、儀式音楽の使用及び音楽の演唱行為において明らかな共通性をもっている。世俗性、宗教性をもつ儀式と各種の人生儀礼の間では、過渡段階の特徴が共通する⁽¹³⁾。このように、藍靛ヤオの伝統的儀式音楽の中に、世俗性、宗教性の要素が一体になって「外来——本土」の各種の芸態が融合している。これは、芸術文化の面からヤオ族伝統儀式の基本的な社会と文化の特徴を反映していると考えられる。

7. 儀式の空間：音声構造の社会的要因

民歌、婚礼歌の演唱行為は婚礼儀式の一部になったことによって、ある種の儀式空間を形成したのである。藍靛ヤオが復唱方式を運用する一般的要因とその機能に関して、ヤオ族音楽研究者の尹祖鈞が次のように指摘している。「復唱」には基本的類型が2種類ある。「回転唱」は採用される場合及び演唱の内容が「平唱」と同じである。曲調が長くて、歌うときに時間がかかるため、「回転唱」で対歌をしないのである。時間に余裕がある場合にだけ「回転唱」を歌うことによって、歌手の才能を披露する⁽¹⁴⁾。筆者の調査結果では、演唱の環境と演唱の習俗から見れば、河口藍靛ヤオにおける復唱の民歌は、少数の婚礼で歌われるほか、長年に渡って度戒・祭龍などの宗教儀式で歌われていないのである。当該地方のヤオ族はまれに「回転唱」を歌うといえるが、文山地方各県における藍靛ヤオの度戒儀式を見れば、ヤオ族歌女（「司香玉女」）が復唱型の民歌を即興演唱する場面は少ない。そのときの儀式は、雰囲気荘重で、時間が長いので、儀式内容の増加と演唱時間の延長を図るために、歌曲の構造を拡充して対唱、輪唱の方式が採用されたのである。また、ヤオ族婚礼儀式においては、多組の対唱が同時に現れることがある（上述した河口の事例）。度戒の儀式では、復唱を採用するヤオ族の民歌と簡唱を採用する通常の民歌がヤオ族歌女、師公と道公によって同じ場所で歌われるため最も複雑な儀式の音響空間となる。そのため、この類いの宗教儀式で復唱型民歌を採用することは、婚礼歌の使用状況と同様にヤオ族民歌がもつ重要な儀式的機能を現している。また儀式における復唱型民歌の大量採用は、異なるヤオ族の伝統儀式に欠かせないものとなっている。さらに共通の文化心理という視点から見れば、上述した現象がヤオ族、ひいては道教（梅山教）を信仰する族群の内部に現れるもので、復唱型民歌のような藍靛ヤオを基幹の族群とする多民族の言語・文学・音楽文化のパターンは、ある程度安定した固態の核心文化層に潜在し、族群の社会倫理を統合して全体の文化を促進する機能をもっていると思われる。

しかし、後文で分析するとおり現在、漢化の程度が高い藍靛ヤオの居住地域では、儀式で復唱型民歌を歌う習俗が廃れて減少したため、この類いの民歌は、次第に民間儀式（例えば婚礼儀式）と普通の民俗行事で歌われるようになったのである。文化のグローバリゼーションと観光業の発展の影響を受けて、観光業が発展したほかの少数民族をまね演出に着目する、世俗性と流行性をもつ現代ヤオ歌の演唱習俗もヤオ族地域で広がっている。演唱の環境（特に伝統儀式の環境）が変わったため、伝統民歌の演唱習俗と内部の規範が次第に消えていく状況に、このような地域ではしばしば直面している。

(13) 楊民康・楊曉助『雲南ヤオ族道教科儀音楽』（簡体版）北京：宗教文化出版社 2014 年による。

(14) 尹祖鈞編『中国民間歌曲集成 雲南省紅河ハニ族イ族自治州河口民歌卷』（内部資料）1990 年 p.9 による。

むすびに

本稿は多民族（あるいは単一民族）から社会個人までの多層の族群文化心理及び社会性という視点から、安定、固態——非安定、非固態の社会行為及び芸術文化の形態を分析することによって、藍靛ヤオ民歌の演唱における人（社会）と文化との関係を説明することを目的とする。本稿が解釈する方法は客観的なものであるが、解読する対象及びその表現形式に主観的、地方的な文化の様態を反映しようとしている。

ヤオ族の民歌演唱は、現在でも民間の婚礼儀式、祝日の対歌などの伝統行事で歌われ、自発性、内部の操作性などの特徴をもつ。このことは民間の口頭伝承が発展する法則と一致する。これは当該地域ではビジネス演出、観光演出、学校の伝承教育など外力による行為がまだなされていないので、この類いの伝統を継承することが可能であるためである。もちろん、政府側、学界側による口頭非物質文化遺産保護の活動に操作の余地が残るが、文化を保護・研究する大切な契機でもありと考えられる。ヤオ族伝統音楽文化の研究者にとって、この契機をうまく活用できるかどうかは、われわれが今従事しているヤオ族音楽の「非物質文化遺産」保護の成果にかかろう。

過山ヤオ『盤王大歌』の版本と演唱の特徴

湖南省永州市藍山県瑶族文化研究学会
(著) 馮 栄軍、趙 金付、盤 栄富

神奈川大学非常勤講師・京都大学 (学振 PD)
(訳) 濱田 武志

『盤王大歌』は、ヤオ族の人々の尊い芸術品であり、民間の百科事典であり、民間に所蔵された、神聖で宝物のような書物である。『盤王大歌』は、ヤオ族の人々の知恵や思想、観念、文化・芸術、社会生活を主要な内容としており、森羅万象を含んだものである。同書の中には、ヤオ族の伝来の自然観や、人類の起源の説話が含まれており、ヤオ族の祭祀儀礼やヤオ族の信仰対象である神祇についても記述されている。このように、『盤王大歌』は高い研究価値を有しているといえる。

1. 過山ヤオ『盤王大歌』の版本の特徴

『盤王大歌』はヤオ族の民間の「還願」(願解き)儀礼において、人口増加、五穀豊穰、人間・家畜の繁栄を保護している三州三廟聖王に対して返礼を行い、陰府と陽間を祝賀する、重要な経典である。

藍山の過山ヤオの「還願」儀礼は、4つの儀礼から成り立っている。すなわち、「摧春願」・「元盆願」・「招兵願」・「盤王願」(「歌堂良願」とも呼ぶ)である。「盤王願」以外の3つの「還願」儀礼が行われる際には、祭場に「靈宝天尊」・「道德天尊」・「太歳天尊」……「刀兵祖師」と、4点の「行司」の神画が掛けられ、合計18点の神画が掛けられる。これらの事実は、ヤオ族が初期の段階で道教を受容していたことを物語っている。

フランスのジャック＝ルモワヌ (Jacques Lemoine) 教授によれば「ヤオ族の道教は今世紀に至るまで、六朝時代 (西暦222～589年) の漢族の道教集団で行われていた、度戒儀礼の伝統を保存している」という⁽¹⁾。過山ヤオへの道教の伝播は遙か昔にさかのぼり、今日に至るまで早期の伝統を保存している。過山ヤオの道教は、道教の歴史を研究する上での生きた化石である。

藍山の過山ヤオの「還願」儀礼において「摧春願」・「元盆願」・「招兵願」儀礼の祭場のしつらえ方や、祀る神々、唱える経典からは、濃厚な道教的内容をはっきり見て取ることができる。(以下、儀礼の内容を具体的に述べる)：

「招兵願」儀礼の後、「盤王願」(歌堂良願)を始める前に、祭壇を新たに配置する必要がある。神画を祭壇から下ろして「聖袋」に入れて取返し、供物や供物台もすべて交換する。祭壇に「紅羅段」を掛け、供物台に「四脚牲頭」(豚)・「龍江清水」・「蓮花酒碗」・「油麻粿粿」を供え、供えた「油麻粿粿」に36本の切り紙で作った花を挿し込む。「太白明香」を供え「黃杆串錢」を掛ける。これらの厳粛な装飾は、原始宗教としての雰囲気漂わせている。このことから『盤王大歌』は、おそらく春秋末期、道家から道教を受容したのと同様に創始されたものと推測される。

藍山の過山ヤオが秘蔵する『盤王大歌』は、清代に謄写されたものである。各版本は互いにほぼ一致しており、上下2冊からなっている。

上冊は23段の歌詞と4つの「天堂歌」曲によって構成されている。第1段は「起声唱」、「齊入席」、「隔席唱」、「論娘唱」、「日出早」、「日正宴」、「日正中」、「日正斜」、「日落流」、「日落鳥」、「夜深深」、「夜黄昏」、「天星上」、「天上星」、「大星上」、「大見怪」、「日亮亮」等の19個の小段により構成されている。第2段は「天地動」、第3段は「天柱倒」、第4段は「天暗鳥」、第5段は「北辺暗」、第6段は「洪水発」、第7段は「雷落地」、第8段は「葫蘆生」、第9段は「葫蘆熟」、第10段は「洪水尽」、第11段は「為婚了」、第12段は「更会分」、第13段は「造天地」、第14段は「置天地」、第15段は「劉王種竹」、第16段は「唐王出世」、第17段は「信王出世」、第18段は「盤王起記」、第19段は「色娘早」、第20段は「随橋上」、第21段は「秀才修国伝天下」、第22段は「大盤州」、第23段は「小

(1) Jacques Lemoine 「论瑶族文化及有关问题」『瑶族研究论文集』民族出版社1988年 pp.189-200

盤州」である。4つの「天堂歌」は「洪水沙曲」、「逢閑曲」、「曲子監」、「荷葉杯」である。

下冊は13段の歌詞と3つの「天堂歌」曲により構成されている。第24段は「桃源閩山」、第25段は「魯班造寺」、第26段は「鄧古何物」、第27段は「彭祖郎老」、第28段は「木倒地」、第29段は「船成了」、第30段は「船到水」、第31段は「神去也」、第32段は「神意急」、第33段は「解神意」、第34段は「開籠放燕」、第35段は「滿天飛」、第36段は「取席歌」である（零散歌詞とも呼ぶ）。3つの「天堂歌」曲は「南花子」、「飛拋江南」、「梅花大碗」である。

祭祀儀礼を担う祭司は、『盤王大歌』の各段の歌詞を歌う前に、まず「上情意者」を唱えなければならない。36段の歌詞があるので「上情意者」を36回唱える必要がある。藍山県の過山ヤオが『盤王大歌』を歌う歴史は大変古く、いにしえより代々傳承され続けてきたものである。口頭で伝授される祖師の教えに基づいて、祭司は自分自身で「上情意者」を創作して唱える。歌詞の段分けも「上情意者」の程序に従って分けられる。

『盤王大歌』の版本は、本文が短く縮約された形で書かれている。聡明なヤオ族の先人は、本編の文の長さを縮める巧みな手法を編み出した。過去においては竹簡を節約するため、現在においては紙を節約するため、このような書き方をするのである。例えば、第1段の初めの、

人話郎村歌堂到、踏上船頭聽后（来／行）
郎小聽声又聽后、聽得娘来郎也（来／行）

という七言の句からなる歌詞は「来」と「行」の2字を並べて文末に記すことで、もともと8句あった歌詞を4句に縮約している。さらに興味深いのは、『歌堂良願』において、演唱を行う祭司が、祖師の伝授に従って、歌詞を問答形式に変えて交互に歌う点である。

元の歌詞：

人話郎村歌堂到、踏上船頭聽后（来、行）
郎小聽声又聽后、聽得娘来郎也（来、行）

直された後の歌詞：

唸話唸村唸堂到、唸上唸頭唸后（来、行）
唸小唸声唸聽后、唸得唸来唸也（来、行）

「唸」とはすなわち「什么（=疑問詞。「荷」）」である。実際に直された後の歌詞は以下の通りである：

問：什么話什么村什么堂到、什么上什么頭什么后
（来、行）
答：（人）（郎）（歌）、（踏）（船）（聽）
問：什么小什么声什么聽后、什么得什么来什么也
（来、行）
答：（郎）（聽）（又）、（聽）（娘）（郎）

「什么」の2字を縮めて「唸」1字で表記している。そして、4句で書かれた歌詞は16句の歌詞として歌われる。その結果、形式も多様で、押韻の変化も頻繁な結合様式をつくることのできるものである。句の形式は「七・七・七・七（七言上下句）」、「五・七・七・七」、「三・七・七・七」のように、自由に合わせたり分けたりすることができる。このような『盤王大歌』の創作芸術は、研究の価値を有するものである。

過山ヤオの歌詞には独特の言葉遣いが見られる。それは話し言葉のヤオ語と全く同じとは限らず、歌われる歌詞は濃厚な味わいをもっている。歌詞は通常のヤオ語で読むのではなく、一種の特殊な「師話」をもって歌う。一般的には、ヤオ語が話せる人が必ずしも歌詞を理解できるとは限らない。（話し言葉の）ヤオ語で歌おうとすると、思うように歌えずとても歌いにくいだが、しかし「師話」で歌った歌詞は、情感と韻律の美しさの両方を兼ね備えている。歌詞は単純であるが、言葉遣いは独特で工夫が凝らされており、比喩表現や形容詞、隠喩、掛詞が豊富に現れる。人は物に喩えられ、天地・日・月・花鳥樹林・風雲雷霧・山水田園が巧みに比喩表現に用いられる。呼称はすべて尊称が使われ、日常のありきたりな表現は用いられない。人を呼称する際には、よく「哥・妹」が使われ、他称には「仙・偶・娘（姑娘）・錦陽・情仙・七仙・九龍・姣容」などが使われ、自称には「苗・単・賤・寒・郎・崽（仔）」などが使われる。地方名や村の名前も俗称ではなく、「歩州・天国・京海・広州・広県」のような、広義の名称や尊称を用いる。

藍山の過山ヤオは『盤王大歌』を神聖で貴重な書物と考えているため、普段は、読みたいときに好き勝手に読むことができるようなものではない。祭祀儀礼の

前後に『盤王大歌』の持ち主は、恭しく『盤王大歌』を本箱に収めるのである。「歌堂良願」では、次のような順番で儀礼を行う：

還願靈師は東庁にひざまずいて大神父母を3回招請する。流楽三州三廟聖王をすべて立たせ、歌と曲を聞かせ、三姓単郎と三姓青衣女人を枚挙する。男性を前へ出させて歌わせ、三廟聖王へ穀花米酒を献じ、神々の座席の上席に座らせる。立派な宴席に、七星銀盞、七星銀筷、金鷺小瓶、光油細菜（＝野菜）、目嘴小双（＝鼠の肉）……などの七碗盤筵が供えられているのを確認したら、30 杯の白紙銀錢を支払う。さらに30杯の白紙銀錢を支払って、36 段の歌と七任天堂歌曲を歌うように招請する。そして、劉三妹を招請して、静かな声で、しかし明瞭な口調で、坐席老人・坐席后生・青衣女人に歌と曲を歌わせるよう請願する。そして最後に、陰府聖王を招待して賀して、儀礼が完了する。その後、還願靈師は「碼頭意者」を唱え「意志」を伝えた後、再び『三番』を唱える（以下、原文を提示）：

第一輪

一個還願家主、也今請客、上席請流楽貴客、下席請得貴客女、請得大哥也会是大人、請得叔公也是大人、請得大舅也是大人、請得大孫也是大人、東方坐上、南方坐下、無能得比、比能青山樹木排行、吃菜比能牛馬吃草、吃肉比能龍光過山、比能水推沙石、吃酒比能黃龍閃令、四行坐席老人、坐席后生、淹起龍門、斗起龍寺、大家起首行賀第一位宝書也。

第二輪

一輪過了、二輪以来、心中慌慌坐落人鄉、心中蒙蒙坐落人沖、坐着行中、站着行位、不曾行過筵辺、不知筵尾、不曾行過水辺、不知水路、不曾行過三期学堂門外、不曾行過九州学堂門外、不曾接劉三妹娘歌案歌曲、行到歌堂中道真言、坐着行中、站着行位、思着不唱、不是劉三妹娘歌案歌曲、行來歌堂地中、但唱三句賤言粗語、不過連州・行平・伏灵・福江・五旗兵馬、本祖家先心中之意、不過四行坐席老人、坐席后生心中之意、淹起龍門大家起首行賀第二保書也。

第三輪

二輪過了、三輪以来、手拿三寸横厘沙板、通過魯

班頭七郎王、魯班歌尾八郎王、打開劉三妹娘藤箱籠、請出36段歌詞、七任天堂歌曲、交把下席頭上坐席老人、坐席后生一朝一夜唱曲行賀三州三廟聖王、通得劉三妹娘衫胸衫袖里頭、請出陰声陽氣、龍如現声、得過四行坐席之人声氣游游、影過九州、声氣涼涼影過人鄉、声氣演演過九村、莫放声干氣落、声干氣落、声干氣落、三十六歌詞、七任歌曲難得完滿。大神父母所現。衆席之人淹起龍門、聞起龍寺、大家起首行賀第三任保。書也。

『三番』が唱え終わった後、還願靈師は書物を保管する袋から『盤王大歌』の上冊を出して、坐席老人と坐席后生に渡して歌曲を歌わせ、三州三廟聖王に対して祝賀の意を表す。

『盤王大歌』上冊の23段歌詞と4つの天堂歌曲を歌い終わった後、還願靈師は続いて『盤王大歌』の中の「拓榴嶺」歌詞を歌う：

拓榴生過拓榴嶺	拓榴生過拓榴山
人話石榴不生子	拓榴生子落青山
拓榴生過拓榴嶺	拓榴生過拓榴源
人話拓榴不生子	拓榴生子落山源
……	……

「拓榴嶺」は『盤王大歌』の上冊の最終頁に記された歌詞であるが、36段の歌詞に属さない、叙事的な歌である。歌詞の大意は『盤王大歌』の下冊に収められており、書物を手に取るに至るまでの道筋について叙述している。その道筋は次の通りである：

まず還願師の家から出発し、青山を一座通り、青山に沿って進むと溪流の源に至る。その源を発つと青山の山腹にある大きな崩れた斜面に至る。その斜面に沿って山から下りると、そこに大きな河があるので、その河の流れに沿って進む。大きな河原に出た後、さらに進むと川べりの大きな洞穴に至る。さらに河の流れに沿って進むとダムが見えるので、ダムの用水路に沿って歩くと、肥沃な田畑に至る。その田畑から都に行き、その都からまた州・県・郷・村を沿って、書を蔵する大院（＝複数の家族が住む集合住宅）に着く。大院から大きな門楼に入り、その門楼から広間に入り、広間から蔵書室に入り、台を踏みあがって本箱に至つ

て『盤王大歌』を取り出す。そして、本箱を離れて台から下り、蔵書室を出て、来た道をまた元に戻るのがある。

『柘榴嶺』の歌詞を唱え終わってから、還願霊師は起き上がり、蔵書の袋から恭しく『盤王大歌』の下冊を取り出し、坐席老人と坐席后生に渡す。

2. 『盤王大歌』の演唱の特徴

『盤王大歌』の36段の歌詞と7つの天堂歌曲は、「歌堂良願」儀礼の中で、還願霊師によって歌われる。先に「沙優啥沙優」という曲を歌い、次に各段の歌詞を歌う。曲調は優しく穏やかで、細やかな情緒は途切れることがなく、さまざまな感情が縋い交ぜとなり、せせらぎから水が注ぎこまれる様にも似た美しさである。歌娘と歌女が歌う歌詞は『盤王大歌』の中の36段の歌詞ではない。歌娘には決められた「還願歌書」があり、その内容は『盤王大歌』の36段の歌詞と似ている。同様に「経曲」もあり、賀王・賀聖・賀師・賀主のような賀歌が多数を占めしている。曲調は高らかで豪放であり、聞く者をうませることなく魅了し、音の高低は美しく調和し、真心のこもったものとなっている。その巧みで絶妙な音楽は、雄大にしてのびやかで、したたる水滴の奏でる音にも似た美しい音色である。歌娘と歌女が「仙拜」を歌うときは、まず「歌」を歌い、その後で「曲」を歌う。歌詞を歌い終わった後に「仙拜」の2文字を加えて演唱を終える。

藍山の過山ヤオにおいては、1首の歌詞は4部分からなり、都合8句歌われる。それぞれ第2句・第4句を歌い終わった後に、もう一度歌うのである：

人話郎村歌堂到、踏上船頭聽後來。
郎小聽声又聽後、聽得娘来郎也来。
歌堂到 踏上船頭聽後來
郎小聽声又聽後、後聽得娘来郎也来。
又聽後 聽得娘来郎也来。

第1句の末尾の1字は、歌わずに残しておいて、第2句を歌うときに先頭に付け加える。第3句は第1句の最後の3字だけを歌い、第4句は第2句の歌詞を歌う。このような歌い方は「疊唱」と呼ばれる。

「歌堂良願」儀礼は主に歌で先祖を祀る儀礼である。

鑼・鼓・笙・簫を用いて伴奏しつつ長鼓舞を舞う。その場は激しい熱気を帯び、祭祀は賑やかな雰囲気につつまれる。歌娘と歌女が施主と祭司に感謝する賀歌を歌い終わると、儀礼が終了する。

歌娘は、施主が「還願」儀礼を主催すること、及び、祭司が儀礼を行うことに対して謝意を表す。施主の家に対しては、家族・家畜が増え、五穀が実り多く、財産に恵まれ、幸福で円満な家庭となるようにと祝福し、祭司に対しては、万事つつがなく上手く行き、家族が増えて賑やかになり、家の外においては幸運に恵まれ、家の中においては何でも物が揃うようにと祝福するのである。以下に、歌詞の一部分を抜粋して紹介する：

来賀主、
娘少賤言賀主娘、
家主有心還良願、
門前石壁变成銀。
来賀主、
今日行来賀主郎（声）、
家主声声還良願、
五穀豊登千万年。
来賀仔（師）
来賀歌堂新掛師、
難為二位師爺引帶新師界經過七星八掛銀橋路。
年年人請下街来、
口吃珍珠多財宝、
銀盞双双落台下。
家主有心還聖願、
賀仔家中百様齊。
来賀仔
来賀歌堂对廟師、
对廟師人香門旺、
年年双信入香壇。

『盤王大歌』は歴代の祭司の創作を経て、そして民間の歌謡を集めることで作られたものであり、そして、還盤王願儀礼の際に盤王祖神の前で喜び歌われる歌である。中国湖南省のヤオ族が有する『盤王大歌』は、3種類の形式が伝承されている。歌詞の段の数はそれぞれ12段、24段、36段であり、内容の詳細さが互いに異なっている。歌詞が最も詳しいものは三千数百行の

分量に及んでおり、内容は豊富かつ多様で、盤姓を中心とする藍山県の過山ヤオが保存する最も完全な史詩(=歴史を記録してうたった詩)である。『盤王大歌』は「七任曲」という間奏曲を用いて吟唱される、ヤオ族の祭司が必ず歌う曲である。「任」は「層」という意味であり、「七層局」ともいう。「七任曲」の7つの曲は間奏曲であると同時に、儀礼の区切りの役割も果たす。つまり、『盤王大歌』を7つの大きな段落に分け、段落ごとに1曲が挿入されるのである。各曲は「不襯詞」を「歌団」とし、メロディーを強調する。歌い方を説明すると、まず1つの「歌母」を前奏として唱え、そして続けて正式の歌詞を歌う。歴史的起源から考証するに、おそらく当時は楽譜を記録する記号がなかったので、そのかわりに不襯詞を使うしかなかったのだろう。不襯詞を会得すれば、楽譜の演唱を修得したに等しい。従って、歌の冒頭にはすべて不襯詞がつけられている。発表者の考察によれば、『盤王大歌』の間奏曲は全部で9曲あるが、還願儀礼の際には「三六曲」と「牛角尖曲」の2曲は歌われない。この原因はまだまだ明らかでない。

七任曲の節回しは単純で、音域は数度から十数度と広くなく、吟唱のカテゴリーに属する。音調とリズムはメロディーを強調し、ヤオ族の歌謡の「那法」・「羅累」・「中留」の神髓を内に含んだものとなっている。一般的な奏法では、祭司が吟唱し、主旋律を担う楽器や打楽器による伴奏はない。基本原則としては各字がそれぞれ1音をもち、歌唱と朗誦が織り交ざった歌い方をする。場合によっては句の末尾で1拍置いたり、曲の末尾で1拍延長したりするが、節回しを引き延ばすことはあまりない。例えば、第2曲と第3曲は曲の速さが互いに異なるが、1、3、5という主音(=音階の最初の音)の曲中における変化・発展が一致している。第2曲は軽快で活発に聞こえるが、第3曲は緩やかなリズムに聞こえるので、感傷的で、過ぎゆく歳月を回顧するような、哀惜の心情を聞く者に惹起せしめる。第4曲と第6曲は互によく似ており、リズムが明快で、自由自在に吟唱できる。例えば第4曲の中にある4つの「五・五・六・六」(五言の2句と六言の2句)、及び第6曲の中にある5つの「五・五・五・五」は、朗誦しているかのような歌い方に聞こえ、聞く者にとって覚えやすい印象を与える。ただ、第4曲の「五・五・六・六」は音の高低差が7度なのに対し

て、後者は第6曲の「五・五・五・五」は音の高低差が8度である。以上に見たように、ヤオ族の祭司による歌曲の創造性は、さまざまな点に体现されている。『盤王大歌』はその全体を通じて、追憶、敬虔、祭祀、真実、信用、及び「神化」という民族的な特徴に満ちあふれていると我々は考えている。環境や地域、及び祭司の流派が異なるのに従って、吟唱も大同小異である。これに加えて、ヤオ族は自らの文字を持っていない。『盤王大歌』は口頭で伝承されてきたものを手書きで著した写本である。従って、同書中の文字とその読音は容易に判ずることができない。今後の探求と研究が待たれる。

ミエン語サバ方言の系統に関する試論⁽¹⁾

神奈川大学経営学部非常勤講師・日本学術振興会特別研究員 (PD 京都大学)
濱田 武志

【摘要】

中文題目：《试论勉语沙巴方言的系属》

拙文根据笔者在越南老街省沙巴县所得的勉语（勉方言）材料，试论沙巴土语（本文称为沙巴方言）和其他土语的系统发生关系。虽然调查还处于初步阶段，但我们发现沙巴方言具备着和已报告的各地方言共有的种种革新特征（shared innovation）。拙文揭示沙巴方言的几个革新特征，对沙巴方言和其他方言进行简单比较。

勉方言是均质性比较高的语言集团，难以找出最合适的勉方言谱系树，不容易判定哪一个方言和沙巴方言是最近缘的。关于各地方言的亲疏，需要探讨整个勉方言的内部关系，还有待于进一步的研究。

关键词：瑶族、勉语、勉方言、革新特征、系统发生关系、语言接触

1. 問題の所在

ミエン語（Mien language、勉語）の話者（中国名は瑶族^{ヤオ}、ベトナム名はザオ族）は、頻繁かつ広範囲にかけて移動を行っている。ミエン語の分布域は、中国大陸南方から東南アジア北方にかけて、山地部を中心として広がっている。ただ、話者の移動過程は大まかに、「中国大陸から各地を経て東南アジアの各地域にまで、重層的に分布を広げた」という程度以上には解明されておらず、移動経路の詳細が言語学的観点から論ぜられることは少ない。

例えば家先単などの形で伝承される、言語体系外のさまざまな情報は、移動・拡散の歴史の推定に有効に働く。一方言語学（歴史言語学）もまた、言語体系が異の根拠に基づく歴史推定を傍証したり、言語体系外の知見が及ばないさらに古い時代の歴史の解明に寄与したりするための方法を有する。その方法の1つには、ミエン語同士の系統関係（分岐過程）を推定することが挙げられる。言語の相違を系統論的な観点から分析し、方言間の系統関係を推定し、言語の分岐過程を復元することができれば、民族集団の移動の歴史を復元するのに、有力な情報を得ることができる。

筆者は2016年8月～9月にベトナムのラオカイ（Lào Cai 老街）省サバ（Sapa / Sa Pà 沙巴（沙坝））県でミエン語ミエン方言（ユー・ミエン語）の一変種の調査を行った（以下、サバ方言）。サバ方言には他の諸方言との間にさまざまな共通点が見いだされることが把握されている。しかしながら、もとより均質性が比較的高い言語であるユー・ミエン語——以下、特に断らない限り、本論では「ミエン語」はユー・ミエン語を指す——は、方言同士の親疎を論ずることが難しい。系統とは歴史の共有関係を表現したものであるため、系統の推定は「共有された改新（innovation）」が有力な根拠となる。サバ方言のある改新は、ある方言にもまた観察されるものの、別のある改新はまた別の方言にしか観察されない、ということがある。従って、想定し得る系統樹が複数あり、最適解を

(1) 本論は日本学術振興会科学研究費補助金「華南の諸言語の系統関係を中心とする通時的研究」（研究課題番号：16J07154）の成果の一部を含んでいる。ベトナムでの言語調査においては、Duong Thi Thanh さんの御協力、並びに、内海涼子教授（大阪成蹊大学）、廣田律子教授（神奈川大学）の御指導を仰いだ。さらに、ヤオ族文化研究所において吉野晃教授（東京学芸大学）、丸山宏教授（筑波大学）、浅野春二教授（國學院大學）をはじめとする先生方からも、調査データについて御教示を賜った。本論執筆に際しては、平田昌司教授（京都大学）から御指摘を頂戴した。此処に衷心より御礼申し上げる。

絞り込むことが難しい。

本論では、現段階で筆者がサパ方言について得ている言語体系上の情報をもとにして、サパ方言が既知のいずれの方言と近縁関係にある蓋然性が高いか検討する。

以下に、今夏に行ったサパ方言の調査の概要を示す。

本調査では、サパ県 T 村在住のザオ族男性の P 氏（1986 年生）を主なインフォーマントとして、ミエン語の語彙・文の聞き取り（媒介言語はベトナム語）を現地で行った。聞き取り時間は合計約 4 時間、アジア・アフリカ言語文化研究所の『言語調査票 2000 年版』をもとに作成した 468 項目の語彙調査票を用いた。

当該の村では住民の大半がミエン語の話者と推定される。ミエン語の保存状態は極めて良好であり、10 歳に満たない子供が母語としてミエン語を習得し、子供同士の会話を含めた日常的会話でミエン語が用いられている。老年層ではベトナム語の運用能力が低めの住民もいるが、40 代以下のミエン語話者は、ミエン語とベトナム語のバイリンガルに近い状態にあるのが一般的であるように見える。

サパ方言の調査は今なお初歩的段階を脱し得ず、音韻解釈もいまだ成し終えていないことは固く断らねばならないが、現時点で得られたデータをもとにサパ方言の音韻体系の構築を試みるならば以下のようになる：

・ 声母 (onset)

p		b	m	m̃	f	w
t	tʰ	d	n	ñ		
			l	l̃		
ts	tsʰ				s	z
c		ʃ	ɲ	ɲ̃		j
k	kʰ	g	ŋ			
ʔ	h					

・ 韻母 (rhyme)

a	ai	au	am	an	aŋ	ap	at	ak
		iau			iaŋ			
	uai							
	ɛi	ɛu	ɛm	ɛn	ɛŋ			
					iɛŋ			
	uɛi							
ɛ					ɛŋ			
		eu		en		ep	et	
ɔ			ɔm	ɔn	ɔŋ			
o					oŋ			
i		iu	im	in	iŋ			
u	ui			un	uŋ			
ə	əi	əu					ət	
iə	iəu			iən		iəp	iət	
uə				uən				
ŋ	(成節的鼻音)							

・声調 (tone)

1 声 33	2 声 31
3 声 454, 45	4 声 232
5 声 21, 213	6 声 <u>22</u>
7 声 <u>55</u>	

(6 声、7 声は音長が短く、音節末に -ʔ、-p、-t、-k のいずれかを伴う)

本論では、サパ方言と他の各地のミエン語との関係について考察を試みる。なお本論で用いる調類番号は、毛宗武 et al. (1982) に準拠する。すなわち、1、2、3、4、5、6、7、8 声はそれぞれ、1984 年制定のローマ字正書法における、無符号、-h、-v、-z、-x、-c、-(q)v、-(q)c に対応する。また Doãn et al. (1992 [2013]) の用いる調類番号は、便宜上毛宗武 et al. 1982 のものに統一した上で引用する。

2. 「喉頭化」現象について

サパ方言では、ミエン語で一般に舒声韻（音節末が閉鎖音でない音節）で実現する 6 声の形態素が、一律に声門閉鎖音 [-ʔ] を音節末に伴って実現している。さらに、8 声の形態素のうち、一般的なミエン語では音節末に [-ʔ] が立つものは、6 声との間に音韻的な対立を喪失していると考えられる（ただし、6 声と 8 声の合流を確実に証明するための最小対立は未発見）。本論では、このような声門閉鎖音の添加と音節全体の音長の短縮を伴ったこの通時的音変化を、仮に「喉頭化」と呼ぶこととする⁽²⁾。

表 1. サパ方言における 6 声・8 声の音声的实现形式 (参考: Purnell 2012)

語 釈	サパ方言	Purnell (2012)
食べる	[nɛnʔ ₂₂]	nyanc (6 声)
売る	[maiʔ ₂₂]	maaic (6 声)
姉	[tɔʔ ₂₂]	dorc (6 声)
鳥	[noʔ ₂₂]	norqc (8 声)

このような音変化が、ベトナムの国家語（共通語）であるベトナム語と何らかの関係性を有している可能性がある。ベトナム国内のミエン語話者の多くは、ベトナム語との二重言語生活者であると考えられる。そしてベトナム語では、thanh nặng（重い声調。中国語学でいう所の陽去に相当）が、他の声調に比して音長が短く、なおかつ音節末尾に声門の閉鎖を伴うことが知られている (Thompson 1987: 41)。従って、ミエン語の 6 声とベトナム語の thanh nặng という、調値の互いに類似した声調同士の調音様式が接近する結果となったとしても、不自然とはいえない。

ベトナム国内の他地点のミエン語の報告はいまだあまり豊富ではないが、盤美花 (2013) が報告するラオカイ省の方言（以下、ラオカイ方言）でも、サパ方言とほぼ同様の現象が報告されている。

Doãn et al. (1992 [2013]) が報告する、旧バクタイ (Bắc Thái 北太) 省 (現タイグエン (Thái Nguyên 太原) 省) の羅剛ヤオ (Đào Lô Gang. 以下、タイグエン方言) は、「6 声に喉頭の緊張が見られる」という記述があるものの、しかし語彙一覧では、8 声の語の音節末尾に上付きの 「ʔ」 が逐一記されている一方で、6 声の語には 「ʔ」 が記されていない。タイグエン方言では、6 声と 8 声の合流はなく、また 6 声の音節末には -ʔ が存在しないと推定される。

その一方で、ベトナム語の話されない中国国内にも、喉頭化に似た現象が観察される方言が存在する。刘鸿勇 (2016) が報告する中国広東省乳源瑶族自治县の方言（以下、乳源方言）では、本来 6 声が期待される語のうち、一部は 5 声で実現し、その他は 7 声や 8 声とも異なる「第三の入声」（本論では 9 声でこれを記す）として実現し

(2) 吉川 (2016: 78-80) が報告する藍山方言の「喉頭化」は、6 声ではなく、3 声において発生しているものである。また藍山方言での喉頭化は、サパ方言の場合と異なり、入声韻との合流を伴っていない。

ている⁽³⁾。この第三の入声では、韻尾が -m、-n、-ŋ、-w であった語は、韻尾が閉鎖音化して -p、-t、-k、-p に変化して完全に入声韻化しており、ゼロ韻尾であった語は音節末に -ʔ が付加されている。乳源方言に見られるこの通時的音変化は、当然ながら、ベトナム語に原因を求めることができない。

表2. 乳源方言における6声の音変化(例外:「かさ」「豆」)

語釈	乳源	Purnell (2012)
霧	məp9 (p.28) məu5 (p.63; 212)	mouc
雨	biuʔ9	mbiungc
箸	tsəp9	zouc
七	siʔ9	siec
(第)二	niʔ9	nyic (異形: ngic)
太った	cəʔ9	junc
痩せた	cæʔ9	jaic
見る (<望)	muaʔ9	mangc
食べる	niət9	nyanc
芋	həp9	houc
姉	təʔ9	dorc
固い	ŋæʔ9	ngaengc
売る	mai5	maaic
たけのこ	biai5	mbiaic
死ぬ	tai5	daic
病	pəŋ5	baengc
なまけた	luei5	lueic
問う	nai5	naaic
かさ	lap9	lapc
豆	təp9	dopc

(刘鸿勇 2016 の中で複数の形が提示されていた場合、出現頁数を横に示した)

その一方で、中国湖南省藍山県の方言(以下、藍山方言)のように、8声の音節末の -ʔ が失われており、しかも、6声と8声が合流を起していると考えられる方言が存在している(吉川 2015; 2016)。藍山方言は韻尾の合流が著しい方言であり、鼻音韻尾の三項対立 (-m、-n、-ŋ) は完全に合流している。閉鎖音韻尾 (-p、-t、-k) は7声でことごとく -ʔ に変化し、8声では全く脱落している。

表3. 藍山方言における6声・8声の音声的実現形式(参考: サパ方言)

語釈	藍山	Purnell (2012)	サパ
雨	bjug6	mbiungc (6声)	biuŋʔ6
売る	mai6	maaic (6声)	maiʔ6
姉	tə6	dorc (6声)	təʔ6
遅い	twəŋ6	donc (6声)	təŋʔ6
箸	tsəu6	zouc (6声)	tsəuʔ6
七	si6	siec (6声)	siəʔ6
字	dzaŋ6	nzaangc / nzangc (6声)	zəŋʔ6
食べる	ŋəŋ6	nyanc (6声)	ŋəŋʔ6
からい	bja6	mbiaatc (8声)	biat6
豆	tə6	dopc (8声)	təp6
鳥	nə6	norqc (8声)	nəʔ6
八	hja6	hietc (8声)	hiət6
ナイフ	dzu6	nzuqc (8声)	zuʔ6
狭い	hɛ6	hepc (8声)	hep6

(3) 6声が5声・9声に分裂する基準については、刘鸿勇(2016)は明言していない。5声化した6声の語には、韻尾が-iであるものが多いように見受けられるが「病」などの例外もあり、判然としない。韻尾が-iであっても「痩せた」のように9声化している例もある。なお李少梅(2008)の報告する乳源方言と刘鸿勇(2016)のデータとの間にも、入声韻化の状況について異同があるようである。

ここで問題となるのは、サパ方言の「6声と8声が合流して、なおかつ喉頭化している」という現象が、どのような歴史的変化の結果として生まれたものか、である。サパ方言の言語史として、いくつかの音変化の過程が想定可能である。

1つは、6声が喉頭化を起こした上で、さらに6声と8声が音韻的対立を喪失したというものである。この場合、サパ方言はタイグエン方言のような状態から、さらに-ʔ韻尾において6声と8声の音韻的対立を喪失したことになる。この言語史をシナリオ①とする。ほかにも、8声が音節末の-ʔを喪失した上で6声と合流し、さらに6・8声が喉頭化を起こした、という推定も可能である。この場合は、サパ方言は藍山方言のような状態から、6・8声が喉頭化を起こしたという言語史を想定することになる。この言語史をシナリオ②とする。このように、サパ方言で起こった変化がどのような順序で発生したのかについて、複数の言語史が描き出され得るのである。

シナリオ①では、A、Bの順で音変化が発生したと考える。

- A. 6声の喉頭化
- B. 6声と8声の合流

一方シナリオ②では、a、b、cの順で音変化が発生したと考える。

- a. 8声の-ʔの消失
- b. 6声と陰声韻化した8声の合流
- c. 6声・8声の喉頭化

このとき、変化A.と変化c.において「喉頭化」の意味は互いに異なる。変化A.では、一般に6声で実現する形態素のみが喉頭化しているのに対して、変化c.では一般に6声で実現する形態素に加えて、一度は-ʔを失って6声と合流した8声の形態素までもが喉頭化を起こしている。

どちらのシナリオが妥当であるかを判断する1つの方法には、サパ方言と系統的に近縁であり、かつ、各シナリオの途上にある変種を発見することが挙げられる。仮に、藍山方言やサパ方言との近縁性が認め得るような方言がいくつか発見されたとして、その方言が、6声が喉頭化しながら6声と8声が未合流であるならばシナリオ①が、8声が-ʔを喪失しながら6声と8声が未合流であるならばシナリオ②が、それぞれ有力になる。

サパ方言と藍山方言との間には、方言分類においてしばしば取りざたされる「韻尾の対立の保存と消失」という点で違いがある。ただ、韻尾の三項対立については確かに分類の基準としてしばしば重要視されるが(王輔世 et al. 1995: 14 など)、しかし、韻尾の対立の解消が他の音変化よりも常に系統論上で優位な位置にあるとは限らない。また湖南省南部では言語種や系統の違いを超えて韻尾が合流する現象が観察されている(濱田 2012a; 2012b)。藍山方言もまたこうした地域的特徴を、比較的遅い時代に獲得した可能性がある。

3. サパ方言と中国国内の方言との系統関係——主母音ɔの二重母音化を中心に

地点間の差異が比較的小さいミエン語の内部で系統を推定する、最も有効な方法はいまだ定かでない。語彙による苗瑤語(Hmong-Mien languages)の系統推定の試みには黄行(1999)や邓晓华 et al. (2003)があるが⁽⁴⁾、サパ方言の調査はいまだ計量的分析に堪えるだけの段階に至っておらず、先行研究の成果をサパ方言に応用することは難しい。

今仮に音韻体系を根拠とするならば、サパ方言の特徴として、一般的にoiで実現する韻母が三重母音ueiで実現すること、すなわち、主母音ɔが韻尾-iに先立つときに二重母音化するという音変化を挙げられる。

韻尾-iの前におけるɔの二重母音化が観察される方言は、藍山方言や乳源方言の他に、Shintani(2011)が報告

(4) 邓晓华 et al. (2003) は、苗瑤語全体の系統樹推定を試みた研究であって、ミエン語内部の細かい系統関係については沈黙している。

する中国雲南省金平県の方言（以下、金平方言）⁽⁵⁾、王輔世 et al. (1995: 571-572) と毛宗武 (2004) の報告する中国湖南省江華瑶族自治州湘江郷の方言（以下、湘江方言）と中国広西壮族自治区蒙山県長坪郷の方言（以下、長坪方言）が挙げられる⁽⁶⁾。ただし金平方言は、声母が軟口蓋音の場合にのみ、変化が観察される。

表4からは、Purnell (2012) では保存されている oi と uai の対立が、サパ方言や乳源方言、金平方言、長坪方言で失われていることが見て取れる。湘南方言は、*o* の二重母音化が発生しながら、「爪」の韻母が音韻的に独立性を保っている点で特異である。なおサパ方言の形式 *uei* が *oi* に対してより新しい形式であることは、Theraphan (1993) や王輔世 et al. (1995) などの支持する所である（ただし王輔世 et al. 1995 は、田口 1998 が指摘するように、方法論上の重大な問題を抱えている）。Theraphan (1993) のミエン祖語は **oi*、王輔世 et al. (1995) の苗瑤祖語は **o:i* を、この韻母の祖形としてそれぞれ再建している⁽⁷⁾。

表4. 韻尾 *-i* に先立つ主母音 *o* の二重母音化

	サパ	藍山 ⁽⁸⁾	乳源	金平	湘江	長坪	Purnell (2012)
日 (day)	n̄uei1	—	n̄uai1	hn̄oi1	n̄wa1	nwai1	hnoi
開く	k ^h uei1	k ^h wai	k ^h uai1	khwai1	gwa1	k ^h wai1	koi
海	k ^h uei3	(dai2)	(dai2)	khwai3	—	—	koiv
欲する (<愛)	?uei5	(ŋai5)	—	?oi5	※ wa5	—	oix
爪	guei4	—	※※ kuai5	gwai4 (p.168) gwai6 (p.172)	gwai5	gwai5	nquaiz

※毛宗武 (2004: 52) では ?wa5 と表記。

※※李小梅 (2008: 157) は nquaic。

これらの方言の中に、サパ方言との近縁性を認められるものが存在するか、以下考察する。

先述の通り、サパ方言にも藍山方言にも、6声と8声の合流という現象が見られる。ただし、サパ方言は6声喉頭化を伴った結果として、陰声韻（音節末に子音が立たない韻母）の6声と8声の対立が喪失しており、陽声韻（音節末に鼻音が立つ韻母）は入声韻と対立を保存している。それに対して藍山方言は8声が音節末の閉鎖音を全く喪失した結果として、6声の陰声韻と8声（入声韻）とが対立を解消している。もしサパ方言と藍山方言が近縁関係にあり、6声と8声の合流が両方言に共通の祖先段階で発生した変化だと仮定するならば、サパ方言に8声の -? 喪失と -? 再獲得を認めるか、または藍山方言に6声の -? 獲得と -? 再喪失を認めるかの、どちらかを言語史として受け入れなくてはならない。

(5) ただし、方炳翰 (1981) の報告する金平の方言は、5声と6声が合流しているなど、Shintani (2011) に見られない特徴を呈している。両報告で示される変種は、同一でない可能性がある。

(6) 王輔世 et al. (1995) と毛宗武 (2004) が報告する、中国広西壮族自治区全州県東山瑶族自治郷の方言や同自治区恭城瑶族自治県三江郷の方言もまた、同様の二重母音化が発生している。しかしこれらの方言は同書の分類において「勉語標敏方言」とされている。本論では、両地点は分析の対象としないこととする。
なお王輔世 et al. (1995) と毛宗武 (2004) は、湘江方言を勉方言湘南土語に、長坪方言を勉方言長坪土語に、それぞれ分類している。

(7) Ratliff (2010: 141-142) はこれらの語のうち「日」「開く」「欲する」について、広義のミエン語 (Mienic. ユー・ミエン語以外のミエン語をも含む) がさかのぼる祖形として **poi* という、介音を含む形を提示している。Ratliff (2010: 13) は、Matisoff (2003) が示す「太陽」のチベット・ビルマ祖語の再建形 **nay* に接頭辞 **s-* を加えた **s-nay* について、これが Proto-Mienic の段階で借用されたと述べている。ただ、「開」「海」「愛」の字音がいずれも中古音で蟹攝開口一等（円唇介音を取らない音形）であること、**s-nay* に円唇半母音要素が見られないことを踏まえるならば、Proto-Mienic の段階に **-u-* を認めるのは、些か不自然さを覚える。苗瑤祖語の再建形の議論は本論の範囲を大きく超えてしまうが、ユー・ミエン語に議論の対象を限るならば、無介音の語形を古形として推定するのが妥当と考えられる。なお Theraphan (1993) は「爪」のミエン祖語の再建形として **?gwai C > *gwai C1* を与えている。

(8) なお吉川 (2016) は「開」「海」「要」「愛」の読音として gwai1, k^hwai3a, wai5, wai5 をそれぞれ報告している。日常の生活で用いられる通常の語彙の語音と、朗読・読誦に用いられる漢字音との関係については、本論の論じ得る範囲の外にある。

乳源方言は、サパ方言の喉頭化に似た改新を起こしてはいるものの、8声が分裂して5声に一部が流入するという、不可逆の音変化が観察されている。従って乳源方言を、サパ方言がさかのぼる古形と同一視することは不可能である。もし乳源方言がサパ方言との間に排他的な近縁関係を有していると仮定するならば、6声と8声について、以下のような言語史を想定することになる：

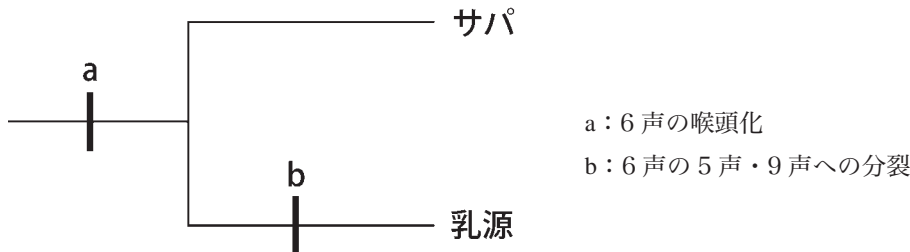


図1. 6声と8声における音変化の仮説

ただ、サパ方言と乳源方言の近縁性を証明するだけの根拠は、目下これ以上得られていない。

金平方言は、一般的に主母音 a (短母音) と韻尾 -i で実現する語の韻母が単母音化する、という変化をサパ方言と共有している。しかし、金平方言とサパ方言が共有する改新のうち、排他的な系統的近縁性を特に示すようなものは見受けられない。

表5. サパ方言と金平方言に見られる韻母の単母音化

	サパ	金平	Purnell (2012)
たけのこ	beʔ6	hlao3 bje6	mbiaic
鶏	ce1	ce1	jai (異形: jae)
脱ぐ	ce3	ce3	jaiv (異形: jaev)

湘江方言については、サパ方言や藍山方言と同系統でないことを立証する積極的根拠を欠いている。湘江方言は、江華瑶族自治県の北東部に分布し、藍山県と分布域が地理的に隣接している。湘江方言が、特に藍山方言と同系統であったとしても、不自然ではない。ただ湘江方言は、藍山方言に見られる1声と4声の合流や、6声と8声の合流が見られない。また湘江方言は藍山方言と同様の変化を経て韻尾の対立が喪失しているが、これが先述のように表面的な地域的特徴であって、湘江方言と藍山方言のこの共通性が系統関係を反映したものなのかどうかは、いまだ判然としない。もし仮に藍山方言と湘江方言が互いに、サパ方言よりも近縁であるとすると、藍山方言で見られる6声と8声の合流は遅い時代に発生したものと考えざるを得なくなる。その場合、サパ方言で見られる6声と8声の合流は、藍山方言と独立に発生したものと判断されることになる。

長坪方言は、声母に破裂音と側面接近音の子音クラスターをもっていたり、「菜」の声母 /ð/ が /l/ と対立していたりと、他の諸方言と隔たった変種であることを示唆する特徴を複数有する。サパ方言と長坪方言の系統的近縁性を積極的に認めるには、根拠が不十分である。

以上の議論を総括すると、6声と8声が合流している藍山方言や、喉頭化に似た現象が見られる乳源方言、*aiの単母音化が見られる金平方言が、サパ方言と近縁な変種として候補に挙げ得る。ただし、いずれの方言も、サパ方言との近縁性を特に強く推定するだけの根拠は目下見いだされない。

4. サパ方言ベトナム国内の変種 (ラオカイ方言・タイグエン方言) との系統関係

サパ方言と Doan et al. (1992 [2013]) のタイグエン方言との間には、類似の改新が見られる。サパ方言及びタイグエン方言は、一般的には有声歯茎破擦音 [d̪-] で実現する声母が、摩擦音化して [z-] となる現象が見られる⁽⁹⁾。またタイグエン方言では音節先頭において、一般的に [j-] で実現する声母が有声摩擦音 [z-] で実現する現象が見

(9) 盤美花 (2013: 65) の対照表を見る限りでは、ラオカイ方言では d̪- の摩擦音化が未発生のようなのである。

られるが、サパ方言では音節先頭の [j-] は今なお保存されている。

[ɬ-] の摩擦音化、及び、[j-] の摩擦音化というこれらの変化は、ベトナム語との言語接触に由来するものである可能性がある。ベトナム語は [ɬ-] をもたず [z-] のみをもつ言語であり、そして音節先頭に [j-] が立たない言語である。しかし、ベトナム語との接触の結果としてサパ方言とタイグエン方言は [z-] を獲得しているものの、[z-] の言語体系内での位置は、サパ方言とタイグエン方言との間で、互いに異なっている。

表 6. サパ方言・タイグエン方言の有声歯茎摩擦音

	サパ	タイグエン	Purnell (2012)
一人称単数代名詞	jiə1	zie1	yie
一	jiət8	zjɿt8	yietc
(手を) 洗う	zau5	zaw5	nzaaux
塩辛い	zai2	zaj2	nzaaih

両方言で発生した [z-] の獲得は、同一視の難しい、性質を異にする現象であり、従って、ベトナム語とミエン語の二重言語使用の状況下で、サパ方言とタイグエン方言が音変化を経たと推定される。サパ方言とタイグエン方言が系統的に近縁関係にあるとは断定しにくい。

その一方で、ラオカイ方言はサパ方言と極めてよく似た形で、6 声の喉頭化が発生している模様である（盘美花 2013）。サパ方言との分岐が遅いベトナム国内の方言としては、タイグエン方言よりはむしろ、ラオカイ方言が有力視される。

5. 総括

本論ではサパ方言と近縁な方言の候補について検証を行った。しかし、どの仮説を選択したとしても、系統をまたいだ並行的な改新を認めざるを得ない。地点間の差異が比較的小さい言語集団において、内部の系統仮説の中から最良のものを選択することは、必ずしも容易ではない。

苗瑤語全体の通時的研究が目指す、苗瑤語全体の共通祖語の再建や、苗瑤語の各変種間の関係といった、遠古の言語史の探求がさまざまな困難を伴うことは言をまたない。その一方で、現代に比較的近い過去を可能な限り正確に復元しようとする行為は、かかる研究とはまた別の種類の難しさがある。各地の方言を 1 つずつ、確実に調査・研究することをもって初めて、微細な差異を有する諸方言の関係を正確に知ることができるようになる。本論は筆者が調査の機会を得たサパ方言を、議論の出発点とした。しかしある方言の系統的地位は、言語集団全体の系統関係が把握されて、初めて明確になる。本論が導いた結論は、不十分な言語資料の上に成り立っている。今後、サパ方言をはじめとして、諸方言の言語体系の調査・研究を通じて、本論の議論の改訂・考察を行いたい。

参考文献

英文

- Matisoff, James A. (2003) *Handbook of Proto-Tibeto-Burman: System and Philosophy of Sino-Tibetan Reconstruction*. Berkeley; Los Angeles; London: University of California Press.
- Purnell, Herbert C. (2012) *An Iu-Mienh-English Dictionary: with Cultural Notes*. Chiang Mai: Silkworm Books; San Francisco: Center for Lao Studies.
- Ratliff, Martha (2010) *Hmong-Mien Language History*. Canberra, Australia: Pacific Linguistics, Research School of Pacific and Asian Studies in association with the Centre for Reserch on Language Change, The Australian National University
- Shintani, Tadahiko R. A. (2011) *The Mien Language of Jinping County: Its Classified Lexicon*. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA).

- Theraphan, L.-Thongkun (1993) A view on Proto-Mjuenic (Yao) . *Mon-Khmer Studies*. 22: 163-230.
 Thompson, Laurence C. (1987) *A Vietnamese Reference Grammar*. Honolulu: University of Hawai'i Press.

中文

- 邓晓华、王士元 (2003) 苗瑶语族语言亲缘关系的计量研究.《中国语文》3: 253-263; 288.
 方炳翰 (1981) 云南金平瑶语.《民族学报》1: 237-252.
 黄行 (1999) 苗瑶语方言亲疏关系的计量研究.《民族语文》3: 56-64.
 李少梅 (2008)《中国广东乳源瑶族与瑶语》北京: 民族出版社.
 刘鸿勇 (2016)《粤北乳源过山瑶勉语研究》北京: 文化艺术出版社.
 毛宗武 (2004)《瑶族勉语方言研究》北京: 民族出版社.
 毛宗武、蒙朝吉、郑宗泽 (1982)《瑶族语言简志》北京: 民族出版社.
 盘美花 (2013) 中越泰瑶族勉语的声调比较.《百色学院学报》26 (4) : 62-69.
 盘美花 (2014) 越南罗刚瑶勉语语音系统研究.《广西民族大学学报 (哲学社会科学版)》36 (3) : 119-124.
 王辅世、毛宗武 (1995)《苗瑶语古音构拟》北京: 中国社会科学出版社.
 郑宗泽 (2011)《江华勉语研究》北京: 民族出版社.

越文

- Đoàn, Thiện Thuật (段善述) ; Mai Ngọc Chừ (梅玉諸) (1992) *Tiếng Dao*. Hà Nội: Nhà xuất bản Khoa học xã hội. 盘美花译、
 阮大瞿越校 (2013)《越南瑶语》北京: 民族出版社.

和文

- 田口善久 (1998)「苗瑶語再建の問題～『苗瑶語古音構擬』の書評をかねて」『言語文化論叢』4: 5-13.
 濱田武志 (2012a)「湖南省江華瑤族自治県の梧州話の粵語に於ける系統論的位置付け」修士論文. 東京大学.
 濱田武志 (2012b)「湘・粵・桂の省境地域の粵語「梧州話型粵語方言」について」『開篇』31: 158-174.
 吉川雅之 (2015)「ミエン語 (勉語) 藍山匯源方言調査報告」『神奈川大学アジア・レビュー』2: 98-116.
 吉川雅之 (2016)「『大歌書』上冊記音——ミエン語 (勉語) 藍山匯源方言による」廣田律子編『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』73-192. 岡山: 大学教育出版.

瑶人経書『従人・財楼科』に見られる歌謡と儀礼

—米国議会図書館蔵清代の写本を例として—

中国中南民族大学教授

神奈川大学非常勤講師

(著) 何 紅一

(訳) 倉澤 茜

『従人・財楼科』は米国議会図書館所蔵ヤオ族の写本の1つである⁽¹⁾。この写本は「清光緒四年戊寅(西暦1878年)」に書かれ、ヤオ族の支系である藍靛ヤオの道公(祭司)が葬送儀礼の「打齋」儀礼で用いる。本稿では、民俗文献学及び民俗学の理論を援用し、その中の歌謡及び儀礼について考察・解説したい。

1. 『従人・財楼科』の概要

『従人・財楼科』は、またの名を『従人科賛財楼科』とも称される。米国議会図書館蔵241の文献の1つである⁽²⁾。葬送儀礼における「紙人形従者」、「財楼」儀礼の際に用いられる儀礼文献である。米国議会図書館蔵ヤオ族文献における筆者の整理、分類研究によれば、第一分類経書類のうち小分類5に属する。すなわち葬送儀式用書類である⁽³⁾。整理番号はAE011。この本は清光緒四年戊寅(西暦1878年)に製本され、全40頁。本の持ち主、李妙祿、李玄清が書き置いたものである。本の持ち主及び内容から判断すれば、ヤオ族の支系藍靛ヤオの道公(祭司)が葬送儀礼の「打齋」儀礼で用いる本である。

「従人」はすなわち「従者」である。葬送儀礼で陪葬用の紙人形である。「財楼」は、また「宝楼」、「霊屋」とも呼ばれ、死者のために用意したあの世での住居、寝所である。両者はすべて民間の紙細工職人の手作りの紙製明器である。冥器はまた明器とも呼ばれ、葬送と祭祀の儀式に使われる。『积名・积葬制』によれば「死者に送るものは明器とも称する」とある。中国

古代の埋葬明器は早くも新石器時代に存在し、何千年という歴史の中で、泥、陶、竹木、磁、鉛、錫等の材質を経て、紙の発明に伴い普及してきた。北宋以来、紙製明器は廉価かつ軽便であるゆえ、埋葬明器の主流になってきて、民間の葬送儀礼に普及した。宋の人趙彦衛は『雲麓漫鈔・卷五』に次のように記した。

「古代の明器を“明器”と呼ぶのは、死者を“神明”の存在と見なすからである。いまは紙であるため、冥器と呼ぶ。銭は冥財と呼ぶ」

紙作りはまた「扎紙活」、「扎作」、「扎彩」、「扎紙庫」などとも称する。主に紙を原材料として作られた民間の手工芸品を指す。用途によって、祭祀用/紙作りと装飾用/紙作り、娯楽用/紙作りに分けられる。祭祀用/紙作りは主に祭祀及び葬送儀礼の紙製明器である。それが本稿の主題である。民間葬送用紙作りの種類はとても多く、人形と馬、船と橋、銭と幣、衣類、金山と銀山、金庫と銀庫、金の家具と銀家具、楼台、部屋と庭、馬車とかご、劇鑑賞用建物とアーチ形の建造物、金のなる木、さらにテーブルと椅子、鍋とお碗などの調理器具食器さえ日常生活及び人付き合いに至るまで何でも揃っている。人間社会にはないものと想像上の贅沢が尽くされた。葬送祭祀用の紙作りが民間手工芸品という名に冠されて、葬儀を行う家の死者への想いと追憶を表す。と同時に、死者のこれからの長期的な利益への関心と感情を物質に託した。

祭祀紙作りは葬送道場儀礼に欠かせない部分である。それに伴って専門の経書も設けられた。経書『従人・財楼科』はその1つである。『従人・財楼科』は従人科と財楼科二部に構成され、『従人科・賛財楼(科)』とも称する。すなわち「従人科」と「財楼科」の合本である。

『従人・財楼科』は紙作りの明器「従人」と「財楼」を主な内容として記述されている。「従人」と「財楼」の外観についての描写と称賛があれば、その「開眼」の意義及び開眼後の不思議な力効果への描写もある。

- (1) 米国議会図書館蔵瑶族文献に関する来源問題、何紅一『美国瑶族文献收藏及其来源』に参照「J」『文化遺産』2013年第6期 pp.89-94
- (2) 米国議会図書館蔵瑶族文献に関する来源問題、何紅一『美国瑶族文献收藏及其来源』に参照「J」『文化遺産』2013年第6期 pp.89-94
- (3) 何紅一『美国国会図書館蔵瑶族文献的整理與分類研究』「J」『広西民族研究』2013年第4期 p.124

陰陽の疎通に使う契約式の文書もあれば、祭祀で神様にお酒を捧げるとき、人間と神のやりとりの相互の歌詞も書かれている。

歌詞は韻を踏んでいて、風格は真実でもあり同時に幻でもある。また厳かでありながらユーモラスでもある。葬送儀礼文献において、人情味に溢れる民間の美学の趣向が凝らされた素晴らしい文面であるといえる。

本稿は、民俗文献学及び民俗学の理論を援用し、『従人・財楼科』の中の歌謡及び儀礼について解説したい。また、米国議会図書館所蔵の他の葬送儀礼文献を参照し、現存の漢族とヤオ族葬送儀礼研究資料の比較を通して、文献『従人・財楼科』の文化的な背景及び葬送儀礼用の紙作り「従人」と「財楼」の芸術性と価値について解析したい。

2. 「従人科」の中の歌謡及び儀礼の考察

「従人科」は「賛従人」、「開光従人」、「祭酒」、「従人契式」、「慶従人」に構成され、主な内容は次の通り。

2-1. 従人の出身

文の中に従人を「苑（茆）三哥郎」、「苑（茆）哥郎」、「苑（茆）人」幾度と呼ぶ。その由来を歌詞で叙述している。「従人は容貌が際立っている、庭草（茆）で作られて名乗りは張」。筆者は「従人」という呼称の由来が古代殉葬で用いられた草の人形——草人からだと考える。『礼記・檀弓下』の中にこう記述している。「孔子はこのように言っている。明器を作った者は、葬の道を知るものである。死者に供えるものはみな、実用にはならないものを供える。死んでいるのに生きている人の器物を使うとは、なんと哀しいことではないか！ それは人を殉葬させるのと殆ど同じことではないか？ そもそも、明器とは、神明の者（死者）の使う器である。色を塗った車や（草で作った）芻霊という人形は、古代からあり、これらは明器の道である」。孔子が言う「塗車」、「芻霊」は泥で作った車、草を束ねて作った人形を指す⁽⁴⁾。殉死者の代わりとされた。また朱熹は『孟子集注・梁惠王上』の中でこう解釈した。「“俑”は死者と共に埋葬した木彫りの人形である。上

(4) 王文錦『礼記譯解』「M」北京 中華書局 2001年 p.124

古（殷・周・秦・漢）時代は草を束ねた人形を守護として倍葬した。これを芻霊という。人間に少し似せた程度に過ぎない。中古（魏・晋・南北朝・隋・唐）は俑（木の人形）に変え、肌、髪の毛を揃えて人間にとってもよく似せている⁽⁵⁾。陶穀は『清異録』巻下「喪葬・大小脱空」條にこう記した。「長安にはたくさん“脱空”を製造販売する店があつて、これらの店は“茅行”と呼ばれる⁽⁶⁾」。ここでの“脱空”は紙人形を指す。“茅行”は紙人形を作る店。“茅”はチガヤで、草類材料を扱う。また、“茅”の異体字は“茆”であるため、本文の“苑人”はすなわち“茆人”である、草人形のことを指す⁽⁷⁾。

清・範寅『越諺』の中にも記述がある。「紙作りは、竹で作った胴体の表面にすべて色紙を貼った人形のこと、多くは葬送用。“像生”とも称する」。ここでの“像生”はまさしく木の人形——俑人である。以上から分かるように、「当時の紙俑はもうハサミで紙を切って作ったのではなく、竹で胴体を作り、表面に色紙を貼った立体的な人形である。小さいものは10センチあまり、大きいものは本当の人間と変わらない。清の皇室は葬送時に使った俑人の撮影画像が保存されている。立体的で、表面全体に色紙が貼ってある。さらに色のある布か絹を貼った俑人もある。身長 proportions は適切で、本物そっくりである。しかも数が多く、様々な姿があるため、遠くから見ると人間そのものである⁽⁸⁾」。

現代の学者が行った葬送儀礼の紙作りにおけるフィールド調査でも実証ができる。老舗の紙作り人形の骨格は、清の時代からすべて葦、チガヤ、麦藁、稲、竹などの材料を使ったものである⁽⁹⁾。雲南金平紅頭ヤオ葬儀中の「焼霊」儀式は、3人の師公と1人の女性が1つの草人を作り、草人は死者の兄弟の子どもに洗っ

(5) 宋朱熹『孟子集注』「M」 濟南 齊魯書社 1992年 p.6

(6) 【宋】孟元老『東京夢華録』「M」北京 中国商業出版社 1982年 p.43

(7) 日本の丸山宏教授も“苑”は“茆”の誤字であることを指摘した。仰る通りである。ここで丸山先生に感謝の旨を示す。

(8) 陸錫興『古代的紙扎』「J」中国典籍與文化 2007年第4期 p.107

(9) 路春嬌・張磊『河北磁県閻氏紙扎制作工藝及藝術特征解析』「J」石家莊職業技術學院學報 2013年第8期 p.75、寶兆娜『漢族喪葬禮俗中紙扎文化的考察與研究——以山東沂水縣許家湖鎮為例』廣西民族大學 2009級修士學位論文和榮新『魯西南喪葬紙扎研究』山東大學 2014年博士學位論文。

てもらってから師公に焼かれる⁽¹⁰⁾。上述したフィールド調査の結果は『従人・財楼科』の記述にも合っている。

「従人本的是奴身，眼眉懷想賤人生（従者は本来卑しい身分であり、眉間が卑しい人生をしのばせる）」。「賤人生（卑しい人生）」は、従者の卑しい生まれを示す、また作った材料の安さも暗示された。「苑（茆）三哥郎」、「苑（茆）哥郎」、「苑（茆）人」の名乗りもかなり古い。

2-2. 従者の容貌

従者の主な役割は、死者のために荷物を担いだり、侍従になったりするなどの肉体労働である。俗に言う「顔が大きければ家のメンツを立てる、手が大きければ畑仕事ができる」である。力があることと働き者は喪に服す家が一番重視する条件である。歌の中に「従者」についての描写はまさしくこのようなたくましい男性である。「人間の形を得て壮健である、手が長く足が大きく慇懃である、顔を綺麗に整えて伶俐である、黒の髪の毛と日焼けした肌は苦勞人そのもの」。体が大きくて頑丈な、手足も大きく、はきはきしているたくましい1人の労働者の姿が浮かび上がる。生まれつきの日焼け肌で、苦勞人なのに、顔が綺麗に整えられているため、和やかさと利口な一面を表す。強引かつ凶暴ではなく、見た目も親和力があるため、やがて主人を喜ばせて、喪に服す家にも認められる。

2-3. 従者への開眼

開眼は宗教用語である。神の像が完成後祭る前に欠かせない儀式である。開眼は1つの宗教儀式として道教から始まった。道教の1つの儀式である。開眼は宇宙の中に無形の限りない力を持つ真の霊を開眼対象に移して、神通力を持たせる。神の彫刻、絵だけでなく、人物、動物の顔にある7つの穴（目・耳・鼻・口）も開眼される必要がある。儀式の中で使用する法器、物品も開眼される。

道教の正式の開眼は、道教の心得は一番の法師によって吉日の吉時を選んで行わなければならない。儀式は清浄、請神、発旨、発令、七星、八卦、入神、敕筆、敕鏡、敕鷄、開光、発毫の12種の儀礼が含まれる。『道教開光』はこれについて紹介している。開眼儀

式を行うとき、道長は神の像に「開眼」するとき、開眼する度に必ず1回「目は開いたかな？」と聞く。すると、聴衆は一斉に「開いた」と答える。このように顔のすべての穴を開眼し終えるまで繰り返す。終わったそのとき、道長は命令を下す札を1回打つ、「3,600の関節、84,000の毛孔を開けた。節々はつながり、穴々は通じる。開眼後神様がすべて答えてくださる」と聞く。すると、聴衆は「我々は口々に神の恩恵に感謝し、無数の光が空に届く」と応答する。道長は続けて「開眼後、神がすべて答えてくださる。天下明るい光に満ちたかな？」と聞く。すると、聴衆は「天下は光明で満ちた、神の光が輝く」と応答する⁽¹¹⁾。

道教は民間に伝わってから形式は当然ありながら、変異が見られる。ヤオ族の神画像の開眼儀式の主な過程は「請神」、「開光」、「点睛」、「送神」、「定神」などである。一番大事な過程は「点睛」。具体的なやり方は次の通り。道師（祭司）は書き終わった神画像を家の祭壇に掛け、神降臨の願を掛ける。道師（祭司）は1人の神の名前を呼ぶと、画師は絵の中にその人物の目に画龍点睛のように一点を画く。画師は一点したあと、道師も鷄の血で絵の一番上の端のところに一点を画く⁽¹²⁾。ヤオ族から伝わった道教は元始天尊への開眼の経文がある。「頭が開眼すれば帽子を被せられる、耳が開眼すればあちこち聞こえる、目が開眼すればあちこち見える、鼻が開眼すれば香を嗅げる、口が開眼すれば言葉を話せる、手が開眼すれば龍車に乗り始める、お腹が開眼すれば文章を書き記せる、足が開眼すればあらゆる方向に行ける。今日は我が師祖ら、元始天尊、この場で開眼して風雅をもらい、ほどなくして旅に出る⁽¹³⁾」。

従者開眼経文は次のように記録している。

「従者苑（茆）三哥郎を招く。手足が揃っても体とはいえない。完璧な体がないと魂は六道を巡って輪廻できない（六道はもともと仏教語、この世に生きるすべてのものは、六道の世界に生と死を何度も繰り返して、彷徨い続けるということ。「六道」は生前の行為の善悪によって、死後に行き先が決まる六つの世界「地獄、餓鬼、畜生、修

(11) 宗清『道教開光』「J」武当 2012年第5期 p.44

(12) 黄建明『神像画研究——以广西金秀县道江村古堡屯盘瑶神像画为例』广西民族大学 2008年修士学位论文

(13) 盘才万・房先清收集 李默編注『乳源瑶族古籍彙編』（上）「M」廣州 廣東人民出版社 1997年版 p.106

(10) 『雲南苗族瑶族社会歴史調査』「M」雲南民族出版社 1982年 p.152

羅、人間、天上」のことを指す)。開眼しなかったらただの紙。開眼しなかったら空に月と太陽がないのと一緒、いま開眼して再び光りを得る」

「張天大法師、李天師大法師、十二園光童子に謹んでお願い申し上げます。毫光と利き筆、柳の枝を手にし、従者の目を開眼させてください。目が開眼すれば九州を照らす。口が開眼すれば美味しいものが食べられる。耳が開眼すれば朝鶏の鳴き声が聞ける、心が開眼すれば荷物が軽々と担げる、頭が開眼すれば髪の毛は潤う、手が開眼すればなんでも作れる、喉が開眼すれば呼んだら頭を下げて応じる、足が開眼すれば、路銀を腰に回せる。道士が従者の開眼を終えると、従者はたちまちに極楽世界に去る」

ヤオ族から伝わった2人の道教の重要人物「張天大法師と李天師大法師」に加え「十二園光童子」たちが「毫光と利き筆、柳の枝」を手にし、それぞれ従者の目、口、耳、喉、心、頭、手、足などの部位を開眼し、従者を幻の存在から離脱させて「従者哥郎が一身完備、手足も揃える」、「苑(茆)人は体の形が成就され、開眼すれば人間になる」、「荷物を担いで極楽世界へ、亡き父母の靈魂について道を開く」となる。

2-4. 奠酒

奠酒とは本来酒と食事の席を設け、死者を供養することを指す。ここでの「奠酒」は主に従者に対することである。従者は死者の侍従である以上、死者に奉仕する態度などは直接死者の暮らしに影響があるに違いない。この利害関係は従者を買う側がよく知っているため、「奠酒」儀礼を通して従者の機嫌を取るよう丸めこんで、従者をよりよく死者に仕えさせるためである。従者に対して「三盃礼斟三献」(敬意をもって3回酒を注いで進呈する)酒を進呈の際、「孝男ム奉贈衣裳財賄等件」(喪主男性某が衣服金銭を贈呈し)これらを受け取ってもらう。奠酒の歌詞は次の通り。

「初奠酒、素晴らしい働き手よ、皿の中のおかずはご自由に。良い供養ができるため、もらった金をしまっておいて、さっさと荷物を担いで行きなさい。途中で女遊びをすることはいけないよ。もし俺の教えを無視したら、お前の手足を切ってしまうぞ。1回目の献酒、従者は喜んで受け取る」

「二奠酒、喜びの宴を設けてあげよう、お酒を飲んだら遅くなり、さらに力が増す。故人についてあの世

に行く道を歩け、お金を大事にもって、1銭も落とすな。もし全部なくしたら、容赦なく殴るぞ、2回目の献酒、従者は喜んで受け取る」

「三奠酒、何杯かのお酒をしっかりと受け取って、身だしなみを整えて、力いっぱい荷物を運べ、呼ばれたら怠けないで頭を下げなさい。3回目の献酒、従者は喜んで受け取る」

奠酒の歌詞の中に、葬式を行う家は従者に注意事項を言い付けることを忘れない。従者に何をすべきか、何をすべきではないかを告げる。「もし俺の教えを無視したら、お前の手足を切ってしまうぞ」あるいは「容赦なく殴るぞ」と、言葉の中に飴と鞭、礼儀と脅しを交差し、世間の主従における複雑な関係が反映される。

2-5. 従者の契約式

従者の契約式は葬式を行う家は従者との間に契約した売買の契約と見なされる。契約文は葬儀の場で聴衆の前で読まれる。「就今時契文、謹當宣誦、従人跪聽(今、契約文を聴衆)の前で読み上げる。従者はひざまずいて聞きなさい)。効力を発生させるためである。これをもって、死者と従者の主従関係を法制化する。

(従者契式の歌は原文のまま)

嘱咐从人路向东，参随亡者升天宫；
奈何江畔困便歇，有力长行急随风。
嘱咐从人路向南，衣裳行李好担挑；
前世有缘今日遇，莫论前三及后三。
嘱咐从人路向西，休言长短说高低；
好担钱笼并钱贯，莫偷物，莫非违。
嘱咐从人路北行，莫与主人乱相争；
有酒有饮两分吃，休听别人教生疏。
嘱咐从人路向中，有些好恶慢商量；
听他使唤听他叫，莫交迟慢棒来伤。
嘱咐从人苑大郎，好担行李莫蹉跎；
主人叫你轻轻应，修(休)言催物说如何。
嘱咐苑郎好记取，出路行程莫怒吾(语)；
买得你来服侍他，有福同归快乐天。
从人出路莫应口，去处主人共相寻；
莫要争吃主人增(醋)，被骂被嫌方可丑(由)。
嘱咐从人周完了，嘱咐从人专听言；
休贪花色失钱财，谨记好收莫要抛。
嘱咐你了在今时，千万随他莫要离；
天寒天热你也去，喝水喝汤忍肚饥。

若你再逃捉得你，长枷扭（扭）锁送阎王；
 黄泉无兄又无弟，又无姐妹和妻儿。
 一年守着七月节，目连赦罪得回归；
 十五中元皆贺日，家家斋供献亡衣。
 衣裳任你穿着，由你拍手唱啰哩；
 一二三四嘱咐你，蜘蛛结网慢寻思。
 认取本来真正面，直登九品自连（莲）池；
 道教依言嘱咐你，参随亡者礼慈悲。

歌詞の中に12回言い付けという言葉が使われ、幾度となく繰り返す言い付けられていることが読み取れる。家族は死者への別れを惜しむ感情を反映した。ついていく従者が真面目に主人の面倒を見なかったり、主人を騙したりしないか不安なため、恩を施すと同時に脅かしたり、恐れさせたりすることによって、死者と従者の主従関係を重ねて言明する。「約束を守れ、主人に忠実であれ、大人しく話を聞け、苦勞をいとうな、そうすれば福をもって極楽世界に行ける。そうでなければ地獄に送られ、孤独な亡霊になる」のように従者を戒める。

3. 「財楼科」の中の歌謡と儀礼の考察

「財楼」は葬式を行う家が死者に用意した、あの世で住む紙作りの住居である。「財楼科」は「召水」、「神水解穢」、「開光財楼」、「請霊上楼」、「繞財楼」、「請霊下楼」、「讚楼車」、「孝男祭酒」、「財楼契式」、「財楼対式」等に構成され、まとめて次のように要約する。

3-1. 召水解穢

葬送儀礼の中に水が重要な仏具の1つである。普通は葬式の初めに「請水」という儀式がある。すなわち、「南海聖水」を運ばせ死体を洗ってから衣服を着せる。金秀大瑤山ヤオ族は1本の新しい筆と何本かの柳の枝を一緒に紐で巻きつける。これで澄んだ水をつけて「淨棺」儀式を行う⁽¹⁴⁾。「召水」はすなわち四方の神様をお願いして聖水を運んできてもらい、財宝楼を洗って穢れを洗い落とす。儀式を行い、線香を立てて「五龍八卦、九宮雨師、道合千神吏」をお願いし、法水を散布して穢れを洗い落とす。

(14) 盧敏飛『广西瑶族喪葬習俗』「J」『广西民族研究』1998年第4期 p.79

3-2. 開光「財楼」

従者と同じく「財楼」が完成すると開眼が必要である。まず天尊の相光に来ていただき、それから東、南、西、北、中の順番で五方開光童子に来ていただく。「上等茶と酒とご飯は諸々の神に差し上げる。諸々の神が道士と道法を下して穢れを綺麗に洗い落すことをお願いする」、そして、教義に基づいて身を清めて着替えした喪主男性某が買った財楼のために開眼する。

経文及び歌詞は次のように言う。

「今まで、喪主の男性某は教義に基づいて身を清めて着替え、ひたすら修行してきた。この修行は故人某の魂を冥界に行かせ、命を黄泉の国に帰すためである。男女が金10銭を出し合って財楼を1軒買って、まだ開眼していない暗い通路を四方に開眼させる」

「私は今東方へ礼拝し、亡霊はこの世を去って閻魔殿に入る。喪主は10銭で1軒の財楼を買って、道士と道法で開眼する。一心に謹んで東方の青霊開光童子をお願いし、降臨して蒼穹へ赴く、私に筆と法水を握らせ、柳の枝で東側の楼の角を開眼する。東側の柱、澄んだ水を東城にめぐらせ、上と下をすべて通す、東方は準備万端」

続いて「南方赤霊開光童子」、「西方白霊開光童子」、「北方黒霊開光童子」、「中央黄霊開光童子」という順番で五霊童子をお願いし、計五霊童子が降臨して蒼穹へ赴く。財楼の五方を開眼する。五霊童子と財楼五方は、正確に道教の五方、五色、天と地の間の五行に相応する。東方の青霊童子は木に属し、南方の赤霊は火に属し、中央の黄霊は土に属し、西方の白霊は金に属し、北方の黒霊は水に属する。

開眼の方法と過程は従者の開眼に似ていて、五霊童子は「手に銀の灯、口に法水、柳の枝を手握って」、順次に東、西、南、北、中五方の柱を開眼する。民間信仰の中に、聖水、桃・柳の枝は魔除けのものとして認識され、しばしば宗教儀礼の中に開眼の法器として用いられる。

3-3. 繞財楼

財楼が開眼されたあと、亡霊に財楼を回らせる。「繞財楼」は財楼各場所へ視察して回るという意味で、亡霊に新しい環境に知ってもらうためである。

「1軒の楼閣にすばらしい風景があり、亡霊は永遠に自由自在に暮らせる、喪主は心を込めて拝む、亡霊

よ、楼台へとどうぞ」

「亡霊は喜んで楼台に上がる、救苦真人は迎えに来る、成仏して直接財楼に上がって、快樂は限りなく続く」

「極楽財楼よ、行ったり来たり、自由自在に回る、東方青霊童子は順番を案内し、玉宝天尊迎えに来る、死者の霊は東の街を自在に回る」

その後、それぞれ五方五霊童子と各方天尊が迎えに来て、亡霊を財楼へと導く風景を歌う。歌の中に1つの幻の極楽世界を再現した。

3-4. 賛財楼

開眼と繞財楼の中に財楼についての描写はあったのだが、財楼について集中的に称えるのは次の歌である。

(歌は原文のまま)

楼台一座甚妙哉、巧匠良工为剪裁。
 昔日鲁班有尺寸，四边秀出祝英台。
 楼上便盖琉璃瓦，楼下便砌琉璃街。
 奉请考 / 妣灵楼上坐，永为亡者万年家。
 赞祝安坐已周完，上挂明灯看四方。
 四角结成三十宅，八角铜铃自彻天。
 第一楼居正忘月，月肢 (?) 团圆现四边。
 第二楼居莲花朵，九品莲花金宝台。
 第三楼居亡灵住，腾长三十二重天。
 第四楼居南床暖，娇鹅 (娥) 眉 (美) 女半 (伴) 同游。
 第五楼台亡灵住，逍遥自在大罗天。
 玉女笙歌持无接，仙童菩萨念真言。
 宝盖仙童托画献，珍馐法食供灵前。
 鲁班亲手庄完备，报思故 (父考 / 母妣) 灵义。
 奉请亡灵登宝座，速随紫府礼神仙。
 孝主志诚誉天地，亡灵从此升生天。
 送到浮黎国中住，逍遥自在任登眠。
 楼上栽出双鱼树，八角飞天用力牵。
 奉请亡灵楼上坐，初秋四季百花开。
 三十八将山神揖，二十四孝绕楼前。
 楼亭一座好安居，亡灵用在宴天庭。

歌の中に、財楼の外見は贅を尽くしたものである。5階建て、30の部屋があり、腕利きの素晴らしい職人によって建てられ、庭園楼閣、魚がいる池、八角の楼台、珍しい美味な料理、仙童玉女がいて、花が四季に咲く、38の武将が命令に従う、歌と踊りと宴が絶え間なく続けられる、古く親孝行であった24人が目の前

にいて……。

筆者が今まで見たヤオ族の紙作りに関する祭祀文献はこれのみである。

紙作りは使用後すぐ焼くため、実物はなかなか見つからない。張有雋は桂南十万大山に住む山子ヤオ (藍靛ヤオとも称する) の葬送儀礼、死後3年経ってから行われる「修醮」儀式について紹介したものがある。張は死者の財楼に似たようなものを言及した。

それによれば、山子ヤオの人々は、人間は死後すぐに天国に行かず、地獄で服役しなければならない。3年後 (1年後に変更する人もいる)、道公を招いて祭祀を設け、亡霊を釈放し、天国に送る。こうしてやっと死者が家の祭壇に正式に供養される立場を得る。これを「修醮」という。儀式のとき、1軒の紙作りの家を用意し、「逍遥宮」、「快樂郷」、「十道真人来接引」などの扁額、対聯を書いて法事後焼く⁽¹⁵⁾。この紙作りの家に関する記述は言葉が少なく短すぎたものの、本稿の中で言及した「財楼」に符合する箇所があると読み取れる。例えば「逍遥宮」、「快樂郷」、「十道真人来接引」等の言葉、『従人・財楼科』の中にそれに附合する言葉が見られる。『亡霊快樂上楼台、救苦真人来接引、昇度直上宝楼台、快樂広無辺』、『極楽宝楼台、来了去去了来、自在上楼台』、『第五楼台亡灵住、逍遥自在大羅天』など。また『財楼对式』の中に対聯への記述は二者の共通点が明白である。

また胡光曙はかつて『梅山地区の紙馬文化』の中に自分の祖母が死去したとき、1軒のとても大きな色とりどりの霊屋を焼くことについてこう記述した。「あの霊屋は百元銀貨を費やした。たくさん紙作りの職人を招いて、1カ月余りで完成した。作りは広々でたくさんの部屋から構成された1つ大きい敷地である。柱はすべて丸ごとの竹で作られ、囲む塀が高く、入口の屋根が立派である。敷地が長い廊下に取り囲まれ、楼閣が隣り合っている、形は美しく極彩色に輝く。部屋の中に各種の家具が並べられ、すべてのものが揃っている。僧侶道士たちがなんと霊屋の中に入って、各部屋に「浄水」を撒いて法事を行った。2年後、紙作りの職人たちはこの傑作を思い出したとき、依然とし

(15) 張有雋『瑶族伝統文化変遷論』「M」広西民族出版社 1992年 p.159

て喜びを感じたものである……」⁽¹⁶⁾。湖南梅山地域はヤオ族の居住地であるため、梅山文化とヤオ族文化は密接な関係がある。胡光曙の記憶の中の紙作りの霊屋は、その規模は『従人・財楼科』の中の記録と同じように優れている。

3-5. 奠酒

奠酒儀式の役目は「従人科」の「奠酒」と同じである。しかし、ここは喪主が亡き親族への奠酒である。『生きているときは人情がある、死別の際には酒がある』、酒をもって別れを告げる、愛情がいつまでも続くのである。

「初奠酒、喜びと香を享受してください。お酒は杜康の家で作ったものであり、あまりの美味しさに劉伶さえ飲んだら3カ月酔っ払う」

「二奠酒、玉露が体の元気を保つ、妙薬を含んだ酒を飲んだら、たちまちにして五味を知り青蓮を吐く、徐々に青蓮が紅蓮に変ずる」

「三奠酒、美酒は金杯にいれ、飲んだら、声が良く通るようになる。青牛を連れて金楼に上がる。蓬莱三島を自在に漫遊する」

3-6. 財楼契式

皆の前で喪主が財楼を買った契約を読み上げるための儀式である。この契約は合法化させ、法律の効果をもたらすためである。契式は主な内容は以下である。

「某は父親か母親が病気で他界、身をよせるところがないため、喪主の男性某は彭という老人のところに行って財楼1軒を買う。そして2人は会った」。買った財楼は「東に楼があって、南に瑪瑙があり、西に瑠璃があって、北に塀があって、中に珊瑚がある。上に楼台があり、下に広く真珠に飾られ、宝の乗り物のように完成した。買主は99,999銭ちょうどのお金を財楼の持ち主、彭老人に渡す、財楼が彭老人から喪主の男性某に渡される。その財楼は故人と共に永遠に役に立つ。彭老人は自ら契約書を書いて喪主の男性某に渡す。男性は父親か母親の代わりに受け取る。担保は張堅固で、立ち会う人は李定庚となる」。

某皇号某月某日彭老人契 東極宮中慈悲太乙救苦

(16) 胡光曙『梅山地区的紙馬文化』中国第四回梅山文化學術研討会暨第1回梅山旅游文化藝術節組委會、中国第四回梅山文化學術研討會論文集に収録『中国第四届梅山文化學術講座會文集』(内部資料) 2006年 p.565

天尊 証明 (原文のまま)

契約は人間の契約様式を真似したものである。例えば「財楼を売る彭老人」、「担保張堅固」、「立会李定庚」は全部想像上の名前である。「彭老人」は老人星「彭祖」の真似かもしれない。米国議会図書館所蔵のう1冊のヤオ族齋亡書『醮墓式在頭、喪家在尾』の中に、似た「財楼契式」と「従人契式」の記述がある。記述の中に「彭老人」と「張堅固、李定庚」の名前は一致している。証明者は同じく「東極宮中慈悲太乙救苦天尊」である。2冊の記述は共通性が見られる。

3-7. 財楼対式

財楼対式は財楼に貼る対聯のことを指す。宋の時代から、対聯は文人たちの遊びから民間へと伝わり、徐々に大衆化してきた。家々に浸透し、人々が趣味嗜好及び祈り、願いを表現する芸術的な手段となっている。新年及び新しい家が完成した際、人々が対聯を貼って祝いを示す。習わしとして次第に定まって一般化した。対聯は字音の平仄や字義の虚実を考えて対句を作った整えた詩である。音律は調和がとれていて読みやすい。財楼の対聯は以下である。

(対聯の内容は原文のまま)

外城対：万代衙门居千岁，千世城墙住万年

左右対：东起城墙金沙地，西立衙门玉殿台

中城対：鲁班造成三间屋，丹青彩画九重楼

又中城対：玄灵升上三门屋，法师登品九重楼

后兰(栏)対：金兰果熟千香宝，玉楼花开万岁香

禾仓対：仓载千般金银宝，库藏万珠玉钱银

下屋対：慈尊引接归楼内，救苦提携临宇中

下屋対：三岛蓬莱游自在，九重山上赞逍遥

中屋対：万丈高楼花彩凤，千年紫竹耀玄龙

中屋対：三魂三宝三清界，七魄真人七品天

中屋対：九色楼台居楼座，五挂藤芳与子孙

上屋対：得入金门黍米殿，获升玉台宝珠中

上屋対：三魂升归逍遥殿，七魄达登快乐天

上屋対：三魂逍遥常自在，五明宫内任遨游

列挙した対聯の内容から分かるのは、財楼には外城、中城、後欄、禾倉、上屋、中屋、下屋がある。対聯の素晴らしい文脈かつ仙境のような風景への描写は、私たちに葬送儀礼の対聯の形式に対して理解させると同時に、財楼の豪華さと広大な勢いも感じさせられる。

4. 結び

葬式に使う紙作りは、葬送儀礼の存在と共に存在している。儀礼の進行の中で燃やされ、短命な芸術ともいえる。しかし、民間に千年以上存在し、幾度禁止されても衰えが見えず未だに強く根付いているため、それは長寿の、民衆に必要とされた芸術ともいえる。ヤオ族葬送儀礼の経書に紙作りの記録があることの価値は次の通りである。

4-1. ヤオ族葬送文化の多様性への理解

現存のヤオ族経書の中に葬送儀礼における紙作りの記述は非常に少ない。最近出版された『中国少数民族古籍総目提要・ヤオ族巻』の中に「打齋送亡」経書は67冊が収録されたが、類似の法事文書は見つからない。湖南省少数民族古籍弁公室編印『瑶人経書』の中に道場経39冊が収められ、類似文章も見られない。

昔のヤオ族の葬送儀礼に関する調査資料によれば、ヤオ族は支系が多く、葬送風俗も多様化している。葬式は岩葬、火葬、土葬、二次葬などがある。その中、白禪ヤオの岩葬、盘古ヤオ・高山ヤオ等の火葬、馬山ヤオの二次葬、広東排ヤオの「僵尸坐秤」（死者が椅子に座って出棺する）などの葬送風俗が特徴的である。葬儀の中に大量の紙作りを使うのは、ヤオ族固有の風習ではなく、ヤオ族の長い民族移動に伴い、漢族など南方の他の民族と融合した結果だと考える。このようにヤオ族の民俗文化の多様性と開放性が示され、中華文化の「多元一体」性も証明される。

米国所蔵清の時代の『従人・財棲科』は、学界に新しい民間文献を提供し、国内のヤオ族葬送儀礼の文献不足を補足した。ヤオ族文化の新たな側面を見せ、全角度でヤオ族葬送風俗への理解に重要文献を提供した。

4-2. 民間生活の美学及び信仰風習の研究に新たな空間提供

祭祀紙作りは民間紙作りの一部である。近年、いくつか地方の民間紙作りは無形文化遺産として認定された。これは紙作りの職人にとって大きな励みになると同時に、紙作りの研究と保護をも推進する。祭祀紙作りの領域において、研究論文の少なさと研究力の弱さは明らかである。80～90年代に潘魯生の『民間葬俗中的紙扎芸術』（『民族芸術』1988年第1期）と張道一の

『魂帰何処——談喪葬和祭祀的紙扎芸術』（潘魯生主編『中国民間美術全集・祭祀編・供品巻』所附專論）、また陸錫興『古代的紙扎』などの力作が世に出た。近年、少量の修士、博士論文も新たに発表された。総じて、これらの研究の着地点は多く漢族と中原地域に集中し、研究対象も紙作りの芸術性及び関連文化に集中している。南方少数民族の葬送儀礼の紙作りへの研究はまだ不足している。紙作り文献への整理も空白である。

米国議会図書館所蔵ヤオ族経書の中に、清の時代のヤオ族の法事紙作りの経書は、この分野の研究へ生きた歴史資料を提供し、経書を通して葬送文化と民間紙作りの芸術との関係を解説できる。民間祭祀に使われる紙作り人形と紙製建物の詳細、及びヤオ族と漢族の影響し合った葬送文化を理解し、葬送紙作り文化の研究を推進できる。

4-3. ヤオ族葬送文化の中で最も感情的な一面への理解

『従人・財棲科』の価値はその庶民性にある。儀礼文献ではあるが、その中身は、歌謡体が多く用いられている。文書が素朴であり、不自然さがなく、流暢でとても読みやすい。ヤオ族の歌に長けて、歌堂を楽しむ伝統文化が表されている。「歌は心の声」、歌謡は感情の芸術であって、歌によって葬式を行う家が死去した親族に別れ惜しむ感情、親族への追想、恋しく思う感情が徹底的に表現される。これは普通の儀礼文献にはできないことである。

文献の歌謡は、従者への言い付けであり、死去した親族への供養であり、言葉がいずれも丁寧で心から湧いた感情が読み取れる。衣食住など様々な細部を考え、事前に良く準備し、万全を期した。家族であってこそその表出のため、人に涙を流させるほど感動させる。

文献は「喜喪」（長寿を全うして亡くなった人の葬儀）の風俗に関する記述であるゆえ、強い娯楽部分が表現されている。庶民が死に直面する理性と達観的な部分を表す。民間で伝承されている大部分の民俗活動は、娯楽的な性格が濃厚である。例え嚴重な宗教風習と葬送風習であるとしてもあちらこちらに娯楽的な内容が顔を出す⁽¹⁷⁾。

経書に紙作りの明器への称えに多くの言葉を使われ、生き生きとした描写と鮮やかな色彩を用いてあの

(17) 陶立璠『民俗学』M北京 学苑出版社 2003年 p.67

世の美しさを作り出す。死者のためだと思われたが、実は生きている人間の心理を満足させるためであり、生者の心を慰めるのが目的である。家族を亡くす人々の悲しみを軽減し感情を表現できる手段でもある。「従人」と「財楼」の実物は見られないのだが、歌謡の描写を通してその素晴らしさを想像できる。そして死への恐怖を忘れ、濃厚な人間味と人情を感じる。親族、友達、近所が葬式に参列することで、精神的な慰めの役割があると同時に、葬儀その活動を通して死に直面する際、楽観的な対応、自我の感情のコントロール、悲しみを取り除くことなど生活の知恵も学べる。

つまり、『従人・財楼科』の歌謡及び儀礼への整理と解読によって、葬送紙作り文化の本質を知り、民衆生活との関連性を理解でき、その中に包まれた人生の謎を解くことができる。優劣を見分け、その中迷信及び愚かなものを排除し、宗教を敬い、祖先を尊ぶ、恩に報いて親孝行する、追憶し祝福もするなどの社会及び人々の暮らしに役立つ部分を発揚する。人類儀礼の軌道に乗せ、よりよく現実に役立たせる。

接鈴用

翻刻にあたっては倉澤茜先生（神奈川大学講師）に多大なご協力を頂いた。

- 一 速立齊連州唐王聖帝 下廟行平十二遊師△△△△△△
- 二 前歲以來 還愿家主有心許愿有心還愿 請得流羅
- 三 貴女 行郷出路 正是行過山邊 正知山路 正是行過
- 四 水邊 正知水路 不曾行過九州學堂內裡 正是
- 五 九州馬面使安 正知船過九州灘頭 九州過郷 正
- 六 是行得歌堂門外 正知歌堂內裡 正過連州唐王
- 七 聖帝心中之意 唱來正過行平十二遊師心中之意△△△△△△
- 八 聰明流羅貴女正會接鈴正會搖鈴 正是接
- 九 得劉三妹娘歌章劉三妹娘歌曲 正會唱歌
- 行賀三卅三廟聖王唱得貴言好語 無人敢談
- 二 無人敢笑 三廟聖王寬寬坐落聖席頭上 齊耳
- 三 聽言 齊耳聽聲

ナシ
ナシ
ナシ
ナシ
ナシ
ナシ
ナシ
ナシ

何樂嶺

- 一 何 樂 嶺 何樂生子何樂源山
- 二 人話石榴何生子 何樂生子出何源山
- 三 石 榴 嶺 石榴生子石榴源山
- 四 人話石榴要生子 石榴生子出深源

途路

- 一 源旗排河灘溝京鄉街樓廳京廂
- 二 山埂崩洞壩田州村院門房棹書

以降すべてなし

48	47	46	45	44	43	42	41
不唱了歌詞	初世聲歌詞	引歌出歌詞	請出女人出唱歌詞	不唱了歌詞	莫祿問歌詞	過已洞歌詞	離客 [㊦] 歌詞
	初世逢歌詞	引郎唱歌詞	入席拜歌詞		相伏問歌詞	過已寺歌詞	過已嶺歌詞

以降すべてなし

ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

三 今夜五更花發早
 三 口含眼淚不曾停
 三 手拿管子引娘吹
 ナシ
 二 今夜五更得個夢
 五 州庭相打手條鎗
 六 父母本錢三百貫
 七 銅打鐵刀打刀鉤
 八 拖歸家裡慢除鱗
 ナシ
 九 今過龍門水埠
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ

隨哥隨嫂又隨兄
 三個小娘共(櫻)坐
 引吹引唱引雙歸
 夢見州庭相打
 龍鱗衣甲使金裝
 隨娘心意對成雙
 拖下深塘●●鉤魚(鯰)
 三放除鱗莫放去
 裡頭居拖歸家裡滿台補

40	39	38	37	36	35	34	33	32				25	31	30	29				
初世逢歌詞	引出唱歌詞	起聲唱歌詞	請出男人出唱歌詞	囉哩	十七十八連人愛	排(排)來忠德馮三郎	荷葉盆中馮忠德	小娘心愿討成雙	ナシ	ナシ	ナシ	銅打刀鐵打鉤魚	父母本錢千萬貫	州庭相打手條(條)鎗	作(昨夜五更得個(夢)打	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
初世唱歌詞	初世唱歌詞	引娘唱歌詞	拜神聖歌詞		裝	彈(單)身一世永無(雙)	名字排(排)來忠德	囉哩	ナシ	ナシ	帶下深潭獨鉤魚腮(鯰)	意得小娘心愿	龍鱗衣甲使金漿	打(夢)見(州)庭相		ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	求	32 龍門水埠(埠)裡頭	30 深潭獨釣獨魚系(絲)	下30 拖歸家裡買除鱗	29 銅打刀鐵打鉤	28 父母本錢三百貫	27 州庭打事使條倉(鎗)	26 今夜五更得個夢	25 手拿管子定陰陽	24 手拿管子引娘吹	23 昨夜五更花發
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ		31 徑(經)過龍門水步(埠)	上31 三分魚鱗不放手	拖下深潭獨釣	隨娘心愿得成雙	龍林(鱗)衣甲使金庄	夢見州庭人打事		25 引娘吹唱引娘吹	24 三個(小)娘共(坐)凳	隨哥隨嫂又隨兄

- 三 朝朝掃屋著人庄 養得三年羊牯大
 三 托下(廣)州打事十三雙 官人去看四行娘
 ナシ
 ナシ
 二 荷葉盃中好傳語 路逢果子未曾嘗
 二 將為家裡養爺娘 爺娘養子自苦難
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 一 五更點燈看爺娘 爺娘睡濕子睡乾
 一 七 今夜五更得夢 夢見蓮塘花發
 一 八 白蓮蓮 朝朝折上(佛)前安
 一 九 折得一枝捨世(佛) 十分捨世不(嫌)冷
 二〇 手拈管子定陰陽

ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	28 囉哩哩	27 經過龍門水埠裡求 (鱗)	26 帶歸家裡慢煮淋 (鱗)	24 四行(行)飲了唱金 言	23 慢慢將來斟勸 人	22 家中無酒把空瓶 守到三年郎有酒	21 荷葉盃中來飲酒 又怕家中無酒	20 嘍哩哩	19 帶歸家裡養爺娘 爺娘養女白若難	18 荷葉盃中好傳語 路逢果子未曾嘗	17 寒郎羅(囉)哩	ナシ	16 帶下廣(州)打事 十三雙	15 朝朝掃屋著(著)人 庄 守到三年羊(羊)牯 大
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ		寒峰一世也無衣	三分煮鱗莫放過	囉哩	將來斟勸四行(行) 人				爺娘養女白若難	路逢果子未曾嘗			官人出看歲	大
22 手拿管子定陰陽	21 摘得一枝捨佛	20 蓮塘花發白紛紛	19 今夜五更得個夢	ナシ	18 大家孝順養爺娘	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	17 帶歸家裡養爺娘	16 荷葉盃中傳好女	上 15 ：寒郎	下 14 廣州打事十三雙	14 拖下廣州打事	13 朝朝掃屋著(著)人 粧
	殘 十分捨(舍)施莫嫌	朝朝摘上佛前安	花發 夢見蓮(蓮)唐(塘)	ナシ	懷胎落地斷肝腸	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	大哥叫兄兄叫嫂	路逢果子未曾賞			上 15 官人出看歲：	大 養得三年羊(羊)古(牯)

三三 大船立立三江口
 三三 盤州歌詞都唱了
 石壁裡磊等江灘州
 不知(哪)路向河灘流

四段荷葉盃

一 荷葉盃中松柏茂
 二 能青能白又能紅
 三 打得手籠安手裡
 四 入花宮已時落日
 拍上青山松柏
 求官愛念打手籠
 睡到五更流去
 得相逢

ナシ
 ナシ
 ナシ
 何歸海岸滿河流

六 黃霜落日正合求
 五 荷葉會中葉過岸
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 已般黃
 抄手四行象老大
 寬寬坐位我回鄉
 斷中央
 無人攬路不成仁
 二 荷葉盃中羊孤獨

14	荷葉盃中羊 <small>牯</small> 毒	無人攬攬不成人	弟(第)四荷葉盃
13	回鄉轉步看爺娘	羅(囉)哩哩	
12	四(行)行老大四(行)行娘	寬寬坐位我歸鄉	
11	郎來一夜望天光	抄手四行(行)眾老大	
10	荷葉盃中真荷葉	已般荷葉已般黃	
9	羅(囉)哩哩		
8	滿身漿果掃坭塵	十分漿果不成人	
7	黃桑落葉正合求	身著(著)羅衫無小本	
6	荷葉盃中葉過岸	葉歸海岸滿河流	
5	羅(囉)哩哩		
4	五更流去入花宮	已時落日得相逢	
3	打得手籠安手裡	守到五更流去	
2	能青能白又能紅	求官愛念打手籠	
1	荷葉盃中松柏 <small>茂</small>	轉上青山松柏	
			又唱第四段荷葉歌曲起
12	荷葉盃中羊 <small>牯</small> 毒	無人攬攬不成人	
11	回鄉轉步到中央	羅(囉)哩哩	
10	四行老大四行娘	寬寬坐位我回鄉	
9	郎來一夜望天光	抄手四行象老大	
8	荷葉盃中真荷葉	已般荷葉已般黃	
7	渾身得色伏坭塵		
6	今日好還還良願		
6	黃桑路葉正合求	身著(著)破衫無袖上	
5	荷葉盃中葉歸岸	葉歸過岸滿河流	
4	五去(更)流去又花宮	幾時落日得相逢	
3	打得手籠安手裡	等到五更流去	
2	能前能去又能逢	求官愛行打手籠	
1	荷葉盃中雙白露	白上青山松柏	

170	盤州歌詞都唱了	難(灘)流	169	大船列列三江口	石頭裡磊等江灘
48	盤州歌詞都唱了	流難(灘)	47	大船立立三江口	石嶺立磊在江州

- 二〇四 老鼠偷喫貓兒飯
 二〇五 不信但看明月晏
 二〇六 老鼠偷喫貓兒飯
 二〇七 不信但看明月晏
 二〇八 瑤人會愛擔格木弩
 二〇九 瑤人擔柳牢裡坐
 三〇 瑤人愛會擔格木弩
 三一 瑤人擔柳牢裡坐
 三二 朝過州門怕不怕
 三三 清水流來纏州轉
 三四 朝過州門怕不怕
 三五 莫怪歌詞相說報
 三六 朝過州門怕不怕
 三七 玉 原來巷上吠
 三八 盤州大船七尺闊
 三九 莫怪歌詞相說報
 ナシ
 ナシ
 三〇 東海龍門出石卵
 三三 南安寺裡出金水
- 貓兒寫狀下街遊來
 老鼠擔柳入縣門街
 貓兒寫狀下州論高
 老鼠擔柳入縣門牢
 販客愛擔桑柘鎗枯
 公人無事說章圖
 販客愛擔桑柘條枝
 公人無事說飄思
 夜過縣門驚不驚
 書字出來令牒今
 夜過縣門不休驚不驚
 聖子入州羅聖遊鼓聲
 夜過縣門更鼓聲
 更鼓原來樓上聲州門更鼓不曾停
 重到底七行分成
 大船蓬過見天門心
 西海龍門出石螺珠
 貴州洞口出金鵝魚

168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157		155		156		154	153
南安寺裡出金水	東海龍門出石卵	架起船蓬貼船去	盤州大船七尺活	莫怪歌詞相說報	盤州大船七尺活	玉狗原來巷上吠	朝過縣門怕不怕	莫怪歌詞相說報	打過縣門怕不怕	青水流來纏州轉	朝過縣門怕不怕		猛人愛擔格木弩		罪人擔柳(柳)牢裡座(坐)		不信便看明日晏	老鼠偷喫貓兒飯
金鵝魚	貴州(州)洞口出(螺)珠	刀鎗	高長	門屋	丁	更鼓原來樓上聲劉門更鼓不曾亭(停)	夜過縣門更鼓聲	聖子入州落聖遊	夜過縣門(休)驚不休(驚)	八州	驚憂		鎗		章		牢	高
魚	貴州(州)洞口出金鵝	西海龍門出石(螺)珠	架起船蓬(蓬)萬丈	大船蓬(蓬)破見天	重行到底七行分		夜過縣門更鼓聲	聖子入州落聖遊	夜過縣門(休)驚不休(驚)	書字出來纏牒驚	夜過縣門驚(憂)不驚(憂)		販客愛擔桑柘條		公人無事說風飄		老鼠擔柳入縣門	貓兒造狀下皆偷
46	45																	
南安寺裡出金水	東海龍門出石卵																	
魚	貴州(州)洞口出金鵝	西海龍門出石(螺)珠																

- 一四 大州出得好青米 貴州出得好青娘人
- 一五 大州至凡七千萬戶 橫倉載米萬田娘
- 一六 大州出得好青米 運下貴州養聖娘
- 一七 大州至凡七千戶萬 橫倉載米萬田音條
- 一八 莫怪歌詞相說報 又至路司通到京朝
- 一九 日頭相剋天星上 官人相剋入州庭
- 二〇 日頭大海相剋海心上 七星相剋月邊聞
- 二一 大船相剋天星上 秀才相剋入州庭
- 二二 大州裡頭置學院 貴州兩路置書堂
- 二三 出世凡人讀不盡 天子讀盡萬書行衍
- 二四 大州裡頭置學院 貴州兩路置書公生
- 二五 置得相公州公秀才相公坐 佛前書卷不離腳台
- 二六 大州裡頭置學院 貴州兩路置書公生
- 二七 置得書公生州裡座 又置筆頭手裡籠行
- 二八 大州裡頭置學院 貴州兩路置書高亭
- 二九 置得書高州裡停相公坐 腰上又縛絲線縞青
- 三〇 大州裡頭置學院 學院也完平州也完平
- 三一 學院也完平州也定 除司相剋入州門
- 三二 貓兒上得相公宅坐 皮鞋上得相公前廳
- 三三 墨盤銀瓶對得相公坐 筆頭記得相公名言

152	151	150	149	148	147	144	145	146	143	142	141	140	139		138			137	134
墨盤對得相公座	貓兒上得相公宅	學院也完平州也定	大州裡頭置學院	置得書高亭相公座(坐)	大(州)裡頭置學院	置得學生書公州里座(坐)	大州裡頭置學院	置得秀才官人州里座(坐)	大州裡頭置學院	出世凡人讀不盡	大(州)裡頭置學院	頭船相打海心上	日頭相打天星上		莫怪歌詞相說報			大(州)置凡七千戶	大(州)出得好青米
筆頭記得相公名言	皮鞋上得相公前廳	秀才相打入州門	學院也完平(州)也完平	腰上又縛系(縞線)縞青	亭	龍	貴州兩路置秀才官人	縛前書卷不離台身	貴州兩路置書公	天子讀盡萬書行言	貴州兩路置書堂人	秀才官人相打入(州)門	七星相打月邊(邊)		又置路司通到京朝			橫倉載米萬(余)明(條)	貴(州)出得好青娘人
ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ

- 一六六 大州還大羅州尾
 一六七 廿四官州大州大
 一六八 大州出得生人(膽)
 ナシ
 一六九 廿四官州大州大
 一七〇 大州出得生人(膽)
 一七一 廿四官州大州大
 一七二 大州出得長鎗棒
 一七三 大州(興)姓滕篋伏屋
 一七四 大州淡淡喫鹽水
 一七五 橫托州門七尺闊
 一七六 莫怪歌詞相說報
 一七七 大州打上七里路
 一七八 莫怪歌詞相說報
 一七九 大州打上七里路
 一八〇 莫怪歌詞相說報
 一八一 大州至凡七千戶
 一八二 州上功名無萬個
 一八三 大州至凡七千戶
 ナシ
- 貴州細小羅州頭(心)
 大州還大貴州城(長)
 貴州出得死亡人(娘)
 大州還大貴州頭
 貴州出得死人頭
 大州還大貴州長(頭)
 帶下貴州入陣場
 黃州鹽貴賤人多(具)
 白鵲細小喫鹽羅(田)
 倚托縣門八尺高(城)
 州門掛掛半天高(庭)
 重縣到州七路高(庭)
 重縣到州七重牢(路程)
 重縣到州七路底(庭)
 州裡得聞縣馬嘶(聲)
 橫倉載米萬(田)郎(良)
 個個出來敬(哥)奉郎(娘)
 橫倉載米萬(田)良(人)

136	135		133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	118	122	119	120
米大(切)州)出得好青	戶大(切)州)置凡七千	ナシ	大州置凡七千戶	莫怪歌詞相說報	大州打上七里路	莫怪歌詞相說報	大州打上七里路	莫怪歌詞相說報	橫托州門七尺闊	大(切)州)淡淡喫鹽水	大州姓藤篋縛屋	大州出得長鎗棒	廿四官(切)州)大(切)州)大	大(切)州)出得生人(膽)	廿四官(切)州)大(切)州)大	大(切)州)枉大落(切)州)尾	大(切)州)出得生人(膽)	廿四官(切)州)大(切)州)大	大(切)州)枉大落(切)州)尾
運下貴州養聖郎(娘)	橫倉載米萬(余)郎(娘)	ナシ	橫倉載米萬(余)娘(人)	州里聽聞縣馬西(聲)	重縣到州七路依(亭)	重縣到州七層牢(城)	重縣到州七路高(亭)	州門掛榜半天長(高)	直托縣門八尺長(高)	白鵲小細(興)喫鹽羅(田)	貴州鹽貴賤人多(興)	帶下貴州入陣場(愁)	大(切)州)枉大貴(切)州)長愁	帶下貴州八陣場(貴州出得死亡頭)	大(切)州)枉大貴(切)州)長(頭)	貴州細小落中央(牢)	帶下貴州八陣場(貴州出得死亡頭)	大(切)州)枉大貴(切)州)愁(深)	貴州小細落(切)州)頭(中)(心)
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	42	ナシ	43	44
																大州往大落州尾		廿四官州大州大	大州往大落州尾
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	貴州細小落中央(牢)	ナシ	深	中

- 一五 英台嫁在馬家去 英台穴入共頭眠(齊)
- 一五三 生時山伯黃梁共把扇 死入黃泉共盒珠(錢)
- 一五四 生時不得死了得 死入黃泉共得圖(連)
- 一五五 生時共攬死同眠 送上大州大路邊(齊)
- 一五六 擔(齊)鍬挖(泥)七尺深 飛上半天飛上天
- 一五七 生生死死不相放 死死生生不放行
- 一五八 嫁上(大)州(郎)也上 嫁下貴州郎也隨
- ナシ
- ナシ
- ナシ
- ナシ
- 一五九 廿四官州正山欺 卅六埠河東海長(寬)
- 一六〇 東海不通擲船上 新水流來入貴鄉(村)
- 一六一 廿四官州大州(大) 卅六埠河東海深
- ナシ
- ナシ
- 一六二 東海出得天看國(犀牛角) 出世師人個個尋
- 一六三 廿四官州大州大 卅六埠河東海齊(完)
- 一六四 東海不通擲船過 西海不通擲大排
- 一六五 廿四官州大州大 大州還大貴州高(長)

117	116	115	114	113	112	111	110	109					106	105	108	107	104	103	100
廿四官(初)州(大)	東海不通擲船過	廿四官(初)州(大)	東海出得沉香(犀牛角)	廿四官州大州大	東海不通擲船過 得細出官席	廿四官州大州大	東海不通擲船過	廿四官州正山(欺)					嫁上大州郎也上	生生死死不放托	擔鍬挖泥七寸深	生成共橙(燈)死同眠	生是不念死了念	生是量量共柄(扇)	英台嫁上大路去
大(初)州(長)高	西海不通擲大船	齊	出世師人個個尋	卅六埠河東海深	西海不通擲洗身 出良又出金	卅六埠河東海深	無	卅六埠河東海長					隨	歸	纏	齊	死(陰)世正來連	珠	梁(三)協入共頭(齊)
長	排	員			出銀又出金			枕					行	離	雙	邊	圖		
大州往大貴州高	西海不通擲大船	卅六步河東海深	出世師人個個尋		西海不通擲洗身	卅六步河東海深		三十六步河東海深					無緣嫁去馬家人	死在大州大路江	死在大州大路江	神靈飛上白連連	死在大州大路江	死在陰司正來連	
41	40	39	38		36	37		35	32	31	30	29	28	27	34	33	26		
廿四官州大州大	東海不通擲船上	廿四官州大州大	東海出得犀牛角		東海不通擲船上 出得細江石	二十四官州大州大		二十四官州青山欺	梁山有緣躑進我	生成共斃死同床	梁山有緣躑進我	生成共斃死共床	生成共斃死共床	娘上大州郎也上	擔鍬拍泥七寸深	生是共斃死同床	生是不連死了偷		
					出銀又出金				有緣躑我共頭眠	死在大州大路江	無緣嫁去馬家人	死在大州大路江	死在大州大路江	行	雙	邊	圖		

- 一三 讀書三年共學院
 - 一三 風過杵頭梁山伯
 - 一三八 交頭茶飯共台飯 喫
 - 一三九 風過杵頭梁山伯
 - 一四〇 英台著衫千百結
 - 一四一 風過杵頭梁山伯
 - 一四二 山伯二人齊過水
 - 一四三 三月三
 - 一四四 看得春花為心繚亂
 - 一四五 高機織布布煙煙藏藏
 - ナシ
 - 一四六 山伯解衫來定我
 - 一四七 山伯不來吞衣死
 - 一四八 吞衣不死吞刀死
 - ナシ
 - ナシ
 - ナシ
 - 一四九 山伯不惡奈吞刀衣死
 - 一五〇 人雙過路偷彈子
 - 一五一 山伯不奈吞衣死
- 因何不識你身才青
船行水面祝英台
共盤墨水夜眠羅帳共硯池枕眠
船行水面祝英台
解得衫開月上天天光
船行水面祝英長塵
不圖身濕且圖涼陰
先生放學看春花為
英台心亂各歸家回歸
山伯解衫來定親雙
山伯不嫁嫁別人娘
橫吞刀子真今難鎗真
刀子冷愁力斷腸心
- 墓在大州大路中邊
秀才過路把沙翁填
送上大州大路邊埋

101	102	99				98	97	96		95	94	93			92	91	88	89	90
三伯不奈吞衣死	人雙過路偷擔(肯)	三伯不奈吞衣死	ナシ	ナシ	ナシ	吞衣不死吞刀死	三伯不奈吞衣死	三伯解衫來定我	ナシ	高機織布布煙煙藏(班班)	看得春花連心撩亂	三月三	ナシ	ナシ	英台著(卷)衫千百結	風過樹頭梁山伯	朝朝吃飯共檯吃	(風)過樹頭梁山伯	三年讀書共學縣
●死在大州大路(場)田	秀才過路(撥)(發)沙	(邊)死在大州大路頭	ナシ	ナシ	ナシ	刀子烈流力斷腸(心)	橫吞刀子又吞(鎗)	梁三不嫁嫁閑郎(人)	ナシ	(親)三伯解衫來定雙	英台心亂各歸家(回)歸	先生放學看春花(違)	ナシ	ナシ	解得衫開月上天天光	涼	夜眠羅帳共頭眠	英	青
ナシ	ナシ	ナシ	25	24	23	22	21	20	19	18	17							13	14
			生是黃泉共把傘	人雙過路偷擔指	生在共凳死死坐	吞衣不死吞刀死	梁山不奈吞刀死	梁山解衫來定了	高機織布布連連	看得春分花心裡亂	三月三							風過杵頭梁山伯	讀書三年共凳坐
ナシ	ナシ	ナシ	(珠)錢	堆	中	吞刀子橫放斷腸	橫吞刀子割斷腸	郎	親	白紙寫書歸報家	先生放學看春花	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	音	(材)情	因何不知妹身才
			死在天泉共合朱	子雙過路披沙翁	死在大州大路邊			英台下嫁嫁閑人	梁山解衫來定雙	英台心亂各歸家								船行水面小黃良	

ナシ

三七 廿四官州多有橫

文章寫水祝英台

三八 郎今不是嘍囉子

但說龍言今句明開

三九 英台原在四川住

地名久報白沙田灘

三〇 祝家無男生一女

少年辛苦事今言文章

ナシ

三一 青松杵下排年紀

山伯年生有幾春多

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

三三 山伯讀書共學院

英台在後答書言

三三 山伯遊遊大路去

又有無船過大江鄉

ナシ

三四 山伯二人齊入學

英台在後答書

三五 風過杵頭梁山伯

水行水面祝英台

ナシ

ナシ

87	86	85		84	83	80						79		82	81	78	77				
風過杵頭梁山伯	讀書三年共學縣	風過樹頭梁山伯	ナシ	讀書三年共學縣	三伯遊遊大路去	三伯讀書共學院	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	青松樹底排年已	ナシ	祝家無男生一女	英台原在四川住	郎今不是嘍囉子	廿四官州多有橫	ナシ			
烟(煙)	船行水面祝英台	人	田	行	江	行	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	年(多)	ナシ	言	田	明					
	不識英台是姑娘	船行水面祝英台	ナシ	英台在後托書箱	又憂無船過大江	英台在後托書言						三百年生有已幾		少年全靠接文章	地名說報百沙淮	但說龍言金句開	文章寫水祝英台				
	16	15			7		12	11	10	9	8	6	5	4	3	2	1				
ナシ	讀書三年共學縣	風過杵頭梁山伯	ナシ	ナシ	二人遊遊大路去	ナシ	英台着(著)衫千百	夜眠要睡連衫睡	日裡茶飯共台吃	三百學生齊入學	三(山)伯解衫遊水	英台排來十六歲	青松樹下排年已	千般書字都習盡	祝家無男生一女	郎今不是嘍囉子	二十四官州多有橫	歌臬仰轉聲			
ナシ	人	塵	ナシ	ナシ	又有無船過大江	ナシ	解得結來天大光	天光早起習文章	光	夜裡讀書共火煙	名	共盆清水共頭眠	行	英台在後托書箱	山伯年高十八多	排去排來十八年	去前間山進學堂	一年四季習文章	ナシ	但說龍金句言開	文章寫水祝英台

- 二〇十二遊師十二樣
 二一六師得飲非迷醉
 二二十二遊師十二樣
 二二三也有吹得歌堂散
 二二四日頭東海沙洲上
 二二五照見連州連大國
 二二六日頭東海沙洲上
 二二七紫微嶺上南風發
 二二八烏雲生
 二二九簑衣笠子貼身去
 三〇烏雲生
 三三又廷橫木向前去
 三三三烏雲生
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 三三三東海南蛇吞得象
 三三四南蛇吞象五婆見
 三三五大州粟木刀頭大
 三五六栗木杆大五婆見
- 六師得法六師空
 六師不得半盞當
 也有彈琶也有吹爭
 也有吹唱引雙行歸
 照見連州連太平
 銅壺飲酒把雙瓶
 夜落紫微嶺上歸行
 惹有烏雲兩邊飛生
 簑衣笠子隨身行
 又定弓箭向前行
 又廷橫木作橫爭裝
 又定弓箭向前行江
 又定船管貼船燈火向前行
- 西海鼠毛七寸長深
 鼠毛七寸聖人量尋
 貴州李子二人杠更
 李子杠大聖人賞爭

76	粟米往大五婆見	更	李子杠大聖人賞
75	大州粟木刀頭大	更	貴州李子二人杠
74	南蛇吞象五婆見	尋	鼠毛七寸聖人量
73	東海南蛇吞得上	深	西海鼠毛七寸長
72	又定燈火向前去	行	便是火烟(煙)天上
71	烏雲生		又定燈火向前行
70	又定船管向前去		又定刀子向前行
69	烏雲生		又定船管向前行
68	又定橫木向前去		又定弓箭向前行
67	烏雲生		又定橫木作橫爭
66	去 簑衣笠了(子)貼身	68	又定弓箭向前行
65	烏雲生		簑衣笠子貼身行
64	紫微嶺頭南風發		嶺上飛行
63	日照頭東海沙洲上		惹着(著)烏雲
62	照見連州連大國		良呼在酒把雙瓶
61	日頭東海沙洲上	坪	照見連州連太平
60	也有吹得歌堂散	行	也有吹唱引雙行
59	十二遊師十二樣	爭	也有彈琶也有吹
58	六師得飲微微醉		六師不得半盞當
57	十二遊師齊出路		六師得法六師空
64	粟米往大五婆見		李子往大聖人賞
63	大州粟木刀頭大		貴州李子二人杠
62	南蛇吞象五婆見		鼠毛七寸聖人量
61	東海南蛇吞得象		西海鼠毛七寸長
	ナシ		ナシ
	ナシ		ナシ
60	又定船官向前去		又定刀子向前又定火煙●●行
59	烏雲上		又定船官貼船燈火向前行
58	又定橫木向前去		又定弓箭向前行
57	烏雲上		又定橫木作橫裝
56	簑衣笠子貼身去		又定楊柳向前行
55	烏雲上		簑衣笠子貼身行
54	紫微嶺上南風發		惹着(著)烏雲兩邊飛行
	ナシ		ナシ
	ナシ		ナシ
53	日頭東海沙洲上		照見連州連太平
52	也有吹得歌堂散	歸	也有吹唱引雙行
51	十二遊師十二樣	爭	也會彈琶也會吹
50	六師得飲迷迷酒		六師不得半盞當
	法傳天下		(嘗)無法口中強

- ナシ
 三 當初得見娘嫌崽
 世今得見崽嫌娘一人
 七 色 嫁 早
 也為大哥色嫁多錢
 七 又色鯉魚錢文門扇大
 又色象牙龍角梳衣裳七貫錢
 七 色 嫁 早
 也為大哥色嫁高長
 七 色 娘鯉魚門扇大
 色嫁鐵羊棚坎高長
 七 女是樓上大婆女
 裝嫁黃涼有七千箱
 七 三箱隨娘去出嫁
 四箱在屋守爺娘一人
 八〇 三百二人隨橋上
 望見線蕨把格木賴做(麩)族
 八二 三百二人共把(齊發弩)
 又請五婆踏上松(五婆但聽弩弦聲)
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 三 麟(麟)山上原無石
 羅伏水底水無多魚
 八三 上家原來愛討●
 花女原來愛討夫
 八四 當當牒牒劉三(高)
 微微茫茫海中央心
 八五 白藤生上劉三岸
 高飄世法海中央心
 八六 (本)是劉三劉嶺大
 高長是石山石嶺高長
 八七 劉三昇上劉王殿
 石山生下海中牢央
 八八 大是劉三劉嶺大
 (沈)底是劉三劉石山石嶺(沈)底
 八九 劉三(昇)上劉三殿
 石山生下海中心(西)

36	劉山生下劉王殿	西	石山生下海中心
35	大是劉山劉嶺大	(沈)底	(沈)底是石山石嶺
34	劉山生下劉王殿	央	石山生下海中牢
33	大是劉山劉嶺大	高長	高長是石生石嶺
32	白藤生上劉山岸	心	高飄生下海中央
31	堂堂疊疊劉山隔	(歌)心	(歌)返忙忙海中央
30	僧家大哥原來愛討配	討夫妻	花生大姐原來愛討夫妻
29	麒麟山高原無石	魚	羅伏水下無英
28	三百二人共把弩		五婆但聽弩彈聲
27	三百二人隨橋上		得見木抱賴是猴
26	三百二人共把弩		又請五婆路上從(羊)
25	三百二人隨橋上		得見挨死賴是猱(娘)人
24	三箱千隨娘去出嫁		四箱千在屋守爺娘
23	女是五婆養老女	千	裝嫁黃涼有七箱
22	又色鯉魚門扇大	高	又色胡羊坪坎長
21	色嫁早	高	也為大哥色嫁長
20	又色鯉魚門扇大	(錢)	又色衣裳七貫天(錢)象牙龍角梳
19	色嫁早	錢	也為大哥色嫁多
18	當初得見娘嫌仔	人	世今得見仔嫌(娘)人
16	樓上連雙十二個	(衣)	中心一個是真雙(衣)
31	大是劉山劉嶺大	高低	高低是石山石嶺
30	劉山生上劉王殿	心	石山生下海中央
29	大是劉山劉嶺大	石嶺高深	高深是劉石山劉石嶺高深
28	老藤生上劉山岸	心	高飄世法海中央
27	當當牒牒劉山隔	中央心	迷迷茫茫忙忙海中央心
26	和尚原來不討配	夫	花好原來不討妻
25	麒麟山高原無石	愁	羅伏水底水無魚
24	三百二人共弩(把)	候	又請五婆踏上松五婆聽得弩(弩)弦聲
23	三百二人隨橋上	娘人	望見肌蕨賴是塵
22	三千箱裝嫁出去	箱	四箱千在屋守爺娘
21	女是樓上大婆女	長	裝嫁黃涼有七千
20	出嫁里(鯉)魚門扇大	裝	又色禮羊棚坎高
19	出嫁早	裝	也為大哥出嫁高
18	又色鯉魚門板大	弦	又色象牙龍角梳
17	色嫁早	娘人	裝銀七貫錢
16	當初得見娘嫌子	(娘)兒	也為大哥色嫁多
12	樓上連雙十二個		世今到(倒)轉子嫌娘人
			中心一個是真奴

五七 思著當初少年時

出少不曾離父母

五八 世今離了幾多年

好做風流把你看

五九 完曲

曲完

ナシ

六〇 天子知得天下事

老人知得古來因情

六一 寒養偷起寒風●

玉女得聞偷嘆聲

六二 樓上伏門有七孔

伏了依還聖女聞聽

六三 鎖匙又定鎖匙●

鎖匙拍得板門聞聲

六四 樓上伏門有七孔

伏了依還龍女聞聲

ナシ

六五 女是樓上大婆女

又是五婆養出身人

六六 十五年間逢養大

台巷排來唐十人娘

六七 女是樓上大婆女

又是五婆養出姑身

六八 十五年間逢養大

海岸刻留把唐王來祝書討親

六九 女是樓上大婆女

又是五婆養出郎

七〇 十五年間逢養大

留把唐王來討雙

七一 甘蔗過離十五節

不知哪節是真糖衣

七二 樓上點燈地下暗

地下點燈樓上光陰

ナシ

ナシ

15	14	17	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	唐王出世	ナシ	ナシ	ナシ
柑(廿)●(蔗)過(離)十二節	樓上連雙十二個	樓上點燈地下暗	柑(廿)●(蔗)過(離)十二節	十五年間伏樣大	女是樓上大婆女	十五年間伏樣大	女是樓上大婆女	十五年間伏不大	女是樓上大婆女	水底龍門龍女伏	樓上伏門伏七捧	鎖匙又定鎖銅熟	樓上伏門伏七捧	寒養偷起寒風●	天子知得天下事				
衣	雙兒	陰	塘衣	雙	郎	書	姑	娘	郎	開	開	開	開	聲	情		ナシ	ナシ	ナシ
中心一節是真塘	不知那(哪)個是真	地下點燈樓上光	不知那(哪)節是真	留把唐王來討親	又是五婆養出身	海岸唐王來討親	又是五婆養出身	檯巷排來當十人	又是五婆養出人	羅帶伏門誰敢聲	伏了依還龍女聲	鎖匙拍得板門聲	伏了依還聖女聲	玉女得聞偷嘆心	老人知得古來田				
11	10	15	9		13	8	7	14		6	5	4	3	2	1	滿段完又唱女人唱系	ナシ	ナシ	ナシ
甘蔗過離(離)十二節	樓上連雙十二個	樓上點燈地下暗	甘蔗過離(離)十二節		女是樓上大婆女	十五年間捧養大	女是樓上大婆女	十五年間捧養大	ナシ	水底龍門龍女縛	樓上縛門縛七縫	鎖匙又共鎖同熟	樓上縛門縛七縫	寒着(着)透起寒風	天子得知天下事				
(糖)衣	奴(娘)兒	陰	衣唐(糖)		姑	討親	姑	台巷排來當十人	ナシ	聲	聲	聲	聲	聲	田		ナシ	ナシ	ナシ
中心一節是真唐	不知那(哪)個是真	地下點燈樓上光	不知那(哪)節是真		正是五婆養出身	留把唐王來問雙	正是五婆養出身			羅帶縛門誰敢開	縛了依還聖女開	鎖匙拍得門板開	縛了依還聖女開	玉女得聞偷但心	老人得知古來因				

四 當初廳前看雲霧
 雲霧浸地下湖南
 三 微風細雨落 梅
 立起鳥頭郎去歸
 四 客人會飲長流酒
 郎今飲盞是茶芽
 四 前飲龍漿後飲茶
 來時山高路又遠
 四 手拈茶盞淚拋沙
 多謝主人上馬茶
 ナシ
 ナシ
 四 官人愛飲杜康酒
 郎今飲盞醉微微
 ナシ
 四 坐落橙頭橙尾完
 手拿笛子引娘吹
 四 吹下列山列嶺歸
 寅卯二年賊反亂
 四 百姓也憂官也憂
 官憂州府不太平
 五〇 一夜拋刀馬上行
 衫被伏米去打寨
 五 寨前寨後細思量
 不得太平歸本鄉
 ナシ
 五 白鴿年生一對卵
 娘姐生郎獨一人
 五 一人偷嫁落人鄉
 磨利沙刀烈斷腸
 五 不信但看正二月
 一雙陽鳥勸秋秋
 五 思著爺姐在遠鄉
 船過埠頭不使樂
 五 馬過門前不使鞍
 一心作笑二心思

	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	下73	下72			下71	70	69	68	67
ナシ	思著爺姐在遠州	不信便看正二月	一人出嫁落人鄉	白鴿原生一對卵	嘍哩	事前事後自思量	日夜拋刀上馬行	百姓也憂官也憂	吹下劉山劉嶺歸	座(坐)落橙(凳)頭 橙(凳)尾垂	座(坐)落橙(凳)頭 橙(凳)尾垂	官人愛飲長流酒			手拿茶盞淚拋沙	前飲龍漿後飲茶	官人愛飲長流酒	寒風吹下落分飛	初出廳前看雲霧
												上73			上72	上71			
ナシ	嘍哩	一雙陽鳥勸愁愁	磨利沙刀泣斷腸	爺姐生郎獨一人		不得太平歸本鄉	衫袖伏米去打事	也憂州府不太平	寅卯二年賊馬返	手拿笛子引娘吹		郎今飲盞醉微微			斟謝主人上馬茶	來是山高路又遠	郎金(今)飲盞是茶牙	立起馬頭郎轉歸	雲露漸山地下鳥
	56	55	54	53		下51	下50	下49	下48	47		46	45	下44	43	42	41		
ナシ	州 思著(著)爺姐在遠	不信便看正二月	偷連去嫁落人鄉	白鶴原生一個卵	ナシ	事前事後好思量	日夜拋刀馬上行	百姓也憂官也憂	吹下劉山石嶺歸	座(坐)落凳頭凳尾垂		客人會飲桃源酒	上腰 一百二十丈黃良纏	山高路遠路頭長	手拈茶盞淚拋沙	先飲龍漿後飲茶	客人來飲長流酒	ナシ	ナシ
						上52	上51	上50	上49	上48						上44			
ナシ		一雙陽鳥歡啾啾	磨利沙刀斷肝腸	娘姐往郎郎一人		不得太平歸本鄉	衫袖伏米去打事	官憂州府不太平	寅卯二年賊馬敗	手拿笛子引娘吹		郎今飲盞笑微微			心謝主人上馬茶	來時山高路又遠	郎今飲盞是茶牙(芽)	ナシ	ナシ

一〇 一雙陽鳥勸秋秋
 三九 第二雞啼縛五更
 三八 正是官人飲酒為
 三七 小官愛縛細線縞
 三六 人貌寬寬好做官
 三五 望見高樓人閃開
 三四 當怕人多立不完
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 三〇 言語報誰知
 三九 郎在湖南身為賊
 三八 人來客去但煎茶
 三〇 郎隨十五是年少
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 三〇 言語報誰知
 三九 淚落腦前心裡思
 三九 辭別娘家賊
 三八 莫說娘今不在家
 三〇 郎隨十五是年少
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 三〇 郎隨十五是年少
 三九 朝朝抄手立腦前
 三九 莫說娘今不在家
 三九 辭別娘家賊
 三九 淚落腦前心裡思
 三九 高台望見飄飄
 門開得見眾官人
 大官愛縛大衫緞
 金縞羅帶尾托垂
 第一雞啼正半夜
 第三雞啼天亮了
 思著爺娘在遠州

66	下65	下64	下63	下62	下61		60	59	58	57	56			39	55	54	53	52	51
一雙陽鳥勸愁	了弟(第二雞啼天光	正是官人飲酒歸	小官愛復系(絲線	面貌寬寬好做官	望見高樓門扇開		不以得官讀書管	秀才要讀九經字	心中偷限好雙兒	淚落胸前月樣園	郎隨十五少年少			知着(著)人言語報是	正是湖南過海龍	銅盆在(載)水清流	歸家暗意思思量	郎隨湖南大路上	正是好眼前在花
		上65	上64	上63	上62	上61													
州	思著(著)爺娘在遠	夜弟(第一雞啼正半	官縞羅帶尾拖垂	大官愛縛少衫緞	門開得見縣官人	高樓望見飄飄殿	嘍哩	九經書字有文章	不(以)讀書成秀才	郎爺郎姐偷心限	朝朝抄手立胸前			淚落腦前心裡思	嘍哩	胸前衫領繡金龍	思儀思量愁殺人	路斷黃龍三丈五	嘍哩哩
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

一四 正是官人飲酒歸

一五 四邊官子立衙寄

一六 囉裡排行送上京

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

一七 朝朝擔糞去翁根

一八 正春二月去殺茅

一九 有醋無鹽淡 人

二〇 照見客人遠路來

二一 腳踏皮鞋上娘床

ナシ

ナシ

官人飲酒中廳裡

庭前白馬踏啼聲

庭前種藥青坭竹

擔糞翁根望芽長

銅刀落地細演演

日頭出早東廳照

客人頭帶廣南鎗

淚落娘村成遠家

30	29	下28	下27	下26	下25	下24					23	22	21	20	19	12	下18	下17	下16
抬頭接盞未安嘗	飲 銀瓶在(載)酒勸客	腳踏皮鞋都是花	照見客人遠路行	有醋無鹽淡殺人	正春二月出嫩芽	朝朝擔糞去壘根	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	來 陽鳥雀(催)春隨路	飛下湖南七裡路	啼 紅鶴飛來籠(籠)裡	廳前種苑楓木杵	囉哩哩	嘍哩哩	囉哩排(行)送上京	四邊官子立衙寄	正是官人飲酒歸
			上28	上27	上26	上25					囉哩	牌 湖南江口插條(條)	紅鶴飛來又飛去	隨根生上尾堆垂			上24	上18	上17
酒盞落抬相認親	客人回轉郎本身		客人頭帶廣南倉	日頭出早東江照	銅刀來切細吟吟	擔糞壘根望芽長	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	囉哩						廳前種苑青坭竹	廳前白馬踏啼聲	官人飲酒東廳底
		下29	下28	下23	下22	下21	27	26	25	24	20	19	18	17			下16	下15	下14
ナシ	ナシ	腳踏皮鞋藏底沙	照見客人多遠路	有錯無鹽淡殺人	交秋七月出嫩芽	朝朝擔糞去翁根	潭州梨破能思量	郎隨遠鄉遠路客	門箱牒出海中心	廳前種苑無皮過	鴨鳥催春在路來	飛下湖南七里路	白鶴飛來又飛去	廳前種苑楓木樹	ナシ	ナシ	羅離排行送上京	四邊官人立衙起	正是官人飲酒歸
			上29	上28	上23	上22								17			上21	上16	上15
ナシ	ナシ		客人頭戴廣南香	日頭出早東江照	迷迷 銅刀來削細吟吟	擔糞翁根望芽長	無我能會歸本鄉	留去留回入潭州	格木年年其縣門	到處深坑人嫌下	ナシ	湖南江口插條排	白鶴飛來又飛去	隨根生上尾堆垂	ナシ	ナシ	廳前種苑青坭竹	廳前白馬踏蹄聲	官人飲酒東廳裡

三段滿曲

- ナシ
ナシ
ナシ
ナシ
一 更深夜浪客來到
二 主人抄手下街迎
三 空身座落龍貴橙
ナシ
四 歸去聲傳富貴鄉
五 抄橙下台客人馬
六 四邊人看雷發聲
七 立起馬頭高五丈
八 貴客出來愁殺人
九 合得船成送官去
〇 手把金牌雙淚流
一 去時不使白粉粧
二 羅裡排行送上江
三 僚起官身連官愛
- ナシ
ナシ
ナシ
ナシ
一 更深夜蘭團客來到
二 客人下馬轉雷聲
三 今朝來是又逢雨
四 滿身裝菓裹是龍鱗
五 囉哩哩
六 更深夜蘭團客來到
七 主人抄手下街迎
八 空身坐座落龍貴橙
九 龍裝龍貴龍裝
〇 歸去聲傳富貴鄉
一 空口飲娘龍貴漿
二 迎得主人龍貴家
三 來到主人門下奇
四 貴客出來愁殺人
五 立起馬頭高五丈
六 四邊人看雷發聲
七 抄橙下抬客下馬
八 抄橙下抬客下馬
- ナシ
ナシ
ナシ
ナシ
一 深更夜浪客來到
二 客人下馬遠雷聲
三 今朝來時又逢雨
四 滿身裝裹是龍鱗
五 楓木好合雙船板
六 送官歸去到連州
七 來時不使郎相逢
八 良使良筋十三雙
九 黃銅好合官腰帶
〇 黃銅身子兩頭垂

下 15	下 14	下 13	下 11	下 10						9	8	7	6	5	4	3	2	1	弟(第)三滿段
撩起官身連官愛	囉哩排 <small>行</small> 送	去時不使白粉粉	手把金牌雙淚流	甲得船成送官歸	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	龍裝龍貴龍裝	空身坐 <small>座</small> 落龍貴 <small>橙</small>	主人抄手下街迎	更深夜蘭 <small>團</small> 客來到	囉哩哩	滿身裝菓 <small>裹</small> 是龍鱗	今朝來是又逢雨	客人下馬轉雷聲	深更夜蘭 <small>團</small> 客來到	
上 16	上 15	上 14	上 13	上 11	10														
黃銅生子兩頭垂	黃銅好甲官腰帶	銀匙銀筋十三雙	來時不使郎相送	送官歸去到連州	黃銅好甲雙船板	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	歸去聲傳富貴鄉	空口飲娘龍貴漿	迎得主人龍貴家	來到主人門下奇		貴客出來愁殺人	立起馬頭高五丈	四邊人看雷發聲	抄 <small>橙</small> 下抬客下馬	

下 13	下 12	下 11	下 10	下 9						8	7	6	5		4	3	2	1	弟(第)三圍滿段曲起
僚上官身連官愛	羅離排行送上江	去時不使白粉裝	手把金牌雙淚流	甲得船成送官去	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	龍裝龍貴龍裝	空身坐落龍貴 <small>橙</small>	主人抄手下街迎	更深夜蘭 <small>團</small> 客來到	ナシ	滿身裝火 <small>裹</small> 是龍鱗	客人時來又逢雨	客人下馬發雷聲	深耕 <small>更</small> 夜蘭 <small>團</small> 客來到	
上 14	上 13	上 12	上 11	上 10	上 9														
黃銅生子兩頭垂	黃銅好做官腰帶	銀釵銀金十三雙	來時不使郎相送	送官歸去到連州	黃銅好甲雙船板	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	歸去聲傳富貴鄉	空口飲了龍貴漿	迎上主人龍貴漿	來到主人門下起		貴客出來愁殺人	勒起馬頭高五丈	四邊人看雷發聲	抄 <small>橙</small> 下台客下馬	

六五 琵琶龍頭
 五七 彈頭得娘心暗意泣
 五八 三百貫錢買琵琶
 五九 吹笛丁家會吹笛
 六〇 拍板原來五郎造
 六一 拍板原來四行拍
 六二 出世魯班多計較
 六三 大州出得花巧匠
 六四 嘍囉 囉 好
 六五 嘍囉出門不使信
 六六 嘍囉不使大
 六七 石頭枉大不等水
 ナシ
 ナシ
 六八 魯班劉三置得千歌曲
 六九 便是嘍囉接得唱
 七〇 劉三置得三江口
 七一 便是嘍囉接得唱
 琵琶彈背不彈頭腦
 彈背得娘心裡愁容
 又添四百古人吹連
 吹下劉山劉嶺歸邊
 人著爐中偷過追連
 四行拍了不收歸還錢
 魯班劉三計較更聰明嘍囉
 盤王牒木做音聲沙
 嘍囉出入好防身單
 踏上州門成貴人是不難
 郎是真真不使多金
 田螺細小等江灘河
 便把凡人孝子孫傳傳世間
 不是嘍囉村對村等做閑
 凡人習得在心頭邊
 將來僚起回行愁連

66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49
便是嘍囉接得唱	劉三置得三江口	便是嘍囉接得唱	劉三置得千歌曲	石頭枉大不等水	流囉不使大	石頭枉大不等水	流囉不使大	流囉出門不使信	流囉好	大州出得花巧匠	花巧魯班更花巧	抄板原來四行(行)柏	抄板原來五郎造	吹笛丁家會吹笛	三百貫錢買把笛	暗泣	琵琶龍頭
將來立起四行(行)愁連	邊	凡人接得在心頭	帶把凡人教子(孫)世間	田螺細少(小)等江	收	田螺細小等江河	郎是真金不使看	踏上州門成貴人	防身單	盤王牒木是陰聲沙	魯班花巧更聰明嘍囉	歸不還天錢	又着(著)爐中偷過連	吹下劉山劉嶺歸邊	又添四百古人吹連	彈背未了心裡愁容	琵琶彈背莫彈頭
68	67	66	65			64	63	62	61	60	58	59	57	56	55	54	53
便是嘍囉習濕唱	劉山置歌三江口	便是嘍囉接得唱	魯班劉山置得千歌曲	ナシ	ナシ	石頭望大不等水	嘍囉不使大	嘍囉出門不使信	嘍囉好	大州出得歌巧匠	出世魯班多計較	色板原來五郎過	色板原來五郎造	吹笛丁家會吹笛	三百貫錢買把笛	彈頭彈背心暗意	琵琶龍
將來僚(撻)起四行娘人	邊	凡人習得在心頭	便把凡人傳子孫世間	ナシ	ナシ	石頭細小等江灘(灘)州	郎是真金不使多真	踏上州門成貴人是不難	丹	盤王牒木作陰聲沙	魯班劉山計較更聰明嘍囉	又着(著)爐中偷過吹爭	又着(著)爐中偷過連名	吹下劉山劉嶺歸	又添四百古人吹	彈背得聞心裡愁欲用	琵琶彈背莫彈頭

三 銀筒載水金擔擡竿
 三 當初富貴真富貴
 三 打良做擡又嫌白
 三 當初富貴真富貴
 四 富貴打良擡板過
 四 當初富貴真富貴
 四 貧薄愛連富貴女
 四 富 貴 人
 四 人家富貴般龍有
 四 盤王留下十二面
 四 出世凡人彈不得
 四 三百貫錢買琵琶背
 四 出世凡人彈不得
 四 琵琶頭名
 五 出世凡人彈不得
 五 琵琶頭
 五 琵琶頭
 五 出世凡人彈不得
 五 琵琶搖頭
 五 三面作刀修囉哩
 良籃洗菜掛金鉤
 富貴打良換擡光
 打金來換又嫌黃
 富貴打良擡板門長
 良杵刀梭遮妹門
 貧薄定娘話不同真
 富貴人嫌貧薄窮人
 人家富貴我家貧窮
 我家貧窮百般貧窮
 初甲琵琶十二弦名
 拋摧下八弦彈四弦石山聽水聲
 又添四百買琵琶絲頭
 玉女彈琵琶心裡愁
 魯班調挖做龍頭聲
 推帶下石山聽水愁聲
 魯班調挖做龍頭聲
 魯班調挖做龍頭身
 玉女彈琵琶愁入聲
 三面作刀四面凋愁
 不過共腸氣應消

48	47				46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
裡	琵琶獨頭				出世凡人彈不得	琵琶頭名	出世凡人彈不得	三百貫錢買琵琶背	出世凡人彈不得	盤古 <small>留</small> 流傳十二面	人家富貴般般有	富貴龍人	貧薄愛連富貴女	當初富貴真富貴	富貴打銀錚板過	當初富貴真富貴	打銀來錚又嫌白	當初富貴真富貴	銀桶載水金擔桿
愁	三面着 <small>著</small> 刀四面彫聲				帶下石山聽水愁聲	魯班彫挖是龍頭身	玉女彈琵琶心裡愁	又添四百買琵琶 <small>絲</small> 頭	帶下石山彈四彈 <small>廳</small> 水聲	初甲琵琶十二弦名	仔家窮窮百般窮	人家富貴仔家窮	富貴又嫌貧薄人	同	貧薄定娘話不真	良筋陀梳遮妹門	富貴打良錚板完門	富貴打良錚板光	銀籃 <small>籃</small> 洗菜掛金鉤

52	51				50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36
三面砍刀鞘落裡	琵琶搖				出世凡人彈不得	琵琶頭明	出世凡人彈不得	三百貫錢買把笛	出世凡人彈不得	盤古流傳十二面	人家富貴般般有	富貴娘	貧薄又連富貴女	富貴又共富貴話	富貴打銀限板過	當初富貴真富貴	有銀做枕又嫌白	當初富貴真富貴	銀桶在 <small>載</small> 水金擔
長	偷				帶下石山聽水聲	魯班彫挖作龍頭聲	玉女彈琵琶心裡愁	又添四百買彈弦	拋下石山聽水聲	初甲琵琶十二弦名	窮	窮	富貴人	貧薄如娘話不同	平	富貴斬銀打板門	有金來汗又嫌黃	富貴打銀汗枕頭	銀籃洗菜掛金鉤

- 一六 盤王(著)苧世也好
- 一七 盤古留得有七格
- 一八 石崇富貴當天下
- 一九 石崇鐵煉金雞卵
- 二〇 石崇接得三千客
- 二一 人生一世莫爭強
- 二二 石崇富貴當天下
- 二三 人生一世莫爭秋
- 二四 草生一世根還在
- 二五 人生一世莫爭強
- 二六 今世有衫今世(著)
- 二七 貧貧薄薄成人我
- 二八 起屋沙州水灘過
- 二九 當初富貴真富貴
- 三〇 三斗碎金使會了
- 三一 當初富貴真富貴
- 三二 有良不如打良碗
- 三三 當初富貴真富貴
- 三四 有良不如打飯碗
- 三五 當初富貴真富貴

- 唐王(著)〔蕉羅〕更請條婁羅
- 羅衣手中無本錢
- 獨自(歲)寒齊路邊
- 金雞鐵煉石崇身
- 羅衣手中無本才
- 死人黃泉共路行
- 有錢無路買長生
- 羅伏能有幾個由
- 人生一世斷宗由
- 羅伏能有幾個難由
- 莫留後世把人看收
- 起屋沙州石上中進
- 富貴也曾貧薄龍人
- 三斗碎金又話窮貧
- 富貴也曾貧薄龍人
- 富貴打良做屋(樑)飯匙
- (喫)飯得聞飯氣香思
- 富貴打良做飯鍋
- (喫)飯得聞飯氣生
- 富貴打良換(燈)頭

31	當初富貴真富貴	頭	富貴打良鐙(燈)
30	有銀不如打飯碗	生	喫飯得聞銀氣思
29	當初富貴真富貴	鐙	富貴打銀鐙飯匙
28	有錢不如打飯碗	(看)	喫飯得聞銀氣收
27	當初富貴真富貴	樑	富貴打銀鐙屋(柱)
		ナシ	
		ナシ	
26	起屋沙州水灘過	人	富貴又嫌卑薄龍
25	貧貧薄薄成人我	邊	起屋沙州石上中
24	今世有(錢)衫今世(著)著	收	莫留後世把人看
23	人生一世莫爭強	難油	羅伏能有(圓)幾個
22	草生一世根重在	由	人生一世斷踪(蹤)
21	人生一世莫爭秋	遊	羅伏能有(圓)幾個
20	石崇富貴登天下		有錢無路買長生
19	人生一世莫爭強		死人黃泉同路行
18	石崇接得三千客		羅任手中無本錢
17	石崇蹄亂金雞卵		金雞蹄亂石崇身
16	石崇富貴登天下		獨自(歲)寒齊路邊
15	盤古留得有七格		羅任手中無本錢
14	盤王(著)〔蕉羅〕是也好		唐王(著)〔蕉羅〕更請條(嚙)囉(嚙)
18	盤王(著)苧世也好	好	唐王(著)〔蕉羅〕更(嚙)囉(嚙)聰明
19	盤王流箱有七格	錢	羅永手中無本同
20	石崇富貴登天下	邊	獨自(孤)寒期路頭
21	石崇鐵煉金雞卵	邊	金雞鐵煉石崇身
22	石崇出得三千客	同	羅永手中無本錢
23	人生一世愛爭強		死人黃泉共路行
24	死入共一黃泉路		有錢無路買長生
25	人生一世莫爭秋		羅伏能有幾個●
26	草生一世根共在		人生一世討風流
27	人生一世莫爭強		羅伏能有幾個難
28	今世有衣(衫)今世(著)使	看	莫留後世把人收
29	貧貧薄薄成人我	眠	起屋沙州石上州
30	起屋沙州水灘過	人	富貴也成貧薄龍
31	當初富貴真富貴	貧	三斗碎金也話窮
32	三斗碎金會使了	人	富貴也成貧薄龍
33	當初富貴真富貴	(樑)柱	富貴打銀做屋
34	有銀不如打飯碗	收	喫飯得聞銀氣香
35	當初富貴真富貴	登光	富貴打銀做飯鐙

五 解衫搭在橋樑上

生死愛連橋底人娘

盤王起計

一 起計盤王先起計

盤王起計立春名

二 黃龍又定五雷熟

專望五雷轉一聲

ナシ

ナシ

三 起計盤王先起計

盤王起計開犁頭鉞

四 鼠王過海偷禾種

黃龍含水吩禾^(兜)花

五 起計盤王先起計

盤王起計^(門)犁梗^(門)鉞

六 ^(門)得犁鉞也未使

屋底大塘谷報生芽

七 起計盤王先起計

盤王起計立春名^(哀)

八 立得春^(名)哀都足了

屋背秧^(見)段段青^(齊)

九 起計盤王先起計

盤王起計種芋麻^(絲)

一〇 種得芋^(麻)絲兒孫績

兒孫世代繡羅花^(衣)

二 起計盤王先起計

初發芋^(麻)油^(葉)大球^(花)

三 芋麻籽細不成芋

蕉麻籽細便成細^(羅)

三 起計盤王先起計

盤王起計^(門)高加^(機)

一四 開得高^(加)機織細布

布面又凋李柳花^(絲)

一五 ^(著)芋盤王先^(著)芋

^(著)羅唐王先^(著)蕉羅

112 解衫踏上橋樑上
生死愛連橋底人娘

64 解衫搭在橋樑上
生死愛連橋下人
外(娘)

13	着 ^(著) 芋盤王先着 ^(著) 芋	着 ^(著) 蕉羅唐王先着 ^(著) 蕉羅	12	芋麻續細不成芋	蕉麻續細變成系 ^(絲) 羅	11	起計盤王先起計	初發芋 ^(麻) 葉 ^(大) 求 ^(花)	10	種得芋 ^(麻) 兒孫 ^(績)	兒孫世代繡羅 ^(花) 衣	9	起計盤王先起計	盤王起計種芋 ^(麻) 系 ^(絲)	8	立得春 ^(明) 開都熟了	屋底谷秧段段青 ^(齊)	7	起計盤王先起計	盤王起計立春 ^(明) 開	6	^(門) 得犁鉞也會使	屋底大塘谷炮生 ^(牙)	5	起計盤王先起計	盤王起計 ^(門) 犁 ^(門) 梗 ^(門) 鉞	4	鼠王過海偷禾種	黃龍含水吩禾 ^(兜) 花	3	起計盤王先起計	盤王起計 ^(門) 犁 ^(門) 頭 ^(鉞)	2	龍王又定五雷熟	專望五雷轉一聲 ^(音) 守到春間來認親	1	起計盤王先起計	盤王起計立春 ^(明) 音		盤王出世												
17	着 ^(著) 芋盤王先着 ^(著) 芋	着 ^(著) 蕉羅唐王先着 ^(著) 蕉羅	16	抖得高 ^(機) 加 ^(織) 細布	布面又凋楊柳花 ^(系) 羅	15	起計盤王先起計	盤王起計抖高 ^(機) 加	14	芋麻續細變成芋	蕉 ^(麻) 葉 ^(續) 細 ^(變) 成羅 ^(見)	13	起計盤王先起計	初發油 ^(麻) 葉 ^(代) 求 ^(花)	12	種得芋 ^(麻) 兒孫 ^(績) 花衣	兒孫世代秀 ^(繡) 羅花衣	11	起計盤王先起計	盤王起計種芋 ^(麻) 支	10	立得春 ^(名) 哀也未便	屋下秧段段青 ^(青)	9	起計盤王先起計	盤王起計立春 ^(明) 耕	6	抖得犁 ^(犁) 鉞也未便	屋下大塘塘谷報 ^(牙) 生	5	起計盤王先起計	盤王起計抖 ^(梨) 梨 ^(犁) 頭 ^(鉞)	8	鼠王過海偷禾種	龍王含水吩禾 ^(兜) 花	7	起計盤王先起計	盤王起計梨 ^(犁) 頭 ^(鉞) 耕 ^(犁)	4	鯉魚水底偷歡喜	專望春雷轉一聲 ^(名)	3	起計盤王先起計	盤王起計立春 ^(明) 深	2	黃雷又共五雷熟	專望風流轉一聲 ^(音) 守到春間來認親	1	起計盤王先起計	盤王起計立春 ^(明) 烟 ^(煙)		仰盤王歌曲起

ナシ

ナシ

三 盤王出世在曲江西天

兩個金童在兩行邊

三 盤王出世愛相刻

釋迦相刻在江河江邊

四〇 盤王生得三年半

釋迦背上出石螺紅蓮

ナシ

ナシ

四 高台望見齊眉鏡

龍兒粉在村

三 盤王生得一對女

一年四季出行遊

三 玉女梳頭不亂髮

聖女梳頭髮亂飛

四 玉女梳頭是佛樣

隨著盤王雙下歸時

四 要娘買笠娘不買

要娘買傘說無錢油

四 得娘十已成郎我

芋麻遮頭也過年秋

四七 白涼扇

反復兩邊都是花金

四 得娘十已成郎我

反復兩邊都是家親

四九 擔傘得擔傘

要娘隨傘開陰

五〇 要娘擔傘得黃油

誰知傘底有秀才官人

五二 擔傘出門傘對傘

搖扇出門風對風前對前

五三 擔傘出門風打破

空擔傘骨捧門前

五三 擔傘過橋來照影

橋高水浪影無真涼

III	II0	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99			98	97	96		
擔傘過橋來照影	擔傘出門風打破	擔傘出門傘對傘	邀娘共擔光油傘	擔傘得擔傘	得娘習已成郎首	白涼(扇)(傘)	得娘習已成郎首	邀娘買笠娘不買	玉女梳頭是伏樣	玉女梳頭不亂髮	盤王原生一對女	高臺望見齊眉鏡			盤王(坐)得三年半	相賭盤王愛相賭	盤王出世(福江西天)廟		
涼	風	風(對前風)	官人	陰	親	金	愁	(天)油	不了時	系(絲)	村	村			紅連(蓮)	邊	邊		
橋高水浪影無真	空擔傘骨捧門前	搖(扇)(傘)出門(前)	誰知傘底有秀才	邀娘共擔細傘開	反復兩邊都是花	反復兩邊都是花	芋麻遮頭也過年	邀娘買傘說無錢	隨著(善)盤王雙下歸	聖女梳頭不亂飛	一年四季出行州	龍兒花粉在江州			釋迦背上出田螺	釋迦相賭在江河	兩個金童在兩行		
63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44
擔傘過橋來照影	擔傘出門風打破	擔傘出門傘對傘	要娘愛擔黃油傘	擔傘得擔傘	得娘十已成郎我	白涼(涼)扇	得娘執已成郎我	邀娘買笠娘不買	玉女梳頭是伏樣	玉女梳頭不亂法(髮)	盤王原生一對女	高王望見紫微鏡	盤王賭得三年半	相賭盤王愛相賭	釋迦賭得三年半	相賭盤王愛相賭	盤王出世(西天伏江)廟	出世盤王先出世	盤王出世西天廟
	閨錢	錢	秀才官人	連	親	花金	年		歸不了時	系(絲)	鄉	村	花					伏江	江
(真)涼	空對傘骨捧門前	攔扇出門風對風	誰知黃油傘下有	邀娘擔得隨傘開	番歸兩邊都是家	番(反復兩邊都是	芋葉遮頭也過秋	邀娘買傘說無錢	隨著(善)盤王雙下歸	聖女梳頭不亂飛	一年四季出行遊	龍兒花紛在洪州	釋迦背上出石羅	釋迦相賭在江邊	盤王背上出紅花	釋迦相賭座江河	兩個金童在兩邊	盤王出世在西天	帽帶修修朝上天

- 一八 命著劉王改換後
 - 一九 洪爺出世無天地
 - 二〇 抄頭便看龍為月
 - 二一 月亮光照下海
 - 二二 眼王執鏡開腦照
 - 二三 月亮光照下海
 - 二四 眼王執鏡攔腦照
 - 二五 出世唐王先出世
 - 二六 抄頭望見龍為月
 - 二七 出世唐王先出世
 - 二八 唐王出世連州村廟
 - 二九 唐王出世先出世
 - 三〇 上村燒香連州廟
 - 三一 出世信王先出世
 - 三二 信王出世衣著無
 - 三三 出世信王先出世
 - 三四 信王出世無衣著
 - 三五 出世盤王先出世
 - 三六 盤王頭帶平天帽
 - 三七 盤王出世先出世
-
- 世代兒孫接少年郎
 - 葫蘆生上未為真情
 - 不見唐王現出身廳
 - 照見唐王書案頭流
 - 照見唐王出世愁州
 - 照見唐王書案龍出世連
 - 照見唐王出世中邊
 - 唐王出世未情真成親
 - 不見唐王現出身廳
 - 出世唐王在連州村
 - 手把金牌雙淚流月樣圓
 - 唐王出世百般齊在連前
 - 得見唐王坐廟合心
 - 信王出世不有娘人
 - 路逢金骨拗遮身
 - 信王出世不遮藏羞
 - 路逢金骨拗遮
 - 出世盤王在福江西天
 - 帽帶肖肖朝上天
 - 盤王出世在福江西天

95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85			84	83	82	81	80	79	78
出世盤王先出世	盤王出世(福江西天)廟	出世盤王先出世	信王出世無衣著(著)	出世信王先出世	信王出世無衣著	出世信王先出世	僧家燒香連州廟	出世唐王先出世	唐王出世連州廟	出世唐王先出世			眼王接鏡攔腦胸照	月亮光照下海	眼王接鏡攔腦胸照	月亮光照下海	抄頭望見龍圍月	洪爺出世無天地	命著劉王解換後
盤王出世在福江西天	帽帶肖肖朝上天	盤王出世在福江西天	路逢金骨拗遮(遮)	信王出世不遮藏	身路逢金骨拗遮(涼)	信王出世不有娘人	得見唐王座坐廟台心	新唐王出世百般齊	手把金牌雙淚流(流)月樣(圓)	唐王出世在連州村			照見唐王出世州	照見唐王書案流(龍)	照見唐王書案頭賢	照見唐王出世愁邊	不見唐王現出身廳	情葫蘆生上未為真	世代兒孫執少郎
43	42	41			40	39	38	37	36	35	34	33			32	31	30	29	28
出世盤王先出世	盤天頭戴平天帽	出世盤王先出世			信王出世無衣著(著)	出世唐王先出世	僧家燒香連州廟	出世唐王先出世	唐王出世連州廟	出世唐王先出世	抄頭望見龍圍月	出世唐王先出世			元王執鏡蘭(攔)胸照	月亮光照下海	抄頭望見龍圍月	洪爺出世無天地	命著(著)劉王蓋(改)換後
盤王出世在福江西天	帽帶飛朝上天	盤王出世在伏江西天			身路逢金骨拗遮羞	信王出世不遮羞	得見唐王座坐廟台心	連唐王出世百般齊	手把金牌月樣圍(圓)雙流(淚)	唐王出世在連州村	不見龍王現出身廳	情唐王出世未為真			照見唐王出處中邊	照見龍王書案龍連	不見唐王現出身廳	成滿蘆生上未為真	世代兒孫接聖言郎

ナシ
 ナシ
 四 置得州〔平〕庭〕相公坐
 四 高王造天置天地
 四 置得州〔門〕通〕相公坐
 四 高王造天置天地
 四 置得州〔庭〕場〕相公坐
 ナシ
 ナシ
 四 開路深山過曲凸凹
 四 龍王水底寬遊坐
 五〇 水面光光魚喫冷
 五二 莫怪歌詞相說報
 五三 石頭都縁是魚屋補
 五三 蝦公是郎親人舊
 五四 白鶴灘頭白
 五五 鴨公頭帶青羅帽
 又置州門對縣門城
 平王造地置州平通
 又置筆頭手裡行籠
 平王造地置州庭場
 人置路司通到京鄉
 龍王水底坐寬遊生
 望見日頭滿地流行
 水底光光魚喫台田
 便是金花石上開邊
 黃砂細石是魚補屋
 蝦邑是郎親大姑兄
 鯉魚水底喫黃涼沙
 鷄公頭帶石榴花絲

60	鴨公頭帶青羅帽	鷄公頭帶石榴花系(絲)	59	白鶴灘頭喫白水	枝	鯉魚水底喫橫沙	58	蝦公是郎親大舊	情	蝦邑是郎親大姑	57	石頭都縁是魚屋	廳	黃砂細石是魚補	56	莫怪歌詞相說報	新	便是金花石上開	55	水面光光魚喫冷	(音)塵	水面光光魚喫台	54	龍王水底寬遊坐	流	望見日頭滿地流行	53	開路深山過曲凸凹	遊	龍王水底作寬遊	52	置得州〔庭〕場腸〕 無萬活	鄉	又置路司通到京	51	高王造天置天地	腸	平王造地置州廷	50	置得州〔高〕廷〕相公坐	縹青	腰上又縛系(絲)線	49	高王造天置天地	廷	平王造地置州高	48	置得州〔門〕通〕相公坐	籠	又置筆頭手裡行	47	高王造天置天地	通	平王造地置州門	46	置得州〔廷〕平〕相公坐	成(城)	又置州門對縣門	45	高王造天置天地	廷	平王造地置州平	44	置得橫厘巡官使		行過手中心正思
6	鴨公頭戴青羅帽	鷄公頭戴石榴花系(絲)	5	白鶴灘頭喫白水	支	鯉魚水底僕橫沙	4	蝦公是郎親大舊	兄	蝦剎是郎親大姑	3	深潭篤祿是魚屋	廳	黃砂細石是魚補	8	莫怪歌詞相說報	生	正是金花石上開	7	小底光光魚喫冷	塵	水面光光魚喫台	2	龍王水底寬遊坐	行	望見日頭滿地流行	1	造路深山過曲凸凹	行	龍王水底作寬遊	48	置得州場無萬闊	又置路司通到鄉					47	高王造天至(置)天地	場	平王造地至置州	46	置得州門相公坐	廷無萬闊	又至(置)筆頭手裡 龍路司通到京	45	高王造天置天地	廷	平王造地置州門	44	置得州〔廷〕平〕相公坐	筆頭手裡龍	又置州門對縣門													

二五 高王造天置天地 平王造地〔置〕立山源苗

二六 立得山〔源〕苗〔向〕水口 又置水源無萬源條

二七 高王造天置天地 平王造地置天堂〔平〕田

二八 置得天堂無萬活〔平〕田凡人作 又置早禾無萬倉千

二九 高王置天置天地 平王造地置田塘〔平〕田

三〇 置得〔田〕塘〔平〕田凡人作 又置牯牛無萬千雙

三一 高王造天置天地 平王造地置江河

三二 置得江河無萬活 又置〔春〕車〔江〕魚無萬多

三三 高王造天置天地 平王造地置江河

三四 置得江河無萬活〔闊〕 又置客〔人〕船無萬多

三五 高王造天置天地 平王造地置江河

三六 天子劉三造得千條路〔歌〕曲 劉三唱魯班造得萬條歌〔象〕牙梳

三七 高王造天置天地 平王樅木造江灘心

ナシ

ナシ

三六 水底龍王為學院 龍王塞水盡知安〔傳〕古到如今

三九 水底龍王為學院 龍王塞水盡知安〔傳〕古到如今

四〇 高王造天置天地 〔王〕立地置羅更

四一 置得羅更巡官轉 又置龍船水面行

四二 高王造天置天地 平王造地置州平〔庭〕

43	42	41	40				39	38	37	36	35	34	33	32			31	30	29
高王造天置天地	置得羅更〔庚〕巡天轉	高王造天置天地	水底龍王為學縣	ナシ	ナシ	ナシ	高王造天置天地	天子劉三置得千條路〔歌〕曲	高王造天置天地	置得江〔河〕邊無萬活	高王造天置天地	置得江河無萬活	高王造天置天地	置得〔平〕塘〔田〕凡人作	ナシ	ナシ	高王造天置天地	置得山〔原〕苗〔向〕水口	高王造天置天地
平王造地置州平〔庭〕	又置龍船水面行	平王造地置羅更〔庚〕	龍王塞水盡知安〔傳〕古到如今	ナシ	ナシ	ナシ	平王造地置江〔淮〕心	劉三唱魯班造得萬條歌〔象〕牙梳	平王造地置江河	又置客〔人〕船無萬多	平王造地置江河	又置〔石〕頭里〔鯉〕魚無萬多	平王造地置江河	又置牯牛無萬雙千	ナシ	ナシ	平王造地置平塘	又置水原〔源〕無萬原名	平王造地置山原
43	42	41	40		39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25
高王造天置天地	置得羅更巡官使〔州〕平相公座	高王造天置天地	水底龍王圍學縣	ナシ	高王造天至〔置〕天地	劉三置得千條路	高王造天置天地	天子置得千條路	高王造天置天地	至〔置〕得江河無萬闊	高王造天置天地	至〔置〕得江河無萬闊	高王造天置天地	置得〔田〕唐〔塘〕〔平〕田凡人作	高王造天置天地	至〔置〕得田〔唐〕塘〔平〕田凡人作	高王造天至〔置〕天地	立得山原向水口	高王造天置天地
平王造地置州〔庭〕	又置州門對縣門	庚州平	龍王塞水盡知安〔傳〕古到今	ナシ	平龍王貼石〔造〕得〔江〕河心	劉三造得萬條歌	平王造得至〔置〕江河	魯班做得象牙梳	平王造天置江河	又至〔置〕客〔船〕人無萬多	平王造地至〔置〕江河	又至〔置〕春〔更〕裡〔鯉〕魚無萬多	平王造地至〔置〕江河	又置牯牛無萬千雙	平王造地至〔置〕田	又置早禾無萬倉千	平王造地至〔置〕田	又置水原無萬原名	平王造地立山原

- 莫怪歌詞相說報
 - 二 平地塞河成大海
 - 三 日頭出世照下海天下
 - 三 初造日頭十二個
 - 一四 十個打落銅羅國
 - ナシ
 - ナシ
 - 一五 高王造天置天地
 - 一六 置得日頭第一寶天子再高身落細
 - ナシ
 - ナシ
 - 一七 高王造天更立地
 - 一八 龍堆有歲倒容杵
 - 一九 高王造天更立地
 - 二〇 龍堆有歲倒容杵月裡坐
 - 二一 高王造天更立地
 - 二二 龍堆有歲月裡坐
 - 二三 高王造天更立地
 - 二四 置得青山無萬話
- 烏龜背上也無毛
- 如何得見月出生團圓
- 龍王出世伴何生邊
- 出世日頭兩個無明
- 兩個有歲身帶珠針
- 平王造地置州地庭
- 雙置七星明月在天第二名
- 赤王立地月初生完
- 轉面翻歸杵又先生
- 赤王立地月初生
- 七星無道月邊行身邊
- 赤王立地月初生團圓
- 底王無道月邊行身邊
- 平王立地地下置青山
- 又置江河無萬流灣

28	27			26	25	24	23		22	21	20	19			18	17	16	15	14
置得青山無萬話	高王造天置天地	ナシ	ナシ	龍堆有賢倒容杵	高王造天更立地	龍堆有賢倒容杵	高王造天置天地	ナシ	天子在高身落細	高王造天置天地	置得日頭第一寶	高王造天置天地	ナシ	ナシ	十個打落同爐國	初造日頭十二個	日頭出世照天下	平地塞河成大海	莫怪歌詞相說報
又置江河無萬話	平王造地置青山	ナシ	ナシ	七星無道月邊行身邊	赤王立地月初生	轉面翻歸杵又先生	平王造地置州庭	ナシ	明日在高弟第二名	平王造地置州庭	又置七星弟第二名	平王造地置地廷	ナシ	ナシ	兩個有賢身帶珠	出世日頭兩個無明	龍王出世傍河生前	因何得見月初生	烏龜背上也無毛
															金	陰		團圓	塵
24	23			22	21	20	19	17	18		16	15	14	13	12	11	10	9	8
置得青山無萬話	高王造天置天地	ナシ	ナシ	龍廣有賢月裡坐	高王造天更立地	龍廣有賢倒容杵	高王造天更立地	高王造天置天地	天子在高身落細	ナシ	置得日頭第一寶	高王造天置天地	十個打落同牢國	初至日頭十二個	十個打落同牢國	初至日頭十二個	日頭出世照下地	平王寒河成大海	莫怪歌詞相說報
又置江河無萬話	平王造地置青山	ナシ	ナシ	七星不到月身行	赤王立地月初生	轉面翻歸杵又先生	赤王更地月初生	平王造地置地廷	明月在高第二名	ナシ	又置七星第二名	平王造地至置地廷	兩個有賢身代錢	明	朱	出世日頭兩個烏	龍王出世傍河生前	因河何得見月初生	烏龜背上也無毛
對灣	明			團圓									班			陰			

- 八二 歸去前糖又煎蠟
 八三 買黃金賣得黃歸定親
 八四 將錢買光油傘
 八五 傘多(絲)
 八六 今年又逢人還愿
 八七 捧門前
 八八 將錢去買青銅籠
 八九 裝娘出嫁囉哩
 九〇 嫁落人鄉不望歸
 九一 手拿禾稈囉哩
 九二 掃入深房內裡花
 ナシ
 九三 將錢去買囉哩
 九四 七月花正(著)時
 九五 真(絲)花(謝)囉哩
 九六 姐妹年宮齊手連
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 九七 托歸鋪賣囉哩
 九八 光油傘底囉哩
 九九 細傘原來錢本多
 一〇〇 到來娘屋囉哩
 一〇一 細傘撐開都有花
 一〇二 買歸家裡裝娘嫁
 一〇三 嫁人鄉
 一〇四 嫁落人鄉成人我
 一〇五 掃入家
 一〇六 將錢去買司官我
 一〇七 嫩桑(絲)
 一〇八 七月八月真花(謝)
 一〇九 落四邊

ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	42	41	40	39	38	47	46	45	44	43	51	50	49	48	ナシ	ナシ
				姊妹年窮齊手連	相思花謝羅(囉)哩	七月花開正著時	將錢去買囉哩	羅(囉)哩	正是深房內裡花	手拿禾稈囉哩	嫁落人鄉不望歸	裝娘出嫁囉哩	將錢去買青藤籠	看人家	今年又逢人還愿	傘纏圓	將錢去買光油傘		
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	囉哩	落四邊	交秋七月花落謝	嫩相思	囉哩哩	將錢去買詩官我	歸人家	嫁落人鄉成人娥	嫁人鄉	買歸家裡裝娘嫁	細傘寸開都是花	擔來娘屋囉哩	細傘寸開都是(錢)	將錢去買囉哩		ナシ
122	121	120	119	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	下41	40	39	47	46	45	44	ナシ	ナシ
娘有心	娘村步橋有對我	腳(纏)(纏)	今朝出門(無)被伏								嫁落人家不望歸	裝娘去嫁 羅離	將錢去買青藤賞	傍人家	今朝好日還良願	傘頭齊	將錢去買黃油傘		
				ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	上41	嫁人家	買歸家裡裝外(娘)嫁	細傘撐開都是花	擔來人屋 羅離	細傘原來錢抄多	黃油細傘 羅離		ナシ
				夜眠不睡 羅離															
	煎茶來等 羅離	行到娘村水步橋																	
	飲盞清茶當兩金																		

四九 燕子結^斗官廳底
 四七 主人有酒囉哩
 四六 郎是客人會酒難
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 四九 謝那好客囉哩
 五〇 座落欖頭欖尾^圓
 五一 家中無酒
 五二 謝得好遠路行
 五三 上方打刀投林宿
 五四 郎來宿囉哩
 ナシ
 五五 好嫩防
 五六 開箱^送出黃涼被
 五七 客人宿夜囉哩
 五八 好嫩防
 五九 上方打刀投林宿
 六〇 郎今宿夜囉哩
 六一 著雙寒
 六二 歸去聲傳^著寒雙
 六三 到郎村
 六四 開箱拿出雙盃盞
 六五 把空瓶
 六六 心心人話過路宿
 六七 心心人話過路宿
 六八 歸去聲傳好嫩防
 六九 差人送上客心裡
 七〇 歸去聲傳富貴鄉
 七一 歸去聲傳富貴鄉
 七二 歸去聲傳富貴鄉
 七三 歸去聲傳富貴鄉
 七四 歸去聲傳富貴鄉
 七五 歸去聲傳富貴鄉
 七六 歸去聲傳富貴鄉
 七七 歸去聲傳富貴鄉
 七八 歸去聲傳富貴鄉
 七九 歸去聲傳富貴鄉
 八〇 歸去聲傳富貴鄉
 八一 歸去聲傳富貴鄉
 八二 歸去聲傳富貴鄉
 八三 歸去聲傳富貴鄉
 八四 歸去聲傳富貴鄉
 八五 歸去聲傳富貴鄉
 八六 歸去聲傳富貴鄉
 八七 歸去聲傳富貴鄉
 八八 歸去聲傳富貴鄉
 八九 歸去聲傳富貴鄉
 九〇 歸去聲傳富貴鄉
 九一 歸去聲傳富貴鄉
 九二 歸去聲傳富貴鄉
 九三 歸去聲傳富貴鄉
 九四 歸去聲傳富貴鄉
 九五 歸去聲傳富貴鄉
 九六 歸去聲傳富貴鄉
 九七 歸去聲傳富貴鄉
 九八 歸去聲傳富貴鄉
 九九 歸去聲傳富貴鄉
 一〇〇 歸去聲傳富貴鄉

ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	73 好嫩防	72 黃蜂結開門眉底	ナシ	ナシ	71 且得客人遠路行	70 家中無酒那囉哩	69 座(坐)落欖(登)頭欖(登)尾元(圓)	68 且有好客那囉哩	ナシ	ナシ	ナシ	67 便是客人回酒難	66 主人有酒那囉哩	下65 燕子結開官廳底
ナシ		ナシ	ナシ		ナシ	歸去聲傳富貴鄉	歸去聲傳富貴鄉	一人偷捉那囉哩		ナシ	囉哩那	把空瓶	開箱揀出雙盃盞	到郎村	ナシ		ナシ	黃昏路遠且客到	勸郎飲	
100 着(著)霜寒	99 郎今宿夜羅離	98 上方打刀投林宿	97 好嫩防	96 客人宿夜羅離	95 開箱揀出黃涼被	94 好嫩防	ナシ	郎來宿夜羅離	92 上方打刀殺林宿	下91 謝得主人遠路行	下90 家中無酒羅離	下89 座(坐)落欖頭欖尾員(圓)	下88 接得好客羅離	87 不敢歸	86 江華縣裡羅離	85 一雙燕子飛南上	下84 便是人家飲酒難	下83 主人有酒羅離	83 燕兒結宛官廳下	
寒 歸去聲傳着(著)霜		心心人話過路宿	歸去聲傳富貴鄉		差人送上客心裡	歸去聲傳好嫩防	ナシ		心心人話過路宿		上91 把空瓶	上90 開箱揀出雙茶盞	上89 到郎村	白紙寫書歸報家		飛來飛入江華縣	上88 黃昏路遙接客到	上84 勸娘餐		

三九 一日飲酒三日醉
 三〇 酒前酒囉哩
 三一 酒盞多盃來恕人
 三二 老人說句囉哩
 三三 手把琵琶馬上彈
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 ナシ
 三日不成酒醉
 敗人身
 歸家說老人廳
 不聞難
 鯉魚立立隨水上

35	34	下33													33	32	31	30	29
琵琶頭	將錢去買琵琶背	囉哩	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	手把琵琶上馬彈	老人說句囉哩	酒盞落盃觸恕人	酒前酒後囉哩	一日飲醉二日醉
															52				
一日彈琵琶心裡愁	將錢去買囉哩		ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	鯉魚立立隨水上	不聞難	歸家說報老人聽	敗人身	三日不飲酒是醉
ナシ	ナシ	ナシ	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	下52	下51	下50	49	48
			眼淚(送)落	娘村姐妹齊齊種	尾頭垂	廳前種寬楓木樹	二心思	桃源洞口逢官女	嫩女系	廣州路口逢官女	管州廷	新官又問舊官事	到州廷	廣州路口逢官女	手把琵琶上馬彈	老人說句 羅離	酒盞多盃得罪人	醉前醉後 羅離	一日飲酒二日醉
															上65	上52	上51	上50	
ナシ	ナシ	ナシ	人能官船擄過河	樹上結子 羅離	正是娘村姐妹多	隨根生上 羅離	時 思着(善)當初年少	一心作笑 羅離	正是桃源洞口時	逢官好女 羅離	單怕事多立不完	舊後說句 羅離	來到州廷不敢聲	逢官來到 羅離	鯉魚立立隨水上	也問難	歸家說報老人聽	敗人身	三日不飲成酒醉

一七 娘村秀才騎白馬

踏上馬背囉哩

一八 相公兒

頭帶大州羅縛系

一九 將錢去買黃鶯鷓

買歸家中般般叫

二〇 般般叫叫囉哩

絲線縞

ナシ

二一 且問紅絲線(勞)不(勞)紅

絲不(勞)打條斷

二二 遠遠飛上高松杵

千聲萬勸囉哩

二三 不思歸

手把空掛杵枝

二四 將錢去買沉香杵

買歸家裡沙數

二五 無沙無數囉哩

(佛)前燒

二六 燒起沉香郎路遙

當初是當閑事

二七 世今差落松林裡

一枝枯松柏

ナシ

二八 找林望以(圖)

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	下28 松柏成林望以居	28 二枝枯	27 世今差落松林裡	26 燒得沉香大路遙	25 無沙無數囉哩	24 將錢去買沉香杵	23 不思歸	22 遠遠飛上高松樹	21 且問紅系(絲)勞 (牢)不(勞)(牢)	ナシ	20 般般使叫囉哩	19 將錢去買鶯鷓	18 相公兒	17 娘村秀才騎白馬
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ			一枝生上囉哩	當初不是當閑事	伏前燒	買歸家裡無沙數	手把籠裡掛樹枝	千聲(萬)勸那囉哩	紅系(絲)不(勞)(牢) 打條斷		紅系(絲)伏	買歸家裡般般叫	頭帶大州衫伏巢	琉璃瓦晒囉哩
43 在人家	42 朝朝接稗掃人屋	38 落四邊	37 交秋七月人來摘	36 嫩桑枝	35 將錢去買隨官女	下34 松柏成林望九居	34 二枝枯	下32 世今差落松裡林	下31 得見沈香郎路遙	30 無沙無數 羅離	29 將錢去買沉香杵	28 不思歸	下26 鴉鷓飛上高松杵	下25 且問紅系(絲)勞 (牢)不(勞)(牢)	25 勞(牢)不(勞)(牢)	24 般般叫叫 羅離	23 將錢去買鶯鷓	22 相公兒	21 娘村秀才騎白馬
								上33 一枝生上 羅離	上32 當初不是等閑事	上31 佛前燒			上27 千思萬勸 羅離	上26 紅系(絲)不(勞)(牢) 打條路				(絲) 買歸家裡般般叫	●●●●● 頭戴大州羅伏系

ナシ

二段三峰曲

- 一 廣州結子青羅結
 - 二 細灣灣
 - 三 遠看便是初昇月
 - 四 雙系結子囉哩
 - 五 且看三峰閑客來
 - 六 手拈錢川囉哩良鎖線
 - 七 細灣灣
 - 八 青羅頭帶藍眉過
 - 九 滿身裝果囉哩
 - 一〇 正是月頭初出
 - 二 踏上馬背交刀劍
 - ナシ
 - 三 王巢打破鴉兒寨
 - 三 人頭落地囉哩
 - 四 血水流來滿海紅
 - 一五 買回家裡般般使
 - 一六 五更啼
- 雙系子囉哩
便是日頭初出山
近前來看山頭雪
滿山寺
王巢養女當風奇
鎖眉鎖線囉哩
便是月頭初出山遠看
金縵羅帶攔腰縛
是官人
山王巢養女能猛勇
王巢入陣場
十分入陣也是敗
面向東
將錢去買金鷄子
般般使使囉哩
啼到娘村成秀才

16	五更啼	買歸家裡班班叫	人頭落地囉(囉)哩	黃巢打破啞女寨	手條鎗	踏上馬背使刀劍	正是黃巢細如人 (囉)哩	滿身裝果(裏)羅 過	青羅頭巾攔(攔)眉	小灣灣	手拿錢串銀鎖線	且唱三峰借客來 (囉)哩	桑系(絲)結子那羅	遠看便是初生月	小灣灣	廣州結子青羅結	弟(第)二曲
		啼到娘村成秀才	將錢去買今(金)雞 子	十分入陣也是敗	使刀使劍囉(囉)哩	正是黃巢入陣場	黃巢養女能猛勇	是官人	腹 金縵羅帶攔(攔)腰	便是日頭初出山	鎖眉鎖線囉(囉)哩	黃巢養女多風奇	滿山事(是)	近前來看山頭雪	便是日頭初出山 哩	四邊離(離)娘那羅(囉)	

52 前世置有真言女
後世置有橫眠娘
人

20	五更啼	買歸家裡般般死	頭斷落地 羅離	黃朝打破押女子	使條鎗	路上馬背教刀劍	正是黃朝是女人	滿身粧過 羅離	青羅頭巾攔眉過	細灣灣	手拈錢串有鎖綿	且唱三條閑客來	桑系(絲)結子 羅 離	遠鄉便看初出山	細灣灣	廣州結子青羅結	又唱第二團三逢閑曲起
		啼到娘村成秀才	面向東	十分入陣也是敗	教刀教劍 羅離	正是黃朝入陣場	黃朝養女能猛虎	是官人	縛 金縵(縵)羅帶攔腰	便是日頭初出山	鎖(鎖)眉鎖綿 羅離	黃朝養女當風奇	滿山事	近前來看山頭雪	便是日頭初出山	四邊離娘羅離	

54 前世置有置眼女
後世置有橫眠人
妹(娘)

五 仙人巡天(郷)到北國

天下全無一個人(娘)

五七 洪水 浸

仙人(杼)棍去巡天

五 仙人巡天到別國

得見烏龜(欄)路眼(烏龜)開口說無人

五 洪水 水 浸

仙人(杼)棍 去巡天

六〇 仙人巡天到別國

打破烏龜成兩邊(能)甲連殼月樣園

六二 洪水 水 浸

盡淹天下萬由人(娘)

六三 也有烏龜偷說報

應行三步正逢人(娘)

六三 洪水 水 浸

淹殺天下萬由人(人)

六四 尚留伏羲兩姐妹

天下無人自甲雙(親)

六五 伏羲相甲會(未)相甲

火煙(頭)絲(相)甲未(正)成親(郎)

六六 隔岸燒香隔岸拜

火煙(頭)絲(相)甲(正)成親

六七 為婚 了

七朝花孕上娘身(床)

六八 上下血團無萬姓

空成花孕上娘身(未)成郎

六九 為 婚 了

七朝花孕上娘身

七〇 上下血盆無人俵

無人分俵(未)成人

七一 會分 便 會分

九州玉女把刀(分)鈞

七二 分成三百六十姓

三百九州立縣門(民)

七三 會分 便 會分

九州玉女把刀(良)分

七四 發在青山成瑤姓

發下洞頭(百姓)鄉(村)

ナシ

51	會分更會分	針	九州玉女把刀(良)
50	發上青山成瑤姓	村	發下洞頭(百姓)鄉
49	會分更會分	分	九州玉女把刀(量)
48	分得三百六十姓	成(城)	三百九州立縣門
47	會分更會分	明	九州玉女把刀(分)
46	生下血盆無人俵	人	無人分俵(未)成郎
45	為婚了	身	七朝花孕上娘身(床)
44	生下血盆無名姓	人	空成花孕(未)成郎
43	為婚了	身	七朝花孕上娘身(床)
42	隔岸燒香隔岸拜	親	香(煙)相甲(正)成雙
41	伏羲相甲未相甲	親	伏羲相甲(未)成雙
40	重留伏羲兩姊妹	親	天下無人自甲雙
39	洪水浸	人	淹殺天下萬由人(娘)
38	也有烏龜偷說報	娘	應行三步正逢人(娘)
37	洪水浸	娘	陰死天下(萬)余人(娘)
36	仙人巡天到別國		得見烏龜成兩邊(能)甲烏龜(月)樣(圓)
34	仙人巡天到別國	ナシ	得見烏龜(欄)路眼(烏龜)開口說無人
35	洪水浸		仙人(杼)棍去巡天
		ナシ	
53	會分更會分	分	九州玉女把刀(量)
52	發上青山成瑤姓	鄉	發下洞頭(百姓)人
51	為昏(婚)更為昏	分	九州王(玉)女把刀(分量)
50	分成三百六十姓	鄉	六國九州立縣門
49	為昏(婚)更為昏	分	九州王(玉)女把刀(分量)
48	生下血盆無名信	郎	有人分俵(正)成人
47	為昏(婚)更有昏	床	七朝花孕上娘身
46	生下血盆無名姓	郎	空成花孕(未)成人
45	為昏(婚)了	身	七朝花孕上娘身(床)
44	隔岸梳頭隔岸拜	親	火煙(頭)系(絲)相合
43	扶(伏)其(義)相合	親	扶(伏)其(義)相合(未)成雙
42	重有扶(伏)其(義)兩姐妹	雙	天下無人自甲(親)
37	洪水浸	人	淹殺天下萬由人(娘)
38	也有烏龜偷說報	人	順(逆)行三步正逢人(娘)
41	洪水浸	郎	淹殺天下萬由人
36	仙人巡天到必國	鄉	打破能甲烏龜(做)兩邊(月)樣(圓)
39	洪水浸	鄉	仙人(杼)棍去巡天
40	仙人巡天到別國	鄉	烏龜說報全無人(娘)
35	洪水浸	鄉	仙人(杼)棍去巡天
34	仙人巡天到別國		天下全無一個人(娘)得見烏龜(欄)路眼

三 天上三朝暗森霧

ナシ

三 一雙燕子白才才

四 口裡含花放下地

五 石榴生過石榴嶺

四 人話葫蘆無爺姐

四 葫蘆(瓜)勿大州上

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

龍兒申奏雷上天(大羅天)

口裡含花放下來(台)

放下籬根土裡栽埋

葫蘆生過葫蘆山

葫蘆出世在青山(源)

大歌行往得歸栽家

15	14	13	12	11	10	9		8	7	6	5	4	3			2	1		54
踏上天堂望天腳	寅卯二年洪水發	葫蘆裡頭有七闊	寅卯二年洪水發	葫蘆熟	葫蘆初生金雞卵	葫蘆瓜勿大州出		伏儀(義)種瓜有七夜	葫蘆瓜勿大州出	伏儀(義)種瓜有七夜	葫蘆瓜勿大州出	伏儀(義)種瓜有七夜	葫蘆瓜勿大州出			口裡含花放落地	一雙燕子白統統	葫蘆曉	天上三朝暗漸霧
望見天腳水平流	葫蘆浮起到天廷	修(划)裡頭有七千	伏義走入裡頭門	修(划)裡頭有七分	未曾三夜大葫蘆	大哥行往得歸居		未曾三夜結雙雙裡頭吉子(齒)如千	大哥行往得歸藏	未曾三夜牙攀(籬)先開花	大哥行往得歸時	未曾三夜谷頭開先開眉	大哥行往得歸(藏)枝			來	口裡含花放落(台)		霧漸三朝雷上天
沙	堂	雙	眠	千	禾倉	藏		ナシ	前	家	大哥行往得歸時	先開眉	枝			埋	來		江
17	16	15	14	13	12	11	9	8	7	6	5	4	3			2	1		40
踏上天堂望天腳	寅卯二年洪水發	葫蘆初生七尺闊	寅卯二年洪水發	葫蘆熟	葫蘆初生金雞卵	葫蘆瓜(瓠)勿大州	葫蘆瓜(瓠)勿大州	扶(伏)義種瓜有七夜	葫蘆瓜(瓠)勿大州	扶(伏)其(義)種瓜有七夜	葫蘆瓜(瓠)勿大州	扶(伏)義種瓜有七夜	葫蘆瓜(瓠)勿大州			口裡含花放落地	一雙燕子白(統統)	仰葫蘆歌聲起	天下三朝暗浸露
望見天腳水平流	葫蘆浮起到天堂	修划裡頭有七千	扶(伏)其(義)裡頭走入寬眠	修划裡頭有七千	未曾三夜大如倉	大哥行往得歸藏	大哥行往得歸栽家	未曾三夜便開花起雙雙	大哥行往得歸家	未曾三夜便開眉	大哥行往得歸其	未曾三夜勿(瓠)頭開便開花	大哥行往得歸家			栽埋	台		發水三朝雷上天
	廷	雙		分	葫蘆	居	家	居	居	居	居	居	居			栽	栽		龍兒先奏大羅天

- 三人話北邊不有我
- 三北 邊 暗
- 二話說北邊不有我
- 五北 邊 暗
- 六天子聞得開口笑
- 七北 邊 暗
- 八天子殺性救父母
- 九天上五雷有五個
- 三〇寅卯二年洪水發
- 三一寅卯二年雷發令
- 三二十五年間洪水發
- 三三寅卯二年雷落地
- 三四土家有歲來收捉
- 三五寅卯二年雷落地
- 三六上家有歲來收捉
- 三七寅卯二年雷落地
- 三八上家有歲醃雷酢
- 三九寅卯二年雷落地
- 四〇上家有歲醃雷酢
- 四一寅卯二年雷落地

- 應有邪眉讀細章經
- 人人說得北邊烏流
- 應有邪眉讀細書
- 人人說得北邊流崩
- 玉女聞得便話流崩
- 人人說得北邊崩涼
- 魯班殺子救爺人娘
- 地下江流無萬流名
- 天子依還發下州京
- 伏太二年雷發顛鄉
- 十七老婆尋成嫩人娘
- 伏太二年雷落州江
- 黃稗造繩伏出遊一雙
- 伏太二年雷落江田
- 上家收捉隱禾倉邊
- 伏太二年雷落江頭
- 龍兒申奏報雷娘
- 伏太二年雷落中
- 龍兒含水洗雷喉聲
- 伏太二年雷落田天

53	寅卯二年雷落地	伏太二年雷落田	江	39	北邊暗	崩	人人說得北邊流	書	應有紫微讀細章
52	匠家有賢(閨)淹雷	龍兒含水濕雷喉	腦	48	匠家有閑來收捉	還	匠家收捉蘊禾倉	還	匠家收捉蘊禾倉
51	寅卯二年雷落伏	伏太二年雷落頭	候	49	寅卯二年雷落地	鄉	伏太二年雷落江	鄉	伏太二年雷落江
50	匠家有賢(閨)淹雷	龍兒申奏報雷郎	娘	47	寅卯二年雷落地	田	伏太二年雷落江	田	伏太二年雷落江
				46	十五年間洪水發	娘	七十老人生嫩人	娘	七十老人生嫩人
				45	寅卯二年雷發令	章	伏太二年雷發顛	章	伏太二年雷發顛
				44	寅卯二年洪水發	州	天子依還發上京	州	天子依還發上京
				43	天上五雷有五個	流	地下江河無萬名	流	地下江河無萬名
				42	天子殺性救父母	娘	魯班殺子救爺人	娘	魯班殺子救爺人
				41	北邊暗	崩	人人說得北邊涼	崩	人人說得北邊涼
				40	天子得聞便話流	上	玉女得聞開口笑	崩	玉女得聞開口笑
				38	寅卯二年雷落地	中	伏太二年雷落頭	崩	伏太二年雷落頭
				37	僧家有賢來收捉	有賢收捉	有賢收捉	有賢收捉	有賢收捉
				36	寅卯二年雷落地	田	伏太二年雷落江	田	伏太二年雷落江
				35	僧家有賢來收捉	雙	黃稗造繩縛落江	雙	黃稗造繩縛落江
				34	寅卯二年雷落地	江	伏太二年雷落州	江	伏太二年雷落州
				33	十五年間洪水發	娘	七十老婆尋成嫩人	娘	七十老婆尋成嫩人
				32	寅卯二年雷發令	鄉	伏太二年雷發顛	鄉	伏太二年雷發顛
				31	寅卯二年洪水發	州	天子依還發上京	州	天子依還發上京
				30	天上雷公有五個	條	地下江河無萬名	條	地下江河無萬名
				29	天子殺性救父母	娘	魯班殺子救爺人	娘	魯班殺子救爺人
				28	北邊暗	崩	人人說得北邊涼	崩	人人說得北邊涼
				27	天子得聞開口笑	崩	玉女得聞開口笑	崩	玉女得聞開口笑
				26	北邊暗	崩	人人說得北邊崩	崩	人人說得北邊崩
				25	人話北邊不有我	經	應有紫微讀細書	經	應有紫微讀細書

ナシ

七 寅卯二年猪出角

ナシ

八 莫怪歌詞相說報

ナシ

ナシ

九 寅卯二年天地動

○ 師人燒香禮拜佛

ナシ

二 寅卯二年天地動

三 師人燒香禮拜佛

三 寅卯二年天杵倒

四 瓦匠燒磚貼杵腳

五 寅卯二年天杵倒

六 三百人夫扶不起

七 天 暗 烏

八 烏馬吞日爭天國

九 天 暗 烏

○ 日頭相打為爭國

三 北 邊 暗

速太二年鷄出牙象出鱗

籬干俵下出蕉花驚動(囀)浮世上人

天子做書歸報京州

道子(著)衫也下迎(求)

天子做書歸報京州

黃稗造繩進上京州

三百來人立一條雙

秀才把筆便來僚裝

三百人夫扶不勞搖

仙人扶起半天高●

便是烏馬吞日頭

官人禮拜入心愁連

便是日頭相打無名

夫妻相打為爭人情

人人說得北邊崩陰

37	北邊暗	人人說得北邊崩(鳥)
34	日頭相打爭天國	夫妻相打為爭夫情
33	天暗烏	便是日頭相打無明
36	鳥(烏)馬吞日爭天國	官人禮拜入心愁連
35	天暗烏	便是烏(烏)馬吞日頭言
32	三百人夫扶不起	仙人扶起半天高(牽)羸
31	寅卯二年天柱倒	三百人夫扶不勞
30	瓦匠燒磚貼柱腳	秀才把筆便來僚
29	寅卯二年天柱倒	三百人夫立一條
28	師人燒香禮拜佛	黃稗串錢進上京州
27	寅卯二年天地動	天子造書歸報京州
		ナシ
26	師人著衫來拜伏	道子著衫下地名(求)
25	寅卯二年天地動	天子造書歸報京州
24	牯牛鹿馬全無腸	貓兒雞子(善)三羅千
23	寅卯二年見大怪	伏太二年見怪多(興)
20	莫怪歌詞相說報	籬根背上出蕉花
17	寅卯二年猪出角	伏太二年象出鱗
19	寅卯二年猪出角	伏太二年雞出牙
18	莫怪歌詞相說報	驚動問浮世上人
24	北邊暗	人人說得北邊陰流
19	日頭相打爭天國	夫妻相打為爭夫情
18	天暗烏	便是日頭相打無名
21	烏馬吞日(雲)遮日	官人禮拜入心愁連
20	天暗烏	便是烏馬吞日頭(雲)遮日賢
15	三百人夫扶不起	仙人扶起半天高(雙)
16	寅卯二年天柱倒	三百人夫立一條
17	瓦匠抄磚貼柱腳	秀才把筆便來僚(寮)
14	寅卯二年天柱倒	三百人夫立一條(雙)
		ナシ
		ナシ
13	天子着(穿)衫來拜佛	黃紙繫天(錢)進上京州
12	天子着(穿)衫來拜佛	道子着(穿)衫地下(求)迎
11	寅卯二年天地動	天子做書歸報京州
		ナシ
		ナシ
6	莫怪歌詞相說報	驚動(問)浮世上人
5	寅卯二年猪出角	伏太二年象出鱗
3	寅卯二年猪出角	伏太二年鷄出牙
4	莫怪歌詞相說報	籬(籬)根壁上出蕉花

五 苧麻出來錢文大 一兩稱來準二分

ナシ

五 寅卯二年天大旱 四角龍門 火煙悔

六〇 四角龍門無水路 早得黃龍走上天申奏雷

六一 寅卯二年天大旱 早得黃龍走上江洲

六二 三百二人尋來殺 殺得龍角向南江洲

六三 寅卯二年天大旱 早得黃龍走上天山

六四 三百二人來尋殺 殺得黃龍角上南山

六五 寅卯二年天大旱 雷公把火半天行遊

六六 雷公把火半天轉 甲子回頭禾正生收

見怪一段

一 寅卯二年天見怪 一條生下二條來眠

二 一條生上引怪路 二條生下引怪來眠

ナシ

ナシ

三 寅卯二年天見怪見大怪 速太二年見怪多

四 牯牛鹿馬全無角腸 黃毛鷄仔角父鵝腸三羅

五 寅卯二年天見怪 速太二年見怪多

六 牯牛鹿馬全無腸 黃毛鷄仔腸三千

22	21			16	15			
牯牛鹿馬全無角	寅卯二年見大怪	ナシ	ナシ	三條生下引怪路	寅卯二年天大旱	ナシ	ナシ	ナシ
朝天	貓兒雞子角又鵝	伏太二年見怪多	ナシ	明	明	ナシ	ナシ	

14	13			12	11	10	9	8
雷公把火半天轉	寅卯二年天大旱	ナシ	ナシ	三百二人來尋殺	寅卯二年天大旱	四海龍門無水路	寅卯二年天大旱	苧麻出來錢文大
收	甲子回頭和正生	遊	雷公把火半天行	江	殺得龍角向南天	江	早得黃龍走上天	一兩 <small>稱</small> 來敢二天

10	9	8	7	2	1			
牯牛鹿馬全無腸	寅卯二年見大怪	牯牛鹿馬全無角	寅卯二年見大怪	三條生上因怪路	出小不曾見怪路	ナシ	ナシ	轉身仰見怪歌起
羅	黃毛鷄子腸三千	興	伏太二年見怪多	先	伏太二年見怪多	名	生下四條因怪來	名

14	13			12	11	10	9	8
雷公把火半天轉	寅卯二年天大旱	ナシ	ナシ	三百人夫來尋殺	寅卯二年天大旱	四處龍門無水路	寅卯二年天大旱	苧麻出來價 <small>錢</small> 文
●	甲子回頭禾正收	●	雷公把火半天	●	殺得龍王向祭南山	州	早得龍王走上天	一兩 <small>稱</small> 來進二分

三〇 姐妹一齊(著)

著出樣神司

四〇 廿八後生正是顛

手拿笛子亂喧天

四一 頭帶爺娘帕

身上(著)衫都是錢

四二 今年又逢人還愿

中廳唱出好今言

四三 都是嘍羅子話得

女來連

四四 廿八後生真郎康

撐船過海念人雙

四五 到來歌堂裡

腳踏上娘床

四六 睡到五更郎歸去

郎今歸去路頭忙

四七 船又(著)人欺

大家拍手大聲灣

四八 廿八後生會相思

單身無我

四九 愛行鄉裡逢著一雙娘歸家說報郎爺

五〇 姐家無錢使空(著)一位娘

ナシ

五一 寅卯二年天大旱

格木忤頭出火煙(人)

五二 蕉木出來吹得火

水底青(蒼)作火無(人)

五三 寅卯二年天大旱

深山竹木盡焦枯

五四 到處深沖無水路

到處深無塘細魚(南岸平日空得無)

五五 寅卯二年天大旱

青山竹盡木蕉枯

五六 到處官庫無粒米

到處學(天堂無卷書)經

五七 寅卯二年天大旱

苧麻根底出青煙(文)

41	姐妹齊著	著起樣神司
42	廿八後生正是顛	手拈笛子鬧(宣)宣
43	頭縛今(金)羅帕	身上衣衫都是錢
44	今年又逢人還愿	中廳唱得好金言
45	但是嘍囉哩子	姐妹看見出來連
46	廿八後生正郎康	撐船過海練(雙)
47	行到娘房裡	腳踏上娘床
48	睡到五更郎歸去	郎今歸去路頭忙
49	船又著人練	大家拍手大聲翁
50	廿八後生會過頭	相邀相賭起高樓
天大旱		
1	寅卯二年天大旱	格木樹頭出火(煙)
2	蕉木出來吹得火	水底青台(蒼)出火(煙)
3	寅卯二年天大旱	深山竹木斷焦枯
4	到處深沖(沖)無水路	到處深潭無細魚
5	寅卯二年天大旱	深山竹木斷蕉青
6	到處官倉無粒米	到處學堂無卷書
7	寅卯二年天大旱	苧麻根底出青(煙)
第二圍歌曲起		
34	姐妹齊穿着(穿)	着(穿)出把神思
1	寅卯二年天(太)旱	青 深山竹木斷條枯
2	到處深坑無水路	青 到處深潭無細魚
3	寅卯二年天大旱	青 深山竹木盡條枯
4	到處官倉無粒米	青 到處學堂無本書
5	寅卯二年天大旱	青 深山竹木盡條枯
6	蕉木出來吹得火	水底青台(蒼)出火(煙)●
7	寅卯二年天大旱	(煙)烏 苧麻根底出青煙

ナシ

ナシ

ナシ

三 一片烏雲四邊騎

二四 濕得羅衣了

二五 三尺黃涼都有

二六 且唱光涼杵

ナシ

二七 一片烏雲四邊拋

二八 濕得羅衣了

二九 一夜撈船水面轉

三〇 屋裡爺娘憶

三一 一片烏雲四邊雲

三二 身著綠紗錦

三三 有酒將來今夜飲

三四 唱得金言了

三五 一片烏雲四邊雲

三六 身著綠紗錦

三七 有酒將來今夜飲

三八 唱得金言了

騎馬著段濕羅衣

下馬綠羅衣

要娘含笑繡羅衣

路上逢花摘一枝

撈船過海濕羅衣

下馬綠羅衣

水上看水水茫茫

憶了斷肝腸

看官不請當閑人

腰縛九條縵

嘍囉貴客唱金言

眼淚落非悔

看官不請當閑人

掃掃掃泥塵

嘍囉貴客唱金言

曲子萬千年

ナシ	19	18	17	20	ナシ	ナシ	ナシ	29	28	27	26	25	24	23	22	21	16	15	14	
	有酒將來今夜飲	身著羅衫錦	一片烏雲四邊雲	唱得金言了				屋裡爺娘意	一日撈船水面轉	濕得羅衣了	飛 一片烏雲四邊	路上逢花摘一枝	且唱光涼樹	三尺黃涼都圖交	濕得羅衣了	飛 一片烏雲四邊	空限一雙娘	歸家說報娘爺姐	行到娘鄉裡	
ナシ	嘍囉貴客唱金言	腰伏九條縵	看官不得等閑人	曲子萬千年		ナシ	ナシ	意了斷肝腸	轉面看見水灣灣	下馬綠羅圍	騎馬著緞濕羅衣	囉哩	微 光郎樹下飲酒醉微	邀娘含笑脫羅衣	下馬綠羅圍	騎馬腳短濕羅衣	囉哩	手裡無錢湊	逢著一雙娘	
15	唱得金言了	14	13	12	11	10	9	8	7	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	有酒將來今夜飲	身穿着穿羅衫了	一片烏雲四邊開	唱得金言了	有酒將來今夜飲	身穿着穿羅衫錦	身穿着穿羅衫錦	一片烏雲四邊雲	屋裡爺娘憶											
	眼淚(淚)落紛紛	嘍囉貴客唱金言	腰帶九條縵	看官不能當閑人	曲子萬千年	嘍囉貴客說(唱)金言	腳色付坭塵	看官不能當閑人	憶了斷肝腸	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

三六 大船無脚行千里
 三七 天 上 星
 三八 白日便入青雲裡
 三九 天 上 星
 四〇 大星又問小星事
 四一 大 星 上
 四二 托得香爐煙欠水碗
 四三 月 亮 亮
 四四 牛子喫秧禾娘莫怨
 四五 月 亮 亮
 四六 擔水小娘姐不使火
 四七 月 亮 亮
 四八 買糖不得糖托飯
 四九 月 亮 亮
 五〇 大州買油七分價
 ナシ
 五一 月亮何曾是白日
 五二 娘郎擔抄頭郎娘看面
 五三 月亮光光托光
 五四 千樓眉層萬樓眉層月不托
 台盤四(無)脚守空廳
 無雲無雨白清靈藏藏
 夜裡出來看舊情雙
 小星在後托香爐煙
 小星在後討雙圖連
 小星在後托香爐煙
 以後托來郎慢圖連
 亮下大州牛喫秧禾
 牛角做梳列六娘人
 亮下大州擔水娘人
 頭插銅釵引地真涼
 亮下大州客賣糖油
 買油不得油炒湯
 亮下大州客賣油
 日夜點燈淚雙流
 水大何曾浸巷頭邊
 不曾無我大家愁連
 過娘門下托門樓眉
 單托門前花一莧枝

146	145	152	151		144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130
千樓眉萬樓眉月不托	月亮光光托托	娘但抄頭郎看面	日 月亮何魯(曾是白)	ナシ	大州賣油七分價	月亮亮	賣糖不得糖桃飯	月亮亮	擔水小娘不使火	月亮亮	牛子吃塵秧娘莫怨	月亮亮	托得香煙爐欠水碗	天星上	大星又問小星事	天上星	白日使人清青雲裡	天上星	大盤無脚行千里
眉 丹托門前花一樓	眉 過娘門外托門樓	連 不曾有我大家愁	邊 水大何曾浸巷頭	ナシ	日夜點燈淚雙流	亮下大州客賣油	賣油不得炒油湯	亮下大州客賣糖	涼(涼) 頭插金釵影地真	娘 亮下大州擔水人	娘 牛角做梳留六人	(塵)秧 亮下大州牛吃座	連圖 舊(日)後托來郎慢	爐 小星在後托香爐	連 小星在後得雙圖	煙 小星在後托香爐	煙 夜裡在後托香爐	青青 無雲無雨白藏藏	台盤四角守空廳
106	105	104	103	102															
千鄉萬鄉也不托	月亮光光托托	娘擔抄頭郎看面	日 月亮何曾是白日	●糖賣油不得糖桃飯七分價	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
枝 單托門前花一莧	眉 過娘門外托門樓	連 不曾有我大家愁	邊 水大何曾浸巷頭	賣油不得炒油湯	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

- 一 歸到門前偷出淚 不得鎖匙開姐離
 二 夜 黃 昏 作笑不知姐(妹)鎖街門
 三 但觀門前隱姐眼 后門當當望娘來行
 四 黃昏十二時 手拿歌卷(巷)過娘離門
 五 歌卷裡頭有句話 話娘夜睡不(關)離門
 六 黃昏十二時 欠雙無我早商量尋思
 七 欠雙無我商量尋思討 莫守爺娘是共腸時
 八 入娘羅帳細聲心話 入娘羅帳解娘衣衫
 九 黃昏抄攪欄橋坐 含笑解娘身上衣衫
 十 欠雙便來對面話 橋卷裡頭好績麻結絲
 十一 黃昏抄攪欄橋坐 莫益楊梅暗開花結枝
 十二 娘(郎)姐問郎(娘)因何事 得見七星便過天江
 十三 黃昏騎馬過河巷 思量無事入心連子無雙
 十四 光處點燈暗處坐 河巷不通馬轉頭身
 十五 大星也上月也上 思你看娘心裡愁子無雙
 十六 大星原來問北斗 北斗也行隨月也行隨
 十七 天 上 星 打落台盤四箇(角)丁
 十八 ナシ
 十九 ナシ

129	天上星	打落台盤四角丁
128	四角台盤四角橫	四角橫頭對大廳
127	天上星	打落台盤四角丁
126	大星原來問北斗	隨 北斗原來伴月行
125	大星也上月也上	行隨 北斗也行隨月也
106	光處點燈暗處坐 (坐)	過仔心 思議看娘心裡愁
105	黃昏騎馬過協巷	身 協巷不通馬轉頭
104	娘姐問郎因何事 (座)	仔無雙 思量無事入心連
103	黃昏抄攪欄橋 (坐)	江 得見七星便過天
102	欠雙便來對面話	系(絲) 莫能楊梅暗結花
101	黃昏抄攪欄橋 (坐)	系(絲) 橋卷裡頭好績麻
100	入娘羅帳細聲話	衫 含笑解娘身上衣
99	黃昏十二時	衫 入娘羅帳解娘衣
98	欠雙無我思量討	腸 莫守爺娘是共時
97	黃昏十二時	相思 欠雙無我早商量
96	歌卷裡頭有句話	門 共娘眠睡莫關
95	黃昏十二時	門 手拿歌卷過娘
94	但關前門淹姐眼	來 後門當當望娘行
93	夜黃昏	皆 作笑不知姐鎖門
92	歸到門前偷出淚	匙 不得鎖匙開姐門
86	歸到門前偷說泪 (淚)	離(離) 不得鎖匙開姐門
89	夜黃昏	離(離) 作笑不知姐關門
90	但關前門影姐 (人)眼	郎來行 後門打開堂堂望
87	夜黃昏	門離(離) 手拿歌卷過外娘
88	歌卷裡頭有句話	離(離) 報娘夜睡不關門
91	黃昏十二時	歡歡無我早商量
92	歡歡無我商量討	共時腸 莫守爺(翁)娘自
93	黃昏十二時	衫 入娘羅帳解娘衣
94	入娘羅帳細聲話	衫 卸笑解娘身上衣
95	黃昏抄攪欄門坐	系(絲) 門巷裡頭好績麻
96	欠雙便來討面話	支(枝) 莫做楊梅暗結花
97	黃昏抄攪欄門坐	天 得見七星現出山
98	娘姐問郎因何事	入心連 思量無事子無親
99	黃昏騎馬過合巷	頭 合巷不通馬轉身
100	光處點燈暗處坐	過仔心 思議看娘心裡愁
101	七星也上月也上	行歸 北斗也行歸月也
ナシ		
ナシ		
ナシ		
ナシ		

- 四 絲線繡鞋三重底 踏來娘屋討成親雙
- 五 夜 深 深 把火入房照細針絲
- 六 照得細針帶托細線 針娘裙腳細演演微微
- 七 夜 深 深 腳底無鞋凍(涼)到心驚
- 八 郎姐開門把郎入 無床貼地也甘心慢商量
- 九 夜 深 深 把火夜行蘆(蕉)裡林
- 〇 郎今不圖蘆蕉子喫 且圖蘆蕉葉貼娘身得庶身
- 二 夜 深 深 把火夜行漆(漆)茶裡林
- ナシ
- ナシ
- 三 郎今不圖漆(漆)茶子喫 且圖漆(漆)買得黃金茶話討成親
- ナシ
- ナシ
- 三 夜 深 深 把火夜行班竹林
- ナシ
- ナシ
- 四 班竹好做簸箕合 簸箕團米穀歸心
- 五 夜 深 深 把火夜行舟(丹)竹林
- 六 舟(丹)竹好做郎傘柄 擔來娘屋討成親
- 七 夜 黃 昏 作笑不知姐(妹)鎖離

91	124	123	122	121	120	119			118			117	116	115	114	113	112	111	110	
夜黃昏	班(選)竹好做涼傘柄	夜深深	丹竹好做簸箕合	夜深深	郎今不圖漆子吃	夜深深			郎今不圖蕉子吃			夜深深	郎今不圖蘆(蕉)子吃	夜深深	娘姐開門把郎入	夜深深	照得細針系(絲帶)細線	夜深深	系(絲)底	
作笑不知姐(妹)鎖門(離)	擔來(外)屋討成親	林	把火又行班(選)竹林	把火又行丹竹林	且圖賣得黃漆金	把火又行漆裡林			且圖蕉葉好遮身			把火又行蕉裡林	身	蘆(蕉)葉織蓆貼仔	林	無床鋪(舖)地也甘心慢商量	京	腳底無鞋通道心	親	
			簸箕團米谷歸心																	
85	84	83	82			81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	
夜黃昏	班(選)竹好做涼(涼)傘柄	夜深深	班(選)竹好做簸箕			夜深深	郎今不圖茶藤子	夜深深	郎今不圖松子(喫)	夜深深	郎今不圖蘆子(喫)	夜深深	外(娘)今不圖蕉子吃	夜深深	娘擔開門把郎入	夜深深	照得細系(絲)針(拖)細線	夜深深	系(絲)底	
鎖門(離)	擔來娘屋討相連		把火要行丹竹林			林	且圖茶(藤)買得黃金	把火要行茶裡林藤子喫	且圖松葉細吟吟	把火夜行松裡林	蘆葉織蓆貼娘身	把火夜行蘆裡林	且圖蕉葉好遮身	把火夜行蕉子林	無床鋪地也干(甘)心慢商量	(涼)心	腳底無鞋通到涼	把火入房照細系(絲)針	親	
			簸箕團米谷歸心																	

一 夜 深 蘭
 二 天堂落日歌堂散
 三 夜 深 深

夜深歌

塞麥(得)主人燈火難錢
 慢慢散錢把你看教還燈火錢
 絲線繡鞋來討親雙

三 日 落 西 鷓鴣無伴隔江啼
 八 人話鷓鴣不有屋 鷓鴣有屋在深坵底
 八 日頭過江不早過 上留月影照娘村鄉
 八 千村鄉萬村鄉月不照 單照丹身無有我
 八 日頭過江專是夜 沙牛裡磊下江行歸
 八 沙牛有欄鷄有屋 郎小單身自獨行歸
 八 日頭過江專是夜 屋背離根全是陰涼
 八 格木好做蓮塘透 水流不過你無心香
 九 日頭過江專是夜 屋背離根全是陰
 九 平地種葱葉細粒 風吹離根細演演
 ナシ
 九 日頭過江專是夜 屋背離根全是陰
 九 白紙過涼涼過線 白涼過線細仁仁
 九 日頭過江全是夜 屋背離根全是陰
 九 看娘便是過江月 落了干(干)娘何處尋

109	夜深深	雙親
108	天光落日歌堂散	系(絲)線繡鞋來討
107	夜深欄連	連
		慢慢散錢把你看
		色(爹)主人燈火難

67	夜深連	雙親
66	天光落日歌堂散	系(絲)線繡鞋來討
65	夜深蘭	郎慢教(娘)把你連
		色墨主人燈火(錢)
		(玉)難

90	看娘比能落江月	落了何曾何處尋
89	日頭過江專是夜	屋背(離)根專是陰
88	白紙過涼涼過線	白涼過線細吟吟
		ナシ
87	月頭過江江陰陰	白紙過涼涼過金
86	坪地種葱葉細鹽	風吹(離)根細吟吟
83	月頭過江專是夜	屋背(離)根專是陰
84	格木好做蓮塘透	水流不過你無心
85	日頭過江專是夜	屋背(離)根專是陰
		ナシ
82	千鄉萬鄉月不照	鄉 丹照單身無首村
81	日頭過江早不過	鄉 重留月影照郎村
72	人話鷓鴣不有屋	流 鷓鴣有屋在深坵
		ナシ

64	月 看外(娘)元能落江	尋看
63	日頭過江轉是夜	涼(涼) 屋背(離)根轉是陰
62	白紙過良良可線	微微 白良過線細吟吟
		ナシ
61	日頭過江江陰陰	(絲) 白紙過良良過系
60	平地種葱葉細粟嫩	風吹(離)眼(根)細吟吟
59	日頭過江轉是夜	● 屋背(離)根轉是●
58	格木好做連塘頭	心 水流不過你無情
57	日頭過江轉是夜	陰(涼) 屋背型(離)根轉是
56	沙牛有欄鷄有祿籠	行 郎小單身自歸
55	日頭過江轉是夜	行 沙牛裡累下江歸
54	日頭過江轉是夜	鄉 單照單身無我村
53	日頭過江不早過	(娘)村(鄉) 常留(留)日影照外
46	人話鷓鴣不有屋	塘 鷓鴣有屋在深(塘)
		ナシ

六七 煮得晏茶無菓送
 六八 日 正 中
 六九 南蛇也難過海見
 ナシ
 ナシ
 七〇 日 正 中
 七一 要娘共擔平沖水
 七二 日 落 斜
 七三 要娘共擔平車水
 七四 日 落 江流
 七五 手拿馬鞭鞭連子
 七六 日 落 西
 七七 打破一州成兩縣
 七八 日 落 江西
 七九 黃蜂含糖歸結聞
 ナシ
 八〇 日 落 西鳥
 八一 打得鷓鴣籠裡隱
 ナシ
 ナシ
 屋背楊梅暗結花生
 南蛇過海便(變)成龍
 好雙過路也難連
 要娘擔傘過平沖
 衫領衫袖不齊籠
 要娘擔水過平車
 衫領不齊衫袖遮
 秀才騎馬過連塘州
 蓮子分分發下塘州
 鷓鴣無伴隔江啼
 大姐落東妹落西底
 黃蜂過嶺口含糖坭
 共娘作笑結成雙妻
 湖南江口打鷓鴣
 一夜偷啼心裡悽無

80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
犀牛有欄雞有屋	月落江	打得鷓鴣籠裡	月落流西	月落西流	蟻(黃蜂含糖歸結	月落江西	打破一州成兩縣	月落西	手拿馬鞭鞭連子	月落江流			腰娘共擔坪(沖)水	月正中斜			南蛇過海也難見	月正中真	煮得晏茶無菓送	
歸	郎小單身獨自行	無	雞	鷓鴣	妻	坭	西	啼	州	州			衫領不齊衫袖籠	腰娘擔傘過坪(沖)車			連	連	花	
		日夜偷來心裡妻	湖南江口打鷓鴣	湖南江口打鷓鴣	定娘作笑討成雙	黃蜂過嶺口含糖	大姐落東妹落西	鷓鴣無伴隔江來	蓮子分分發落塘	秀才騎馬過連塘			遮				好雙過路也難逢	南蛇過海也難逢	屋背黃梅暗結生	
ナシ	ナシ	48 打得鷓鴣籠裡問	49 月落西	47 月落西	52 黃蜂(卸)糖歸結	51 月落江	50 打破一州成兩縣	45 月落西	44 手把馬鞭鞭連子	43 月落江流		41 月斜斜	42 邀娘共飲平車江水		40 莫能南蛇絞敗嶺	39 月正中	38 南蛇過海也難見	37 月正中	36 煮得晏茶無菓送	
		思	鷓鴣	鷓鴣	共娘作(笑)討成雙	唐(糖)	東	啼	州	州		江	衫領不齊衫袖(袖)?龍		連	龍	也?逢	人	屋背楊梅暗結花	
		日夜偷啼心意妻	湖南江口打鷓鴣	湖南江口打鷓鴣		黃蜂過嶺口(卸)坭	大姐落東妹落西	鷓鴣無伴隔江聲	蓮子排排發落塘	秀才騎馬過連塘		邀娘擔傘過平車			湖南江口正相逢	南蛇過海變成人	也?逢	南蛇過海變成人		

六 問你是晏不是晏
 六五 是中丁報娘煮晏飯
 六四 問娘你是晏不是晏
 六三 娘郎姐問郎娘因何事
 六二 半筒煮飯爺娘喫
 六一 日頭出早娘擔水
 六〇 日頭出早娘擔水
 五九 半筒煮飯爺娘喫
 五八 日頭出早娘擔水
 五七 半筒清水半筒沙
 五六 半筒洗面出蓮花風光流
 五五 半筒清水半筒油
 五四 半筒洗面出蓮花風光流
 五三 半筒清水半筒白
 五二 半筒洗面出秀才官人
 五一 擔到月斜不見歸行
 四〇 擔到月斜不見歸行
 三九 步頭擔水著龍為爭
 三八 問你是中丁不是中丁
 三七 擔水埠頭等舊龍情
 二六 是晏報娘煮晏茶更
 二五 燕仔(子)排行把你收
 二四 任高四尺著雲遮
 二三 不曾得見月遮雲
 二二 燕仔(子)排行把你收
 二一 任高四尺著雲遮
 二〇 不曾得見月遮雲
 一九 燕仔(子)排行把你收
 一八 任高四尺著雲遮
 一七 不曾得見月遮雲
 一六 燕仔(子)排行把你收
 一五 任高四尺著雲遮
 一四 不曾得見月遮雲
 一三 燕仔(子)排行把你收
 一二 任高四尺著雲遮
 一一 不曾得見月遮雲
 一〇 燕仔(子)排行把你收
 〇九 任高四尺著雲遮
 〇八 不曾得見月遮雲
 〇七 燕仔(子)排行把你收
 〇六 任高四尺著雲遮
 〇五 不曾得見月遮雲
 〇四 燕仔(子)排行把你收
 〇三 任高四尺著雲遮
 〇二 不曾得見月遮雲
 〇一 燕仔(子)排行把你收

63	64	61	60	59	58	57	56	55					48	47	54				
問娘是晏不是晏	是中情報娘煮晏飯	問娘是晏不是晏	娘擔問郎因何事	日頭出早娘擔水	半筒煮飯爺娘喫	日頭出早娘擔水	半筒洗面出蓮花	半筒清水半筒油	半筒洗面出蓮花	半筒清水半筒沙	半筒洗面出蓮花	半筒清水半筒油	長長得見龍圍雲遮月	日頭出早高三丈	坪地晒禾番復照				
問你是中情不是中情	擔水埠頭等舊龍情	是晏報娘煮晏茶	埠頭擔水著龍	擔到月斜不見行	半筒洗面出秀才官人	半筒清水半筒白	連蓮花	半筒洗面出蓮花	半筒洗面出蓮花	半筒清水半筒沙	半筒洗面出蓮花	半筒清水半筒油	不曾得見月圓龍遮雲	應高四尺著雲遮	燕仔(子)排行把你收				
35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	20		16	15	14	13	12
問娘是晏不是晏	是中情報娘煮晏飯	問娘是晏不是晏	娘(目)問郎因何事	日頭出早(娘)擔水	半筒煮飯爺(娘)喫	日頭出早(娘)擔水	半筒煮飯爺(娘)喫	日頭出早(娘)擔水	長長得見龍圍雲遮月	日頭出早高三丈	日頭出早三江口	日頭出早白石嶺	長(長)得見龍為月		平地晒禾番(反)復晒	平平唱	官人分田塘無子分	分高三歌圍唱	坐得席●酒盞
問你是更茶不是更茶	擔水步(埠)頭守舊	問妹是中情不是	步(埠)頭擔水著(著)龍●爭	擔到月斜不是	半筒洗面出秀才官人	半筒清水半筒沙	半筒洗面出秀才官人	半筒清水半筒成	不曾得見月圓龍遮雲	應高四尺著(著)龍●雲出	未上天照蒲(滿)鄉村	有邊着(著)月有邊涼(涼)緣	不會(曾)得見月遮雲●●		平平說話得雙圖	平地晒禾番(反)復鋪偏(邊)	分出歌詞無萬雙千	塘願能官人分糯田	舊後人傳郎有緣(緣)

三 三百二人郎在小 人人加(教)我座南尊

三 座得南尊世席口 以後聲傳郎有名

四 初(座) 入席 席頭席尾冷秋秋浪修修

四 手拿七寸銀刀子 歌詞力斷滿席拋(流)

四 隔 席 唱 又隔二重燈火爐煙

四 莫放風吹燈火息 衫袖籠娘過席圖(連)

ナシ

四 論 娘 唱 娘也唱條郎也條

四 娘也唱條定酒盞 郎也唱條定酒筵(行)

四 日頭欲上欲不上 松柏齊生亦不生欲垂欲不垂

ナシ

四 日頭出早挨松柏 拗條松柏引路行(生)

四 日頭出早挨松柏 專上專挨松柏江(枝)

四 專上專挨松柏杵 拗條松柏引路雙(思)

ナシ

五 日頭出早白石(席)嶺 有邊着月有邊陰(涼)

五 有邊著月人有我 有邊無月子 (單)身(一)

五 日頭出早白席(石)嶺 水過龍門白石州(中)

五 日頭在天照下海 照見海中無萬魚(龍)

五 日頭出早白石嶺 水過龍門白石灘(州)

53	52	51	50	49		46	45	44		43	42	41		40	39	38	37		
日頭出早白石嶺	日頭在天照下海	日頭出早白石嶺	有邊著月人有我 (領)嶺	日頭出早白石(石)嶺	ナシ	傳上傳垂松柏樹	日頭出早拗松柏	日頭出早拗松柏		日頭若上若不上	蓋 娘也唱雙(條)定酒盞	論娘唱	ナシ	莫放風吹燈火死	隔席唱	手拿七寸銀刀子	初入席	ナシ	ナシ
水過龍門白石淮	魚 照見海中無萬(龍)	州 水過龍門白石中	卑身 有邊無月子思量	陰 有邊著月有邊(染)	ナシ	拗條松柏引路雙	枝 傳上傳垂松柏苗	歸 拗條松柏引路行		生垂 松柏若生垂若不	行腰 郎也唱雙(條)定四	雙(條) 郎也唱雙條郎唱	ナシ	圖 衫袖(雙)娘過席連	爐 又隔二重燈火煙	流 烈斷歌詞滿席執	咧咧 席頭席尾浪肖肖	後36	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	我 有邊著著月人有	嶺 日(頭)出(早)白石	19	ナシ	ナシ	●●● 早袁松柏	18	ナシ	●●● 唱雙條酒盞	5	4	10	9	8	7	ナシ	ナシ
			有邊著著月人有	在高四丈●●●				柳條松柏●●●路			●●● 郎也唱條●路	齊 娘也唱雙條郎唱	申酉二時歌正元	圖 願風吹得燈火死	烟(煙) 又隔三重燈火●	砍斷歌詞漸●●●	席頭席●●●●●		

八 人話郎村歌堂到 踏上船頭聽後來行
 九 郎小聽聲又聽後 聽得娘來郎也來行
 〇 人話郎村歌堂到 湖南江口自船元行
 一 第一自傳出貴地 第二自傳出貴門村
 二 人話郎村歌堂到 郎小得知自得來行
 三 第一自傳到水步 第二合船自得來行
 四 人話郎村歌堂到 九州八步自傳由(遊)郎(涼)
 五 第一自傳到水步 第二自傳正貴村鄉
 六 人話郎村歌堂到 九州八步自傳來行
 七 第一自傳到水步 第二自傳正貴門村
 八 人話郎村歌堂到 九州八步自傳村鄉
 九 手拿酒盞方哀坐 怕娘不念
 〇 人話郎村歌堂到 湖南江口插條行排
 一 共村姐妹開書讀 書自(字)不真郎自(正)來知
 二 起 聲 唱 歌堂林裡(里內)起聲愁雲
 三 戌亥二時歌聲起 午未二時歌便齊完
 四 起 歌 唱 一雙陽鳥起聲齊歡(完)
 五 黃鳥起聲座杵尾 郎小起聲座席齊(圓)
 六 三百二人郎在小 人人勸我座南行
 七 座得在南行世席口 鯉魚過背本(擔)當

36	35	32	31															
席口 ●南行 ●席尊在	三百二人郎作笑	陽鳥起聲在樹尾	起聲唱	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
前當	鯉(裡)魚過背本擔	齊	齊	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
	11 三百二人郎作笑	下邊 2 陽鳥起聲在樹頭	1 起聲唱	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
	上 2 郎少起聲歌堂裡	賢 歌堂林裡起唱愁		ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
	人人叫我坐席專			ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ

湖南省「大歌書」三種翻刻

神奈川県大学経営学部教授

廣田 律子

上段は、藍山県匯源郷 趙金付（法明）所蔵本『大歌書』。
 中段は、寧遠県九疑山紫荊村 盤旺古（法旺）所蔵本『盤王（皇）歌書』光緒九年盤法傳の銘。
 下段は、資興市團結瑶族郷祭司所蔵本『趙財一郎大堂歌書』乾隆四二年の盤連智・何庭魁筆の銘。
 ●は不明箇所。

- 一 人話郎村歌堂到 踏|上|船|頭|聽|後|來|行
- 二 郎小聽聲又聽後 聽|得|娘|來|郎|也|來|行
- 三 人話郎村歌堂到 湖|南|江|口|自|船|元|行
- ナシ
- 四 第一自傳出貴地 第|二|自|傳|出|貴|門|村
- ナシ
- ナシ
- ナシ
- ナシ
- ナシ
- ナシ
- 五 人話郎村歌堂到 郎|小|得|知|自|得|來|行
- 六 第一自傳得(到)水步 木|無|木|合|船|自|得|來|行

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	3	2	1	
行過縣門千人見	人話娘村歌堂到	從小不曾出遠路	人話娘村歌堂到	弟(第一)置船出貴地	人話娘村歌堂到	弟(第一)置船出貴地	人話娘村歌堂到	弟(第一)置船出貴地	人話娘村歌堂到	人話娘村歌堂到	廳(風)廳後不得半句話	人話娘村歌堂到	人話娘村歌堂到
行	行	州	遊	鄉州	良遊	街村	來完	廳門	行	絲	行	行	
無木合船隨路來	郎小得知自得來	今夜正行出遠鄉	屋底擲船水面良	弟(第二)置船出貴	郎金(今)無馬置船	弟(第二)置船出貴	郎金(今)無馬置船	弟(第二)置船出貴	郎今無馬置船憂	湖南江口插條牌	下水廳龍郎正來	郎小得風廳後來	
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	

瑶族文化研究所 通訊 第六号

2017年 3月 27日 発行

編集・デザイン

ヤオ族文化研究所

岡本 浩一

表紙写真

2016年2月 ベトナム調査にて

撮影 廣田 律子

裏表紙写真

2016年2月 ベトナム調査にて

撮影 内海 涼子

発行

一般社団法人 ヤオ族文化研究所

印刷

株式会社 ポートサイド印刷

※本書の内容について文書による許可なく、無断転載・複製することを禁じます。